

人間の理解と科学的思想科目群	...	1
専門基礎科目群	...	37
看護専門科目群	...	77
教職専門科目	...	188

講義科目名称： 仏教学

英文科目名称： Buddhist studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
矢島道彦				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	<p>本学は「以和為貴」の仏教精神を建学の精神に据えていることから、仏教について理解を深めることを目的とする。まず、釈尊の生涯と教え、私たちの日常生活に生きる仏教について理解を促す。そして、仏教と看護の関連を知り、相手の立場に立ち、温かな人間的配慮を持った関わりについて学ぶ。また仏教における死生観を紹介し、現代社会において人は死といかに向き合えばよいかという問題についても考察する。</p>
授業計画	<p>第1回 仏教のもののみかた・考え方の特徴 ●予習: キリスト教やイスラム教など諸宗教の人間観や世界観を調べておく。 ●復習: 仏教の人間観や世界観の特徴、他の宗教との違いを理解する。</p> <p>第2回 日常生活にとけ込んでいる仏教 ●予習: 仏教に由来する言葉や習慣などを調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第3回 仏教の誕生 釈尊の生涯と伝道 ●予習: 「お釈迦さま」について調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第4回 仏教の福祉思想の展開 ●予習: 講義内容について調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第5回 聖徳太子と「和」の思想 ●予習: 建学の精神について改めて調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第6回 日本仏教の展開 ～とく鎌倉期の叡尊・忍性など～ ●予習: 講義内容について調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第7回 死生学（タナトロジー）と仏教の死生観 ●予習: 講義内容について調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。</p> <p>第8回 現代における仏教の役割～臨床仏教師の誕生など～ ●予習: 講義内容について調べてくる。 ●復習: 講義でわからなかった部分を確認しておく。 ◆アクティブ・ラーニング◆</p> <p>全8回の講義のすべてが一方的な知識伝達型の授業ではなく、常に履修者の能動的な学修の場として行われている。課題について一緒に考えてもらう、問題解決型、参加型の授業である。</p>
授業の目的・到達目標	<p>仏教を身近に感じることができるとともに、仏教を開いた釈尊の生涯とその教えについて理解することができるようになる。また、「以和為貴」の仏教精神に基づき、「和」を重んじて他者に対する慈しみの心を養い、看護の立場に立った時に思いやりを持って人間関係が築けることを目的とする。さらには、現代社会において、死との向き合い方について様々な視点から考えることができるようになる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	適宜、プリントを配布する
参考書	
評価基準及び成績評価方法	平常点70% 試験30%
達成度の伝達	適宜小テストを行い、返却した時に解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：論理学

英文科目名称：Logic

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
米田和美				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	「論理的」とはどのようなことを理解するために、論理学の基礎について学習する。論理は人間が共通に持つ普遍的な思考の枠組みであって、論理的だということはどんな人間にも共通に了解可能だということである。そして、論理的な思考法は他者とのコミュニケーションや、社会生活のあらゆる場面において必要とされている。授業の中では、文章の書き方を通して、論理的思考とは何かを実践的に学ぶ。特に論文や記事などの事例について、学生自ら解釈・判断しながら書く作業を行うことによって、筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。
授業計画	<p>第1回 「文の七原則」・用語の読み・悪文 ●予習:資料集61ページ「文の七原則」を読む。</p> <p>第2回 引用の練習・間違い探し・誤字 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈1〉</p> <p>第3回 意見文:1 用語の読み ●予習:意見文:1を書く。</p> <p>第4回 印刷された意見文:1のA B C D E Fの検討 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈2〉</p> <p>第5回 意見文:2 用語の読み ●予習:意見文:2を書く。</p> <p>第6回 印刷された意見文:2のA B C D E Fの検討 ●復習:「文章を書く約束事」を書く。〈3〉</p> <p>第7回 意見文:3 用語の読み ●予習:意見文:3を書く。</p> <p>第8回 印刷された意見文:3のA B C D E Fの検討 ●まとめ ◆アクティブ・ラーニング◆ 全て演習です。 ①資料文を読み、②意見文を書き、③批判的に検討する授業です。 ①②は自主自学です。</p>
授業の目的・到達目標	筋道の通った思考ができるように、正しく考える訓練をする。 ・いつ、どこで、誰が、誰に、何をどうしたか、正確に読む。 ・「一文一義」の文を書く。 ・主張と理由を書く。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	プリント配布
参考書	「資料論理的思考」のファイルを貸し出す。
評価基準及び成績評価方法	1. 意見文 2. 小テスト 3. 授業中の提出物の点数（各々100点）を100点に換算して配点する。60点以上を合格とする。
達成度の伝達	成績
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：倫理学

英文科目名称：Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
村上隆夫				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	倫理学とは、人生においていかにして幸福を獲得していけばよいかという問題について研究する学問として、古代ギリシアで成立しました。幸福に生活するためには他の人々との協力が必要ですから、倫理学は政治学や法律学や経済学と密接に関連し、それからの学問の基礎をなしています。この学問に関する基本的な事柄を学んでいきます。
授業計画	<p>第1回 人間とはどのような動物か 人間という動物の特殊性と倫理</p> <p>第2回 伝統的な社会における倫理 プラトンの哲学における音楽としての倫理</p> <p>第3回 学問としての倫理学の始まり ソクラテスの生涯と思想</p> <p>第4回 倫理学の体系化 アリストテレスの倫理学</p> <p>第5回 イエスの生涯と思想 古代ユダヤ教からキリスト教へ</p> <p>第6回 キリスト教の神学と倫理学 パウロとアウグスティヌスの思想</p> <p>第7回 資本主義とキリスト教の倫理 マックス・ヴェーバーの思想</p> <p>第8回 悲劇の誕生と季節の誕生 ニーチェのキリスト教批判と日本文化の問題</p>
授業の目的・到達目標	倫理学について基本的な知識を獲得して、今日の問題との関連性を捉えられるようにする。
実務経験に基づく知識の伝達	特に行わない。
教育目標に対する科目の位置付け	「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」という教育目標に向けて配置されている。生命倫理学など看護学に関わる応用倫理学へと展開する基礎として位置づけられている。
教科書	特に指定しない。授業ごとにレジュメを配布する。
参考書	講義の進行にしたがって適宜指示する。
評価基準及び成績評価方法	出席状況と学期末試験により判定する。
達成度の伝達	特に行わない。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業の後に質問その他の相談に応ずる。
履修登録条件	

講義科目名称：心理学

英文科目名称：Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	看護師、保健師、養護教諭として人間を理解するために、人間の心理とその発達について概観することを目的とする。感覚と知覚、学習、記憶、認知、生理、情動と動機づけ、性格、社会等について取り上げ、人間に対する心理面からのアプローチについて学ぶ。(臨床心理学、発達心理学についてはそれぞれの科目を受講されたい。)			
授業計画	<p>第1回 感覚と知覚 教科書第2章を読んでおく</p> <p>第2回 記憶 教科書第3章を読んでおく</p> <p>第3回 思考・言語・知能 教科書第4章を読んでおく</p> <p>第4回 学習 教科書第5章を読んでおく</p> <p>第5回 感情と動機づけ 教科書第6章を読んでおく</p> <p>第6回 性格とパーソナリティ 教科書第7章を読んでおく</p> <p>第7回 社会と集団 教科書第8章を読んでおく</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義8回</p>			
授業の目的・到達目標	人間に対する心理面からのアプローチについて学ぶことを目的とし、心理学の基礎的な内容が理解され、現実の場面に即してテクニカルタームを説明できるようになることが目標である。			
実務経験に基づく知識の伝達				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座基礎分野「心理学」(第6版)医学書院, 2017年			
参考書	鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版, 2009年			
評価基準及び成績評価方法	終講試験を80%、課題レポートを20%の割合で、総合的に評価する予定である。課題レポートは参考書の感想文とするが、各図書館が閉鎖されているため、課題レポートを課すかどうかは授業開始後に改めて周知する。終講試験が実施できない場合は、受講学生に説明の上、別の成績評価方法とする。			
達成度の伝達	総合成績の内訳は希望者に開示する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<p>1) 1単位科目ですが講義内容は膨大な量です。必ず、事前に教科書の該当する範囲を読んで、不明点や疑問点を整理しておくように。</p> <p>2) 高等学校の授業と大学の講義は異なります。授業に出席さえしていれば単位が取得できると思わないでください。</p> <p>3) やむを得ない理由による欠席の場合を除き、原則として終講考査の再試験は実施しません。</p> <p>4) 大学生としての常識をもって講義に臨むこと。</p> <p>5) オフィスアワーは初回講義時に説明します。</p>			
履修登録条件				

講義科目名称：日本国憲法

英文科目名称：the Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
星澤栄一				
人間の理解と科学的思考科目群			人文・社会科学	養護教諭一種免許状

授業概要	我が国における国家の構成、統治組織、統治活動に関する根本的法規に関する講義である。そこでは、国民が、民主主義国家の主権者であると同時に義務を負う立場にあることに留意しつつ、日本国憲法の基本原理、戦争の放棄、国民の権利及び義務、国会、内閣、裁判所、地方自治などについて基本的知識を得るとともに、自己の考えを持てるような思考力を涵養する。			
授業計画	第1回	<p>憲法と日本の法体系の概要</p> <p>予習：憲法の概要及び日本の法体系について概説する。憲法前文、1条から99条までを必ず一度読んでおくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第2回	<p>平和主義、国民主権と天皇制、人権の享有主体、子どもの人権、外国人の人権</p> <p>予習：憲法の三大原理と憲法の適用範囲を学ぶ。「憲法は何のために存在するのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第3回	<p>統治1 三権分立と立法（国会）、行政（内閣）、司法（裁判所）の機能</p> <p>予習：日本の統治機構の基礎を学ぶ。「なぜ権力を分割したのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第4回	<p>統治2 財政（予算）の仕組み、国民の義務、地方自治の仕組み</p> <p>予習：日本の統治機構の運用を学ぶ。「どのようにして国を運営していくのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第5回	<p>人権1 経済的自由権、財産権、公共の福祉</p> <p>予習：人権とその制約原理の基礎を学ぶ。「なぜ人権は保障され、制約されるのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第6回	<p>人権2 包括的基本権（幸福追求権）、公共の福祉</p> <p>予習：幸福追求権とその制約原理の基礎を学ぶ。「幸福追求とはなにか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第7回	<p>人権3 平等権</p> <p>予習：平等権について学ぶ。「一体何が平等なのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第8回	<p>人権4 思想良心の自由、学問の自由</p> <p>予習：思想良心の自由等とその限界を学ぶ。「絶対的自由は存在しうるのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第9回	<p>人権5 表現の自由1、公共の福祉による制限</p> <p>予習：表現の自由の価値を学ぶ。「表現行為にどのような価値があるか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第10回	<p>人権6 表現の自由2、知る権利、取材報道の自由、検閲の禁止</p> <p>予習：表現の保障と制約原理を学ぶ。「表現のためには何が必要か」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第11回	<p>人権7 人身の自由、罪刑法定主義、刑法とは何か、推定無罪</p> <p>予習：人身の自由と刑罰の仕組みを学ぶ。「なぜ無罪は推定されるのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第12回	<p>人権8 社会権、国務請求権 参政権</p> <p>予習：国家と国民との間の権利関係等を学ぶ。「国がすべきことは何か」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第13回	<p>憲法と民法（民法とは何か、私的自治の原則、物件と債権、契約とは）</p> <p>予習：民法と憲法の関わりを学ぶ。「私的自治とは何か」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第14回	<p>憲法と労働法（労働法とは何か、労働者の権利義務、解雇、残業代等）</p> <p>予習：労働法と憲法の関わりを学ぶ。「なぜ労働者のための法があるのか」に答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習：レジュメの確認（不明点の確認と知識の定着のための読み返し：不明点は教員に再確認のこと）</p>		
	第15回	<p>試験（60分）と試験後の解説（20分程度）</p> <p>予習：これまでの授業の内容を再確認し、試験に臨むこと。</p> <p>復習：試験と解説の確認。</p> <p>◆予習・復習の時間◆</p> <p>予習・復習45時間</p> <p>各講義前2時間の予習（15回2時間=30時間）主に教科書等の読み込み</p> <p>各講義後1時間の復習（15回1時間=15時間）主にレジュメの読み返し</p>		
授業の目的・到達目標	社会的存在としての人及び国家制度の基礎を理解する。報道などで接する憲法問題について理解し、自己の考えを持つことができる。			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、弁護士として10年以上の実務経験を生かし、憲法問題、憲法上の権利と関連する民法、会社法、労働法、税法、刑法、刑事訴訟法等の基礎知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			

教科書	授業時配布レジュメのほか何か憲法の教科書（指定しない）を用意すること。憲法の条文は必須なので各自準備すること。
参考書	いちばんやさしい憲法入門第5版（有斐閣） * 末尾に条文が添付しているのでこれを用意すれば条文の準備は不用。
評価基準及び成績評価方法	成績評価は、3～4回程度実施する小テスト（合計20点満点）、最終回で行う試験（80点満点）で最終成績を評価し、60点以上のものに単位を認める。多肢択一式の小問では、憲法の基本的知識の有無を確認し、記述式の小問では憲法上の問題点を発見する能力の有無と、当該問題点に関する憲法の理解の程度を確認する。
達成度の伝達	小テストを含めた試験についての採点と解説を実施し、理解の程度にあわせた説明を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	法律はわかりにくい、難しいというイメージがあると思いますが、きちんとした知識や理解があれば、そのようなイメージを払拭できるのではないかと思います。難しい内容をなるべくわかりやすく解説していきたいと考えていますので、要望があれば気軽に担当まで。 なお、予習は必要です。参考書等準備した教科書の該当箇所（表題項目）を最低でも一度読み、自分の考えを用意して講義に臨み、講義内で考えを深めるようにしてください。
履修登録条件	

講義科目名称：発達心理学

英文科目名称：Development Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
森慶輔				
人間の理解と科学的思考科目群			人文・社会科学	養護教諭一種免許状
授業概要	人間の成長・発達を理解する基礎として、胎児期から老年期までの各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の變化と、これらを促進する学習過程について理解することを目的とする。ピアジェやエリクソンの発達理論を取り上げ、胎児期から老年期まで、人間の身体・認知・思考・自我・パーソナリティの側面を学ぶとともに、さまざまな障害に関する理解も深める。			
授業計画	<p>第1回 発達理論とその歴史的展開</p> <p>第2回 胎児期の心と身体</p> <p>第3回 乳幼児期の心と身体</p> <p>第4回 学童期の心と身体</p> <p>第5回 思春期の心と身体</p> <p>第6回 青年期の心と身体</p> <p>第7回 成人期の心と身体</p> <p>第8回 老年期の心と身体</p> <p>アクティブラーニング 講義8回</p>			
授業の目的・到達目標	本授業では、人間の誕生から死に至る生涯発達の過程を、主として発達・教育心理学的な視点から概観する。人間の発達を支える生物学的基盤及び社会・文化的基盤（家族、学校、地域社会、文化、時代背景等）を多角的に捉えた上で、認知、言語、概念、感情など心理的諸機能の発達の特性、及び各発達段階の特性及び発達の障害に関する理解を図る。とりわけ養護教諭に必要な児童期から青年期の特徴を理解することを目標とする。			
実務経験に基づく知識の伝達	発達相談に携わった経験のある教員が、子どもの発達のポイントについて講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」等に対応する。			
教科書	舟島なをみ・望月美知代「看護のための人間発達学（第5版）」医学書院、2017年			
参考書	小野寺敦子「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版、2009年 高橋一公・中川佳子「発達臨床心理学15講」北大路出版、2014年 小林芳郎編著「発達のための臨床心理学」保育出版社、2010年			
評価基準及び成績評価方法	講義への出席を前提とし、終講試験で評価する。			
達成度の伝達	希望者には総合評価の内訳を開示する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<p>1) シラバスの内容は一部変更の可能性もあります。詳細は講義時に説明します。</p> <p>2) 高等学校の授業と大学の講義は異なります。授業に出席さえしていれば単位が取得できると思わないでください。</p> <p>3) やむを得ない理由による欠席の場合を除き、定期試験の再試験は実施しません。</p> <p>4) 大学生としての常識をもって講義に臨むこと。</p> <p>5) オフィスアワーは初回講義時に説明します。</p>			
履修登録条件				

講義科目名称：環境と社会

英文科目名称：Environment and society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
牛山泉				
人間の理解と科学的思考科目群		人文・社会科学		

授業概要	<p>自然環境の変遷を古代、中世、そして現代、さらには長期的展望を踏まえて学ぶ。 自然環境と社会の相互作用、環境問題が社会と人間にもたらす健康への影響について理解を進める。 まず、人類の環境史を明らかにし、人間の健康に被害を及ぼしてきた種々の環境問題について編年的に明らかにする。 次に、18世紀後半から始まった産業革命以降に顕在化した石炭による公害問題、わが国の明治期における地元の足尾鋳毒問題と田中正造の史実を知ると共に、わが国の高度成長期の公害問題を知り、その解決のための対策について学ぶ。こうした国内外の公害問題や環境問題と社会との関わり、特に環境問題と健康被害の関係について明らかにする。 最後に、21世紀の最大の課題のひとつである地球環境問題と社会との関わりについて、特に解決困難とされている温暖化問題から始めて、地球環境問題の現状とエネルギー利用の因果関係を明らかにし、持続可能な発展のために出来ることを考える。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンスならびに「環境史と文明」について 復習：配布資料について学んで知識を明確にしておく。</p> <p>第2回 環境史；中世のペスト大流行と産業革命の功罪 中世紀の衛生状態やペストの媒体を認識する。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第3回 環境史；明治期の足尾鋳毒問題と田中正造の取り組み 特に足尾銅山からの渡良瀬川汚染を知る。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第4回 日本の高度成長期の公害問題と健康被害 日本国内の四大公害を認識する。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第5回 国内外の公害問題と環境問題 国内と海外の公害問題を明らかにする。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第6回 エネルギーと環境問題の因果関係 化石燃料から再生可能エネルギーへの歩みを知る。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第7回 現代の環境課題と健康被害の問題 環境問題に起因する健康被害を明らかにする。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p> <p>第8回 持続可能な社会を目指して 人類が目指すべき目標について話し合う。 予習：配布資料で学んでおく。 復習：講義の内容を反復する。</p>
授業の目的・到達目標	将来、看護師など看護や介護関係の業務に携わる際に適正な判断を下すことができるように指導する。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員には実務経験はないが、環境省や経済産業省あるいは国土交通省など政府機関の委員会の委員長を多く務めていることから、それに基づく知見を伝達することに務める。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	毎回の配布資料により学ぶ。
参考書	講義のたびに紹介する。
評価基準及び成績評価方法	8回の講義終了後、別途レポート課題あるいは試験により評価する。
達成度の伝達	毎回の資料について翌週初めに説明し正しい知識を身につけさせる。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	環境問題による健康被害について学ぶことにより、正しい知識と使命感・倫理観を持って看護に当たることが出来るように指導したい。
履修登録条件	

講義科目名称：数学

英文科目名称：Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
長谷川貴之				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	医療の現場では、さまざまな計算を必要とされる場面が多くある。また、医療の現状把握や研究の場面において統計の活用を必要とされることから、看護職としてこれらの基礎的知識の修得を目指す。まず、割引率の計算や金利の計算等、日常生活で使われる数学について実例を挙げて分かりやすく解説する。次に医療現場で役立つ溶液計算や、点滴計算に移る。後半は代表値、分散、標準偏差、正規分布など、統計の基礎について学ぶ。			
授業計画	第1回	数の扱い。大きい数や小さい数の表し方、読み方。数の基本的な計算。 予習：式の展開公式、指数計算等を復習しておく。 復習：基本的な暗算の練習をする。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第2回	買い物での割引率の計算。 予習：比や割合について、理解しているか確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第3回	為替レートの計算。 予習：主要通貨の現在の為替レートについて調べておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第4回	金利計算。 予習：単利と複利の違いについて確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第5回	順列や組み合わせの計算。 予習：順列や組み合わせの個数を計算するための記号、 nPr 、 nCr について復習しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第6回	電気回路に関連した計算。 予習：電流、電圧、抵抗の関係を理解しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第7回	希釈倍率の計算。 予習：希釈倍率の定義を確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第8回	点滴の計算。 予習：与えられた量を1時間に滴下するためには1秒間に何滴滴下すればよいかを比例計算を用いて計算できるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第9回	圧力と酸素ポンプ。 予習：圧力の定義と単位の意味を確認しておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第10回	代表値としての平均値、中央値、最頻値。 予習：平均値、中央値、最頻値の定義を確かめておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第11回	分散と標準偏差。 予習：分散、標準偏差の計算方法、意味を確かめておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第12回	度数分布表、ヒストグラム。 予習：度数分布表からヒストグラムを作ることができるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。		
	第13回	正規分布。 予習：正規分布の作り方を理解しておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第14回	集計と表計算。 与えられたデータから度数分布表を作り、それを用いて平均、分散等の概略の値が計算できるようにしておく。問Aを解いておく。 復習：課題問題を解く。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		
	第15回	まとめ。 今までの項目の例題、問題をもう一度解いてみる。 ◆予習・復習時間◆3時間を目安に。		

授業の目的・到達目標	まず、これまで小学校・中学校・高等学校等で学んできた算数・数学の復習を中心に、学習を進める。新規学習項目としては、特に医療現場で使用される「溶液濃度の計算」、「点滴に関する計算」、「酸素ポンベについての計算」を重点的に学習する。更に、統計学の基礎的概念を復習する。これは上級学年の科目に必要な知識であるので、学習に十分な時間をかけてもらいたい。特に2学年次（後学期）に受講する「保健医療統計学」を視野に入れる。 この科目の到達目標は、看護師・保健師として必要な計算が出来るようになることである。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。 授業時間：90分×15回 予習・復習の時間：3時間×15回
教科書	既存の教科書は使わず、適宜教材プリントを配付する。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	定期試験は約70%、各回の小テストは約30%。
達成度の伝達	各回の小テストは（最終回を除いて）、採点・評価して次回に返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：化学

英文科目名称：Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
加治屋大介				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	<p>化学は生命現象そのものや生物の環境による形質変化を理解する上で重要である。また、人体の代謝活動や遺伝などについて学修するために必要な基礎科目でもある。さらに、医療を実施するうえで必要となる薬量などを理解するために、物質に基づいた化学反応の定性的かつ定量的な理解を深めて、疾病や代謝異常やその治療方法などを化学的側面からとらえることで、ヒト本来の健康な体を維持するための化学的知識を習得する。そのためにまず、体細胞を構成する原子、分子やDNAなどの化学構造を学び、これを基礎として人体の恒常性の根幹である呼吸や酸塩基反応などの無機化学を、また細胞内外の異化や同化などの生化学や生理学を理解するために必要な有機化学を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 原子の構造・人体を構成する元素群 陽子・中性子・電子・放射線などについて理解する。 予習：原子の構造を調べる。 復習：陽子・中性子・電子・放射線などについて復習する。</p> <p>第2回 周期表と元素及び化学結合と分子 典型的な原子(元素)の電子配置と化学結合の関係を周期表上で理解する。 予習：周期表の成り立ちを調べる。 復習：人体を構成する元素と原子間の結合様式を復習する。</p> <p>第3回 物質の量と状態：原子量・分子量・モル濃度 アボガドロ定数に基づいた物質量を理解する。 予習：モル概念を調べる。 復習：1モルの個数を記憶するとともに計算に使えるよう復習する。</p> <p>第4回 溶液の化学（血液など水溶液の化学） 浸透圧、等張液・低張液・高張液下の細胞の状態を理解する。 予習：理想気体の状態方程式を調べる。 復習：浸透圧について理想気体の状態方程式を適用できることを知り、体液の浸透圧の計算を講義に従ってもう一度実施する。</p> <p>第5回 酸・塩基 体液中のイオン種 緩衝液としての血液の役割を理解する、あわせて人体・生物の恒常性の概念を理解する。 予習：第4回目の講義内容を緩衝液や血液に適用してみる。 復習：人体・生物の恒常性について復習する。</p> <p>第6回 有機化合物と物性・官能基の化学 アルコールやアルデヒド、カルボン酸の性質等を理解する。 予習：有機酸などの性質を調べる。 復習：人体を構成する有機酸や脂肪について化学構造式を含めて復習する。</p> <p>第7回 人体を構成する有機化合物の構造と反応（糖・脂質・タンパク質） 糖質・脂質・タンパク質の構造と性質を理解する。 予習：糖質や脂質およびタンパク質の性質を調べる。 復習：糖質や脂質およびタンパク質について化学構造式で見分けることができるように復習する。</p> <p>第8回 これまでの講義のまとめ、終講試験 これまでの講義を総括する。終講試験を行う。 予習：終講試験の準備をする。 復習：終講試験で理解できていなかった部分を復習する。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>化学全般の広いジャンルから特に医療と看護に必要な部分を選び、人体の体液組成とpHとの関係、細胞内外における酸化反応と還元反応の役割、さらにこれらと呼吸や浸透圧と体温との関連性を、化学の視点から定性的かつ定量的に学ぶことを目的とする。また、人体・生物の恒常性を化学的側面から理解することを目標とする。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」ことを目的として配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。この科目の習得により、ディプロマポリシーの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。</p>
教科書	<p>授業内で示す資料を基に授業を行う。</p>
参考書	<p>コ・メディカル「化学」 医療・看護系のための基礎化学（裳華房） 高校時代の理科の教科書と市販の参考書多種、など</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>講義中の小テスト、レポートなどを30%、終講試験を70%とし両者の合計が60点以上であることをもって合格とする。</p>
達成度の伝達	<p>講義毎の質問に対する回答や、小テスト、レポート及び試験の答案解説などにより行う。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>オフィスアワーは工学部大前キャンパス・火曜日5コマ目の研究室に設定していますが、看護学部の講義は本城キャンパスで実施するため時間的にも距離的にも不都合であると思います。そこで講義の終了後に質問等があったら申し出てください。講義終了後に十分な時間をもって対応いたします。また大前キャンパスまで来られる人は、講義時に申し出ていただき、必要十分な対応をいたします。</p>

講義科目名称：生物学

英文科目名称：Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
塚淳				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	看護学の基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎となる生物学として、発生、遺伝、免疫、体の構造、生体の反応などを取り上げて生命現象について学ぶ。生命体の特性を理解するために体の構造やそれぞれの器官の発生について理解し、また、生体維持のためのエネルギー転換や生体の反応として体液や内分泌、神経系による内部環境の恒常性を理解すると同時に、病気の成り立ちとも深く関与する遺伝や免疫についての基礎を学ぶ。			
授業計画	第1回	<p>ガイダンス、第2章 個体の成り立ち—分化（1. 組織、2. 器官と器官系）</p> <p>体の基本的な構造について、それぞれの組織の構造と働き、および器官系とその働きについて理解する。テキストとパワーポイントを使って解説する。</p> <p>【予習】 テキストの第2章に目を通しておき、組織の種類や器官系について理解しておく。 【復習】 体の各器官がどのような器官系に含まれ、どのような働きをしているかをノートにまとめ、十分理解しておく。</p>		
	第2回	<p>第4章 生体内の物質の流れと働き（1. 物質代謝とエネルギー代謝、2. 同化、3. 異化）</p> <p>生命の維持に関わる生体における物質とエネルギーの流れについて理解し、3大栄養素を中心としたエネルギーの蓄積、及びそのエネルギーの放出について理解する。複雑な部分もあるため、図やグラフなどを多く使い理解しやすいように解説する。</p> <p>【予習】 生物における代謝について物質とエネルギーの流れを理解しておく。また、代謝に関わる酵素の働きについて理解しておく。 【復習】 3大栄養素、5大栄養素、7大栄養素とそれぞれの重要な役割について、簡潔にノートのまとめ、理解しておく。さらに3大栄養素の化学的消化について、それぞれの栄養素の体内での変化についてテキストの図からを十分理解しておく。</p>		
	第3回	<p>第4章 生体内の物質の流れと働き（4. エネルギーの利用、5. 異化生成物の排出）</p> <p>蓄積したエネルギーをどのような形で生活活動に利用しているかを理解する。また、分解された生成物が排泄される仕組みを理解する。テキストに沿って進めると同時に、理解しやすいように図や写真を多く使って解説する。</p> <p>【予習】 生物が利用するエネルギーの形について、テキストを読んで理解しておく。 【復習】 腎臓の構造とその働き、特に尿の生成については重要であり、テキストを簡潔にまとめて理解しておく。</p>		
	第4回	<p>第5章 からだの恒常性の維持（1. 内部環境としての体液、2. 神経系とその働き）</p> <p>生体において非常に重要な内部環境の恒常性の維持、ホメオスタシスについて、血液を中心とした体液、及び免疫系について、人の生活と密接に関連した事象を例に、図や写真などを使い解説する。神経系についても理解しやすいように図を使って、中枢神経系と末梢神経系の働きについて解説する。</p> <p>【予習】 ヒトの血液成分とそれぞれの成分の働きについて、テキストを読んで理解しておくと同時に血液とリンパの流れについても理解しておく。 【復習】 血液成分とその働きについては非常に重要であるため、わかりやすくノートにまとめておく。また、血液型とその判別についても重要であり、ノートにまとめてしっかり理解しておく。</p>		
	第5回	<p>第5章 からだの恒常性の維持（3. 内分泌系とその働き）</p> <p>内分泌系はホルモンの合成と分泌により、体内の生理作用や成長など調節を行っている重要な器官であり、いくつもの内分泌腺が多くのホルモンを分泌し、組織や器官に働いて、その生理機能に大きく影響している。また、分泌されたホルモンの不足や過剰により、いろいろな機能障害も引き起こすという面もあり、病気との関わりも大きい。このことから、内分泌系について、それぞれの内分泌腺から分泌されるホルモンとその作用について理解する。</p> <p>【予習】 ヒトの主な内分泌腺の位置と生産されているホルモンについて、テキストの図で理解しておく。 【復習】 それぞれの内分泌腺から分泌されるホルモンについて、それぞれの働きをまとめる。さらに、それらの過剰、不足によって引き起こされる異常についてもノートにまとめて理解しておく。</p>		
	第6回	<p>第6章 外的刺激の受容（1. 刺激と反応、2. 外的刺激の受容）</p> <p>生物は、光や音などの物理的刺激や物質による化学的刺激を受け取っている。これらの刺激をそれぞれの感覚器官で受容しており、生活活動において非常に重要な部分を占めている。それぞれの感覚器の構造と働きについてしっかり理解できるように、図や写真を使って解説する。</p> <p>【予習】 ヒトの感覚器の種類とそれらの構造、および受け取る刺激とその刺激をどのような感覚として受け取っているのかをテキストを読んで理解しておく。 【復習】 感覚器の種類と受け取る刺激について、わかりやすく自分で表にまとめる。</p>		
	第7回	<p>第8章 発生（2. ヒトの発生）</p> <p>特に人の発生について、受精、着床から胎児の発育の過程を理解する。図や写真を使って、理解しやすいように努める。</p> <p>【予習】 ヒトの発生について学ぶ前段階として、第7章の生殖（精子、卵子の形成、受精）の項を読み、理解しておく。 【復習】 受精後、胚がどのように子宮壁に着床し発生していくかを理解する。また、胎盤の構造と血管などの胎児とのつながりについてを図を書いて理解しておく。</p>		
	第8回	<p>第9章 遺伝（4. タンパク質と形質の発現、7. ヒトの遺伝）</p> <p>遺伝的形質は、酵素によって進められる細胞内での化学反応がもとになっている。DNAの遺伝情報に基づいたタンパク質の合成が、特定の形質を発現する仕組みになっている。またこれが遺伝的疾患としても重要な関わりを持っている。人の遺伝的疾患を理解する上でも重要であり、いくつかの遺伝的疾患を例に挙げ、遺伝について理解する。</p>		

	<p>人の遺伝については、血液型の遺伝や色盲の遺伝を例に、遺伝の法則について理解する。</p> <p>【予習】 様々な形質がどのように受け継がれていくかをテキストを読んで理解しておく。 【復習】 生体の構成成分であるタンパク質の合成がどのように行われるかを理解し、遺伝性疾患との関連についてまとめておく。また、ヒトのABO式血液型については表現型と遺伝子型の関連については表にまとめ理解しておく。 ◆予習・復習◆ 22. 5時間</p>
授業の目的・到達目標	看護学を学ぶために必要な人体の基本的な構造と機能について理解し、その知識を整理しておくことを目的とする。また、専門分野を学ぶに当たって専門的知識の理解が十分できるように生物学の基礎知識を身につけておくことを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	新体系 看護学全書 基礎科目 生物学 編著 齊藤省吾（メジカルフレンド社）
参考書	
評価基準及び成績評価方法	第4回までの授業の小テストと全体的な試験により評価する。各々60点を基準とし、満たない場合はレポートの提出を求め、総合的に評価する。
達成度の伝達	答案用紙及びレポートの返却による。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	これから先、看護学に関係した医学関連の講義を受け、理解する上で、生物学はその基礎となり、また重要であるため、しっかり学んでほしい。
履修登録条件	

講義科目名称：物理学

英文科目名称：Physics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
高橋大輔				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	看護学を修得するために必要な物理原理や現象を体系的に学ぶ。身体運動機能の理解を深めるための力学および熱学、最新医療機器の使用に際して必要な電気・磁気学、波動学、放射線物理学、低温物理学について理解し、看護学の専門基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎とする。 授業は単元ごとに参考書をもとに教員が作成したプリントを使用し行う。プリントは授業内容の復習を兼ねた演習問題があるので、指定期日までにレポートとして提出をする必要がある。
授業計画	<p>第1回 数量の扱いと基礎物理数学 ●予習：高校で学習した三角関数およびベクトルを復習しておくこと。 ●復習：各種単位、三角関数、ベクトルについて復習すること。</p> <p>第2回 質点系および剛体のつりあい（1）「鉗子やピンセットに見る物理」 ●予習：教科書1章より「質点の力学（力の加減）」および、第2章「剛体の力学」を読んでおくこと。 ●復習：ベクトルの分解、合成を復習すること。</p> <p>第3回 質点系および剛体のつりあい（2）「肩こりに見る物理」 ●予習：教科書2章「剛体の力学」を読んでおくこと。 ●復習：力のモーメントと重心についての理解を深めておくこと。</p> <p>第4回 圧力とその利用：「血圧計や点滴に見る物理」 ●予習：教科書4章「圧力」を読んでおくこと。 ●復習：差圧について十分な理解をすること。</p> <p>第5回 電気と磁気（1）：電界・磁界の概念と電気回路の基礎 ●予習：教科書5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。 ●復習：電流はどのような条件で流れるかを理解すること。</p> <p>第6回 電気と磁気（2）：直流回路について学ぶ「感電の物理」 ●予習：教科書5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。 ●復習：オームの法則およびキルヒホッフの法則について理解すること。</p> <p>第7回 電気と磁気（1）：交流回路について学ぶ「医療機器とノイズ対策」 ●予習：教科書5章「看護に必要な電気学」を読んでおくこと。 ●復習：コイル、コンデンサーの役割について理解すること。</p> <p>第8回 近代物理学の応用例「放射能・放射線とは何か」 ●予習：教科書9章「放射線の防護と応用」を読んでおくこと。 ●復習：放射線量単位を復習する。放射線の生物学的効果について理解すること。</p> <p>第9回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	物理学を学び応用することで、患者の身体的負担を軽減するのみでなく、看護師の効率良い看護につなげる。本講義では具体的な応用例を用い、より実践的な物理知識を幅広く学ぶことを目的とする。到達目標は以下のとおりである。①物理学の基礎的知識を理解し、医学および看護学における物理学の応用実例を認識、理解する。②安全な高度医療を提供するために必要な生体現象と物理現象の関連について理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は現在も物性物理学の研究者として研究を行っている。物体を扱う際の実務経験を活かし、具体的な説明を用いて受講者の理解が深まるように講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	平田雅子 著：基礎科目 物理学（新体系看護学全書）（メヂカルフレンド社）
参考書	
評価基準及び成績評価方法	到達度を測るため、各単元の授業終了後にレポートを課す。また、第8回の授業終了後、日を改めて筆記試験を行う。レポート評価点を30点（各10点）、筆記試験の評価点を70点とし、合計60点以上を合格とする。再試験は評価点50点以上を対象とする。
達成度の伝達	レポートは回収後採点を行い、解答に至らなかった点については指示および指導を行うことで到達度を伝達する。また、定期試験の答案返却により各自の最終到達度が確認される。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	効率の良い看護実践のために物理学が貢献していることを楽しみながら学んでほしい。本講義は高校までに学習した三各種関数および基礎的代数の知識があれば、数学的には充分理解できる内容である。高校数学の教科書は予習、復習時に活用するので用意しておくことが望ましい。また、教科書は指定するが授業開始までに用意する必要はない。図書館等を利用して予習、復習に努めてほしい。
履修登録条件	

講義科目名称：情報科学 I

英文科目名称：Information science I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	講義
担当教員				
佐藤友哉				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学		

授業概要	コンピュータを利用することは医療現場においても必要な能力となっている。その能力を養うために必要な基本知識について学習する。広く浅くさらに最近の情報関連の内容について修得する。
授業計画	<p>第 1 回 インターネットの活用 予習：テキストの12ページから39ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：同ページ内で強調された単語の意味をまとめ、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 2 回 情報倫理とセキュリティ 予習：テキストの40ページから61ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 3 回 私たちが生きる情報社会 予習：テキストの62ページから89ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 4 回 情報やメディアに関する技術 予習：テキストの90ページから115ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 5 回 ネットワークやインターネットに関する技術 予習：テキストの116ページから141ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 6 回 ハードウェアに関する技術 予習：テキストの142ページから165ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 7 回 ソフトウェアに関する技術 予習：テキストの166ページから183ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第 8 回 コンピュータの歴史と現代のIT業界 予習：テキストの184ページから195ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>試験 予習：授業内容と小テストの内容を復習し、試験に備えて勉強しておく。理解できない点や不明な点を質問するなどして解決しておくこと。 復習：試験で特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 初めて耳にする単語も多いため予習が欠かせない。 そのため予習には毎回2時間程度、全体では16時間を要し、 復習では、細かに説明されたキーワードを中心に1時間程度、全体では8時間を使って反復し 定期試験に備える。</p>
授業の目的・到達目標	<p>情報化した現代社会を上手に生きる基礎を養成することを目的とする。 情報化社会についての以下の項目を理解することを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの活用 2. 情報倫理とセキュリティ 3. わたし達が生きる情報社会 4. 情報やメディアに関する技術 5. ネットワークやインターネットに関わる技術 6. ハードウェアに関わる技術 7. ソフトウェアに関わる技術 8. コンピュータの歴史と現代のIT業界
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2020」 監修：久野 靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 出版社：日経BP社 ISBN：978-4-8222-9240-9
参考書	
評価基準及び成績評価方法	毎回授業の最後書いてもらうレポートと試験で評価し、それぞれ30：70の比重で配点し総合評価が60点以上を合格とする。
達成度の伝達	レポートの返却と試験結果の公表によって行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	水曜日 3・4コマ目

講義科目名称：情報科学Ⅱ

英文科目名称：Information science2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
佐藤友哉				
人間の理解と科学的思考科目群			自然科学	養護教諭一種免許状

授業概要	科学的な根拠に基づいた看護を提供するためには、コンピュータ及びインターネットを活用が不可欠である。文献検索を含めた様々な情報をまとめるツールとしてコンピュータを活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションソフトウェアの利用方法について修得する。
授業計画	<p>第1回 情報化社会とリテラシー 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第2回 ソフトウェアの基本操作 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第3回 Wordによる文書処理（スタイル、脚注） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第4回 Wordによる文書処理（SmartArt、表） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第5回 Wordによる文書処理（描画キャンパス、ヘッダー・フッター） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第6回 Wordによる文書処理（段組み、数式）（課題1（タッチタイピング）および課題2（Word）） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第7回 Excelによる表計算とデータベース（オートSUM、ブックの保存） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第8回 Excelによる表計算とデータベース（シートの書式、関数） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第9回 Excelによる表計算とデータベース（グラフ、応用（経営分析）） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第10回 Excelによる表計算とデータベース（データ分析、データベース機能）（課題3） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第11回 PowerPointによるプレゼンテーション（ドラフト作成用紙） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第12回 PowerPointによるプレゼンテーション（スライド作成） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第13回 PowerPointによるプレゼンテーション（アニメーション、発表準備）（課題4） 予習：次回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第14回 プレゼンテーション：発表1 予習：発表のための練習を行っておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第15回 プレゼンテーション：発表2とまとめ 予習：すべての課題を確認し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：課題の中で、特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 課題について作成したPowerPointの資料を基に、指定された時間内でプレゼンテーションを1回行う。 ◆予習・復習の時間◆ 予習時間と復習時間は、合わせて45時間程度必要。</p>
授業の目的・到達目標	コンピュータとインターネットの利用と仕組みについて理解する。そして、コンピュータをツールとして活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションの利用方法について修得する。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	「Microsoft Office 2019を使った情報リテラシーの基礎」 著者：切田節子、新聖子、山岡英孝、乙名健、長山恵子

	出版社：近代科学社 ISBN：978-4-7649-0601-3
参考書	
評価基準及び成績 評価方法	タッチ・タイピングと課題提出（Word, Excel, PowerPoint）と1回の発表によって評価する。評価点が60点以上で合格とする。ただし、すべての課題提出が合格することが必要条件である。
達成度の伝達	課題提出と発表内容によって確認する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	火曜日 1・2コマ目
履修登録条件	

講義科目名称：基礎英語

英文科目名称：Basic English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
清水尚				
人間の理解と科学的思考科目群			外国語	養護教諭一種免許状

授業概要	<p>いわゆる4技能（聞く、読む、話す、書く）の演習をバランス良く配した下記の教科書を用いて、英語基礎レベルの総ざらいを行う演習形式の授業である。同教科書には看護系の学生が興味を持ち易い話題を採り上げた英文講読演習とそれを支える文法、語法の理解度チェック、簡単な会話と作文演習に加え、将来の職に直結した医療分野の基礎語彙を増強するコーナーもある。これらを活用することにより、受講生が次に取り組むより実践的な各英語科目の履修へ向けての基礎固めができるよう指導する。より効果的な知識・技能の定着のため、適宜小テストを織り交せるなどする。</p>			
授業計画	第1回	<p>導入：Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（1）Listening Practice, Reading：聴解・読解と解説 教科書、辞書、ノートを整える。 今回の復習：Listening Practice, Reading（既習箇所まで） 次回の予習：Reading（未習箇所）、Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases</p>		
	第2回	<p>Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（2）Reading, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases：読解と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の復習：Reading, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 次回の予習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words</p>		
	第3回	<p>Unit 9 Living a Healthy Life 健康なライフスタイル（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words：練習問題の答え合わせと解説、ペアワーク 今回の復習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words, 小テスト(#1)対策 次回の予習：Unit 10 Listening Practice, Reading</p>		
	第4回	<p>Unit 10 Is the Treatment Different or Not? 治療の仕方は国によって違うの？（1）小テスト(#1), Listening Practice, Reading：聴解・読解と解説 今回の復習：Listening Practice, Reading 次回の予習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases</p>		
	第5回	<p>Unit 10 Is the Treatment Different or Not? 治療の仕方は国によって違うの？（2）小テスト(#1)講評, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases：練習問題の答え合わせと解説 今回の復習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 次回の予習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words</p>		
	第6回	<p>Unit 10 Is the Treatment Different or Not? 治療の仕方は国によって違うの？（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words：練習問題の答え合わせと解説、ペアワーク 今回の復習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words, 小テスト(#2)対策 次回の予習：Unit 11 Listening Practice, Reading</p>		
	第7回	<p>Unit 11 Is Hepatitis B Curable B型肝炎は治る？（1）小テスト(#2), Listening Practice, Reading：聴解・読解と解説 今回の復習：Listening Practice, Reading 次回の予習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases</p>		
	第8回	<p>Unit 11 Is Hepatitis B Curable B型肝炎は治る？（2）小テスト(#2)講評, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases：練習問題の答え合わせと解説 今回の復習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 次回の予習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words</p>		
	第9回	<p>Unit 11 Is Hepatitis B Curable B型肝炎は治る？（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words：練習問題の答え合わせと解説、ペアワーク 今回の復習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words, 小テスト(#3)対策 次回の予習：Unit 12 Listening Practice, Reading</p>		
	第10回	<p>Unit 12 Do you want to be skinny? やせたい？（1）小テスト(#3), Listening Practice, Reading：聴解・読解と解説 今回の復習：Listening Practice, Reading 次回の予習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases</p>		
	第11回	<p>Unit 12 Do you want to be skinny? やせたい？（2）小テスト(#3)講評, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases：練習問題の答え合わせと解説 今回の復習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 次回の予習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words</p>		
	第12回	<p>Unit 12 Do you want to be skinny? やせたい？（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words：練習問題の答え合わせと解説、ペアワーク 今回の復習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words, 小テスト(#4)対策 次回の予習：Unit 13 Listening Practice, Reading</p>		
	第13回	<p>Unit 13 You need a Breast Self-Examination 乳がん自己検診しましょう（1）小テスト(#4), Listening Practice, Reading：聴解・読解と解説 今回の復習：Listening Practice, Reading 次回の予習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases</p>		
	第14回	<p>Unit 13 You need a Breast Self-Examination 乳がん自己検診しましょう（2）小テスト(#4)講評, Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases：練習問題の答え合わせと解説 今回の復習：Finding Main Ideas, Finding Details, Words & Phrases 次回の予習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words</p>		
	第15回	<p>Unit 13 You need a Breast Self-Examination 乳がん自己検診しましょう（3）Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words：練習問題の答え合わせと解説、ペアワーク</p>		

	<p>今回の復習：Recalling Grammar, Talking to Each Other, Medical Words, 期末テスト対策</p> <p>第16回 期末試験と解説 期末試験に備え、試験範囲の教科書やノート、小テスト等を見直し、重要な項目をノートにまとめ、不明な問題に取り組むこと。試験後、解けなかった問題について教科書やノートで確認し、再度問題に取り組み、理解を確実にする。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ ロールプレイ（ペアワーク）単元毎に1回ずつ計5回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>高等学校卒業程度の英語の基礎力をいま一度総点検して、後に履修する応用的・専門的な英語諸科目を学ぶための確固たる礎を築く。具体的には、語彙の増強、文法事項の理解の増進を基軸に、ややまとまった分量の文章の読解演習、簡潔な文章の作文演習などを、易しい例を参考にしつつ、体験的に学習する。</p> <p>①客観的な文章を的確に読むことができる。 ②自分の意見を簡潔な英文で表現できる。 ③英語学習を通じて異文化を相対的に観察する力を養うことを目標とする。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>笹島茂・山崎朝子 著 『医療と看護の総合英語（三訂版）』 三修社</p>
参考書	<p>授業中に別途指示する。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>授業における平素の取り組み（小テスト等を含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。</p>
達成度の伝達	<p>レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>辞書や電子辞書を各自常備し、不明な点はよく調べ、なお不明なら授業担当者に積極的に質問するよう心がけましょう。また、家庭においても毎日欠かさず、たとえ短時間であっても、様々な教材を活用して継続的に学習することを望みます。</p> <p>オフィスアワー：月曜日の昼休み（12:20-12:50）</p>
履修登録条件	

講義科目名称：医療英語 I

英文科目名称：Medical English1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
篠原勇次				
人間の理解と科学的思考科目群			外国語	養護教諭一種免許状

授業概要	症状や検査と疾患、そして治療と処置といった医療現場に即した場面を想定しながら、医療従事者に必要とされる表現力を演習形式で学習する。具体的には、シャドーイングやリプロダクションといった手法を用いながら、音声面での訓練を重視しながら授業を進めていく。			
授業計画	第1回	ガイダンス Introduction 教科書についての概観 各自教科書および辞書を用意しておく。		
	第2回	Unit 1 Body Parts 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Unit 2 Musculoskeletal System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Unit 3 Circulatory System 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Unit 4 Respiratory System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Unit 5 Digestive System 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	Unit 7 Urinary System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	Unit 8 Reproductive System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	Unit 9 Endocrine System 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	Unit 10 BLS (Basic Life Support) and ALS (Advanced Life Support) 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	Unit 11 Rehabilitation 前回の復習、1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	Unit 12 Diet and Nutrition 1. Warm-up, 2. Exercise 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第14回	総復習1 Unit 1~Unit 6までの学習内容を復習 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第15回	総復習2 Unit 7~Unit 12までの学習内容を総復習する。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第16回	理解度の確認		

	これまでの学習内容の理解度を試験によって確認する。
授業の目的・到達目標	医療専門用語を中心に学習し、実際に医療現場で活用できる能力の涵養をめざす。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	English for Healthcare Professionals Because We Care (CENGAGE Learning)
参考書	英辞郎 ALC
評価基準及び成績評価方法	授業への参加度（30%）、不定期に実施する小テストの結果（70%）などを総合的に評価し、双方の結果が60%以上の者を合格とし、単位を認定する。
達成度の伝達	試験等は、採点后答案を返却し、各学生に到達度を伝える。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	基本的に火曜日の5コマ目であるが、質問のある場合には、学生と担当者の双方が十分な時間がとれる日時を設定できるように、授業の終了後その旨を伝えることが望ましい。
履修登録条件	

講義科目名称：医療英語Ⅱ

英文科目名称：Medical English2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
篠原勇次				
人間の理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	医療に関する新聞・雑誌などの記事やエッセイなどの教材の精読をとおして、医療英語に用いられる語彙や表現を学びつつ、一定の長さの英文のなかから必要な情報を的確に見つけ出し、その内容を要約し、発表してもらう。英文で書かれた医療関連の知識や情報に自由にアクセスできる英語力を養成することを目標に置く。			
授業計画	第1回	イントロダクション – 医療英語Ⅱで扱うトピックの外観 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく		
	第2回	Unit 1 Body Parts Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Unit 2 Musculoskeletal System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Unit 3 Circulatory System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Unit 4 Respiratory System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Unit 5 Digestive System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	Unit 7 Urinary System Listening Focus and Reading 毎回オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし予習をしておく。また、今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
授業の目的・到達目標	実際の医療現場で頻繁に使われる語彙を中心にreading, listening, grammarなどをバランスよく学びながら医療のプロフェッショナルとして求められる英語力の涵養を目指す。			
実務経験に基づく知識の伝達				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	Because We Care – English for Healthcare Professionals CENGAGE Learning			
参考書	英辞郎			
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。			
達成度の伝達	試験の採点后に返却し、到達度を伝達する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。			
履修登録条件				

講義科目名称：英会話コミュニケーション

英文科目名称：English Conversation Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
篠原勇次				
人間の理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	多くの医療シーンでのダイアログに触れながら医療に関する語彙や表現学び、リスニングとスピーキングの実践練習をする。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション およびUnit 1 -英会話コミュニケーションで扱うトピックの外観教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく</p> <p>第2回 筋骨格系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第3回 循環器系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第4回 呼吸器系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第5回 消化器系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第6回 脳・神経・感覚系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第7回 泌尿器系疾患の症状についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p> <p>第8回 生殖器系疾患についての英語表現 前回の授業の復習。pair workや練習問題を通して、知識の定着をはかる。オープンファイルに用意されている教材をダウンロードし、予習しておくこと。</p>
授業の目的・到達目標	実際の医療現場で頻繁に使われる語彙を中心にreading, listening, grammarなどをバランスよく学びながら医療のプロフェッショナルとして求められる英語力の涵養を目指す。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	English for Healthcare Professionals Because We Care (CENGAGE LEARNING)
参考書	英辞郎
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達	試験の採点后に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。
履修登録条件	

講義科目名称：ドイツ語入門

英文科目名称：Introduction to German

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
前川泰久				
人間の理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	全く初めての方々を対象に、色々な場面を例にドイツ語の基礎をわかりやすく説明。文化や歴史も紹介。特に発音の習得を主にすすめる。また英語との比較なども説明しドイツ語の成り立ちについても理解を深める。最終的にドイツ語の初級レベルを習得できる様にする。途中で宿題を実施して発音の理解レベルを確認。期末試験でどこまで理解できたかを検証。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 使う教科書とシラバスの紹介。さらに、ドイツはどんな国か、ドイツ語とはどんな言語か（英語に一番近い言語としてのドイツ語に触れてもらう）：ドイツ大使館関係の資料をベースに紹介。簡単な挨拶。</p> <p>復習：配布の資料でドイツの文化、ドイツ語の中で日本語になっている言葉や英語と近い単語の復習。</p> <p>第2回 ドイツ語の発音について ABCの発音の練習。日本語になっているドイツ語や発音一覧表の説明。ドイツの歴史・文化紹介。日本語になっているドイツ語一覧表を配布し一部を紹介。</p> <p>予習・復習：ABCの発音をCDを使って確認する。日本語になっているドイツ語の一覧を復習して発音イメージをつかむ。</p> <p>第3回 ABC+ドイツ語特有の発音を学ぶ。発音一覧表を配布。 予習・復習：教科書の発音練習の部分と、配布の発音一覧表とドイツ語特有の発音を理解する。英語との違いを復習。</p> <p>第4回 挨拶。曜日、月、四季についてドイツ語と英語の違いを見ながら学ぶ。（発音一覧表をベース） 予習・復習：ABCとドイツ語特有の発音の復習。教科書の次の部分を予習。</p> <p>第5回 簡単な挨拶のしかた（簡単な日常会話）。数字。疑問詞（英語との比較で説明） 予習・復習：ドイツ語の読み方のパターンを復習。英語との違いを復習。教科書の数字と疑問詞の復習。次テーマを予習。</p> <p>第6回 主要動詞の変化形を学ぶ。助動詞。人称代名詞。などの変化形を学ぶ。 予習・復習：動詞の変化のパターンを復習。助動詞の英語との類似点を復習。教科書に載っている動詞変化形を予習。</p> <p>第7回 ドイツの文化（食事についてなど）。定冠詞と不定冠詞。模擬試験的なドイツ語の読みの練習。 予習・復習：模擬試験の内容を復習して発音のパターン認識をしておく。動詞の変化の法則を復習。天候の部分の予習。</p> <p>第8回 天候の表現。前置詞について学ぶ。 予習・復習：発音一覧表でドイツ語発音を再度確認。また7回分のノートの内容を復習してから授業に出ること。</p>
授業の目的・到達目標	ABCから始めて、ドイツ語を読めるようにする事。また文法として初歩レベルを習得する。ドイツと言う国の文化・生活に関する知識も習得する。
実務経験に基づく知識の伝達	ドイツ語学習を高校からスタートし、大学時代にドイツ語学校（会話含む）ゲーテ・インスティテュート勉強後、ドイツのアーヘン工科大学に一年留学。帰国後、（株）本田技術研究所勤務。2002年より欧州研究所（ドイツ含む）に5年間勤務。その他、栃木日独協会の副会長として、ドイツとの交流を継続。以上の経験から、長年にわたるドイツ語の習得と、現地での実経験、欧州駐在の経験などから、ドイツ語だけでなく、現地の文化や習慣なども伝えることが可能。足利工業大学にて2013年より非常勤講師としてドイツ語を担当。
教育目標に対する科目の位置付け	ABCから始めて、ドイツ語を読めるようにする事。また文法として初歩レベルを習得する。ドイツという国の文化・生活に関する知識も習得する。
教科書	ゼロから始めるドイツ語BOOK、成美堂出版 山路朝彦著 1000円CD付 タビトモ会話 ドイツ JTBパブリッシング 1200円
参考書	辞書：アクセス独和辞典 第3版 [単行本] 在間進（著、編集）、三修社など ドイツ語電子辞書：XD-D7100 CASIOドイツ語モデルか、SEIKO SR-V5010ドイツ語モデル
評価基準及び成績評価方法	ノートレベルで30点、宿題、期末テストで70点：ドイツ語の発音がある程度できることと、英語と比較してドイツ語を理解しているかを評価。
達成度の伝達	ノート、宿題はチェックし、加筆修正後返却。期末試験はチェック、正解記入して採点后、別途返却。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業の中でドイツ語やドイツに対する興味を持って頂き、基礎ドイツ語習得を期待。特に発音の習得。
履修登録条件	

講義科目名称：韓国語入門

英文科目名称：Introduction to Korean

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
鄭志妍				
人間の理解と科学的思考科目群		外国語		

授業概要	韓国語を始めて学ぶ人を対象にして、ハングルの文字の仕組み、読み書き、発音方法を学習する。その上、簡単な挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学ぶ。韓国の文化にも触れながら身近な隣国、韓国について理解を深める。			
授業計画	第1回	韓国語の文字について/ 文字と発音 (1) 基本母音、子音 (平音) 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：文字を書き、発音を練習して覚える。		
	第2回	文字と発音 (2) 子音 (平音、激音) 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：文字を書き、発音を練習して覚える。		
	第3回	文字と発音 (3) 子音 (濃音)、複合母音 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：文字を書き、発音を練習して覚える。		
	第4回	文字と発音 (4) パッチム 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：仕組みを理解して発音を練習し、覚える。		
	第5回	発音の変化、日本語のハングル表記 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：単語を読んだり、書いたりして練習する。		
	第6回	基本挨拶、自己紹介 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：挨拶や自己紹介の言葉を覚える。		
	第7回	テスト 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：文を読んで練習し、覚える。		
	第8回	文化講座 予習：質問などを考え、メモしておく。 復習：ハングルの文字や発音について復習する。		
授業の目的・到達目標	身近な隣国、韓国の言葉や文化を学んで、韓国について理解を深める。その為、ハングルの文字構成を理解し、正しく読む、書く事を見につけて、簡単な挨拶や自己紹介などが出来ることを到達目標とする。			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、韓国語教育の実務経験を活かし、韓国語の基礎知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	特になし (プリント配布)			
参考書	なし			
評価基準及び成績評価方法	成績は試験の点数、宿題、小テストの点数を、それぞれ50 : 30 : 20の比重で配点し、総合評点が60点以上を合格点とする。			
達成度の伝達	小テストの返却、試験結果の公表により行う。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	韓国語は日本人にとっても学びやすい外国語です。レベルアップしたい人、韓国に少しでも興味ある人はぜひ来てください。			
履修登録条件				

講義科目名称：健康スポーツ I

英文科目名称：Health Sports I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
吉田弘法				
人間の理解と科学的思考科目群		健康・スポーツ		養護教諭一種免許状

授業概要	<p>健康的な日常生活を送るためには、運動、食事、休養（睡眠）のバランスを保つことが重要である。日本人の多くは、中・高年齢を向えてから運動、食事、休養（睡眠）の重要性を再認識することが多い。しかしながら、健康長寿の礎を築いている時期が20代前後であり、その過ごし方が影響を及ぼしていることも明らかになってきている。また、生活習慣病の予防だけでなく、健康で活力のある大学生を送るために運動やスポーツの効果について知識の修得とQOLの向上を図るために運動習慣を取り入れるための方法について学修する。</p> <p>基本的に授業はシラバスに沿い、各テーマについてスライド（Power Point）と配布資料をもとに解説する。第2～6週の授業内容を参考に日常生活で行うべき運動やスポーツについてレポートにまとめることと、全授業内容の理解度について筆記試験を実施する。</p>			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーションと生活習慣病の予防としての運動効果</p> <p>最初に授業ガイダンスを実施し、講義内容と成績評価に関する説明を行う。</p> <p>授業では生活習慣病の予防としての運動効果について説明する。主な内容は、わが国の現状（生活習慣病）と健康施策（健康日本21）、生活習慣病の予防として効果的な運動について学修する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：生活習慣病の予防として効果的な運動について復習を行う。</p> <p>予習：次回の講義内容となる体脂肪の役割について調べ学習を行う。</p>		
	第2回	<p>体脂肪の役割と肥満の予防や改善のための運動</p> <p>授業では、脂肪細胞がエネルギーの貯蓄だけでなく、肥満をはじめ生活習慣病に関わるホルモン等を分泌していることも含め、体脂肪の重要な役割について理解を深める。併せて標準的な身体組成と肥満や痩せの定義、肥満の原因、肥満の評価、安静時エネルギー代謝を高める方法、運動と肥満の関係、食事と運動と肥満の関係、メタボリックシンドロームとその予防について学修する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：安静時エネルギー代謝を高める方法、運動と肥満の関係、食事と運動と肥満の関係、メタボリックシンドロームとその予防について復習を行う。</p> <p>予習：次回の講義内容となる「筋力や筋量を増やし動きやすい体をつくるための運動」に必要な筋の構造と機能について調べ学習を行う。</p>		
	第3回	<p>筋力や筋量を増やし動きやすい体をつくるための運動</p> <p>授業では、筋の構造と機能、筋収縮のエネルギー供給、筋力や筋肥大・筋パワー別のレジスタンストレーニング方法、デイトレーニングに伴う可逆的効果について学修する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：今回の授業で学習したレジスタンストレーニングの効果とデイトレーニングの可逆的効果について復習を行う。</p> <p>予習：次回の講義内容となるスタミナ（全身持久力）と筋持久力の違いについて予め調べ学習を行う。</p>		
	第4回	<p>スタミナを向上させるトレーニング方法と生活習慣</p> <p>授業では、スタミナ（全身持久力）の指標となる最大酸素摂取量と繰り返し長時間筋力を発揮し続ける能力としての筋持久力の基礎知識を身につけ、これらを向上させるためのトレーニング方法について学修する。重要なポイントは、スタミナの有無に関与する身体的特性や効果的な運動とエネルギー供給機構、エネルギー代謝からみた持久力、全身持久力と筋持久力を向上させるトレーニング方法について学修する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：骨格筋の構造と機能、トレーニング効果を高める方法についてノートにまとめる。</p> <p>予習：次回の講義内容となる運動の効果を高めるために必要なウォーミングアップとクーリングダウンの目的について調べ学習を行う。</p>		
	第5回	<p>運動の効果を高めるために必要なウォーミングアップとクーリングダウン</p> <p>授業では運動の効果を高めるために行うウォーミングアップとクーリングダウンの目的や効果について説明する。その上でウォーミングアップやクーリングダウンに適した運動の種類、強度、時間について学修する。</p> <p>また、トレーニング効果を高めるために、食事や休養（睡眠）の関連性についても併せて説明する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：ウォーミングアップとクーリングダウンの効果と目的についてノートにまとめる。</p> <p>予習：次回の講義内容となる性別や加齢に伴う身体の変化とフレイルやサルコペニアについて予習を行う。</p>		
	第6回	<p>性別や加齢に伴う身体の変化と運動の効果</p> <p>授業では、性別による身体的な特徴とトレーニング効果の違いや加齢に伴う身体的な特徴（変化等）とトレーニング効果について説明する。特に加齢に伴う体力的な特徴と活動量の低下が引き起こす、フレイルやサルコペニアの発症を防ぐための運動と食事の役割について学習する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：加齢に伴う身体機能の変化や効果的な運動処方についてノートにまとめる。</p> <p>予習：次回の講義内容となる暑熱環境下や寒冷環境下での活動が身体に及ぼす影響について予習を行う。</p>		
	第7回	<p>環境とスポーツ活動</p> <p>授業では、暑熱環境下、寒冷環境下、高所環境下での身体への影響について精神生理学的に説明する。それらの知識を理解した上で各環境下で運動やスポーツを実施した際に生じるメリットやデメリットについて学修する。特に熱中症や凍傷、更に高山病等の危険を防ぐための知識と発症時の応急処置法について学習する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。その上で次週の課題を提示し、予め調べておく項目を提示する。</p> <p>復習：暑熱環境下・寒冷環境下・高所環境下での身体的な影響と運動を行う際の危険因子についてノートにまとめる。</p>		

第8回	<p>予習：次回の講義内容となるウォーミングアップとクーリングダウンの手段として用いられるストレッチングについて予習を行う。</p> <p>日常生活でのフィットネストレーニング」</p> <p>授業では、日常生活で行うフィットネストレーニングとして、肩凝りや腰痛の予防としての柔軟性向上トレーニングや筋力バランスの向上トレーニング等を説明する。器質的（病的）なケース以外の肩凝りや腰痛の原因について理解を深め、予防のために必要な日常生活の過ごし方や予防としての運動方法について学修する。</p> <p>授業終了時には講義内容で重要な項目を再度確認することと、ノートに漏れがないか確認する。</p> <p>復習：肩凝りや腰痛の予防法についてノートにまとめる。</p> <p>全講義内容の再確認を行い、筆記試験に備える。</p> <p>理解度の確認として筆記試験を実施。</p> <p>筆記試験の回答時間は60分間。</p>
授業の目的・到達目標	<p>授業では、健康で活力のある大学生を送るために、運動やスポーツの身体への効果と日常生活に取り入れる方法について学修することを目的としている。主な授業内容は、生活習慣病の予防としての運動効果、体脂肪の役割と肥満の予防や改善のための運動、筋力や筋量を増やし動きやすい体をつくるための運動、スタミナを向上させるトレーニング方法と生活習慣、運動の効果をも高めるために必要なウォーミングアップとクーリングダウン、加齢に伴う身体への影響とトレーニング効果、環境とスポーツ活動、日常生活でのフィットネストレーニング等のテーマについて解説し、それらの基礎知識の修得と各自が生活習慣として適切な運動を取り入れるプランを作成できることを目標としている。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当者は学生を対象に実施している体力づくり相談室で「運動不足に伴う減量や筋力向上を目的」、「生活習慣病予備群（肥満、血圧高値、腰痛、肩凝り等）」として相談に訪れた学生に対する運動プログラムと改善例、社会人アスリートや病院職員の腰痛予防や改善指導、健康増進施設等で依頼された糖尿病予防教室、高齢者の歩行能力を改善させるヘルシーウォーキング教室などの体験談も授業内容に加え、興味を持たせる。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>学修・教育目標に対する科目の位置づけ</p> <p>健康スポーツⅠは健康と身体活動の基礎的知識を修得することにより、個人や社会の健康増進に向けた働きかけができる人材の育成を目指している。人間の理解と科学的思考科目群の教養科目であり、その教育目標は「人間を総合的に捉え、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」に配置されている。</p> <p>予習と復習により授業内容の理解を深める資料として講義ノートの作成を積極的に奨めるとともに、課題レポートの作成課題レポートの作成では、学修内容を参考に健康生活の獲得を目指すタイプ別の運動プログラムの作成を行うことで、自己の健康管理や他者へのサポート方法についても可能になる。</p> <p>授業時間：720分=90分×8回、予習復習の時間：720分=90分×8回</p>
教科書	<p>指定教科書は無し。授業内容に合わせて補足資料の配布を行う。</p>
参考書	<p>授業の進捗状況に応じて、適宜紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>総合評価は、小テスト（20%）、レポート（20%）、筆記試験（60%）の合計点で評価する。</p> <p>小テストは第2-3回、第4-5回の授業内容に関する練習問題を第3回、第5回に実施し、各10点満点で計20点の評価を行う。また、レポートによる評価は、第2-5回の授業内容を参考に各自のフィットネスプログラムについてレポートにまとめる。第6週に提出日を設け、レポート内容を20点満点として提出日に提出できない場合には、1日ごとに1点減点を行い、最終週までに提出できない場合には、0点の評価とする。筆記試験は60点満点で評価を行い、第1-8回の授業内容から出題し、四肢択一問題形式で30問の回答により評価を行う。</p>
達成度の伝達	<p>◎達成度の伝達</p> <p>小テスト、レポートおよび筆記試験の採点後に返却することで行われる。筆記試験に関しては、正解答も併せて配布する。また、質問事項がある場合には、質問票を配布して記載させ、質問に対する回答を授業時間内または翌週に説明する。</p> <p>◎達成度評価</p> <p>教育目標である「人間の理解と科学的思考科目群」（人間を総合的に捉え、高い倫理観を持ち、調和のとれた人間形成をめざした教養教育）として、自己の健康管理が可能な人材育成の基礎を修得する。</p>
資格情報	<p>看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格の受験資格および養護教諭一種免許状の取得には健康スポーツⅠ・Ⅱの単位修得が必要。</p>
メッセージ・オフィスアワー	<p>授業内容の質問に関しては、授業中に申し出るか、電子メールで問い合わせを受付ける。</p> <p>（電子メールアドレスは yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jp です）</p> <p>その他は、学業期間中の毎週金曜日の放課後に本城校舎本館 1Fフィットネスルームで受付ける。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅡ

英文科目名称：Health Sports2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
吉田弘法				
人間の理解と科学的思考科目群		健康・スポーツ		養護教諭一種免許状

授業概要	この授業は、健康の維持・増進を目的としたスポーツ・運動を通して各自が体力要素レベルの確認を行い、健康管理のための運動やスポーツについて実習を通して理解を深める。授業内容は、個々の身体状況を簡易的に推定できる安静時血圧と心拍数、身体組成、パフォーマンステスト等の測定により、その評価から健康体力に関する自己分析をレポートにまとめる。各回の実習は、前半に準備運動と体カトレーニングを実施し、その後スポーツ実習（ドッジボール、ソフトバレーボール、バドミントン、アルティメット等）を行う。実習については実習日誌を配布し、観察力と行動力や協調性を養うために実施内容と取り組み方を記録する。第3-12回に予定されている実習種目について実技試験を行う。			
授業計画	第1回	オリエンテーション フィットネストレーニングとは？ 実習日誌の配布。授業概要と成績評価等の説明。 フィットネストレーニングの基礎知識（運動不足、トレーニング効果、デイトレーニングなど）について学習する。 復習：健康と運動の関連性についてレポートにまとめる。 予習：大学生の標準的な身体組成について調べ学習を行う。		
	第2回	フィットネストレーニング基礎（身体計測） 身体計測により自己の体力の確認 安静時血圧と心拍数、身体組成（身長、体重、BMI、体脂肪率、骨格筋率等）、柔軟性評価（長座体前屈等）、筋力および筋持久力評価（握力、脚筋力、腕立て伏せ、上体起こし：30秒間シットアップ等）を実施する。 復習：測定結果は標準値と比較して自己分析を行う。 予習：ウォーミングアップの目的と効果について、前期の健康スポーツⅠでまとめたノートを参照して確認する。		
	第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンを理解する ウォーミングアップとクーリングダウンの運動種目と強度を体験する。ストレッチングは、配布資料を参照してからだのどの部位が伸ばされているのかを確認する。有酸素運動による体温レベルを高めた後に、グループ別にボールを使ったレクリエーションゲームとドッジボールに使用するボールのスローとキャッチ練習を行う。 復習：ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性を認識することと、ストレッチングの方法について再確認を行う。実習内容を日誌に記載する。 予習：ドッジボールのゲーム方法について調べ学習を行い、イメージを深める。		
	第4回	スポーツ実習（ドッジボール） ウォーミングアップ（ストレッチングと縄跳び）の実施。 ドッジボールのゲーム方法の解説とチーム分けを行い、スローとキャッチ練習に移る。 ドッジボールの試合形式を体験する。最後にクールダウンとしてジョギングとストレッチングを実施。 復習：ドッジボールのゲーム方法の確認とスローとキャッチ動作の確認する。実習内容を日誌に記載する。 予習：ドッジボールの内外野の選定やゲームプラン等の戦術について調べ学習を行う。		
	第5回	スポーツ実習（ドッジボール） 最初にウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングを実施。次にドッジボールのスローインとキャッチング、試合形式を体験する。最後にクールダウンとしてのストレッチングを実施。 復習：ボールの軌道を確認し、捕球動作に入るのか避けるのかの判断力を身につける。また、どの投げ方が自分に合った投げ方が確認する。 予習：ソフトバレーボール（9人制）の試合のルールを確認し、日誌に記入する。		
	第6回	スポーツ実習（ソフトバレーボール） ウォーミングアップとしてストレッチングと縄跳び、更にドッジボールのスローとキャッチングを実施。 各チームでミーティングを行った後にゲームを行う。各チームは3ゲームを行い、戦術についてゲーム間のミーティングで行いコミュニケーションを深める。 授業の最後にクールダウンとしてジョギングとストレッチングを実施。 復習：ボールの軌道を瞬時に判断して捕球動作に入るべきか、危険回避として避けるのかの反射能力を高める。どの投げ方が自分に合った投げ方が再確認する。実習内容を日誌に記載する。 予習：ソフトバレーボール（9人制）の試合ルールについて調べ学習を行う。		
	第7回	スポーツ実習（ソフトバレーボール） ウォーミングアップとしてストレッチングとウォーキング&ジョギングを実施。 2名1組になってミラートレーニングを実施（ゆっくりした動きから徐々に速い動作に変えて行う） ソフトバレーボールの基本動作である2名1組でトスとレシーブ動作、さらにサーブ動作の練習を行う。 グループで円を作り、トス&レシーブ動作のみで連続回数を競う。次にゲーム形式を体験する。9人制でのポジショニング、ローテーション（交替要員を含む）、役割分担等について確認する。 最後に5分間のクーリングダウンを行う。 復習：トスやレシーブの動作のイメージトレーニングとゲーム方法についてを確認とする。実習内容を日誌に記載する。 予習：ソフトバレーボールの基本動作とゲーム形式で上手く出来なかったポイントについて参考になる資料を調べる。		
	第8回	スポーツ実習（ソフトバレーボール） ウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングを実施。 ソフトバレーボールの基本動作である2名1組でトスとレシーブ動作、さらにサーブ動作の練習を行う。 ソフトバレーボール（9人制）のゲームを行う。各チームでゲーム間のミーティングを行い、ポジショニングや役割分担についてミーティングを行う。 後半5分間のクーリングダウンを行う。 復習：チーム内でのゲーム戦略やサーブ、トス、レシーブ等の基本的技術について再確認する。実習内容を日誌に記載する。 予習：ソフトバレーボールで上手に出来なかったポイントについてPCやスマートフォンを利用して動画での動作イメージを学習する。		
	第9回	スポーツ実習（バドミントン） ウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングを実施。		

<p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>	<p>バドミントンのラケットの扱い方や打ち方の基本動作を2名1組で実施。 バドミントン（ダブルス）のルールを確認し、試合形式で審判、記録者等の役割分担と実施方法を確認する。 最後に5分間のクーリングダウンを行う。 復習：バドミントンでの打ち方の種類（サーブ、ヘアピン、ドライブ、ハイクリア、スマッシュ等）を理解し、イメージトレーニングを行う。 予習：バドミントン（ダブルス）での試合方法について再確認を行う。</p> <p>スポーツ実習（バドミントン） ウォーミングアップとしてストレッチング、様々なステップ動作を実施。 バドミントンの基本動作を2名1組で実施。 バドミントン（ダブルス）の試合（コート毎に対戦者、審判、記録者の役割分担を決める）を実施。 最後に5分間のクーリングダウンを行う。 復習：バドミントンの基礎技術の確認と戦術での反省点を確認し、修正を図る。 予習：バドミントン（ダブルス）での試合での戦術について調べ学習を行う。</p> <p>スポーツ実習（バドミントン） ウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングを実施。 バドミントンの基本動作を2名1組で実施する。 バドミントン（ダブルス）の試合（コート毎に対戦者、審判、記録者の役割分担を決める）を実施。 最後に5分間のクーリングダウンを行う。 復習：バドミントンの基礎技術の確認と戦術での反省点を確認し、良かった点や修正が必要な点をまとめる。 予習：バドミントンのサーブ（ショート&ロング）の基本的な技術を修得する方法について調べ学習を行う。</p> <p>スポーツ実習（バドミントン） ウォーミングアップとしてストレッチングおよび体幹トレーニングと縄跳びを実施。 バドミントンの実技試験（指定された打ち方について確認と評価を行う） 後半5分間のクーリングダウンを行う。 復習：バドミントンの打ち方について再確認を行う。 予習：アルティメットのゲームとフライングディスクの投球と捕球動作について調べ学習を行う。</p> <p>スポーツ実習（アルティメット） ウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングを実施。 3分間縄跳びテスト①。 フライングディスクの投球と捕球動作について練習を行う。 アルティメットのゲームについて説明し、チーム分けとミニゲームを行う。 後半5分間のクーリングダウンを行う。 復習：フライングディスクの投球や捕球動作の確認とアルティメットのゲームについての理解を深める。 予習：アルティメットのゲームで有効な戦術について調べ学習を行う。</p> <p>スポーツ実習（アルティメット） ウォーミングアップとして縄跳びとストレッチングと体幹トレーニングを実施。 3分間縄跳びテスト②。 フライングディスクの投球と捕球練習を行う。 アルティメットの試合を楽しむ。 後半5分間のクーリングダウンを行う。 復習：アルティメットの試合で良かった点や修正が必要な点をまとめる。 予習：腰痛や肩凝りの原因について調べ学習を行う。</p> <p>第15回 総説 実習日誌の提出 コンディションを整えるための日常生活の取り組み方について説明する。 主な内容は休養の取り方（夜間睡眠と昼寝の効用）や腰痛および肩凝りの原因と予防方法について説明する。 また、自己の体力要素の理解と必要な運動についてプログラムし、レポートにまとめる。</p>
<p>授業の目的・到達目標</p>	<p>健康スポーツⅡの目的は、スポーツ・運動を通じて健康で活力のある生活を送るための基礎体力を養うことである。 スポーツ実習での到達目標は、健康体力の自己管理ができることであり、授業で行う身体測定（安静時血圧や心拍数、身体組成と体力の測定等の結果を自己分析し、評価と今後の生活に活かす事である。またグループで行うスポーツや運動の実施は、協調性や積極性、他者を思いやる心を養い、ルールやマナーを遵守することでコミュニケーション能力の獲得につながる。また実習内容や他者の動作についての観察力と自己動作の工夫や対応した結果などを実習日誌にまとめることは、活動内容のフィードバックにつながり、目標とする動作の獲得につながる。</p>
<p>実務経験に基づく知識の伝達</p>	<p>子供から高齢者まで、各年齢層でフィジカルトレーニング指導を行った経験を活かすことと、健康増進施設や医療施設従事者を対象に開催した腰痛予防教室等の内容も含め、身体を動かす楽しさについて紹介したい。</p>
<p>教育目標に対する科目の位置付け</p>	<p>学修・教育目標に対する科目の位置づけ 健康スポーツⅡは自己の健康管理と体力の維持・増進を図るために個人およびグループでの活動方法を修得することにより、個人の健康管理だけでなく社会の健康増進に向けた働きかけができる人材の育成を目指している。また、授業中にスポーツ動作の獲得を目指すために観察力、行動力、他者による動作確認と修正作業が必要となるため、コミュニケーションや自己発見の機会が増えていく。 教育目標①【人間を総合的に捉え、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる】 予習復習は授業内容の理解と動作等のフィードバックのために実習日誌の作成を積極的に奨めている。また課題レポートの作成では、各人の身体測定結果の分析と将来の健康生活を構築するための運動習慣についてまとめることで、自己の健康管理について再考する時間を設ける。 授業時間：1350分＝90分×15回、予習復習の時間：675分＝45分×15回</p>
<p>教科書</p>	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>必要に応じて参考図書等を紹介する。</p>
<p>評価基準及び成績評価方法</p>	<p>成績は、①実習への取り組み方（礼儀、積極性、協調性等、主体性等の受講状況）についての評価、②課題レポートと実習日誌の確認と評価（実習内容をフィードバックすることで動きや戦術に対する自己分析と評価を行い、実習に対する工夫等や理解度を確認）、③技能評価として実技テストによる評価を行う。①実習への取り組み方を50% ②課題レポートと実習日誌の確認と評価を30%、③実技テストの評価を20%として各項目の配分を設定した。合計100%で評価を行い、60%以上の評価を合格とする。</p>
<p>達成度の伝達</p>	<p>◎達成度の伝達 毎回の実習内容後に記録する実習日誌（前半と後半の2回提出と返却）と課題レポートの提出により理解度を確認する。また、スポーツ実習では、競技実施者、審判、記録係等の役割分担にどの様に従事したかや実技テストにより確認する。質問事項がある場合には、質問票を配布して記載させ、質問に対する回答を授業時間内または翌週に説明する。 ◎達成度評価</p>

	教育目標である「人間の理解と科学的思考科目群」【人間を総合的に捉え、高い倫理観を持ち、調和のとれた人間形成をめざした教養教育】として、運動習慣を持ち自己の健康管理ができる人材を育成する。
資格情報	看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格および養護教諭一種免許状の取得には、健康スポーツ I・II の単位修得が必要。
メッセージ・オフィスアワー	授業内容の質問に関しては、授業中に申し出るか、電子メールで問い合わせを受け付ける。 (電子メールアドレスは yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jp です) その他は、学業期間中の毎週金曜日の放課後に本城校舎本館 1F フィットネスルームで受け付ける。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎ゼミナール I

英文科目名称：Basic seminar I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、尾島喜代美、杉本厚子、中村史江、村上弘之、荻原弘幸、川久保和子、小谷千晴、齊藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、石井みゆき、横山文子				
人間の理解と科学的思考科目群		基礎ゼミナール		

授業概要	初年次の導入教育として、大学の環境に慣れ、ゼミナールの仲間、教員とのコミュニケーションをとりながら、スタディ・スキルを身につけていく。また、入学時から卒業後の職業を意識して、大学で学ぶということ、職業とは何か、働くことの意味、職業とキャリア形成について段階的に理解していく。さらに、専門職としての倫理観を養うために、看護・医療を取り巻く倫理的課題について探求的に学ぶ。少人数制ゼミナール形式を基本とする。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 科目ガイダンス： ・入学時に配布された基礎ゼミ担当教員の研究室を訪問する。 ・自己紹介 ・リフレクションカードについて ・学生便覧、Student の活用 ・履修相談</p> <p>第2回 大学で学ぶということ（1） ・大学の授業・ノートのとり方 ・大学で学ぶ力（調べる・ノートをとる・読む・要約する・意見をきく・主張する・書く） ・大学生活に慣れる。 ・ゼミナールの仲間と協力して学習を進める。 ・主体的に学ぶ。</p> <p>第3回 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 専門職としての看護“ナイチンゲールが教えてくれたこと” ビデオ学習・調べ学習</p> <p>第4回 大学で学ぶということ（2）先輩の話を聞いてみよう 上級学年生との対話を通し大学生生活への理解を深める。</p> <p>第5回 スタディ・スキルを身につける（1） 司書さんが教えてくれる、図書館検索の仕方と利用方法（知のツールボックス2章） 学内ネットワークの使い方を学ぶ（知のツールボックス7章）</p> <p>第6回 スタディ・スキルを身につける（2） 司書さんが教えてくれる、図書館検索の仕方と利用方法（知のツールボックス2章） 学内ネットワークの使い方を学ぶ（知のツールボックス7章）</p> <p>第7回 学修目標達成のためのゼミナール活動（1） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第8回 学修目標達成のためのゼミナール活動（2） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第9回 学修目標達成のためのゼミナール活動（3） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第10回 学修目標達成のためのゼミナール活動（4） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第11回 学修目標達成のためのゼミナール活動（5） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第12回 学修目標達成のためのゼミナール活動（6） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第13回 学修目標達成のためのゼミナール活動（7） 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第14回 前期を振り返り、後期の課題を明確にする ・前期の基礎ゼミナール I および大学生生活を振り返り、後期の課題を明確にする。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第15回 オリエンテーション 後期へ向けての学修準備 ・学修の振り返り、後期の学修に向けてのオリエンテーション。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 ◆アクティブラーニング◆ グループワーク6回、ゼミナール9回</p>
授業の目的・到達目標	<p>充実した大学生生活を送るために、スタディ・スキル、ソーシャル・スキルを身につけ、キャリア形成のための基本的能力を養う。</p> <p>①大学での知的活動のためのスタディ・スキルを実践できる。 ②友人や教員との円滑なコミュニケーションのためにソーシャル・スキルを実践できる。 ③看護の専門性について説明できる。 ④キャリア形成のための学修計画を立てることができる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	医療・看護の実務経験を有する教員が少人数を担当しゼミナール形式での指導にあたる。

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探求心をもって、継続的に学修できる。」から配置された人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材」「自己の成長を目指し、意欲をもって積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材」につながる。さらには、看護学士課程教育の質保証のための基盤となることを期待する。
教科書	知のツールボックス フレッシュマンおたすけ集、専修大学出版企画委員会編 その他はオリエンテーションで伝える。
参考書	各ゼミナール担当教員より都度紹介される。
評価基準及び成績評価方法	学習達成度を評価表をもとに評価する。
達成度の伝達	リフレクションチャトルカードに都度担当教員より添え書きされる。
資格情報	基礎ゼミナールⅠは、大学に通い始めて生じてくる戸惑いへの対処や、これまでの生活との違いにスムーズに適応していただくための支援的な関わりをします。ゼミナールとは、大学で行われる授業の方法のひとつで、学生の皆さんが主体的に学ぶことが期待されます。その方法はゼミ担当の教員により異なりますが、目標は同じで専門職としてのキャリア形成の礎を作ることを目指します。
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：基礎ゼミナールⅡ

英文科目名称：Basic seminar2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、豊島幸子、沼田加代、尾島喜代美、杉本厚子、中村史江、村上弘之、荻原弘幸、川久保和子、小谷千晴、斉藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、石井みゆき、横山文子				
人間の理解と科学的思考科目群		基礎ゼミナール		

授業概要	初年次の導入教育として、大学の環境に慣れ、ゼミナールの仲間、教員とのコミュニケーションをとりながら、スタディ・スキルを身につけていく。また、入学時から卒業後の職業を意識して、大学で学ぶということ、職業とは何か、働くことの意味、職業とキャリア形成について段階的に理解していく。さらに、専門職としての倫理観を養うために、看護・医療を取り巻く倫理的課題について探求的に学ぶ。少人数制ゼミナール形式を基本とする。
授業計画	<p>第1回 フィールドワーク(1) 詳細はオリエンテーションで伝える</p> <p>第2回 フィールドワーク(2) 詳細はオリエンテーションで伝える</p> <p>第3回 フィールドワーク(3) 詳細はオリエンテーションで伝える</p> <p>第4回 フィールドワーク(4) 詳細はオリエンテーションで伝える</p> <p>第5回 スタディ・スキル(1)【フィールドワーク振り返り・発表会準備】 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第6回 スタディ・スキル(2)【フィールドワーク振り返り・発表会準備】 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第7回 スタディ・スキル(3)【発表会】 掲示閲覧形式での発表会を実施する。 質疑応答は自由に行い質問や感想を得ることにより更なる追究の示唆を得ることを目指す。</p> <p>第8回 【発表会での学びの振り返り】 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第9回 キャリアプラン(1)スタディスキルとソーシャルスキルの実践 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第10回 キャリアプラン(2)スタディスキルとソーシャルスキルの実践 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第11回 キャリアプラン(3)スタディスキルとソーシャルスキルの実践 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第12回 キャリアプラン(4)スタディスキルとソーシャルスキルの実践 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。</p> <p>第13回 4年次生：看護研究発表会参加 高学年の学修活動にふれ、学修プランを考える契機とする。</p> <p>第14回 【キャリア講座】 キャリア講座に参加し、今後の学習、および将来のキャリアに関し目標をもつ。</p> <p>第15回 まとめ 後期および一年の学びを振り返り、次年度以降の学修計画について考える。 進行状況や学び方は、各ゼミナールの進め方による。 ◆アクティブラーニング◆ フィールドワーク4回、グループワーク2回、ゼミナール9回</p>
授業の目的・到達目標	<p>充実した大学生活を送るために、スタディ・スキル、ソーシャル・スキルを身につけ、キャリア形成のための基本的能力を養う。</p> <p>①大学での知的活動のためのスタディ・スキルを実践できる。</p> <p>②友人や教員との円滑なコミュニケーションのためにソーシャル・スキルを実践できる。</p> <p>③看護職に必要な職業倫理を説明できる。</p> <p>④キャリア形成のための基盤となる自らの考えを説明できる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	看護職者としての実務経験を有する教員が、その経験を活かしてゼミナール形式で学習をすすめる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探求心をもって、継続的に学習できる。」から配置された人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材」「事故の成長を目指し、意欲をもって積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材」につながる。さらには、看護学士課程教育の質保証のための基盤となることを期待する。
教科書	知のツールボックス フレッシュマンおたすけ集、専修大学出版企画委員会編
参考書	ゼミナール担当教員より紹介される
評価基準及び成績評価方法	オリエンテーションにて示す

達成度の伝達	リフレクションカードに都度、担当教員がコメントする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	基礎ゼミナールⅡでは「伝える・共有する・深める」ことが求められます。1年間の学びを活かし、自己のキャリアデザインを描きながら、現在の自分の考えを明確にします。
履修登録条件	

講義科目名称：医療概論

英文科目名称：Introduction to Medical Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
山門 實				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医の原点および医療の概念から医療人の心構えを学ぶ。さらに本授業では、医療をめぐる今日的課題である脳死、臓器移植やインフォームドコンセントなどについて理解を深め視野を広げるとともに、それらの課題に関わる内容について討議し、対策と課題解決に向けた能力を養う。			
授業計画	第1回	医療概論入門 ●予習：1. 大学で何をどのように学習するか。2. 医療概論で何を学ぶか。3. 医療と医学について。3. サイエンスとアート。4. 医道。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第2回	人間の生命について ●予習：1. 生命とは。2. 医の倫理、生命の倫理。3. 健康と病気。4. QOL。5. 医療者と患者関係。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第3回	医学・医療の歴史 ●予習：1. 医療の起源。2. 古代、中世、近代の医学。3. 20世紀の医学。4. 先端医療。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第4回	病気の原因 ●予習：1. 病理学。2. 病気の原因。1) 内因、2) 外因、3) 原因不明の病気。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第5回	病気による身体変化 ●予習：1. 病理学的変化。2. 病気と生体反応（ホメオスターシス）。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第6回	病気の診断、治療 ●予習：1. 診断の方法。2. 診察。3. 臨床検査。4. 治療法。5. インフォームドコンセント。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第7回	病気の発症予防、重症化予防 ●予習：1. わが国の医療法。2. 医療システム。3. わが国の医療の問題点（専門医制度）。これらの講義内容について予習する。●復習：講義内容について、レポートとしてまとめる。		
	第8回	まとめ（グループワーク）：アクティブラーニングとして実施 ●予習：これまでの講義について復習する。 ●少人数グループで、本講義から将来の看護職となるうえで参考となった内容について討議・発表する。		
授業の目的・到達目標	授業の目的は、医療としての看護について、ことに科学的根拠に基づいた看護実践能力、すなわち、目の患者がどのような看護を必要としているかを自ら把握し、実践する能力を身につけるための基本となる医学について、その基礎的概論を学修する。到達目標は、医学の本質を十分に理解した上で、医療において重要な役割を果たす看護の意義について、その目的、方法を学修する態度について、プロフェッショナルオートノミー（専門職の自律性）から身につける。			
実務経験に基づく知識の伝達	約40年間の内科臨床医としての経験を基に、現在の医療における問題点を基盤とし、今後の看護職としてのあるべき姿について学修する機会とする。ことに疾病を罹患することにより個々の患者の人生が変革し、その新たな人生を生きていく個々の患者に対応できるための知識を習得する。いわゆる「物語に基づく看護」の修得の1段階とする。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。ディプロマポリシーの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職として高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。			
教科書	医学書院 「系統看護学講座」別巻 日野原重明「医学概論」 2018年 第1版第19刷			
参考書	南江堂 「医学概論」中島 泉著 2015年			
評価基準及び成績評価方法	学修状況については、定期試験で評価し、合格基準は60点以上とする。なお、60点未満の学生については、授業に復習として提出されたレポートを評価をし、その総合評価の結果を、最大20点として、定期試験の結果に加算する。			
達成度の伝達	授業に復習として提出されたレポート（4回の予定）については、次回の授業において採点結果（S, A, B, C, D評価）を通達する。また、達成度の評価である定期試験の結果については、定められた方法で通達する。			
資格情報	看護師、保健師、養護教諭1種、ME2種			
メッセージ・オフィスアワー	本授業では、まず、大学での学習法を身につけることが大切です。ことに医療概論については看護の基礎となることから、その知識の習得とともに、プロフェッショナルオートノミー（専門職の自律性）から、生涯教育の態度を身につけることも大切です。オフィスアワーは、5コマあるいは5コマ終了後の1時間をあてます。			
履修登録条件				

講義科目名称： 人体の構造と機能 I

英文科目名称： Structure and function of human body I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	必修	演習
担当教員				
岩崎広英				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		養護教諭一種免許状

授業概要	<p>人体の構造と機能として解剖学と生理学を極力融合させ、人体各部分の形態と構造、そしてその働き(機能)を統合した学問として、看護専門職に必要な十分な、臨床に必要な基礎知識の修得と思考力を養う。病気によるからだの変化も、病気の治療や予防も、すべて、正常なからだの構造、形態や機能についての知識が基礎になる。人体の構造と機能Iでは、人体の構造と機能総論、消化器系、呼吸器系、血液系、循環器系、体液の調節と尿の生成に関する人体の構造と機能について学習する。</p>			
授業計画	第1～2回	<p>科目ガイダンス 人体の構造と機能を学ぶために 1. 人体の構造と機能についてなにを学ぶか 2. 看護専門職として人体の構造と機能を学ぶ意義、解剖学と生理学の歴史と現在</p>		
	第3～4回	<p>人体の構造と機能総論 1 第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1. 人体とはどのようなものか 2. 人体の素材としての細胞・組織</p>		
	第5～6回	<p>人体の構造と機能総論 2 第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識 3. 構造と機能からみた人体</p>		
	第7～8回	<p>消化器系 1 第2章 栄養の消化と吸収 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能</p>		
	第9～10回	<p>消化器系 2 第2章 栄養の消化と吸収 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4. 腹膜</p>		
	第11～12回	<p>呼吸器系 1 第3章 呼吸と血液のはたらき 1. 呼吸器の構造</p>		
	第13～14回	<p>呼吸器系 2 第3章 呼吸と血液のはたらき 2. 呼吸 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸気量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節 7) 呼吸器系の病態生理</p>		
	第15～16回	<p>血液系 1 第3章 呼吸と血液のはたらき 3. 血液 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板</p>		
	第17～18回	<p>血液系 2 第3章 呼吸と血液のはたらき 3. 血液 5) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 6) 血液の凝固と線維素溶解 7) 血液型</p>		
	第19～20回	<p>循環器系 1 第4章 血液の循環とその調節 1. 循環器系の構成 2. 心臓の構造</p>		
	第21～22回	<p>循環器系 2 第4章 血液の循環とその調節 3. 心臓の拍出機能 4. 末梢循環系の構造</p>		
	第23～24回	<p>循環器系 3 第4章 血液の循環とその調節 5. 血液の循環の調節 6. リンパとリンパ管</p>		
	第25～26回	<p>体液の調節と尿の生成 1 第5章 体液の調節と尿の生成 1. 腎臓</p>		
	第27～28回	<p>体液の調節と尿の生成 2</p>		

	<p>第5章 体液の調節と尿の生成 2. 排尿路 3. 体液の調節</p> <p>第29～30回 まとめ 人体の構造と機能 I のまとめ：模擬試験</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習復習 4 5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>医学・看護学の基礎として人体の構造と機能を学び、看護専門職に必要な基礎知識の修得と思考力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能総論を学ぶことによって、人体の正常構造やその機能を理解し説明できるようになる。 ・消化器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・呼吸器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・血液系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・循環器系の構造と機能を理解し説明できるようになる。 ・体液の調節と尿の生成に関する人体の構造と機能について理解し説明できるようになる。
実務経験に基づく知識の伝達	岩崎は、医学系大学の15年間の解剖学と生理学の教育経験から、看護学生に必要な解剖・生理学の知識を伝達可能である。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した専門基礎科目群の科目である。ディプロマポリシーの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 坂井建雄、岡田隆夫著、第10版、2018年1月、医学書院
参考書	DVD：基礎からのナビゲーションシリーズ 人体の構造と機能 1. 心臓と血液、2. 腎臓と尿、3. 消化器系と肝臓、4. 呼吸器系
評価基準及び成績評価方法	定期試験での評価を中心とする（80％）。その他、講義の理解度の評価におこなう小テスト、出席状況で評価する（20％）。
達成度の伝達	講義の理解度の評価に行う小テストは、その結果を学生に返却する。
資格情報	看護師、保健師、養護教諭1種、ME2種
メッセージ・オフィスアワー	予習と復習は、教科書の各章の最後にあるゼミナール：復習と課題で各自必ず行うこと。質問がある場合は授業終了後に受け付けるので積極的に質問すること。
履修登録条件	

講義科目名称： 人体の構造と機能Ⅱ

英文科目名称： Structure and function of human body 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
依藤宏				
専門基礎科目群	健康と疾病の理解			養護教諭一種免許状

授業概要	<p>人体を構成する器官・構造を系統別に分類し、その各々について構造面－解剖学と機能面－生理学を統合した形で学習し、将来看護師として必要な知識の獲得と思考力の涵養を目指す。なお「人体の構造と機能Ⅱ」では内臓機能の調節（自律神経系、内分泌系）、身体の支持と運動（骨格系、筋系）情報の受容と処理（神経系）、身体機能の防御と適応（免疫系他）、生殖・発生と老化のしくみ（生殖器系他）について学ぶ。</p>			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 内臓機能の調節1 自律神経による調節、内分泌系による調節 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第6章 内臓機能の調節 1. 自律神経による調節 2. 内分泌系による調節</p>		
	第2回	<p>内臓機能の調節2 全身の内分泌と内分泌細胞 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第6章 内臓機能の調節 3. 全身の内分泌と内分泌細胞</p>		
	第3回	<p>内臓機能の調節3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第6章 内臓機能の調節 4. ホルモン分泌の調節 5. ホルモンによる調節の実際</p>		
	第4回	<p>身体の支持と運動1 骨格とはどのようなものか、骨の連結、骨格筋 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第7章 身体の支持と運動 1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 骨格筋</p>		
	第5回	<p>身体の支持と運動2 体幹の骨格と筋 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第7章 身体の支持と運動 4. 体幹の骨格と筋</p>		
	第6回	<p>身体の支持と運動3 上肢・下肢の骨格と筋 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第7章 身体の支持と運動 5. 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋</p>		
	第7回	<p>身体の支持と運動4 頭頸部の骨格と筋、筋の収縮 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第7章 身体の支持と運動 7. 頭頸部の骨格と筋 8. 筋の収縮</p>		
	第8回	<p>情報の受容と処理1 神経系の構造と機能、脊髄と脳 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第8章 情報の受容と処理 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳</p>		
	第9回	<p>情報の受容と処理2 脊髄神経と脳神経 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第8章 情報の受容と処理 3. 脊髄神経と脳神経</p>		
	第10回	<p>情報の受容と処理3 脳の高次機能、運動機能と下行伝導路 ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 第8章 情報の受容と処理 4. 脳の高次機能 5. 運動機能と下行伝導路</p>		
	第10回	<p>情報の受容と処理4 感覚機能と上行伝導路、眼の構造と視覚</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第8章 情報の受容と処理</p> <p>6. 感覚機能と上行伝導路</p> <p>7. 眼の構造と視覚</p> <p>第11回 情報の受容と処理5 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、疼痛（痛み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第8章 情報の受容と処理</p> <p>8. 耳の構造と聴覚・平衡覚</p> <p>9. 味覚と嗅覚</p> <p>10. 疼痛（痛み）</p> <p>第12回 外部環境からの防御1 皮膚の構造と機能、生体防御機構</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第9章 外部環境からの防御</p> <p>1. 皮膚の構造と機能</p> <p>2. 生体防御機構（非特異的防御機構）</p> <p>第13回 外部環境からの防御2 生体防御機構、体温とその調節</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第9章 外部環境からの防御</p> <p>2. 生体防御機構（特異的防御機構、生体防御の関連臓器）</p> <p>3. 体温調節</p> <p>第14回 生殖・発生と老化の仕組み1 男性生殖器、女性生殖器</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第10章 生殖・発生と老化の仕組み</p> <p>1. 男性生殖器</p> <p>2. 女性生殖器</p> <p>第15回 生殖・発生と老化の仕組み2 受精と胎児の発生、成長と老化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●予習：講義内容について該当部分を読んでおくこと。 ●復習：講義内容について大事な部分や用語などをその都度学習すること。 <p>第10章 生殖・発生と老化の仕組み</p> <p>3. 受精と胎児の発生</p> <p>4. 成長と老化</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p> <p>講義 7回</p> <p>グループワークにおけるディスカッションと講義 7回</p> <p>プレゼンテーションと講義 1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆</p> <p>45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>医学・看護学の基礎として人体の構造と機能を学び、看護専門職に必要な基礎知識の修得と思考力の養成を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能を学ぶことによって、統合体としての人体の正常機能を理解する。 ・内臓機能の調節に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・からだの支持と運動に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・情報の受容と処理に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・外部環境からの防衛に関与する諸器官の構造と機能を説明できる。 ・生殖・発生と老化の仕組みに関与する諸器官の構造と機能を説明できる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 I 坂井建雄他著 医学書院</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>講義ごと的小テスト20%、筆記試験80%</p> <p>定期試験での筆記試験を評価の基本とするが、授業の単元ごと的小テストの結果も加算する。</p>
達成度の伝達	<p>小テストの答案の返却による。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>予習と復習を各自必ず行うこと。</p> <p>ことに復習では、各章の末尾にある「ゼミナール」で復習する。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：栄養学

英文科目名称：Nutrition science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
小原淳子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	食物と各栄養素の意義、食生態学、食行動、食物の摂取と消化吸収、エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準、栄養の現状などについて学ぶ。健康を維持増進させるための適切な食事や栄養摂取について学習する。さらに、各疾患と栄養の関係、特に生活習慣病と栄養の関係、食事療法についてより深く学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 臨床栄養学の基礎知識（臨床栄養学の意義と看護、栄養とは） (予習) テキスト 1-1 臨床栄養学の意義と看護p.10-11、1-3 栄養アセスメントp.44-50に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第2回 栄養素の働き（たんぱく質・脂質・糖質） (予習) テキスト 1-2-1 栄養と栄養素p.12、1-2-2 栄養素の分類p.12-17 (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第3回 栄養素の働き（脂質・糖質） (予習) テキスト 1-2-2 栄養素の分類p.18-25 (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第4回 栄養素の働き（ビタミン・ミネラル・水分） (予習) テキスト 1-2-2 栄養素の分類p.15-43 (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第5回 栄養素の消化吸収と栄養素の代謝 (予習) 配布資料及びテキスト (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第6回 食品成分と食事摂取基準、食事バランスガイド (予習) テキスト 2-1 食品成分とエネルギーp.52-65、2-2 食事摂取基準p.66-98、3-3-2 食事バランスガイドp.118に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第7回 エネルギーと生体におけるエネルギー代謝 (予習) テキスト 2-1-2 エネルギー消費量p.53-59 3-2 運動とエネルギーp.104-110に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第8回 人生各期における健康生活と栄養①乳幼児期・学童期 (予習) テキスト 3-3 人生各期における健康生活と栄養 乳幼児期、学童期p112-119に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第9回 人生各期における健康生活と栄養②-青年期・成人期・妊娠・授乳期・高齢期 (予習) テキスト 3-3 人生各期における健康生活と栄養 青年期・成人期・妊娠授乳期、高齢期p.119-134に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第10回 療養生活と栄養① 検査食・術前・術後食、病院食の分類 (予習) テキスト 4-1 検査のための食事p138-139、4-2 治療による回復を促すための食事p140-148 4-3 栄養成分別コントロール食とはp149-152に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第11回 療養生活と栄養② 嚥下障害者のための食事、経管栄養法、中心静脈栄養法 (予習) テキスト 4-4 嚥下障害のある人の食事p.153-156、4-5 経口摂取できない患者のための栄養管理p157-161に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第12回 疾患別の食事療法① 消化器系疾患 (予習) テキスト 5-1 消化器系疾患の食事療法p.164-181に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第13回 疾患別の食事療法② 内分泌・代謝疾患 (予習) テキスト 5-2 内分泌・代謝疾患の食事療法p.182-185糖尿病の交換表に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第14回 疾患別の食事療法④ 循環器系疾患・腎疾患 (予習) テキスト 5-3 循環器系疾患の食事療法p.186-188、5-4 腎疾患の食事療法p.189-194に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>第15回 国の健康政策・健康教育・食事指導の実際・まとめ (予習) テキスト 6 食事指導の実際p196-200に目を通す (復習) 講義の資料・ノートを見直す</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義10回 グループワーク5回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>身体の健全な発育や健康を維持するために、必要な栄養・食品に関する基礎的な知識を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食生活の現状を把握し、健康の維持・増進、生活活動に必要な栄養素について説明できる。 ・自分の食事について適量摂取とバランスがどのような状態か、わかるようになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのライフステージにある対象に適した食生活について説明できる。 ・食事療法を必要とする患者に対する食事指導の実際がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、保健所・病院の実務経験を活かし、栄養学の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 関戸啓子編集 メディカ出版 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著 文光堂
参考書	授業内で必要時に紹介する。
評価基準及び成績評価方法	原則として試験の平均が60点以上を合格とする。ただし、演習及び課題の内容が十分であると認めた場合は合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	患者によりそった看護をするためには、看護師自らの「健康的な食生活を実践する力」が必要です。栄養学で学んだことを自分の食生活にも反映させて、より健全でより豊かな食生活になるように実践していきましょう。 オフィスアワーは、担当授業終了後の休み時間です。
履修登録条件	

講義科目名称：微生物学

英文科目名称：Microbiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
村上弘之				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		養護教諭一種免許状

授業概要	<p>感染症は院内感染症をはじめとし現在でも重要な臨床課題であり、看護専門職としての感染症に対する理解と対応が医療のレベルを決定する大きな因子の一つとなっている。したがって、感染症の原因となっている微生物に関する正しい知識の修得と、その対応について理解を深めることが不可欠である。本科目では微生物学の成り立ち、微生物の特徴、構造、生物学的特徴（病原性を含む）、免疫、検査・診断、化学療法、薬剤耐性、院内感染対策について学修する。</p> <p>演習では、光学顕微鏡を操作して代表的な病原微生物を観察することで身近な環境に棲む微生物像を確かめ、それらを封じ込めるための標準的予防策など感染予防学の知識と技術の修得を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 微生物学総論1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における微生物学の重要性 2. 微生物学の歴史 3. 感染症の現状 4. 細菌とはどのような生物か 5. 真菌と原虫はどのような生物か 6. ウイルスとはどのような生物か <p>【予習】テキスト第1と2章を精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第2回 微生物学総論2</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 細菌とはどのような生物か 5. 真菌と原虫はどのような生物か 6. ウイルスとはどのような生物か <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第3回 免疫 異物に対する生体の反応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫現象の特徴 2. 抗原 3. 免疫系と免疫応答 4. 抗体によって担われる免疫現象 液性免疫 5. 活性化されたT細胞によって担われる免疫現象 細胞性免疫 6. 免疫反応が生体に不利に働く場合 アレルギー・自己免疫性疾患 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第4回 感染1 微生物と生体とのかかわり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生活と微生物 2. 感染とはなにか 3. 微生物の伝播様式 4. 宿主-寄生体関係 5. 微生物の病原因子と生体防御 6. 非特異的防御と特異的防御の連関 7. 炎症反応 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第5回 感染2 微生物と生体とのかかわり</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 微生物の病原因子と生体防御 6. 非特異的防御と特異的防御の連関 7. 炎症反応 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第6回 感染症の診断法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病原体の分離・検出・同定法 2. 遺伝学的診断法 3. 免疫学的診断法 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第7回 感染症の予防とコントロール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の公衆衛生学的対策 2. 病原体のコントロール 滅菌と消毒の基礎と応用 3. 感染症のコントロール 化学療法と免疫療法 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第8回 細菌学各論1 主な病原細菌と細菌感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グラム陽性球菌群 2. グラム陽性有芽胞桿菌群 3. グラム陽性無芽胞桿菌群 4. マイコバクテリウム属 <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。 【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第9回 細菌学各論2 主な病原細菌と細菌感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グラム陰性好気性桿菌および球菌群

	<p>2. グラム陰性通性嫌気性桿菌群</p> <p>3. グラム陰性嫌気性桿菌</p> <p>4. マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア</p> <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。</p> <p>【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第10回 ウイルス学各論1 主なウイルスとウイルス感染症</p> <p>1. 単純ヘルペスウイルス1型および2型</p> <p>2. 水痘・帯状疱疹ウイルス</p> <p>3. EBウイルス</p> <p>4. サイトメガロウイルス</p> <p>5. アデノウイルスコロナウイルス</p> <p>6. ヒトパピローマウイルス</p> <p>7. インフルエンザウイルス</p> <p>8. ムンプスウイルス</p> <p>9. 麻疹ウイルス</p> <p>10. 風疹ウイルス</p> <p>第11回 ウイルス学各論2 主なウイルスとウイルス感染症</p> <p>11. デングウイルス</p> <p>12. ジカウイルス</p> <p>13. 日本脳炎ウイルス</p> <p>14. ダニ媒介脳炎ウイルス</p> <p>15. ポリオウイルス</p> <p>16. ヒトTリンパ球向性ウイルス1</p> <p>17. ヒト免疫不全ウイルス</p> <p>18. 肝炎ウイルス</p> <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。</p> <p>【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第12回 真菌学・原虫学各論 主な病原真菌と原虫および真菌症と原虫症</p> <p>1. 皮膚真菌症の原因</p> <p>2. 深部真菌症の原因</p> <p>3. 真菌中毒症の原因</p> <p>4. 原虫症の原因</p> <p>第13回 ベッドサイドにおける微生物学</p> <p>1. 院内感染（医療関連感染）とは</p> <p>2. 院内感染を起こしやすい微生物</p> <p>3. 医療行為と感染</p> <p>4. 院内感染予防対策</p> <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。</p> <p>【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第14回 微生物学演習</p> <p>1. 顕微鏡で微生物を覗いてみよう。</p> <p>2. 病原微生物から身を守る手段—標準予防策—を習得する。</p> <p>【予習】前週授業で指示されたテキストの該当するページを精読する。</p> <p>【復習】小テストを自己採点し復習する。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>14回にわたる講義と演習内容を整理し、微生物学の全体像がイメージでき、感染症対策が疾病の回復や健康維持に重要か説明できる。</p> <p>【予習】これまでの小テストを点検する。</p> <p>【復習】小テストを自己採点し復習する。</p>
授業の目的・到達目標	<p>感染症の原因となる各種病原微生物の特徴、感染のメカニズム、感染に伴う宿主の免疫応答を理解するとともに、各臓器に特徴的な感染症、人畜共通感染症などについて学修する。また、日和見感染、院内感染予防対策の具体について学修する。</p> <p>・看護師が臨床現場での院内感染対策に重要な役割を担うことを自覚できる。</p> <p>・学修した基礎知識に基づき安全かつ効果的な感染予防行動がとれる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>微生物学修了し、医療安全、感染対策に従事してきた経験から、生物学的基礎事項だけでなく、臨床微生物学、感染症、院内感染対策に及ぶ知識を伝達し、感染症から健康を回復させること、守る行動がとれる看護師、保健師育成を目指す。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>水口康雄著：ナースのための微生物学 感染症と感染症とその対策の理解のために 改訂6版 南山堂 2017.</p>
参考書	<p>北里 英郎他著：感染症がよくわかる重要微生物ガイド 技術評論社 2015.</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>定期試験90点、演習レポート10点の計100点満点による絶対評価。</p>
達成度の伝達	<p>講義ごとの小テストによる達成度を評価・伝達する。</p>
資格情報	<p>看護師、保健師、養護教諭1種、ME2種</p>
メッセージ・オフィスアワー	<p>難解な専門用語が数多く出てきます。それらの言葉の意味を一つ一つ正しく理解しないと、“基礎知識に基づく安全かつ効果的な感染予防行動がとれる”という目標を達成することはできません。環境や生体内に存在する様々な微生物に関心を寄せ、楽しみながら学習をしていきましょう。</p> <p>オフィスアワー 公衆衛生看護学実習で不在の時もある。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：病理学

英文科目名称：Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
根岸好男				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>病理学は病気の成り立ちや仕組みを考究する学問です。病因論、病理発生論の観点からみて医学の中でも重要な位置を占め、疾病の正確な診断に欠くことのできないサイエンス（科学）です。具体的な内容は、病理学の概論と病理学の基礎を講じ、様々な病態によって起こる人体の組織学的な変化、仕組み等について総論的に学習します。病気の原因、細胞・組織の障害、細胞の成長異常、腫瘍、循環障害、炎症、感染症、免疫性疾患、代謝異常、奇形などの種々の病気による組織の変化、形態学的特徴などについて修得をします。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学の領域、細胞・組織の障害と修復 予習：病理学とはどのような学問か概略について、細胞・組織障害の原因と機序と修復過程 復習：看護と病理学、病気の原因、疾病の分類、損傷後の細胞変性と死及び組織の修復過程</p> <p>第2回 循環障害 予習：循環器系の基本的知識、局所と全身及びリンパの循環障害 復習：循環系の解剖生理学的なことの再認識と疾患、ショックの成り立ち</p> <p>第3回 炎症と免疫、移植と再生医療 予習：免疫の仕組みと働き、アレルギーの成り立ち。再生医療 復習：炎症および免疫機構とアレルギーの5つの型、膠原病や再生医療とiPS細胞について理解する。</p> <p>第4回 感染症 予習：感染症の成立、主な感染症と病原体及び症状の特徴 復習：主な病原体と感染症、感染症からの防御機構、感染症の治療と予防。</p> <p>第5回 代謝障害 予習：細胞の代謝はどのようにおこなわれているのか、代謝障害にはどのような疾患があるのか。 復習：細胞の損傷と適応。脂質、タンパク質、糖質の代謝異常と疾患。局所性及び全身性の代謝障害。</p> <p>第6回 老化と死 予習：病理学から見た老化について。どういう現象を死というのか。 復習：加齢に伴う老化現象と死について、脳死やQOLや尊厳死。</p> <p>第7回 先天異常と遺伝子異常 予習：先天異常や遺伝子疾患、胎児障害とはどのような疾病か、遺伝子エラーはどのようにして起こるのか学習する。 復習：遺伝子異常、染色体異常と疾患及びDNA診断法、遺伝カウンセリング</p> <p>第8回 腫瘍 予習：腫瘍の定義と分類、どうして腫瘍が発生するのか。悪性腫瘍の診断と治療および腫瘍統計。 復習：良性腫瘍と悪性腫瘍、悪性腫瘍の転移と進行度、腫瘍の診断方法、どのような腫瘍が多いのか腫瘍の統計。</p> <p>第9回 中間試験 予習：いままでの総論で学んだことを復習する。 復習：理解できたところとできなかったところを確認し、看護に必要な知識を身につける。</p> <p>第10回 循環器系の疾患 予習：循環器系の疾患名と成り立ち。心疾患と血管の疾患について。 復習：循環器系にはどのような疾病があるか、成り立ちと回復の促進についての概略。</p> <p>第11回 血液・造血器系、感覚器系と病理検査 予習：造血器系及び感覚器系の疾患名と成り立ちと回復の促進について概略を学ぶ。病理検査についてどのような方法があるか。 復習：骨髄と血液の疾患、リンパ系および脾臓の疾患。目・耳・皮膚の疾患、病理検査の概要。</p> <p>第12回 呼吸器系の疾患 予習：呼吸器系にはどのような疾患があるか。 復習：鼻腔・口頭・咽頭の疾患、気管 気管支、肺、胸膜の疾患と成り立ちおよび回復の促進についての概略。</p> <p>第13回 消化器系の疾患 予習：消化器系にはどのような疾病があるか。 復習：口腔・食道から胃・腸や肝・胆・膵臓などの疾患についておよび回復の促進の概略。</p> <p>第14回 腎・尿路・生殖器・乳腺および内分泌系 予習：腎・尿路・生殖器・乳腺および内分泌系の疾患にはどのようなものがあるか。その成り立ちと回復の促進についての概略。 復習：腎・尿路の疾患、生殖器・乳腺の疾患、およびホメオスタシスとしての内分泌系とその疾患。</p> <p>第15回 脳・神経・筋肉および骨・関節系 予習：脳・神経・運動器系の疾患名と成り立ちおよび回復の促進の概略。 復習：脳や神経の疾患および筋肉・骨関節系にはどのような疾患があるか。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習 45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>病理学は病気の原因を解明し、診断していくことを目的としています。医学の中でも臨床医学に近いところがありますが基礎医学の領域にも深いかわりを持っています。人間が自然の一部として進化してきた過程における病気とのかかわりについても取り上げながら医学の基本病因である、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍について学び、各器官系の疾病についても概ね理解できることを目的とします。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>臨床や保健衛生の業務を通じて学んだ病理学等の知識をもとに、社会情報学修士課程で学んだ病気についての社会的な観点からの情報を加え、さらに保健学博士後期課程で研究し学んだ、病気の科学的に幅広い最新の知識を加味した病理学を看護学の基礎知識と</p>

	して伝達していきます。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目です。看護教育のDP（ディプロマポリシー）として「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげます。
教科書	系統看護学講座 専門基礎Ⅳ 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 医学書院
参考書	好きになる病理学(講談社)、ルービン 病理学臨床医学への基盤(西村書店)、進化から見た病気(講談社)
評価基準及び成績評価方法	原則として試験の平均点が60点以上を合格点とする。(中間試験と期末試験の平均点)
達成度の伝達	病気の原因がどこにあるのか明らかにし、症状および回復の促進についてどんな現象が起こるのか理解できること。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	病理学は基礎医学と臨床医学を結びつける学問です。臨床に携わる看護業務としての礎となり、未経験のことにも弾力的に対処できるようになります。医学は進歩の速度を増しています。新知見も取り入れながらの授業となります。病理学の知識を自分のものとして身につけて下さい。
履修登録条件	

講義科目名称：精神保健

英文科目名称：Mental health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	選択	講義
担当教員				
富山美佳子				
専門基礎科目群	健康と疾病の理解			養護教諭一種免許状

授業概要	精神保健はあらゆる発達段階の、それぞれの環境における精神的健康の保持・増進をはかるための諸活動を含んでいる。精神保健の基本的視点や基礎知識について学修する。また、学童期・思春期に生じやすい心の問題、養護教諭として保健室で出会うことが予想される諸問題について、成り立ちのメカニズムを理解し、基本的な対応ができる実践的能力を養う。			
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神衛生と精神保健 予習：シラバスを通読してくる 復習：学びを整理する		
	第2回	心の健康と危機 心が元気になる・心が疲れる 予習：課題に取り組み講義に持参する 復習：学びを整理する		
	第3回	WRAP ① リカバリーに大切なこと 元気に役立つ工具箱 予習：事前配布資料を通読して講義に臨む 復習：WRAP作成を進める		
	第4回	WRAP ② 元気回復行動プラン 予習：事前配布資料を通読して講義に臨む 復習：WRAP作成を進める		
	第5回	WRAP ③ グループワーク 予習：自身のWRAPを整え持参する 復習：WRAPを活用し修正・追記を重ねる		
	第6回	心身相関と健康 【精神と情緒の発達・自我の機能】 【防衛機制】 予習：事前配布資料を通読して講義に臨む 復習：講義内容の復習		
	第7回	心身相関と健康 【Stress】 予習：事前配布資料を通読して講義に臨む 復習：講義内容の復習		
	第8回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」 グループディスカッション-1 予習：グループで決めた予習を済ませ望む 復習：グループ毎の予定に応じ進捗状況の確認を行い、臨機に応じた対処を行う		
	第9回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」 グループディスカッション-2 予習：グループで決めた予習を済ませ望む 復習：グループ毎の予定に応じ進捗状況の確認を行い、臨機に応じた対処を行う		
	第10回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」 グループディスカッション-3 予習：グループで決めた予習を済ませ望む 復習：グループ毎の予定に応じ進捗状況の確認を行い、臨機に応じた対処を行う		
	第11回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」 グループディスカッション-4 予習：グループで決めた予習を済ませ望む 復習：グループ毎の予定に応じ進捗状況の確認を行い、臨機に応じた対処を行う		
	第12回	WRAP ④ グループ（シェア）ワーク 予習：自身のWRAPを整え持参する 復習：WRAPを活用し修正・追記を重ねる		
	第13回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」を用いてのグループディスカッション成果発表／意見交換・相互評価 予習：発表準備をするとともに、事前配布された資料を通読し意見交換できる準備をし臨む 復習：発表後の意見交換を含めた学びを整理するとともに、相互評価を提出する		
	第14回	「いじめのある世界に生きる君たちへ」を用いてのグループディスカッション成果発表／意見交換・相互評価 予習：発表準備をするとともに、事前配布された資料を通読し意見交換できる準備をし臨む 復習：発表後の意見交換を含めた学びを整理するとともに、相互評価を提出する		
	第15回	まとめ 予習：これまでの学びを振り返り、事前課題に取り組み、意見交換できる準備をし臨む 復習：学びを整理する ◆アクティブラーニング◆ 講義4回 講義とグループワーク4回 グループディスカッション7回（内発表2回）		
授業の目的・到達目標	人間の成長発達にともなう精神機能の変化、精神発達や精神の健康に影響する要因などを理解し、精神の健康の維持増進に関する基礎知識を修得する。			
実務経験に基づく知識の伝達	産業・教育現場での精神保健活動実務経験を有する教員が、知識を講義し基礎的な実践活動方法の修得を目指し指導する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	中井久夫著 「いじめのある世界に生きる君たちへ -いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉」 中央公論新社			
参考書				

評価基準及び成績 評価方法	グループワーク・プレゼンテーション20% WRAP20% 定期試験60%で評価する。
達成度の伝達	グループワーク・プレゼンテーションは自己評価と他者評価をあわせて評価する。 定期試験後総合評価を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	心の健康とは何かを理解し、心の健康に影響を及ぼす要因について考えを深めましょう。心の健康が保たれなくなる環境についてや、心を健康に保つための試みについてワークを通して学びます。実践力は主体的な学びにより学修されます。一緒に修得を目指しましょう。 オフィスアワー：月曜日（午前）木曜日（午後）（原則学内におりますので、不在の場合は研究室前のボードにメモを残していただければ速やかに連絡いたします）
履修登録条件	

講義科目名称：臨床心理学

英文科目名称：Clinical psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
泉野淳子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	臨床心理学の基本的枠組みを学び、対人援助の方法の1つの有力な視点を修得する。古代から人は生きていく上で様々な艱難辛苦—病や死、老い、愛する対象との別離、不条理—などに苦悩し、原始的治療や宗教によってそれらを乗り越えようとしてきた。その長い歴史を尊重しつつ、臨床心理学は実証科学の一分野として「こころ」に働きかける方法であることを理解する。心理療法の代表的理論の3つ、人間性心理学、認知行動療法、精神分析的アプローチの基本を学び入門とする。
授業計画	<p>第1回 臨床心理学とはどのような学問か。古代からの様々な癒し、原始宗教、祈祷、民間療法、芸術療法など歴史を遡って源泉を知る 予習：カウンセリングや心理療法に対してどのようなイメージを持っているか。また臨床心理学に何を期待しているか考えてくる。 復習：「臨床心理学の歴史」、テキスト（pp. 27-35）を読む。</p> <p>第2回 心理的問題の理解と方法 予習：「診断カテゴリーと異常心理学」、テキスト（pp. 58-68）を概観し、「何が異常で何が正常か」考えてくる。 復習：上記、指定ページに出てくる代表的な心的疾患・障害名を覚える。</p> <p>第3回 精神力動アプローチ(1) 予習：精神力動アプローチ、テキスト（pp. 69-91）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、心の構造論および防衛機制について読む。</p> <p>第4回 精神力動アプローチ(2) 予習：精神力動アプローチ、テキスト（pp. 93-112）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、精神分析の基本的介入法を読む。</p> <p>第5回 ヒューマニスティック・アプローチ(1) 予習：ヒューマニスティック・アプローチ、テキスト（pp. 113-130）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、クライエント中心療法を読む。</p> <p>第6回 ヒューマニスティック・アプローチ(2) 予習：ヒューマニスティック・アプローチ、テキスト（pp. 131-152）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、クライエント中心療法のプロセスを読む。</p> <p>第7回 認知行動アプローチ 予習：認知行動アプローチ、テキスト（pp. 173-192）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、認知行動療法の基本モデルと基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>第8回 統合的アプローチ 予習：統合的アプローチ、テキスト（pp. 193-209）を概観してくる。 復習：上記、指定ページ中、生物—心理—社会アプローチを読む。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 90分の講義の中に、45分のグループワーク2回、45分のディスカッション1回、計3回以上を実施する。 ◆予習・復習の時間◆ 22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	小・中・高校を通して公立の学校では学ぶ機会はなく、ともすればイメージが先行し易い学問である。そこで本講義では、実証科学の一分野としての臨床心理学はどのような学問であるか、その基本を理解することを目標とする。多種多様な対人援助の方法と技術がある中で、特に「こころ」に関わっていくカウンセリングや心理療法の代表的な理論と実践方法を概観し、初めて学ぶ者への導入とする。さらにグループワークやディスカッションを通して円滑なコミュニケーション、共感や傾聴の姿勢を育むことを目指す。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小・中・高校におけるスクールカウンセリングの実務経験を生かし、カウンセリングの基礎知識を講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	大学の掲げる教育目標、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」を基に配置された専門基礎科目群の科目である。人間の多様な在り方、文化的背景や社会的環境を理解し、さまざまな特性や個性をもった人々に柔軟に対応し技術・技能を十分生かせる基礎的能力を育てる位置づけである。
教科書	臨床心理学入門 —多様なアプローチを越境する—、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美、有斐閣アルマ、2013
参考書	臨床心理学概論、野島一彦・岡村達也 編、遠見書房、2018 フロイトの精神分析、太田裕一他編著、ナツメ社、2013
評価基準及び成績評価方法	基本的に試験(100点満点)の得点で可否の判断を行う。ただし、授業中に執筆する①小レポート、②グループワークへの参加、③ノート提出を考慮し試験得点に加算することもある。①-③とも3点満点とし、実施回数は合計5-6回程度である。
達成度の伝達	レポートの返却。筆記試験の模範解答を概説し自己採点できるようにする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	カウンセリングやカウンセラーという言葉はよく知られるようになってきました。けれども、実際、それはどういうものであるのか、なかなか正しい情報や知識が広まっているようには思えないのが現状です。臨床心理学の基本を学ぶことで、カウンセリングや心理療法がどのような理論と実践であるのかきちんと学術的知識を得るようにしましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：看護人間工学

英文科目名称：Nursing ergonomics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
杉本厚子				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	看護人間工学は医療看護の現場における作業の効率と安全性ならびに快適性に関する科学的理論とその実践方法について学ぶ科目である。作業の効率や安全性に関する人間工学の基礎理論として作業を人間・機械系の中で捉え、人間工学的視点から研究された結果から看護ケアを考えていく。これによって、看護従事者の疲労や看護ミスを軽減し、質の高い看護を実現する。
授業計画	<p>第1回 看護人間工学とは 予習：シラバス確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第2回 人間の特性①感覚、知覚、認知 人間の感覚、知覚、認知科学の入門、感覚から知覚、認知に至る人間の情報処理機能の体系を学習する。 予習：シラバス確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第3回 人間の特性②環境 患者を生活者と捉え、取り巻く環境について学習する。 予習：シラバス確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第4回 人間の特性③心理：身体 心理評価と心理尺度の構成：ボディメカニクスについて学習する。 予習：シラバス確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第5回 人間の特性④睡眠と疲労 睡眠、疲労について学習する。 予習：シラバス確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第6回 臨床での人間工学的アプローチ（GW） グループワークする。 予習：テーマについて必要な情報収集をおこなう 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第7回 臨床での人間工学的アプローチ（GW） グループワークしパワーポイントにまとめる。 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第8回 グループワーク発表会、まとめ 臨床での看護人間工学的アプローチについてグループワークしたことをプレゼンテーションする。 臨床での環境が人間工学的にどう工夫されているか学習する。 予習：グループワーク発表の準備し講義に望む。講義最終なのでわからないことは発表まとめで質問するよう準備する。 復習：プレゼンテーションを行うことで、看護人間工学とはどのようなことかが理解できるよう復習する。 ◆アクティブラーニング◆ 講義5回 グループワーク2回 プレゼンテーション1回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習時間 5時間</p>
授業の目的・到達目標	マンマシンシステムの視点で人間をとらえ、人間工学の基本的な概念、理論をベースに、看護ケアを考察していく。 ①人間の精神・生理機能の測定と評価がわかる。 ②動作・作業の測定と評価がわかる。 ③環境と人間の整合性がわかる。 ④看護ケアに発展して考察できる。
実務経験に基づく知識の伝達	産学連携にてクリップジョイント（車いす・点滴スタンド連結器）を開発した経験のある教員が、看護人間工学に関する実践的活動を通して、医療看護の現場における作業の効率と安全性ならびに快適性に関する科学的理論とその実践方法について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	看護の環境と人間工学
参考書	看護の人間工学 他随時紹介する。
評価基準及び成績評価方法	課題レポート（20%）、グループワーク：プレゼンテーション（80%）
達成度の伝達	グループワークの発表について講評する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	本講義は看護技術、看護管理、医療安全の科目と深く関連があります。看護ケアのエビデンスになるよう学習してってください。

講義科目名称：臨床医学 I

英文科目名称：Clinical medicine 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1 年次	2 単位	必修	演習
担当教員				
平野景太、高橋健一郎、室久俊光				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Iにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、血液・造血器、呼吸器、循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝、消化器、歯・口腔、免疫の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。			
授業計画	第1回	呼吸器疾患1 呼吸機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第2回	呼吸器疾患2 呼吸機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第3回	呼吸器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第4回	呼吸器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第5回	呼吸器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第6回	循環器疾患1 循環機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第7回	循環器疾患2 循環機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第8回	循環器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第9回	循環器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第10回	循環器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第11回	消化器疾患1 消化・吸収機能障害の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第12回	消化器疾患2 消化・吸収機能検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第13回	消化器疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第14回	消化器外科疾患1 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第15回	消化器外科疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第16回	消化器外科疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など） 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第17回	麻酔科学1 麻酔の目的、種類、方法、麻酔の周術期および術後管理 他 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第18回	麻酔科学2 麻酔の目的、種類、方法、麻酔の周術期および術後管理 他 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第19回	腎・泌尿器疾患1 腎・泌尿器疾患の主要な症状と検査 予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。		
	第20回	腎・泌尿器疾患2 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など）		

第21回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 腎・泌尿器外科疾患1 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第22回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 腎・泌尿器外科疾患2 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第23回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患1 内分泌・代謝疾患の主要な症状
第24回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患2 内分泌・代謝疾患の主要な検査
第25回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 内分泌・代謝疾患3 代表的な疾患 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第26回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 免疫疾患 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第27回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 血液・造血器疾患1 血液・造血器疾患の主要な症状と検査
第28回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 血液・造血器疾患2 代表的な疾患 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第29回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 歯・口腔疾患 代表的な疾患 (成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後など)
第30回	予習：講義内容の該当部分を読むこと。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。 まとめ
授業の目的・到達目標	看護を通して社会に貢献するためにはどのような実戦能力を身に付けるべきかを理解し習得する。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	医学書院 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器、成人看護学3 循環器、成人看護学4 血液・造血器、成人看護学5 消化器 成人看護学6 内分泌・代謝、成人看護学8 腎・泌尿器、成人看護学15 歯科・口腔 高齢者と成人の周術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第3版 高齢者と成人の周術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験。60点以上を合格とする。なお、授業中に向学の熱意が感じられない場合には不合格とすることがある。
達成度の伝達	各個人に通知する。不合格者にはその旨通知し、再試験を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	臨床のことを理解すると、即、社会貢献に役立ちます。意義を感じて向学に励んでください。
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅱ

英文科目名称：Clinical medicineⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
浅原大典				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅱにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、骨格・筋、脳神経、アレルギー・膠原病、感染症の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。
授業計画	<p>第1回 感染症 第1回（解剖・生理・症候・感染症法） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第2回 感染症 第2回（治療・検査） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第3回 感染症 第3回（各論、HIV、食中毒、ノロウイルス感染症、性感染症） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第4回 感染症 第4回（各論、MRSA、带状疱疹、単純疱疹、腸管出血性大腸菌、インフルエンザ） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第5回 アレルギー・膠原病 第1回（基礎） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第6回 アレルギー・膠原病 第2回（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第7回 アレルギー・膠原病 第3回（アレルギー） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第8回 アレルギー・膠原病 第4回（ベーチェット病、強皮症、その他） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第9回 脳・神経 第1回（脳・神経の構造と機能、中枢神経・末梢神経） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第10回 脳・神経 第2回（意識レベル、症候、頭蓋内圧亢進） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第11回 脳・神経 第3回（脳神経、失語、その他） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第12回 脳・神経 第4回（検査、脳卒中、脳梗塞） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第13回 脳・神経 第5回（脳出血、くも膜下出血、慢性硬膜下血腫）疾患の理解② （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第14回 脳・神経 第6回（変性疾患、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p> <p>第15回 脳・神経 第7回（てんかん、脳腫瘍、髄膜炎、頭部外傷、その他） （予習）教科書該当ページを読んでくる。 （復習）講義中に指示した事項を暗記する。</p>
授業の目的・到達目標	早い時期から看護師国家試験問題で実際に問われるポイントを理解し、臨床医学に曝露する。看護師になってからも役立つ実践的臨床知識を習得する。基礎的臨床知識を口頭・筆頭で答えることができる。臨床医学は知識ベースであるので、議論する前に記憶することが重要である。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は足利赤十字病院内科医としての実務経験を活かし、感染症、アレルギー・膠原病、神経の基礎的・臨床的知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	看護のための臨床病態学 改訂3版 南山堂
参考書	

評価基準及び成績 評価方法	多肢選択問題および筆記試験。60点以上を合格とする。なお、授業中に時々小テストを行う。 小テスト50%、定期試験50%の点数配分とする。
達成度の伝達	試験の結果を各個人に通知する。不合格者にはその旨通知し、再試験を行う。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅲ

英文科目名称：Clinical medicine 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
浦部忠久				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅲにおいては、看護専門職として臨床において科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床医学の基礎知識の中で、運動器、感覚器の疾病について、成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を学習する。また、高齢社会の急速な進展を背景に高まる老年看護の重要性と役割を理解するために、加齢に伴う人体構造と機能の変化、老年者に特有の症候と問題、老年者のフィジカルアセスメントのこつ、老年者疾患の特徴について学びながら、看護する際の留意点について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 運動器の疾患1 運動器疾患の主要な症状 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第2回 運動器の疾患2 運動器疾患の主要な検査 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第3回 運動器の疾患3 代表的な疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第4回 感覚器の疾患 眼科疾患 眼科疾患で生じる主な症状、代表的な眼科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第5回 感覚器の疾患 耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科疾患で生じる主な症状、代表的な耳鼻咽喉科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第6回 感覚器の疾患 皮膚科疾患皮膚科疾患で生じる主な症状、代表的な皮膚科疾患（成因・病態生理・臨床症状・検査所見・診断・治療・予後） 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること</p> <p>第7回 高齢者の身体構造および機能の変化 高齢者の生理的特徴 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p> <p>第8回 高齢者に特有の徴候と健康問題意識障害、せん妄、脱水症、腰背痛、転倒、排尿障害（尿失禁）、嚥下障害 など認知症、脳血管障害、パーキンソン病、うつ病、高齢者肺炎、など 予習：講義内容の該当部分を読んでくること。 復習：当日学んだ講義の資料、ノート等を必ず確認すること。</p>
授業の目的・到達目標	人体を構成する組織と器官の構造と機能を理解する。 加齢に伴う心身機能への影響を理解する。 その上で病態、診断、治療法に関する知識基盤を構築することを目的とする。 各分野、診療科の代表的疾患の診断治療について理解し説明ができるようになる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 10 運動器 12 皮膚 13 眼 14 耳鼻咽喉 老年看護学
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験による成績評価を行う。60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、試験結果を通知する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	臨床症例を中心に授業を行う予定です。
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅳ

英文科目名称：Clinical medicineⅣ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
蓬田博				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>精神科でよく出会う疾患について、症状、疾患の原因、治療法を学びます。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の第5章「精神科で出会う人々」、第6章「精神科での治療」がそれに当たりますので、授業が開始されるまでに通読しておいてください。教科書で足りないところはプリントで補います。</p> <p>医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要があります。臨床医学Ⅳにおいては、看護専門職として心が人間として生きていく上でいかに大きな働きを持つかを正しく理解し、精神に障害を持った患者、家族を援助していくために必要な臨床医学の基礎知識を学ぶ。精神現象、代表的な精神疾患（器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害、統合失調症、気分障害、神経症性障害、生理的障害、パーソナリティ障害等）、さらに精神科治療（薬物療法、電気けいれん療法、精神療法等）の基本を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 精神症状の理解、精神科での検査、精神科治療の概要 不安、意識障害など精神科でよくみられる症状の理解を深めます。診断に役立つ検査を解説します。第2回目以降の講義で各疾患に応じた治療法を述べますが、その前段階で身体科とは違った精神科特有の治療法について解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の146～164ページ、236～278ページを読んでおいてください。</p> <p>第2回 統合失調症 統合失調症について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の165～183ページを読んでおいてください。</p> <p>第3回 気分障害 うつ病を中心とした気分障害について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の183～192ページを読んでおいてください。</p> <p>第4回 神経症性障害、症状精神病、てんかん、心身症 神経症性障害、症状精神病、てんかん、心身症について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の193～203ページ、217～219ページ、225～227ページ、232ページを読んでおいてください。</p> <p>第5回 器質性精神障害（認知症、せん妄を含む） 器質性精神障害（認知症、せん妄を含む）について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の209～217ページを読んでおいてください。</p> <p>第6回 アルコール関連精神障害と依存、知的障害、心理発達の障害 飲酒がもたらす精神病理とアルコール摂取を含めた依存（例えばギャンブル依存、買い物依存など）知的障害、心理発達の障害について、その原因と症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の220～225ページ、227～231ページを読んでおいてください。</p> <p>第7回 パーソナリティ障害、摂食障害、精神科救急 パーソナリティ障害、摂食障害について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。精神疾患にも身体疾患と同様に病初期の急激な変化とそれに対応した救急治療があります。自分がどの科で働いていようとも必要とされる精神科救急の知識について解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の203～204、208～209ページを読んでおいてください。</p> <p>第8回 睡眠障害、まとめと問題演習 睡眠障害について、疾患の原因、症状、診断、治療法を解説します。教科書「精神看護の基礎（精神看護学①）」の204～207ページを読んでおいてください。 最後にこれまでの講義を振り返り、問題演習を通じて知識の定着を図ります。</p>
授業の目的・到達目標	精神疾患の大まかな分類と症状がイメージできるようになることが目標です。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	教科書として「精神看護の基礎（精神看護学①）」（医学書院）を使用します。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	講義が終了して2～3週間後に筆記による試験を行います。教科書で触れたところとプリントの中から出題します。60点以上で合格です。
達成度の伝達	試験結果を公表します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：臨床医学Ⅴ

英文科目名称：Clinical medicine 5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
栃木秀乃				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		
授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学Ⅴにおいては、看護専門職として周産期にある女性の生理的経過を理解し、ハイリスクや異常な状態（流産、早産、子宮外妊娠、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、産道・娩出力・胎位の異常等）、疾患（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、感染症等）、さらに、産科処置と産科手術について学ぶ。また、女性生殖器に起こる疾患についても理解する。			
授業計画	<p>第1回 性周期、妊娠の生理 間脳・下垂体系と卵巣ホルモンの関係、さらに妊娠の成立の機序を理解する。</p> <p>第2回 胎児の発育及び母体の生理的変化 胎芽の発生、発育過程および母体の正常な妊娠過程を学習する。</p> <p>第3回 異常妊娠① ハイリスク妊娠、感染症、異常な状態（流産、早産、子宮外妊娠、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）を学習する。</p> <p>第4回 異常妊娠② 疾患（妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群他）、偶発合併症（心疾患、糖尿病他）について学習する。</p> <p>第5回 分娩の要素と経過 分娩の要素および分娩経過について学習する。</p> <p>第6回 異常分娩 産道・娩出力・胎位の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷と出血、産科処置と手術について学習する。</p> <p>第7回 異常産褥 産褥熱、子宮復古不全等の異常について学習する。</p> <p>第8回 女性生殖器の疾患 悪性腫瘍、良性腫瘍他について学習する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義7回 実習（演習）1回</p>			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における生理的経過と健康問題について理解できる。 2. 分娩期における生理的経過経過と健康問題について理解できる。 3. 産褥期における生理的経過経過と健康問題について理解できる。 4. 女性生殖器における健康問題を理解できる。 			
実務経験に基づく知識の伝達	産婦人科の実務経験を活かし、産科・婦人科学の基礎知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	母性看護学2 医学書院 成人看護学9 女性生殖器 医学書院			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	筆記試験			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：臨床医学VI

英文科目名称：Clinical medicineVI

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
小林靖明				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		
授業概要	医療を受ける対象に対して適切な医療を展開するためには、人体の正常な構造とその機能を学び、疾病の成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を理解する必要がある。臨床医学VIにおいては、看護専門職として健康障害を持つ子どもと家族の生活・療養援助に必要な臨床医学の基礎知識を学び、病因を踏まえた疾病の理解と診断に必要な検査、原則的な治療方法について理解する。小児に特有な疾患（新生時期の疾患、循環器、消化器、血液、腎、内分泌・代謝疾患、感染症等）や事故と虐待、小児救急と蘇生についても理解を深める。			
授業計画	第1回 新生児の病気（新生児仮死など）、染色体異常（21トモソリーなど） 第2回 子どもの心臓病（ファロー四徴症など） 第3回 血液・腫瘍疾患（血友病・白血病など）、神経・筋疾患（てんかん・脳性まひなど） 第4回 消化器・外科疾患（肥厚性幽門狭窄など） 第5回 腎・泌尿器疾患（ネフローゼ症候群など）、膠原病（全身性エリテマトーデスなど） 第6回 代謝・内分泌疾患（1型糖尿病など）、免疫・アレルギーについて（食物アレルギーなど） 第7回 感染症について、呼吸器疾患（気管支喘息など） 第8回 こころの問題（摂食障害など）、子どもの虐待・小児救急への対応 小児疾患のまとめ、演習 ◆予習・復習の時間◆ 22.5時間			
授業の目的・到達目標				
実務経験に基づく知識の伝達				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」、「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。			
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 メディカ出版			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	期末試験（ただし60点に満たない者は再試験を行う）			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：臨床薬理学

英文科目名称：Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
近藤達郎				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		養護教諭一種免許状

授業概要	<p>病気の予防、治療、診断に必要な薬物の特徴と薬物の生態に対する影響について体系的に学ぶことで、看護専門職として必要な薬理学的知識を身につけることを目的とする。薬物療法における進歩が目覚ましい中、情報化社会において薬に関するさまざまな情報が氾濫している。疾患に対してより高い治療効果をあげるためには、医療に直接携わる者が正しい医薬品の知識を身につけることが重要である。臨床的に用いられる基本薬物の薬理作用の作用機序とその副作用について学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 薬物療法の目的、薬物の作用点 予習・復習：薬が作用するしくみ</p> <p>第2回 薬物動態 吸収、分布、代謝、排泄、生物学的半減期、薬物の血中濃度 予習・復習：薬の体内の挙動</p> <p>第3回 薬物の効果に影響をおよぼす要因 年齢、遺伝的形質、アレルギー、耐性・依存、薬物相互作用 予習・復習：薬物相互作用について</p> <p>第4回 薬物の有害作用と管理 過量の起こる背景、薬物の使用の有益性と有害性、薬の管理と新薬の開発 予習・復習：日本でおきた薬害について</p> <p>第5回 感染症治療薬 抗菌薬の分類と薬物耐性について 感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬各論（ペニシリン系抗生物質、セファム系およびその類縁抗生物質他）、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬</p> <p>第6回 抗がん薬、免疫治療薬 抗ガン作用のしくみと副作用について 抗がん作用のしくみ、薬剤耐性、アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質他、免疫抑制剤、免疫増強剤、予防接種薬</p> <p>第7回 抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗ヒスタミン薬とアレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・尿酸血症治療薬 予習・復習：抗アレルギー薬・抗炎症薬の働き・副作用</p> <p>第8回 末梢神経作用薬 神経による情報伝達、自律神経系との薬の作用、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔 予習・復習：自律神経の働きについて</p> <p>第9回 中枢神経作用薬 中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬 予習・復習：中枢神経に作用する医薬品の働き・副作用</p> <p>第10回 心臓血管系作用薬 抗高血圧薬、狭心症治療薬、うっ血性心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物 予習・復習：心臓血管系に作用する医薬品の働き・副作用</p> <p>第11回 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去たん薬・呼吸促進薬 予習・復習：呼吸器系に作用する医薬品の働き・副作用</p> <p>第12回 消化器系作用薬 消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬と消化管運動促進薬、制吐薬、下痢と止痢薬、潰瘍性大腸炎治療薬、駆虫薬 予習・復習：消化器系に作用する医薬品の働き・副作用</p> <p>第13回 ホルモン薬、ビタミン系薬物 予習・復習：名称と働きについて・副作用について</p> <p>第14回 漢方薬、消毒薬 漢方薬とは、副作用について 消毒薬とは、消毒薬の種類と応用 予習・復習：消毒薬の分類と特徴について</p> <p>第15回 まとめ 予習・復習：過去国家試験問題の解説</p> <p>◆予習・復習◆ 22. 5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>薬の用法、代謝・吸収・分布・排泄、薬物相互作用などの基本的な薬の知識および個々の薬物と疾患との関連を学ぶ。 ・医薬品の作用および副作用を薬理学的・薬物動態学的観点から説明できる。 ・個々の疾患に対応する薬物の種類や効果を理解し、安全・安楽な与薬の援助ができる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は薬剤師の実務経験を活かし、薬理学の基礎知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 大鹿英世他著 医学書院</p>

参考書	
評価基準及び成績 評価方法	科目試験100%
達成度の伝達	試験結果の公表。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 医用工学の基礎

英文科目名称： Basic medical engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	選択	演習
担当教員				
川端下好宏				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	<p>医用工学の基礎的知識として、生体の電気、力、温熱、音響、光、放射線などに関する物理的特性、あるいは生体計測に関する物理量の単位や定数について講義し、さらに計測の基礎となる精度やノイズや弁別比などについて述べる。また、医用工学に関する基本的な理工学的知識として、生体用増幅器の基本となる電気回路に関する事項について講義する。講義の途中では多くの演習問題に取り組み、理解を深める。</p>			
授業計画	<p>第1回 医用工学とは 医療機器安全・病院設備 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第2回 患者モニタリング：心電図モニタ 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第3回 患者モニタリング：血圧計 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第4回 患者モニタリング：生体モニタ 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第5回 循環補助：除細動器 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第6回 循環補助：輸液・シリンジポンプ 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第7回 循環補助：心臓治療 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第8回 呼吸補助：人工呼吸器 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第9回 呼吸補助：保育器 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第10回 代謝補助：腎補助 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第11回 代謝補助：肝臓・他 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第12回 手術用機器：エネルギーデバイス 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第13回 手術用機器：麻酔器・内視鏡・他 予習：指定教科書 復習：配布書類</p> <p>第14回 医療安全：情報管理 予習：ウェブ上で得られる医療情報や、臨床で用いられる医療情報技術等の確認。 復習：実際の情報収集。</p> <p>第15回 今後の医工学 予習：各自、臨床にいるであろう40年後の医療技術の発達を予想しておく。 復習：40年後にも必要とされる看護師像を作り上げる。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義14回、毎講義内でディスカッション14回、グループワーク1回</p>			
授業の目的・到達目標	<p>この講義を通じて、医療機器の基本的原理、有効な使用方法を学び、それらを生体に使用した際に起きる現象や、そこから得られる情報を看護に展開できることを目標とする。</p>			
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、総合病院で臨床工学技士としての勤務経験を活かし、医療機器の原理と生体への作用・影響について医用工学と医療安全を絡めた実践的な講義を行う。</p>			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>			
教科書	<p>ナースのためのME機器マニュアル 医学書院 2011年4月発行 小野哲章 渡辺 敏 監修、加納 隆 廣瀬 稔 編集 ISBN 978-4-260-01192-1</p>			

参考書	必要時紹介
評価基準及び成績 評価方法	毎講義での理解度チェックによる確認と、全講義終了後にレポート形式の試験実施
達成度の伝達	レポートの評価、返却にて伝達。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	メールにて対応。
履修登録条件	

講義科目名称： 医用工学演習

英文科目名称： Medical engineering practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	演習
担当教員				
渡邊史宏				
専門基礎科目群		健康と疾病の理解		

授業概要	現在の医療の現場では、病院のみならず在宅医療においてもME機器が多く用いられている。看護専門職として、生体情報を測定する装置と、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、透析器などのME機器についての使用目的・仕組み・管理方法を身に付ける必要がある。授業では実際にME機器を用いて演習を行い、操作技術及び管理方法について修得を目指す。			
授業計画	第1回	薬剤投与方法 予習：薬剤投与量・循環作動薬等		
	第2回	輸液管理 予習：点滴法		
	第3回	輸液ポンプ・シリンジポンプ 予習：輸液管理法・腸管栄養		
	第4回	深部血栓予防装置 予習：肺塞栓について		
	第5回	手術室の医用機器Ⅰ 予習：手術室での機器管理・電源		
	第6回	手術室の医用機器Ⅱ 予習：除細動器		
	第7回	電気メス 予習：切開・凝固		
	第8回	低圧持続吸引器 予習：腹腔・胸腔		
	第9回	超音波メス 予習：電気メスとの違い		
	第10回	ペースメーカー 予習：各種モードについて		
	第11回	心電図モニター 心電計 予習：各種測定値・12誘導		
	第12回	不整脈 予習：各種不整脈		
	第13回	呼吸計測機器Ⅰ 予習：人工呼吸器		
	第14回	酸素療法 予習：酸素療法とは		
	第15回	まとめ		
授業の目的・到達目標	ME機器についての使用目的・仕組み・管理方法を身に付ける			
実務経験に基づく知識の伝達				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した、専門基礎科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	各種教科書			
参考書	治療機器・計測機器			
評価基準及び成績評価方法	レポート・試験			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生学

英文科目名称：Public health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
村上弘之				
専門基礎科目群	社会と医療			養護教諭一種免許状

授業概要	人の集団を対象として疾病の発生要因を明らかにし、行政や地域住民などの協力のもとに、その対策を講ずることにより疾病から人々を守る科学である公衆衛生学の概念ならびにその基礎を論ずる。公衆衛生学の理念、公衆衛生的アプローチ、集団の健康指標、環境保健、対人保健、公衆衛生活動の実践について学ぶ。			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 公衆衛生学を学ぶにあたって、および公衆衛生のエッセンス</p> <p>公衆衛生を学ぶにあたって、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学生がなぜ公衆衛生学を学ぶ必要があるか 2. 「ひとりの健康」と「みんなの健康」のつながりを理解する。 3. 「みんなの健康」をまもるためにはなにが必要かを理解する。 4. 「みんなの健康」は、「みんなでまもる」ことが重要であることを理解する。 <p>また、公衆衛生のエッセンスについても学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生public healthという言葉の持つ意味を理解する。 2. 公衆衛生という概念がなぜ生まれたかの、その歴史的なストーリーを理解する。 3. 明治以降の日本において、公衆衛生がどのように生まれ、育ったか、その歴史的なストーリーを理解する。 4. 健康と人権が切り離せないものであることを理解する。 5. プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションという概念を理解する。 6. 公衆衛生の視点を自分のこれからの看護に取り込めるよう身につける。 <p>教科書のp2～44を予習しておく。</p>		
	第2回	<p>公衆衛生の活動対象</p> <p>公衆衛生の活動対象について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職が公衆衛生を学ぶ意義を理解する。 2. 社会集団と個人のQOLとのかかわりを理解する。 3. 看護職の公的責任と役割を理解する。 4. 社会集団の見方ととらえ方を身につける。 <p>教科書のp45～63を予習しておく。</p>		
	第3回	<p>公衆衛生のしくみ</p> <p>公衆衛生のしくみについて、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「公衆衛生のしくみ」とはなにをさすかを知る。 2. 住民の健康を守る目的でつくられた、さまざまな法律と政策・事業・計画などの枠組みを知る。 3. 住民の健康を守るための枠組みのなかで、看護職がどのように活動しているかを理解する。 4. 住民の健康を守るための活動における、住民と専門職の協働の大切さを理解する。 <p>教科書のp64～81を予習しておく。</p>		
	第4回	<p>環境と健康 1.</p> <p>環境と健康について、1. 地球規模の環境と健康について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と健康、生活とのつながりを知り、環境保全の大切さを理解する。 2. 地球規模の環境問題とその対策、健康への影響について理解する。 3. 私たちの身近な取り組みが地球環境の保全につながることを理解する。 <p>教科書のp82～96を予習しておく。</p>		
	第5回	<p>環境と健康 2.</p> <p>環境と健康について、2. 身のまわりの環境と健康について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの日常生活に直結する、身のまわりの環境問題とその対策、健康への影響について理解する。 2. 医療廃棄物の分類と処理について知る。 <p>教科書のp97～109を予習しておく。</p>		
	第6回	<p>国際保健</p> <p>国際保健について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健活動とは何かをイメージできるようにする。 2. 国際保健活動の現場と、国際保健の使命を知る。 3. 国際保健のための主な組織と、ミレニアム開発目標について知る。 4. 日本の政府開発援助（ODA）の枠組み・目標を理解する。 <p>教科書p110～123を予習しておく。</p>		
	第7回	<p>集団の健康を捉えるための手法—疫学</p> <p>疫学について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学とはなにか、なぜ必要なのかを理解する。 2. 集団の健康状態をとらえるために指標が必要であることを理解し、さまざまな健康指標について知る。 3. 集団の健康状態に影響する要因をさがし、見つけ出す方法を知る。 4. 集団の健康にわるい影響を与える要因（危険因子）への対策を知る。 5. エビデンスとはなにか、エビデンスを使い、つくることの大切さを理解する。 <p>教科書のp124～147を予習しておく。</p>		
	第8回	<p>地域保健 1. 母子保健</p> <p>地域保健について、1. 母子保健について、以下を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健という言葉の意味を理解する。 2. 母子保健と呼ばれる地域保健分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る。 3. 各地域保健分野の対象者が相互に重なり合い、活動がつながり合うことを知る。 4. 各地域保健分野のしくみや活動を知ることで、自分たちがさまざまな保健活動によってまもられてきたことを知る。 <p>教科書p148～171を予習しておく。</p>		
	第9回	<p>地域保健 2. 成人保健</p> <p>地域保健について、2. 成人保健について、以下を学ぶ。</p>		

	<p>1. 地域保健という言葉の意味を理解する。</p> <p>2. 成人保健と呼ばれる地域保健分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る。</p> <p>3. 各地域保健分野の対象者が相互に重なり合い、活動がつながり合うことを知る。</p> <p>4. 各地域保健分野のしくみや活動を知ること、自分たちがさまざまな保健活動によってまもられてきたことを知る。</p> <p>教科書のp172～189を予習しておく。</p> <p>第10回 地域保健3. 高齢者保健</p> <p>地域保健について、3. 高齢者保健について、以下を学ぶ。</p> <p>1. 地域保健という言葉の意味を理解する。</p> <p>2. 高齢者保健と呼ばれる各地域保健分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る。</p> <p>3. 各地域保健分野の対象者が相互に重なり合い、活動がつながり合うことを知る。</p> <p>4. 各地域保健分野のしくみや活動を知ること、自分たちがさまざまな保健活動によってまもられてきたことを知る。</p> <p>教科書p189～207を予習しておく。</p> <p>第11回 地域保健4. 精神保健、歯科保健、難病支援・障害支援</p> <p>地域保健について、精神保健、歯科保健、難病支援・障害支援について、以下を学ぶ。</p> <p>1. 地域保健という言葉の意味を理解する。</p> <p>2. 精神保健、歯科保健、難病、障害者支援と呼ばれる各地域保健分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る。</p> <p>3. 各地域保健分野の対象者が相互に重なり合い、活動がつながり合うことを知る。</p> <p>4. 各地域保健分野のしくみや活動を知ること、自分たちがさまざまな保健活動によってまもられてきたことを知る。</p> <p>教科書p208～249を予習しておく。</p> <p>第12回 地域保健5. 感染症</p> <p>公衆衛生における感染症について、感染症およびその予防対策について学ぶ。</p> <p>教科書p250～277を予習しておく。</p> <p>第13回 学校と保健</p> <p>学校と保健について、以下を学ぶ。</p> <p>1. 学校保健の目的としくみを知る。</p> <p>2. 自分たちがこれまで学校生活になかで、さまざまな学校保健のしくみと活動によって心身の健康がまもられ、はぐくまれてきたことを知る。</p> <p>3. 学校という「場」が地域の健康に与える影響、それをふまえた学校の役割を把握する。</p> <p>4. 現代の子どもに健康課題を把握する。</p> <p>5. 学校保健が具体的にどのように展開されているか、その一端を理解する。</p> <p>6. 院内学級などの特別支援教育で学ぶ子どもたちの思いを理解する。</p> <p>教科書p278～301を予習しておく。</p> <p>第14回 職場と健康</p> <p>職場と健康について、以下を学ぶ。</p> <p>1. 働く人々の健康をまもるとは、どのようなことかを知る。</p> <p>2. 私たちの社会は戦後、働く人々の健康をどのようにとらえ、対応してきたか、その変遷を理解する。</p> <p>3. 現代社会に働く人々に生じる健康問題と、職場における健康管理の仕組みを理解する。</p> <p>4. 職場と健康に関する法令を知り、それに基づく制度などの概要を把握する。</p> <p>5. 産業保健は、どのように働く人々の健康をまもる活動を展開しているかを知る。</p> <p>6. 産業保健における今後の課題と新たな動きを理解する。</p> <p>教科書p302～323を予習しておく。</p> <p>第15回 健康危機管理・災害保健</p> <p>健康危機管理と災害保健について、以下を学ぶ。</p> <p>1. 日本における健康危機管理の体制と、地域における健康危機管理の実際を理解する。</p> <p>2. 看護学生として、地域住民として、平時からできることは何かを考える。</p> <p>3. 日本の災害対策体制と、災害時の支援について理解する。</p> <p>4. 災害時において、被災者の健康と人権をどうまもることができるかを考える。</p> <p>教科書p324～338を予習しておく。</p>
授業の目的・到達目標	<p>人の集団を対象として疾病の発生要因を明らかにし、人々の健康の維持・増進および疾病予防のための基礎知識を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理の概念と方法を説明できる。 ・健康教育の目的および方法を説明できる。 ・健康指標、疫学指標の公衆衛生的意義とその活用法を説明できる。 ・地域保健医療福祉活動における看護職の役割がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>帝京大学大学院公衆衛生学研究科を修了し、公衆衛生学修士として本学の公衆衛生看護学教員を務めている。健康をプロデュースするために重要な学問であるが、初学者には難解な法律や用語が多く、できるだけ平易に公衆衛生の魅力が伝えられるよう知識の伝達を行う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された専門基礎科目群の科目である。DPは「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 神馬征峰他著 医学書院</p>
参考書	<p>わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学 丸井 英二（編）弘文堂（2020/1/23） 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度②「公衆衛生学」小野寺伸夫（編）メヂカルフレンド社 「わかりやすい公衆衛生学 第3版」清水忠彦他 NOUVELLE HIROKAWA 国民衛生の動向 厚生統計協会</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>定期試験90点、課題レポート10点の計100点満点による絶対評価。</p>
達成度の伝達	<p>各講義で小テストを行い、自己採点によって学習習熟度を各自が確認する。</p>
資格情報	<p>看護師、保健師、養護教諭1種</p>
メッセージ・オフィスアワー	<p>メッセージは、基本的には掲示板で伝達する。 オフィスアワーは、5コマ、あるいは5コマ終了後の1時間をあてる。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：衛生学

英文科目名称：Hygiene

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
岸久司				
専門基礎科目群			社会と医療	養護教諭一種免許状

授業概要	衛生学は人間・環境・健康の包括的な理解を目指す社会医学の一分野である。個人および公衆の健康維持・向上、疾病予防などを目指し、生活環境（生物的・物理的・化学的要因や社会的環境）と健康、地球環境と健康との関係について学習する。さらに、感染症の征圧や食中毒・栄養状態の改善、環境問題なども含め、疾病の予防活動につながることのできる基礎的知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 衛生学とは、歴史的経緯</p> <p>第2回 環境衛生①：環境問題（人口の急増、地球温暖化、熱帯雨林の消失他）</p> <p>第3回 環境衛生②：物理的条件、化学的条件</p> <p>第4回 環境衛生③：公害、空気の衛生と大気汚染</p> <p>第5回 生活環境①：上水、下水、水質汚濁</p> <p>第6回 生活環境②：太陽光線と健康</p> <p>第7回 生活環境③：騒音と健康</p> <p>第8回 生活環境④：衣服と健康（繊維加工剤の影響）、住居と健康（空気汚染、カビ、害虫、ネズミの影響）</p> <p>第9回 生活環境⑤：廃棄物処理、消費者保健活動</p> <p>第10回 食品衛生①：食品中の病原菌による健康被害、食品中の有害化学物質による健康被害</p> <p>第11回 食品衛生②：動物性自然毒、植物性自然毒による中毒</p> <p>第12回 食品衛生③：食品衛生活動、栄養改善活動</p> <p>第13回 感染症とその予防①：成り立ち</p> <p>第14回 感染症とその予防②：予防対策</p> <p>第15回 感染症とその予防③：国内における感染症</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 授業中、クイズの形式で国家試験の過去問などを問うようにする。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>人間の健康に影響をおよぼす要因を知り、その要因を病気の予防や改善にどのように活用するかを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生学の歴史的経緯と意義がわかる。 ・環境衛生と人の健康の関連が理解できる。 ・人が生活している環境と健康の関連が理解できる。 ・食品と人の健康の関連が理解できる。 ・感染症とその予防方法が理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	実際にフィールドワークや論文作成からの経験で、気づいたポイントなどを示す。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された専門基礎科目群の科目である。DPは「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	とくに必要としない
参考書	公衆衛生がみえる（2018－2019） 医療情報科学研究所 編 メディックメディア
評価基準及び成績評価方法	試験および授業における取り組み（小テスト）等から判定する。

達成度の伝達	小テストの解説
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：疫学

英文科目名称：Epidemiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	必修	講義
担当教員				
村上弘之				
専門基礎科目群		社会と医療		

授業概要	疫学とは人の集団を対象とし、疾病などの健康事象や課題の分布や頻度、関係する要因を調査、研究する学問であり、根拠に基づく看護活動の土台には疫学の考え方が存在している。本講義では、疫学の概念、疫学調査法、疾病頻度の指標、曝露効果の指標、スクリーニング、代表的な疾患の疫学について、実践の場での活用の具体例を交えながら解説する。毎回、授業開始前に各講義内容に沿った保健師国家試験問題を掲載したリアクションペーパーを配布し、講義後の自己学習支援を図るとともに、学生の意見を集めるため次週にリアクションペーパーを回収して次の授業に反映させる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：疫学の概念、歴史に学ぶ疫学、疫学を学ぶ意義 予習：ジョン・スノウと高木兼寛の業績を復習しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第2回 疫学研究の倫理：人を対象とする医学系研究に関する倫理 予習：昨今の倫理的諸問題について、インターネット等でしらべ整理しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第3回 いろいろな統計資料：統計資料は何を意味しているのか、統計資料から何を読み取るか 予習：テキストの第4章を読んでおく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第4回 疫学研究の方法①：質的研究のデザイン 予習：質的研究とはなにか、インターネット等で調べ、整理しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第5回 疫学研究の方法②：量的研究のデザイン 予習：テキストの第2章の3～7と10を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第6回 疫学研究の方法②：対象集団の選定、誤差、バイアス、交絡因子の制御、交互作用 予習：テキストの第2章の1～2と12を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第7-8回 曝露効果の指標：相対危険、寄与危険、オッズ比 予習：テキストの第2章の8～9を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第9-10回 疾病頻度の指標：死産率と死産比、有病率と罹患率と累積罹患率、死亡率と致命率と生存率、年齢調整死亡率と標準化死亡比とPMIなど 予習：テキストの第3章を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第11回 エビデンスと因果関係：エビデンスに基づく実践とは、因果関係とは、エビデンスの限界と可能性 予習：テキストの第2章の11を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第12-13回 スクリーニング：スクリーニングの目的、要件、評価 予習：テキストの第5章を通読しておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p> <p>第14回 主な疾患の疫学 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、精神疾患、結核、HIV/エイズを対象疾患とし、頻度と分布、年次推移、危険因子、看護職として取り組むべき対策を整理し、発表資料を作成する。 予習：国民衛生の動向の第3編保健と医療の動向を概観しておく。 復習：課題レポートを仕上げる。</p> <p>第15回 看護活動に関連する疫学：社会疫学、政策疫学、臨床疫学 まとめ 予習：健康格差についてインターネット等でしらべ、自分の考えをまとめておく。 復習：テキスト、配布資料を基に復習し、不明な点は調べ整理しておく。</p>
授業の目的・到達目標	<p>目的：看護活動の基盤となる疫学の考え方と方法の基礎を修得する。</p> <p>到達目標： 1. 疫学研究を行う際の基本姿勢について、倫理的な側面から述べることができる。 2. 因果関係を判定するために考えるべき事項を述べるができる。 3. 疾病頻度の指標と曝露効果の指標について説明できる。 4. 疫学調査の基本（研究デザイン、対象集団の選定、誤差、バイアス、交絡因子の制御）について説明できる。 5. スクリーニングの目的、要件、評価について説明できる。 6. 代表的な疾患の疫学（頻度と分布、年次推移、危険因子）について、調べて記述することができる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	看護師であり公衆衛生学の専門家である教員が、保健師だけでなく、看護師としても疫学的な観点をもって地域の健康問題を診断でき得る能力を身に着けられるよう講義と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	浅野嘉延著. 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計学 改定3版, 南山堂. 2018.
参考書	丸井英二編： わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学, 弘文堂, 2020. Kenneth J. Rothman (著), 矢野 栄二, 橋本 英樹, 訳. ロスマンの疫学—科学的思考への誘い. 第2版, 篠原出版新社. 2013. 厚生統計協会. 国民衛生の動向2018/2019.

評価基準及び成績 評価方法	定期試験90点、代表的な疾患の疫学（頻度と分布、年次推移、危険因子）についてのレポート課題10点の計100点による絶対評価。
達成度の伝達	・リアクションペーパーに書かれた内容には、次回講義の際にフィードバックを行う。 ・リアクションペーパーの保健師国家試験問題は、講義の中で模範解答を概説する。
資格情報	看護師、保健師、養護教諭1種
メッセージ・オ フィスアワー	難解な専門用語が数多く出てきます。それらの言葉の意味を一つ一つ正しく理解しないと、“地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。”という目標を達成することはできません。多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識を構築できるよう学習をしていきましょう。 オフィスアワー 5時限目終了後
履修登録条件	

講義科目名称：保健医療統計学

英文科目名称：Medical care statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
長谷川貴之				
専門基礎科目群	社会と医療			養護教諭一種免許状

授業概要	保健医療分野の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得する。 ・実験データや事実を表現するデータから、現実を把握し、判断能力を養うためのデータ解析の基礎的部分の学習を行う。 ・不確定な現象を表現する確率分布の理解と不確定な現象から収集されたデータの解析を通して、集団の規則性の探究をして行く。 ・統計的データ解析の基礎を身に付ける。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス／教科書第3章「疾病頻度の指標」 ・シラバスの説明 ・講義、講義内容は、有病率・罹患率と累積罹患率。 【予習】教科書の講義内容（有病率・罹患率と累積罹患率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（有病率・罹患率と累積罹患率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第2回	教科書第3章「疾病頻度の指標」 ・小テスト（1）。出題内容は、主に第1回で学習したことなど。 ・講義、講義内容は、死亡率・致命率・指標の相互関係・疾病の予防と指標の変化。 【予習】教科書の講義内容（死亡率・致命率・指標の相互関係・疾病の予防と指標の変化）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死亡率・致命率・指標の相互関係・疾病の予防と指標の変化）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第3回	教科書第3章「疾病頻度の指標」／教科書第4章「保健統計調査」 ・小テスト（2）。出題内容は、主に第2回までに学習したことなど。 ・講義、講義内容は、死亡率の年齢調整。 【予習】教科書の講義内容（死亡率の年齢調整）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死亡率の年齢調整）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第4回	教科書第4章「保健統計調査」 ・小テスト（3）。出題内容は、主に第3回までに学習したことなど。 ・講義、講義内容は、人口静態統計・人口動態統計。 【予習】教科書の講義内容（人口静態統計・人口動態統計）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（人口静態統計・人口動態統計）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第5回	教科書第4章「保健統計調査」 ・小テスト（4）。出題内容は、主に第4回までに学習したことなど。 ・講義、講義内容は、出生率・死亡率・死因統計。 【予習】教科書の講義内容（出生率・死亡率・死因統計）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（出生率・死亡率・死因統計）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第6回	教科書第4章「保健統計調査」／教科書第3章と第4章の問題演習 ・小テスト（5）。出題内容は、主に第5回までに学習したことなど。 ・講義、講義内容は、死産と乳幼児死亡率・婚姻と離婚・平均寿命・国民生活基本調査・患者調査・その他の調査。 【予習】教科書の講義内容（死産と乳幼児死亡率・婚姻と離婚・平均寿命・国民生活基本調査・患者調査・その他の調査）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。 【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死産と乳幼児死亡率・婚姻と離婚・平均寿命・国民生活基本調査・患者調査・その他の調査）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、中間試験に備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第7回	中間試験 ・中間試験問題の主な出題範囲は、教科書の第3章と第4章。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。		
	第8回	中間試験の返却・解説・講評／教科書第5章「スクリーニング」 ・中間試験の返却・解説・講評。 ・講義、講義内容は、スクリーニングの意味と意義・スクリーニングの条件・偽陽性率と偽陰性率。 【予習】教科書の講義内容（スクリーニングの意味と意義・スクリーニングの条件・偽陽性率と偽陰性率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。		

第9回	<p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（スクリーニングの意味と意義・スクリーニングの条件・偽陽性率と偽陰性率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第5章「スクリーニング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（6）. 出題内容は、主に第8回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、敏感度と特異度・陽性反応的中度と陰性反応的中度（その1）。 <p>【予習】教科書の講義内容（敏感度と特異度・陽性反応的中度と陰性反応的中度）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（敏感度と特異度・陽性反応的中度と陰性反応的中度）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第5章「スクリーニング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（7）. 出題内容は、主に第9回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、陽性反応的中度と陰性反応的中度（その2）・スクリーニングレベルの変動による影響。 <p>【予習】教科書の講義内容（陽性反応的中度と陰性反応的中度・スクリーニングレベルの変動による影響）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（陽性反応的中度と陰性反応的中度・スクリーニングレベルの変動による影響）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第7章「統計学の基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（8）. 出題内容は、主に第10回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、統計データの種類とグラフ・データの代表値。 <p>【予習】教科書の講義内容（統計データの種類とグラフ・データの代表値）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（統計データの種類とグラフ・データの代表値）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第7章「統計学の基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（9）. 出題内容は、主に第11回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、データの散布度・正規分布の特徴・偏差値。 <p>【予習】教科書の講義内容（データの散布度・正規分布の特徴・偏差値）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（データの散布度・正規分布の特徴・偏差値）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第7章「統計学の基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（10）. 出題内容は、主に第12回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、相関係数・推定の考え方・検定の考え方（その1）。 <p>【予習】教科書の講義内容（相関係数・推定の考え方・検定の考え方）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（相関係数・推定の考え方・検定の考え方）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、次回の小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第7章「統計学の基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（11）. 出題内容は、主に第13回までに学習したことなど。 ・講義. 講義内容は、検定の考え方（その1）・χ^2（カイ2乗）検定・t検定。 <p>【予習】教科書の講義内容（検定の考え方・χ^2（カイ2乗）検定・t検定率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（検定の考え方・χ^2（カイ2乗）検定・t検定率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有）に取り組み、学期末試験に備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>教科書第7章「統計学の基礎」／教科書第5章と第7章の問題演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習 ・学期末試験の主な出題範囲は、教科書の第5章と第7章。ただし、この範囲の基礎になっている教科書の第3章と第4章の学習内容なども、出題することがある。 <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
授業の目的・到達目標	<p>広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、保健医療の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得させる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する」から配置された専門基礎科目群の科目である。「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p> <p>【授業時間】90分×15回。 【予習・復習の時間】3時間×15回。</p>
教科書	浅野嘉延著『看護学生のための 疫学・保健統計 改訂3版』南山堂（2018）
参考書	『国民衛生の動向』厚生統計協会
評価基準及び成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 約40% ・中間試験と学期末試験 約60%

達成度の伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の小テストは、点検・評価して返却します。 ・中間試験と学期末試験の答案は返却します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の合格を視野に入れます。 ・専門分野への深い理解に伴って、統計学は活かされます。各専門分野の勉強を立脚点として、統計学の適切な運用ができるようになることを目標とします。因みに、「統計学は最強の学問である」との主張を見聞きすることすらあります。 ・小テストを計11回行う計画です。電卓抜きの手計算と概算の能力（適切な四捨五入）を重視します。 ・講義・小テストは、学籍番号順の座席指定をします。 ・中間試験・学期末試験では、通信機器（スマホ、タブレット端末、など）の携帯も使用も認めません。 ・中間試験・学期末試験では、途中退室は認めません。
履修登録条件	

講義科目名称：保健医療福祉行政論

英文科目名称：Health and medical welfare administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
杉浦裕二				
専門基礎科目群		社会と医療		

授業概要	公衆衛生看護における保健活動を深く理解するために、保健活動に関わる多面的な法的基盤や財政の現状を学ぶ。あわせて、地域保健活動の今後の課題を考える機会とする。衛生行政の基本的考え方、地域保健の在り方を概説してから、健康増進と疾病予防、医療、薬事、生活衛生、環境について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 保健医療福祉行政のめざすもの</p> <p>第2回 保健医療福祉制度の変遷① 公衆衛生の基盤形成</p> <p>第3回 保健医療福祉制度の変遷② 地域保健計画の体系</p> <p>第4回 保健医療福祉制度の変遷③ 新たな課題と政策の発展</p> <p>第5回 保健医療福祉行政および財政の仕組み① 国・都道府県・市区町村の仕組みと役割</p> <p>第6回 保健医療福祉行政および財政の仕組み② 保健医療福祉の財政</p> <p>第7回 地域保健行政と保健師活動① 地域保健の体系</p> <p>第8回 地域保健行政と保健師活動② 健康危機管理と医療安全対策、保健師活動における情報管理</p> <p>第9回 社会保障制度① 日本における社会保障、医療提供体制</p> <p>第10回 社会保障制度② 介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度</p> <p>第11回 社会保障制度③ 社会保障・社会福祉の制度</p> <p>第12回 保健医療福祉の計画と評価① 地方公共団体の保健医療福祉計画</p> <p>第13回 保健医療福祉の計画と評価② 保健計画の策定プロセス</p> <p>第14回 保健医療福祉の計画と評価③ 保健計画の推進と評価</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ ①毎回、講義の最後に配布する「リアクションペーパー」に当日の講義に関する感想・疑問・意見等を自らが整理し、レポートとして提出することで、講義の振り返りを行うとともに、次回講義に対する関心を教員に伝える。 ②教員は、学生からのリクエストを参考に次回講義で学生からの疑問に回答する。 ③リアクションペーパーに対する内容は成績評価に反映させる。(45/100点)に反映させる(45/100点)</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習：現在、社会保障制度を始めとする保健医療福祉を取り巻く社会環境は日々大きく変化していることから、専門分野に限定せず、日々のニュースに関心を持つよう求める。 ※典拠の明らかなニュースや記事に関心を持つ 15分/日を目安</p> <p>復習：講義で学んだ内容の振り返り（配付資料の読み返す）を求める。 ※次週の講義時まで45分/週を目安（配付資料は平均45枚/回）</p>
授業の目的・到達目標	<p>保健医療福祉に関連した関係法規について、制定の背景や目的、内容及び現状における課題等に関して、医療関係職種としての基礎的な知識を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保健医療福祉に関する行政の仕組みについて総合的に理解する。 ●社会保障制度について理解する。 ●地域保健行政と保健師活動について理解する。 ●保健医療福祉に関連する行政計画と評価手法について理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	都道府県、市町村に対する政策コンサルティングおよび国（内閣府を始めとする中央省庁）や民間事業者との調整業務を通して得られた現実的な課題や政策動向を講義素材として用いるとともに、まちづくりの視点からの講義を行う。

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	なし（毎回、教員が作成したプリントを配布）
参考書	最新 保健学講座 7 保健医療福祉行政論 編集・野村陽子（京都橘大学看護学部教授）メヂカルフレンド社
評価基準及び成績評価方法	毎回レポート 毎講義時（講義時間内）にリアクションレポートを実施する。 3点/回×15回＝45点 定期試験55点
達成度の伝達	授業中に適宜説明
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：看護学概論

英文科目名称：Introduction to Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
川島美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	看護の基本概念を理解し、看護の役割について学ぶ。本学の建学の精神である「以和為貴」を基盤に、人間を総合的にとらえ、人と人、人と生活の調和を大切にし、健康に資する看護実践の基礎を学習する。看護及び看護教育の歴史の変遷を踏まえた上で、現在の看護における法と倫理について理解するとともに、生命・人格と尊厳を守り、倫理的な態度をもって看護をする重要性について学ぶ。また、看護に関連する諸理論を発展させて行われる看護実践について学習し、保健医療福祉サービスにおける看護専門職の役割とその責任について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 看護とは① 看護の本質：看護学を学ぶことの意義、看護の変遷、</p> <p>第2回 看護とは② 看護の本質：看護の定義、看護の現代の動向と今後の展望</p> <p>第3回 看護とは③ 看護の本質：看護の役割と機能</p> <p>第4回 看護とは④ 看護の本質：、医療・福祉・教育の専門職との連携とチームアプローチ、看護の継続性と情報共有</p> <p>第5回 看護の対象の理解①：人間のこころとからだ、生涯発達し続ける存在</p> <p>第6回 看護の対象の理解②：人間の生活の理解</p> <p>第7回 健康のとらえ方と国民の健康状態① 生活者の健康とは、健康に関連する要因</p> <p>第8回 健康のとらえ方と国民の健康状態② 社会の変遷と健康観の変化、人々の生活と健康に関する統計、ライフコースと日本人の平均像</p> <p>第9回 看護の提供者① 職業としての看護、看護職の養成制度と就業状況</p> <p>第10回 看護の提供者② 看護職者の教育とキャリア開発、看護職者の養成制度の課題</p> <p>第11回 看護における倫理① 現代社会と倫理</p> <p>第12回 看護における倫理② 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、看護実践における倫理問題への取り組み</p> <p>第13回 看護提供の仕組み① サービスとしての看護、看護サービス提供の場、看護をめぐる制度と政策</p> <p>第14回 看護提供の仕組み② 看護サービスの管理、医療安全と医療の質の保証、</p> <p>第15回 広がる看護の活動領域① 国際化と看護、災害時における看護</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義13回、グループワーク2回</p> <p>◆予習・復習の時間 予習・復習の時間45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護の基本概念・看護の役割について学び、人間を総合的にとらえ健康に資する看護実践の基礎を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の基本概念、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性を理解できる。 ・看護の対象である人間を看護の視点から総合的に理解し、健康課題の解決に向けた看護がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師としての実務経験をもつ教員が、看護の基礎的知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	<p>茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野 I 看護学概論、医学書院（2019）。</p> <p>ヘンダーソン、V. (1960)：看護の基本となるもの、湯楨ます・小玉香津子訳、日本看護協会出版会（2018）</p> <p>日本看護協会：看護者の基本的責務、日本看護協会出版会（2019）</p>
参考書	
評価基準及び成績	課題レポート20%、筆記試験80%

評価方法	
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	看護学概論は看護の導入の科目です。皆さんと一緒に看護とは何かを追求していきたいと思います。看護の変遷を学ぶと同時に、社会が求めている看護職への期待と責任について関心を寄せることが求められます。
履修登録条件	

講義科目名称：ヘルスアセスメント

英文科目名称：Health assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
斉藤利恵子、小谷千晴、石井みゆき、川島美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	看護の対象となる人の健康上の課題をアセスメントするための基礎的知識と技術を学ぶ。対象者を観察し、看護をするために必須となるコミュニケーションの意義・目的を理解し、人間関係を形成するための基礎的技術を習得する。そして、対象者の様々な側面の情報を統合してヘルスアセスメントを行い、その結果を活かした支援技術について学ぶことにより、臨床において活かすことのできる基礎的な判断力を養う。また、ヘルスアセスメントの思考過程を深めるためのフィジカルアセスメントについて学ぶ。包括的な問診によるデータ収集とフィジカルアセスメントにより身体を系統別にアセスメントするとともに、それらを統合して診断するための知識、基礎的技術を習得する。異常・正常の判断のみならず、危険性の予測及び、治療・治癒に伴う症状の変化についても学修し、看護職者の役割と責任について学ぶ。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス ヘルスアセスメントの考え方、心理社会状態のアセスメント 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「ヘルスアセスメントとは」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第2回	健康歴の聴取 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「健康歴とセルフケア能力のアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第3回	バイタルサインの観察とアセスメント(1)：体温・脈拍・呼吸 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「フィジカルアセスメントに必要な技術」「体温・脈拍・呼吸」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第4回	バイタルサインの観察とアセスメント(2)：体温・脈拍・呼吸 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「フィジカルアセスメントに必要な技術」「体温・脈拍・呼吸」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第5回	バイタルサインの観察とアセスメント(3)：血圧・意識 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「血圧」「意識」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第6回	バイタルサインの観察とアセスメント(3)：血圧・意識 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「血圧」「意識」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第7回	I呼吸器系のフィジカルアセスメント(1) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「呼吸器系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第8回	I呼吸器系のフィジカルアセスメント(2) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「呼吸器系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第9回	I呼吸器系のフィジカルアセスメント(3) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「呼吸器系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。学修したことを整理する。		
	第10回	循環器系のフィジカルアセスメント(1) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「循環器系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第11回	循環器系のフィジカルアセスメント(2) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「循環器系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第12回	腹部のフィジカルアセスメント(1) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「腹部のフィジカルアセスメント」「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第13回	筋骨格系のフィジカルアセスメント(1) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「腹部のフィジカルアセスメント」「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第14回	筋骨格系のフィジカルアセスメント(2) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「腹部のフィジカルアセスメント」「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第15回	神経系のフィジカルアセスメント(1) 【予習】：教科書(医学書院)ヘルスアセスメントの章「神経系のフィジカルアセスメント」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義10回、演習(実技)5回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間		

授業の目的・到達目標	<p>看護の対象であるクライアントのニード・欲求に応じた必要な看護援助を提供するために、対象の健康に関するヘルスアセスメント能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるヘルスアセスメントの目的、意義および概要を説明できる。 ・ヘルスアセスメントで収集する情報の種類と収集の方法を説明できる。 ・フィジカルアセスメントの基本技術が実施できる。 ・収集した情報をアセスメント、評価できる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師としての実務経験を持つ教員が、ヘルスアセスメントに関する講義・演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	<p>横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メデカルフレンド社（2019）</p> <p>茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院（2019）</p>
参考書	授業中に適宜紹介をする。
評価基準及び成績評価方法	定期試験80%、実技試験10%、事前事後学修課題・小テスト10%により総合的に評価する。総合評価が60点以上を合格点とする。
達成度の伝達	実技試験については評価表を用いて伝達する。事前事後学修課題・小テストについては途中達成状況を伝え、返却をする。試験終了後に総合達成状況を明らかにする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	ヘルスアセスメントは人体構造学・人体機能学の知識を土台としているため、日々の予習は授業を理解するうえで大切です。また、皆さんの身体を教材とするためお互いの協力が欠かせません。演習終了後の復習も積極的に演習室を使って取り組んでください。基礎看護学教員の研究室は演習室前にありますので、積極的に声をかけて学びを深めてください。
履修登録条件	

講義科目名称：人間関係論

英文科目名称：Human relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	良好な人間関係を成立させるために不可欠な基本的コミュニケーション技法を学ぶ。さらに、看護専門職としてコミュニケーション成立に関する方法と、その過程を学習する。これらを通して、援助的な人間関係の在り方について考える機会とする。講義全般を通して体験学習に取り組み、その後ディスカッションで考えを深めることにより、学びが習得されていく学習構造を目指している。
授業計画	<p>第1回 【オリエンテーション】 講義の概要と講義計画。評価の説明。人間関係論を学ぶ意義について。 予習：シラバスの内容を通読し、わからないところを明確にして臨む。 復習：リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第2回 【自己理解】 自己概念とは。自己のとらえ方を理解し、自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。エクササイズ「私は誰？」 予習：テキストPP2-17を読む。 復習：リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第3回 【価値観】 個々の価値観の違いを理解する。エクササイズ「クルーザー」 予習：テキストPP18-31を読む。 復習：連続講義のため第4回を参照のこと。</p> <p>第4回 【価値観】 個々の価値観の違いを理解する。グループディスカッションと発表 予習：連続講義のため第3回を参照のこと。 復習：気づきの明確化シート・リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第5回 【相互理解】 非言語的相互理解の体験学習。エクササイズ「ブラインド作詞」 予習：テキストPP40-42を読む。 復習：エクササイズを振り返り、ワークシート・リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第6回 【コミュニケーション（1）】 基本概念 タッチングゲーム 予習：・系統看護学講座基礎看護技術I（医学書院）PP18-39：コミュニケーションを通読し、わからないところを抽出してくる。 復習：リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第7回 【コミュニケーション（2）】 話す アサーショントレーニング 予習：テキストpp57-71を読む。 復習：連続講義のため第8回を参照のこと。</p> <p>第8回 【コミュニケーション（3）】 きく ロールプレイ 予習：連続講義のため第7回を参照のこと。 復習：リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第9回 【コミュニケーション（4）】 みる エクササイズ「効果的な沈黙」 予習：テキストpp72-80を読む。・系統看護学講座基礎看護技術I（医学書院）PP39-58を通読し、わからないところを抽出してくる。 復習：リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第10回 【共感的理解（1）】 基本概念 予習：テキストpp81-99を読む。 復習：エクササイズを振り返り、ワークシート・リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第11回 【共感的理解（2）】 効果的なコミュニケーションの基本方法（観察・傾聴・確認・共感） 予習：テキストpp100-102を読む。 復習：エクササイズを振り返り、ワークシート・リフレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第12回 【共感的理解（3）】 感じる・わかる 予習：事前配布資料を通読してくる。 復習：フレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第13回 【共感的コミュニケーション】 演習「臨床でのコミュニケーションを振り返る」 予習：共感的理解の講義内容を振り返り演習できる準備を整えてくる。 復習：連続講義のため第8回を参照のこと。</p> <p>第14回 【共感的コミュニケーション】 演習 予習：連続講義のため第13回を参照のこと。 復習：フレクションシャトルカードに取り組む。</p> <p>第15回 セルフカウンセリング 予習：事前配布資料を通読してくる。 復習：これまでの学びをもとにレポート課題に取り組む。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義1回、ディスカッション・グループワーク12回、演習2回</p>
授業の目的・到達目標	<p>1 様々な人間関係のあり方について理解する。 2 これまでの自身の人間関係の持ち方について振り返り、言語化できる。 3 自己と他者を相互に尊重する人間関係のあり方について理解する。 4 対人援助職や組織における人間関係の特徴を理解する。 5 人間関係トラブルを関係性に基き考察し、解決の試みが導き出せる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	看護職を中心とした医療福祉分野の専門職に対し、傾聴と共感についての講話や実践スキル習得のための研修で講師をしてきている教員が教育実践にあたる。

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、看護専門科目群から配置した科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」、「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	星野欣生著 人間関係づくりトレーニング 金子書房 2010
参考書	系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ(医学書院)
評価基準及び成績評価方法	授業毎のリフレクションシートカードを40%・グループワーク20%・課題レポート40%として評価する。 リフレクションシートカードは以下の点を重視し評価する ①講義内のエクササイズやグループディスカッションを通して、「学べたこと」が書かれているか。 ②学びが自身の体験と照合され、具体的な活用や理解となっているか。 レポートは以下の点を重視し評価する ①課題が自身の体験に基づき(照合され)考えられているか。 ②安易に結論付けることなく多方向からの検討がなされているか。 ③考えの根拠に文献が用いられ明示されているか。
達成度の伝達	リフレクションシートカードは次回講義時に返却することを原則とする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	人と関わる仕事を目指す皆さんにとって、「人間関係論」の学びは欠くことができません。知識として理解することにとどまることなく、たくさんのエクササイズやディスカッションでの体験を通して学びを深め活用できる知識と技術を体得していただきたいと考えております。楽しく学びましょう。 オフィスアワー:月曜日(終日)・火曜日(終日)(原則学内におりますので、不在の場合は研究室前のボードにメモを残していただければ速やかに連絡いたします)
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論 I

英文科目名称：Basic nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
斉藤利恵子、石井みゆき、小谷千晴、川島美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	看護の対象者と、その人の生活の調和への援助について学ぶ。看護の対象となる人の健康を維持・増進することを目的とした調和した生活への支援方法について、基礎的な知識と技術を習得する。安全・安楽に調和した生活を送るための環境調整を始めとする様々な日常生活援助技術（食と排泄への援助、感染予防及び清潔および衣生活への援助、活動と休息への援助等）を、対象者の生活や健康状態に応じて科学的根拠に基づき判断・選択し、実施できる基礎的能力を養う。技術習得のための演習を充分に行う。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 看護技術を学ぶために(1) 共通看護技術：コミュニケーション・感染予防・観察 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅰ「看護技術を学ぶにあたって」の章を読む。 教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術の章「手指衛生」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第2回	看護技術を学ぶために(2) 共通看護技術：コミュニケーション・感染予防・観察 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅰ「看護技術を学ぶにあたって」の章を読む。 教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術の章「手指衛生」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第3回	環境調整(1)：療養生活 共通看護技術：環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整技術の章「療養生活」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第4回	環境調整(2)：療養生活 共通看護技術：環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整技術の章「療養生活」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第5回	環境調整(3)：ベッド周囲の環境整備 共通看護技術：環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整技術の章「ベッド周囲の環境整備」「病床を整える」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第6回	環境調整(4)ベッド周囲の環境整備 共通看護技術：環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整技術の章「ベッド周囲の環境整備」「病床を整える」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第7回	活動・休息援助技術：ボディメカニクス 共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 活動・休息援助技術の章「ボディメカニクス」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第8回	環境調整(5)ベッド周囲の環境整備 共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整技術の章「ベッド周囲の環境整備」「病床を整える」活動・休息援助技術の章「ボディメカニクス」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第9回	感染防止の技術(1)：標準予防策 共通看護技術：感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術の章「感染防止の基礎知識」「標準予防策」「感染経路別予防策」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第10回	感染防止の技術(2)：標準予防策 共通看護技術：感染予防・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術の章「感染防止の基礎知識」「標準予防策」「感染経路別予防策」を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第11回	活動・休息援助技術(1)：移動 共通看護技術：ボディメカニクス・コミュニケーション・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 活動・休息技術の章「体位」「移動」を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第12回	活動・休息援助技術(2)：移動 共通看護技術：ボディメカニクス・コミュニケーション・観察・安全安楽 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 活動・休息技術の章「体位」「移動」を読む。		

第13回	<p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p> <p>活動・休息援助技術(3)：睡眠・休息 共通看護技術：コミュニケーション・観察・安全安楽</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 活動・休息技術の章「睡眠・休息」を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第14回	<p>清潔・衣生活援助技術(1)：入浴・シャワー浴・全身清式</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「清潔の基礎知識」「入浴・シャワー浴」「全身清式」を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第15回	<p>清潔・衣生活援助技術(2)：全身清式</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「清潔の基礎知識」「入浴・シャワー浴」「全身清式」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第16回	<p>清潔・衣生活援助技術(3)：全身清式</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「清潔の基礎知識」「入浴・シャワー浴」「全身清式」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第17回	<p>清潔・衣生活援助技術(4)：寝衣交換・リネン交換</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「病床での衣生活の援助」、環境調整技術の章「リネン交換」を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第18回	<p>清潔・衣生活援助技術(5)：寝衣交換・リネン交換</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「病床での衣生活の援助」、環境調整技術の章「リネン交換」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第19回	<p>清潔・衣生活援助技術(6)：寝衣交換・リネン交換</p> <p>共通看護技術：ボディメカニクス・環境・コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「病床での衣生活の援助」、環境調整技術の章「リネン交換」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。。</p>
第20回	<p>清潔・衣生活援助技術(7)：洗髪・手浴・足浴・整容</p> <p>共通看護技術：コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「洗髪」「手浴」「足浴」を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第21回	<p>清潔・衣生活援助技術(8)：洗髪・手浴・足浴・整容</p> <p>共通看護技術：コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「洗髪」「手浴」「足浴」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第22回	<p>清潔・衣生活援助技術(9)：洗髪・手浴・足浴・整容</p> <p>共通看護技術：コミュニケーション・感染予防・観察・安全安楽・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「洗髪」「手浴」「足浴」を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第23回	<p>清潔・衣生活援助技術(10)・食事援助技術(1)：口腔ケア・非経口的栄養</p> <p>共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「口腔ケア」、食事援助技術の章を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第24回	<p>清潔・衣生活援助技術(11)・食事援助技術(2)：口腔ケア・食事摂取の介助</p> <p>共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「口腔ケア」、食事援助技術の章を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第25回	<p>清潔・衣生活援助技術(12)・食事援助技術(3)：口腔ケア・食事摂取の介助</p> <p>共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 清潔・衣生活援助技術の章「口腔ケア」、食事援助技術の章を読む。</p> <p>【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第26回	<p>排泄援助技術(1)：排尿・排便・床上排泄</p> <p>共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告</p> <p>【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 排泄援助技術の章を読む。</p> <p>【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第27回	<p>排泄援助技術(2)：床上排泄</p>

	<p>共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 排泄援助技術の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p> <p>第28回 排泄援助技術(3)・清潔・衣生活援助技術(12)：オムツ交換・陰部洗浄 共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 排泄援助技術の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p> <p>第29回 排便困難時の介助(1)：浣腸・摘便 共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整・感染防止・清潔援助技術の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p> <p>第30回 排便困難時の介助(2)：浣腸 共通看護技術：安全安楽・観察・環境・コミュニケーション・感染予防・記録・報告 【予習】：教科書(医学書院)基礎看護技術Ⅱ 環境調整・感染防止・清潔援助技術の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義13回 演習(実技)17回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	看護の対象の看護援助に必要な看護技術の原理・原則を理解し、科学的根拠に基づいた日常生活援助技術を学ぶ。 ・看護技術の原理・原則について学び、科学的根拠の重要性について理解できる。 ・日常生活技術の基本が理解できる。 ・対象の状況に合わせた日常生活援助の方法を、科学的根拠に基づいて考えることができる。 ・看護職としての倫理的態度がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師として実務経験を持つ教員が、日常生活援助技術の講義・演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院(2019) 任 和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院(2019) 藤野彰子：看護技術ベーシック第2版 サイオ出版
参考書	授業中に適宜紹介をする。
評価基準及び成績評価方法	定期試験80%、実技試験(1回)10%、事前事後学修課題提出10%により総合的に評価する。総合評価が60点以上を合格とする。
達成度の伝達	実技試験については評価表を用いて伝達する。事前事後学修課題については達成状況を伝え返却する。試験終了後に総合達成状況を明らかにする。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	この科目は、講義室での座学と実習室での看護技術演習から成り立っています。看護技術は、みて！まねて！やってみる！の繰り返しを行うことで身に付きます。実習室をフル活用しながら、主体的に学ぶことが求められます。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Basic nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	演習
担当教員				
小谷千晴、石井みゆき、斉藤利恵子、川島美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	看護の対象となる人が、診察、検査や治療を安全・安楽に受けることができるようになるための基礎的な知識と技術について学ぶ。診療や検査の内容と看護者の役割について理解し、対象者に応じた援助が実施できる基礎的能力を養う。また、呼吸・循環を整える援助、排泄を促す援助、与薬、創傷管理、補完代替療法、死後の処置に際してのアセスメントおよび基礎的技術を習得する。そのための演習を十分に行う。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 感染防止の技術：1 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 共通看護技術：スタンダードプリコーション 【予習】：テキスト 感染防止の技術 無菌操作の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第2回	感染防止の技術：2 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 【演習】 共通看護技術：スタンダードプリコーション 【予習】：テキスト 感染防止の技術 無菌操作の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第3回	排泄援助技術：1 導尿 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 腎・生殖器系の構造と機能について調べる。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第4回	排泄援助技術：2 導尿 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 導尿の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第5回	与薬の技術：1 与薬の基礎知識 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 与薬の基礎知識の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第6回	与薬の技術：2 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮与薬、直腸内与薬 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮与薬、直腸内与薬 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第7回	与薬の技術：3 注射の基礎知識 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第8回	与薬の技術：4 注射の基礎知識 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第9回	与薬の技術：5 注射 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第10回	与薬の技術：6 注射 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第11回	与薬の技術：7 注射 静脈内注射、輸血の管理 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第12回	与薬の技術：8 注射 静脈内注射、輸血の管理 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第13回	与薬の技術：9 注射 静脈内注射、輸血の管理 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 与薬の技術 注射の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第14回	呼吸・循環を整える技術：1 吸引、吸入、酸素吸入療法、排痰ケア 共通看護技術：観察・記録・報告、指示受け、コミュニケーション 【予習】：呼吸器系、循環器系の構造と機能について調べる 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。		
	第15回	呼吸・循環を整える技術：2 吸引、吸入、酸素吸入療法、排痰ケア 【演習】 共通看護技術：観察・記録・報告、指示受け、コミュニケーション 【予習】：テキスト 呼吸・循環を整える技術 吸引、吸入、酸素吸入療法、排痰ケアの章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。		

第16回	<p>診察・検査・処置の介助技術：診察の介助、生体検査洗浄の介助など 【予習】：テキスト 侵襲的処置の介助技術の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第17回	<p>症状・生体機能管理技術：1 生体情報のモニタリング：心電図検査、心電図モニター、SpO2モニター、血管留置カテーテルモニター 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 症状・生体機能の管理技術 生体情報のモニタリングの章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第18回	<p>症状・生体機能管理技術：2 検体検査：血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 症状・生体機能の管理技術 検体検査の章を読む 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第19回	<p>症状・生体機能管理技術：3 検体検査：採血 【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 症状・生体機能の管理技術 採血の章を読む 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第20回	<p>模擬患者演習のオリエンテーション、事前準備 共通看護技術：バイタルサイン測定、コミュニケーション、観察・記録 【予習】：正しいバイタルサイン測定の方法について事前学習しておく。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第21回	<p>模擬患者演習 共通看護技術：バイタルサイン測定、コミュニケーション、観察・記録 【予習】：正しいバイタルサイン測定の方法について事前学習しておく。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第22回	<p>模擬患者演習 共通看護技術：バイタルサイン測定、コミュニケーション、観察・記録 【予習】：正しいバイタルサイン測定の方法について事前学習しておく。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第23回	<p>創傷管理技術：1 技術の基礎知識 創傷処置、褥瘡予防 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 創傷管理技術 皮膚の構造と機能の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第24回	<p>創傷管理技術：2 技術の基礎知識 創傷処置、褥瘡予防【演習】 共通看護技術：無菌操作、観察・記録・報告 【予習】：テキスト 創傷管理技術 皮膚の構造と機能の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第25回	<p>安全確保の技術：1 安全確保技術の基礎知識 共通看護技術：観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 安全確保の技術の章を読む。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第26回	<p>安全確保の技術：2 安全確保技術の基礎知識 【演習】 共通看護技術：観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 安全確保の技術の章を読む。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第27回	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術：1 温罨法・冷罨法 共通看護技術：安全確保、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：テキスト 苦痛の緩和・安楽確保の技術の章を読む 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第28回	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術：2 身体ケアを通じてもたらされる安楽、代替補完療法：タッチング、マッサージ、リラクゼーション法など 共通看護技術：安全確保、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：ケアリングについて調べる。 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第29回	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術：3 罨法・身体ケアを通じてもたらされる安楽 【演習】 共通看護技術：安全確保、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：ケアリングについて調べる。 【復習】：演習で学修した内容と課題レポートを記述する。</p>
第30回	<p>死の看取りの援助：死にゆく人と周囲の人々のケア、死亡後のケア、グリーフケア 共通看護技術：安全確保、観察・記録・報告、コミュニケーション 【予習】：人の死について調べる 【復習】：講義で学修した内容と課題レポートを記述する。 ◆アクティブラーニング◆ 講義15回、演習（実技）15回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習の時間22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>健康障害のある対象の看護に必要なとなる、診療に伴う看護援助技術、死の看取りの援助技術を修得する。 ・看護技術の原理・原則について学び、科学的根拠の重要性について理解できる。 ・診療に伴う援助技術の基本がわかる。 ・死の看取りに関する援助技術の基本がわかる。 ・安全で、安楽な、患者の状態に合わせた援助技術を考えることができる。 ・看護職者としての倫理的態度について理解できる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>看護師としての実務経験を持つ教員が、診療に伴う看護援助技術、死の看取りの援助技術に関する講義と演習を行う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とさ</p>

	れる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院(2019) 任 和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院(2019) 藤野彰子：看護技術ベーシックス第2版 サイオ出版
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	課題レポート10%、筆記試験80%、技術テスト10%
達成度の伝達	レポートはチェックを入れて返却する。技術テストは個人に結果を説明する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	この科目は、講義室での座学と実習室での看護技術演習から成り立っています。 看護技術は、みて！まねて！やってみる！の繰り返しを行うことで身に付きます。 実習室をフル活用しながら、主体的に学ぶことが求められます。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅲ

英文科目名称：Basic nursing methodology 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
川島美佐子				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	看護の対象となる人の健康上の課題を解決するための思考過程について、その理論と方法を段階的に学ぶ。対象者に起こる現象を観察し、アセスメントすることによって導き出される健康上の課題を診断し（看護診断）、対象者のアウトカムに達成しうる計画を立案・実施・評価する過程について学習する。また、評価を常にフィードバックして、より良い看護を目指すことを理解し、その過程が科学的根拠に基づいたものであるのかをクリティカルに思考する態度を養う。
授業計画	<p>第1回 看護理論とは何か</p> <p>第2回 看護理論を実践に活かすプロセス</p> <p>第3回 一般モデルの概観：ニード・システム・危機・悲嘆・発達理論</p> <p>第4回 看護理論を看護実践に活用する方法：ヘンダーソン</p> <p>第5回 看護理論を看護実践に活用する方法：オレム看護理論</p> <p>第6回 看護理論を看護実践に活用する方法：ロイ看護理論</p> <p>第7回 ゴードンの機能的健康パターン</p> <p>第8回 ゴードンの機能的健康パターン</p> <p>◆アクティブラーニング◆ GW 2回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習時間22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的 看護の対象となる人の健康上の課題を解決するための過程について、その理論と方法を段階的に学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の特徴を理解する。 2. 看護理論を実践に活かすプロセスを確認する。 3. 看護理論を看護実践に活用する方法を検討する。 4. 看護過程の各段階と機能を理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師としての実務経験を活かし、臨床の看護実践における看護理論の活用についてわかりやすく講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・城ヶ端初子：看護実践に生かす看護理論，サイオ出版，2013年 ・日本腎不全看護学会：腎不全看護，医学書院，2016年。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験100%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	看護の対象理解の方法や看護実践は複雑で正解のないものです。それらの理解を容易にするために看護理論や看護過程があるので。看護理論を難解なものにとらえず、身近な体験や事例紹介を通しながら学びましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護方法論Ⅳ

英文科目名称：Basic nursing methodology 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
川島美佐子、斉藤利恵子、小谷千晴、石井みゆき				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要	健康上の課題をもつ看護の対象者について、紙面上で事例展開を行う。 提示された情報をもとに、フレームワークを行い、アセスメントを進める。この際、不足しているが必要な情報についても明確にすることにより、アセスメント力の向上を図る。看護診断の確定については、その根拠を明確にし、アウトカムが現実的であるか考察する。提示された実施結果をもとに経過記録と評価・修正を行い、看護過程のプロセスについてシミュレーションを行う。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 事例に基づいた看護過程の展開について</p> <p>第2回 事例に基づいた看護過程の展開GW②：情報収集、情報の分類、アセスメント（健康知覚-健康管理）</p> <p>第3回 事例に基づいた看護過程の展開GW③：情報収集、情報の分類、アセスメント（活動-運動、睡眠-休息、栄養-代謝、</p> <p>第4回 事例に基づいた看護過程の展開GW④：情報収集、情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性、役割-関係、</p> <p>第5回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑤：情報の分類及びアセスメント、関連図</p> <p>第6回 事例に基づいた看護過程の展開⑥：データベースアセスメントと関連図 中間発表</p> <p>第7回 事例に基づいた看護過程の展開⑦：データベースアセスメントと関連図 中間発表</p> <p>第8回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑧：看護問題の抽出と明確化</p> <p>第9回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑨：目標設定</p> <p>第10回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑩：看護計画の立案</p> <p>第11回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑪：看護計画の立案</p> <p>第12回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑫：看護過程の展開 最終発表</p> <p>第13回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑬：看護過程の展開 最終発表</p> <p>第14回 事例に基づいた看護過程の展開GW⑭：看護過程の展開：看護実践と評価</p> <p>第15回 看護過程の展開の意味と実践に生かす方略（臨地実習への適応）</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 毎回、講義とグループワークを行います。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 予習・復習時間 11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>基礎看護方法論Ⅲで学習した知識を基に、実際に看護過程を展開する方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・分類・アセスメント・看護診断・看護問題の抽出ができる。 ・看護問題に対する優先順位が考えられ、それぞれの看護目標・看護計画の立案ができる。 ・立案した看護計画に基づいて、一日の行動計画が立案できる。 ・看護の対象の反応などから、看護の評価・修正がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師としての実務経験を有する教員が、その経験を活かした看護過程の展開方法について講義と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野茂おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院、2017（1年次購入済み）。 ・実習記録の書き方のポイント サイオ出版、2017。
参考書	
評価基準及び成績評価方法	看護過程展開レポート及びグループワーク参加状況 100%

達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	本科目は、提示された事例に基づいて、看護過程を段階的に学びます。看護過程はクリティカルシンキングの能力が必要です。グループワークを中心とした形態で、自己学修や学生間の討議で学びを深めます。学生の主体的な学習活動が主ですが、教員がみなさんをファシリテートしながらすすめます。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護学実習 I

英文科目名称：Basic nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年次	1単位	必修	実習
担当教員				
斉藤利恵子、小谷千晴、川島美佐子、石井みゆき 他				
看護専門科目群	看護専門分野 I	基礎看護学		

授業概要
 看護の対象となる人の生活や健康上の課題について学び、看護が行われる場について知る。健康上の課題をもつ人が多く利用する病院の役割・機能について理解し、対象者が安全、安楽に利用できる環境について学ぶ。また、対象者が滞在する病室の環境測定を実施し、調和した生活を送るための療養環境と、看護職者の環境調整における役割について考察する。◆実習方法・内容◆ 1. 実習グループは、1グループ5から6名の学生で編成する。2. 自己の課題を明確にして、目標をもって実習に臨む。3. 実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学修の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習における留意点などを確認する。4. 学生1名につき患者1名を受け持つ。5. 看護を展開するにあたり、十分な事前学修の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者からの助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。6. カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス・ケースカンファレンス・テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者からの助言を受ける。

授業計画

第1日目 基礎看護学実習 I-1 (学内)
 1. 実習オリエンテーション
 2. 実習目的目標
 3. 実習方法
 4. 倫理と個人情報の管理
 5. 実習に関連した規定等
 6. 身だしなみとコミュニケーション
 7. 初めての实習 マナーとカンファレンス (DVD)

第2日目 基礎看護学実習 I-1
 1. 全体オリエンテーション (病院概要・実習上の留意点等)
 2. 病院見学 (外来・検査室等を見学・環境測定等)
 3. 午前中の振り返り
 4. 病棟オリエンテーション
 5. 病棟内の見学 (廊下やトイレ、病棟等の測定)
 6. 患者とのコミュニケーション
 7. カンファレンス

第1日目 基礎看護学実習 I-2
 1. 病棟オリエンテーション
 2. 受持ち対象者の説明
 3. 情報収集
 4. バイタルサイン測定
 5. 患者とのコミュニケーション
 6. カンファレンス

第2日目 基礎看護学実習 I-2
 1. 環境調整
 2. バイタルサイン測定
 3. 清潔ケア
 4. 情報収集
 5. 患者とのコミュニケーション
 6. カンファレンス

第3日目 基礎看護学実習 I-2 (学内)
 1. 記録物のまとめ
 2. 実習の振り返り
 3. 個人面接 等
 ◆アクティブ・ラーニング◆
 実習100%
 ◆予習・復習の時間◆
 実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。

授業の目的・到達目標

基礎看護学実習 I-1
 目的：ヘルスプロモーションにおける看護サービスの提供の場への理解を深める。
 目標：1. 病院および病棟の設備・構造・機能が理解できる。
 2. 病院および病棟における利用者の安全に対する工夫や対応を理解できる。
 3. 病室の環境測定を行い、対象の療養環境について考察することができる。

基礎看護学実習 I-2
 目的：看護の対象と看護活動の場への理解を深め、看護者としての基本的な姿勢・態度を習得する。
 目標：1. 対象の生活している療養環境を理解し、生活の場として環境を整えることができる。
 2. 原理・原則に基づいて基本的な援助技術が実施できる。
 3. 対象とのコミュニケーションができ、患者—看護師関係について考察することができる。
 4. 看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。

実務経験に基づく知識の伝達

教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」、「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的 根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置した、看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。

教科書 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院(2019)

	任 和子 : 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院(2019) 藤野彰子 : 看護技術ベーシック第2版 サイオ出版
参考書	DVD 看護学生のための初めての実習ガイド 阿曾洋子他 医学映像教育センター
評価基準及び成績 評価方法	基礎看護学実習Ⅰ-1とⅠ-2の評価表を用いそれぞれ評価し合算する。総合評価が60%以上を合格とする。
達成度の伝達	適宜個別面接をする。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	基礎看護学実習Ⅰはコミュニケーションや清潔援助、移動等の日常生活援助を学びます。空いている時間を活用し、基本的な援助技 術を身につけましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：基礎看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Basic Nursing Practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	実習
担当教員				
川島美佐子、石井みゆき、斉藤利恵子、小谷千晴 他				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅰ	基礎看護学		

授業概要	対象者が健康上の課題をもつことによって影響が及ぼされる日常生活や、家庭・社会等における役割の変化、対象者の精神的・社会的背景について理解する。 対象者の健康上の課題に応じた看護過程を実践し、看護の実際について学習し、基本的な姿勢・態度について学ぶ。また、看護が行われる場の機能及び看護専門職者の役割と責任について理解する。
授業計画	<p>第1日目 基礎看護学実習Ⅱ（学内）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション 2. 受け持ち患者決定と事前学習 <p>第2～4日目 基礎看護学実習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟オリエンテーション 2. コミュニケーション 3. バイタルサイン測定・環境調整 4. 看護過程に応じた看護の実際 情報収集とアセスメント 5. カンファレンス <p>第5日目 基礎看護学実習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程に応じた看護の実際 関連図・問題リスト・看護計画 2. 面接指導 3. カンファレンス <p>第6～7日目 基礎看護学実習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟オリエンテーション 2. コミュニケーション 3. バイタルサイン測定・環境調整 4. 看護過程に応じた看護の実際 アセスメントと看護の実施・評価 5. アセスメントカンファレンス <p>第8～10日目 基礎看護学実習Ⅱ（学内）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の記録物のまとめ 評価、経過記録等 2. 個別面接 3. 最終カンファレンス <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100% ◆予習・復習時間◆ 実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。</p>
授業の目的・到達目標	<p>対象を理解し、個に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションにより患者-看護者関係を築くことができる。 2. 対象の健康問題・健康課題について看護過程の展開を通して、看護を実践できる。 3. 対象に必要な援助を倫理的配慮をもって安全・安楽に実施できる。 4. 看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護師としての実務経験を有する教員の指導の下、基礎的看護実践に関する実習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	特になし
参考書	その都度、紹介する。
評価基準及び成績評価方法	行動目標を評価基準とし、病棟実習・学内実習および看護学実習カンファレンスにおける言動、記録物・レポートの記載内容、出席状況に基づき評価する。
達成度の伝達	中間評価として、教員の個別面接により達程度を明らかにする。最終評価 評価基準の達成度とコメントを書く。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	基礎看護学実習Ⅱでは、患者を1名受け持ち、看護過程を展開する授業です。これまで学内で学んだ知識や技術を、患者に適した方法で活用し、実践し振り返り学びにつなげていく科目です。患者に適した看護を考えていくためには、患者を全人的にアセスメントする必要があります。アセスメントするための基本的な方法を実践的に学びます。
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護学概論

英文科目名称：Introduction to adult nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
青山みどり				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ	成人看護学	

授業概要	成人期にある対象の発達段階の特徴と生活について理解し、生活環境・習慣、職業等が成人期にある対象の健康へどのような影響を及ぼすのか、過程について学ぶ。 また、成人期にある対象への看護を実践するうえで必要な諸理論、看護モデルについて学習し、対象の健康レベルに応じた看護を実践するための基礎を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 成人の生活と健康 (1) 成人看護の対象：ライフサイクルからみた成人期、成人に対する看護の視点 予習：教科書のp1から30を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 成人の生活と健康 (2) 成人を取り巻く現代の状況 予習：教科書のp31から58を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 成人期にある対象の健康 (1) 健康とは、成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策と今日の課題 予習：教科書のp59から84を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 成人期にある対象の健康 (2) 成人期にある対象に起こりうる健康障害の特徴：生活習慣病、職業疾患 予習：教科書のp85から103を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 成人期にある対象の健康 (3) 成人期にある対象に起こりうる健康障害の特徴：生活ストレス、更年期 予習：教科書のp104から122を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 成人への看護のアプローチの基本 (1) 人間関係を促進する援助 予習：教科書のp123から137を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 成人への看護のアプローチの基本 (2) 危機から適応を促進する援助 予習：教科書のp138から159を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 成人への看護のアプローチの基本 (3) セルフケア、発達を促進する援助 予習：教科書のp160から171を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 成人への看護のアプローチの基本 (4) 家族・文化とは、統合を促進する援助 予習：教科書のp172から197を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 健康レベルに応じた看護 (1) ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション 予習：教科書のp198から215を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 健康レベルに応じた看護 (2) 急性の状態にある対象への看護、機能障害を有する対象への看護 予習：教科書のp216から235を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 健康レベルに応じた看護 (3) 慢性的な経過をたどる対象への看護、終末期にある対象への看護 予習：教科書のp236から257を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 成人看護を充実させる実践的環境 (1) 成人における人権擁護、専門職間の連携と協働 予習：教科書のp258から274を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 成人看護を充実させる実践的環境 (2) 質の高い看護実践のための人材育成、医療の質保証とリスクマネジメント 予習：教科書のp275から284を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習45時間</p>
授業の目的・到達目標	成人期にある対象の特徴を多面的に理解し、対象の特性に応じた看護を展開する基礎的な援助について修得する。 ・成人看護の対象を、成長発達段階、生活環境・生活習慣、職業、健康状態などの側面から特徴を理解できる。 ・成人の多様な健康観や価値観を踏まえ、看護を実践するために様々な諸理論、看護モデルを理解できる。 ・成人看護における看護職の役割と機能を理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、成人期にある対象の看護実践経験を活かし、成人期にある対象の特徴および対象の理解に必要な基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。

教科書	成人看護学 成人看護学概論第3版 林直子他編集 南江堂
参考書	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学1 成人看護学総論 小松浩子他著 医学書院
評価基準及び成績評価方法	課題レポート20%（授業の最後にも書いてもらうレポート、テーマに則って自分の考えを書いてもらうレポート）、筆記試験80%で計算する。
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	成人看護学概論は、これから成人看護学を学習していくうえでの基盤となる科目です。成人期の対象を看護するうえで大切なことはなにか、対象への看護実践にはどのような知識、技術が必要なのか授業の中で一緒に考えていきましょう。まずは日頃から、周囲にいる大人を観察したり、自分自身の健康に関心を持ちましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論 I

英文科目名称：Adult nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
青山みどり、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野 II	成人看護学		

授業概要	生命が危機的な状態にある人、疾病が重篤で健康状態が急激に変化している人、外傷や手術療法によって身体的侵襲を受けた人をアセスメントするための基礎を学び、異常の早期発見・対処、合併症の予防、生命維持への援助等について学習する。また、回復過程にある人へのリハビリテーションやセルフケアの再構築への援助について理解し、対象の健康生活を促進する看護について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 急性期看護概論① 予習：教科書のp13から43を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 急性期看護概論② 周手術期：術前看護 予習：教科書のp45から56を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 急性期看護概論③ 周手術期：術中看護 予習：教科書のp57から74を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 急性期看護概論④ 周手術期：術後看護 予習：教科書のp75から94を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 周手術期看護の実際① 呼吸器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp111から122を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 周手術期看護の実際② 循環器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp123から150を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 周手術期看護の実際③ 消化器・代謝器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp151から178を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 周手術期看護の実際④ 脳神経器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp191から201を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 周手術期看護の実際⑤ 運動器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp213から220を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 周手術期看護の実際⑥ 排泄器に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp179から190を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 周手術期看護の実際⑦ 性・生殖器（前立腺、子宮、卵巣、乳房等）に障害のある人の周手術期看護 予習：教科書のp233から246を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 生命の危機状態にある対象の看護① 救急看護学概論 予習：救急看護、救急患者とその家族の特徴、患者の観察とアセスメント項目を調べる。 復習：配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 生命の危機状態にある対象の看護② 救急蘇生方法 予習：救急処置と看護、人工心肺蘇生法を調べる。 復習：配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 回復期の看護① 回復を促進するための援助 予習：教科書のp96から109を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 回復期の看護② 回復を促進するための援助 予習：教科書のp255から264を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義7回、ディスカッション・グループワーク6回、実技演習2回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>成人期にある対象で、急性期、周手術期、回復期にある対象と家族の基本的看護を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期および生命が危機的な状態にある対象の特徴を学び、基本的な援助方法を理解できる。 ・生命危機的な状態にある対象の救急蘇生方法など基本的な援助方法を理解できる。 ・周手術期にある対象の特徴を理解し、基本的な援助方法を理解できる。 ・回復期にある対象の特徴を理解し、基本的な援助方法を理解できる。 ・障害の受容および社会復帰など回復過程における看護について考察できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、循環器、消化器、排泄器、骨・運動器、乳腺・内分泌器に障害のある対象の周手術期看護実践の経験を活かし、対象の特徴および看護実践について、講義と演習を行う。</p> <p>救急救命の臨床経験を持つ教員の指導の下、救急救命の援助に関する実技演習を行う。</p>

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	成人看護学4 周手術期看護 中島恵美子他著 ナーシンググラフィカ メディカ出版 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J カルベニート著 医学書院
参考書	周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第3版 竹内登美子著 医歯薬出版 周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護第3版 竹内登美子著 医歯薬出版
評価基準及び成績評価方法	筆記試験70%、課題レポート30%（授業の最後に書いてもらうレポート、テーマに則って自分の考えを書いてもらうレポート）で計算する。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	成人看護学方法論Ⅰは、成人看護学概論を基盤にして、成人期にある対象の生命危機回避のための看護についてさらに深く学びます。成人看護学概論や関連の科目の復習は必須です。また、成人看護学実習に関連する科目でもあります。予習・復習をしっかりと行っていき、疑問点や興味・関心をもったことは探求していきましょう。成人看護学について一緒に学んでいきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Adult nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	成人看護学		

授業概要	長期にわたり治療を受ける必要がある人の生活と特徴を理解し、生涯にわたって健康レベルやQuality of lifeの低下を可能な限り回避するための看護について学ぶ。また、慢性期にある人の看護に有用な諸理論について理解し、対象者のもつ能力を最大限に引き出しながらケアする手法についても学習する。 終末期にある人の生活と特徴的な状態を理解し、終末期における人の苦痛や困難を緩和し、家族や関連職種との連携をふまえた看護について学ぶ。看護上の倫理的課題をふまえ、より良い人生の終末を迎えることができるようにするための援助について考察する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 慢性期にある患者と家族の理解と看護① 慢性期疾患の特徴、慢性疾患における治療の特徴、慢性疾患を有する患者の特徴 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p65～94を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第2回 慢性期にある患者と家族の理解と看護② 病気および障害を受け入れるプロセス、慢性疾患を有する患者を支える家族の特徴、慢性疾患を有する患者を取り巻く療養環境の特徴や看護の役割、専門職とチーム医療 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p198～215、236～246を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第3回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護① 呼吸機能障害と看護 呼吸機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：気管支喘息、慢性呼吸不全の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第4回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護② 循環機能障害と看護 循環機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：高血圧、慢性心不全の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第5回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護③ 消化機能障害と看護 消化機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：クリーン病、潰瘍性大腸炎の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第6回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護④ 消化機能障害と看護 消化機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：肝炎、肝硬変の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第7回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑤ 内分泌・代謝機能障害と看護 内分泌・代謝機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：糖尿病の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第8回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑥ 内分泌・代謝機能障害と看護 内分泌・代謝機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p123～137、160～171を復習してくる。さらに甲状腺機能亢進症の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第9回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑦ 内部環境調整機能障害と看護 内部環境調整機能障害をもつ対象者の看護問題と具体的援助方法 予習：慢性腎臓病（CKD）の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第10回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑧ 免疫機能障害と看護 免疫機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：全身性エリテマトーデス、HIV感染症/AIDSの病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第11回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑨ 脳・神経機能障害と看護 脳・神経機能障害を有する患者の看護問題と具体的援助方法 予習：脳梗塞、筋萎縮性側索硬化症の病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第12回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑩ 悪性新生物と看護 がん医療の現状、がん患者の治療と経過、がん患者の身体的、心理・社会的特徴 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p82～94を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第13回 慢性期にある患者の特徴的な健康障害と看護⑪ 悪性新生物と看護 がん患者の治療に伴う看護問題と具体的援助方法、がん患者に特徴的な症状マネジメントと具体的援助方法 予習：肺がん・肝臓がんの病態生理、治療について復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第14回 緩和ケアの必要な患者と家族の理解と看護 緩和ケアとは何か、緩和ケアを取り巻く現状、緩和ケアにおける倫理的課題、緩和ケアの具体的援助方法 予習：1年次の成人看護学概論で用いた教科書「成人看護学概論」p247～256を復習してくる。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>第15回 終末期にある患者と家族の理解と看護</p>

	<p>終末期にある患者と家族の健康障害の特徴と日常生活への影響、特徴的な看護問題、具体的援助方法、まとめ 予習：講義全体を振り返り、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を見直して、理解を深める。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義10回、ペアワーク4回、演習1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>成人期にある対象で、慢性期、終末期にある対象と家族の特徴と基本的看護を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象と家族の特徴を理解できる。 ・慢性期にある対象と家族に起こりやすい健康問題と基本的な援助方法を理解できる。 ・終末期にある対象と家族の特徴を理解できる。 ・終末期にある対象と家族に起こりやすい健康問題と基本的な援助方法を理解できる。 ・セルフマネジメントの基盤となる理論や概念を理解し、その能力を高める方法を理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、呼吸器系、循環器系、消化器系、代謝・内分泌系、腎・泌尿器系、血液・免疫系の障害やがんの慢性期、終末期にある対象への看護実践経験を活かし、対象の特徴および看護実践について、講義を行う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>成人看護学 慢性期看護 鈴木久美他著 南江堂</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験70%、レポート・演習課題30%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目では成人期の特性や慢性疾患やがんとともに生きる人の特徴を理解したうえで、慢性期、終末期にある対象への援助方法について学んでいきます。 ・1年生で履修した「健康と疾病の理解」に関する科目の知識が必須となりますので、復習した上で、授業に臨んでください。 ・オフィスアワー 事前にメールでご連絡下さい。E-mail: sato.eiko@v90.ashitech.ac.jp
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護方法論Ⅲ

英文科目名称：Adult nursing methodology 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
青山みどり、佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		成人看護学	

授業概要	成人期にある人の看護について、紙面上の事例を用いて看護過程を展開する。成人期にある人の発達段階や生活、社会・家庭での役割等の特徴をふまえ、既習の理論を活用しアセスメントを行う。 フレームワークでは、事例に応じた看護モデルを活用し、看護上の課題に応じたアウトカムの設定や看護計画の立案を行う。また、シミュレーションの結果から評価・修正を行いフィードバックすることについて学習する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 成人看護学における看護過程の考え方：情報収集、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画立案、援助の実施 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp1から22を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第2回	事例に基づいた看護過程の展開GW① 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（活動-運動、睡眠-休息） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp274から404を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第3回	事例に基づいた看護過程の展開GW② 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp650から743を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第4回	事例に基づいた看護過程の展開GW③ 急性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（健康知覚-健康管理） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp26から112を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第5回	事例に基づいた看護過程の展開GW④ 急性期にある対象の看護過程：看護計画の立案 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第6回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑤ 急性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第7回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑥ 急性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第8回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑦ 急性期にある対象の看護過程：看護計画の評価・修正 予習：前回の配布資料を読み直す。 復習：発表資料、配布資料を読み直し、レポートにまとめる。
	第9回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑧ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（活動-運動、睡眠-休息） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp274から404を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第10回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑨ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（コーピング-ストレス耐性） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp650から743を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第11回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑩ 慢性期にある対象の看護過程：情報の分類及びアセスメント（健康知覚-健康管理） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。教科書（看護診断ハンドブック）のp26から112を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第12回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑪ 慢性期にある対象の看護過程：看護計画の立案 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。前回の配布資料を読み直す。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第13回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑫ 慢性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。	第14回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑬ 慢性期にある対象の看護過程：看護過程の発表 予習：前回の配布資料を読み直す。発表資料の作成の準備をする 復習：発表資料、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。
	第15回	事例に基づいた看護過程の展開GW⑭ 慢性期にある対象の看護過程：看護計画の評価・修正 予習：前回の配布資料を読み直す。 復習：発表資料、配布資料を読み直し、レポートにまとめる。 ◆アクティブラーニング◆		

	<p>講義7回、ディスカッション・グループワーク6回、実技演習2回</p> <p>◆予習・復習の時間◆</p> <p>予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>成人期にある対象の特徴を踏まえて、健康障害のある対象への看護について看護過程を展開できる能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人期にある対象の特徴を踏まえ、看護過程の展開のための視点が説明できる。 ・成人期にある対象の看護過程における情報の整理、アセスメント、関連図の作成ができ、看護問題の抽出ができる。 ・成人期にある対象の看護過程における看護目標の設定、看護計画の立案ができる。 ・立案した看護計画に基づいて看護実践のシミュレーションができる。 ・看護実践の結果に基づき、看護計画の評価・修正ができる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、循環器、消化器、排泄器、骨・運動器、乳腺・内分泌器に障害のある対象の、急性期・回復期・慢性期・終末期の看護実践経験を活かし、講義と演習を行う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第6版 江川隆子編 ニューヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J カルベニート著 医学書院</p>
参考書	<p>NANDA - I 看護診断 定義と分類2018 - 2020 日本看護診断学会監訳 医学書院 授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験50%、看護過程の課題レポートとグループワーク参加状況で50%（授業中や授業の最後を書いてもらうレポート）で計算する。</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>成人看護方法論Ⅲは、成人期にある対象への看護を展開する方法を学びます。授業では個人ワークやグループワークを行います。また、この科目は成人看護学実習に繋がる重要な科目です。主体的に予習・復習をしてしっかりと学んでいきましょう。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：がん看護論

英文科目名称：Cancer nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
青山みどり				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		成人看護学	

授業概要	<p>がんを罹患した人への看護について、その人の家族を含めた援助について学ぶ。 がんがその人の健康や日常生活に及ぼす影響について理解し、安全・安楽に治療を受けることができるようにするための援助や、精神的側面からのアプローチについて学習する。また、ターミナル期におけるQuality of lifeの維持・向上、苦痛・困難の緩和、安寧の促進等について学び、対象者に応じた看護について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス がん看護学の対象 がん医療の現状 予習：教科書の序章、第1章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 がんの病態と臨床経過 予習：教科書の第2章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 がん患者および家族の苦痛緩和と心理的サポート 予習：教科書の第3章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 がんの治療と看護 手術療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 がんの治療と看護 薬物療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 がんの治療と看護 放射線療法 予習：教科書の第4章、第5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 がん治療の場 外来がん看護 予習：教科書の第6章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>がん患者および家族の臨床経過を理解し、必要な看護について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを取り巻く医療の現状を関連文献を使って調べる。 ・がんの病態と臨床経過を説明する。 ・がん患者の苦痛緩和、心理的サポートの方法を理解する。 ・がんの治療方法とその看護について理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、がん患者および家族への看護実践経験を活かし、がん患者の特徴およびがん看護に必要な知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」等から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 別巻 がん看護学 小松浩子ほか著 医学書院</p>
参考書	<p>適時、紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験50%、課題レポート50%（授業の最後に書いてもらうレポート、テーマに則って自分の考えを書いてもらうレポート）で計算する。</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>がん医療は日々進歩しています。医療の進歩に対応し、がん患者および家族への看護実践においては「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」は必須です。そのため、基盤となる知識や技術について学修していきましょう。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：クリティカルケア論

英文科目名称：Critical care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
青山みどり				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		クリティカルケア論	

授業概要	救急医療や集中治療における生命が危機的状態にある人への援助について学ぶ。心身の機能の変化のモニタリング、アセスメントについて理解し、最良の状態に回復することができるよう、その援助方法について学習する。また、クリティカルケアにおけるチーム医療の特性及びマネジメントを理解し、患者・家族の意思決定等の倫理上の課題について考察する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス クリティカルケア看護の歴史の変遷 看護の対象と特性 予習：教科書の第1章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第2回	過大侵襲を受けた患者の生体反応 予習：教科書の第2章、第3章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第3回	過大侵襲を受けた患者の特徴とケア 呼吸機能障害を伴う患者の特徴とケア 予習：教科書の第3～5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第4回	過大侵襲を受けた患者の特徴とケア 循環機能障害を伴う患者の特徴とケア 予習：教科書の第3～5章を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第5回	危機的状態にある患者および家族へのケア 危機プロセスとニーズ 予習：教科書の第5章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第6回	クリティカルケア看護と倫理 予習：教科書の第6章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第7回	クリティカルケア看護とチーム医療 予習：教科書の第6章の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第8回	まとめ 予習：教科書、配布資料を読んでおく。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間		
授業の目的・到達目標	生命危機状態にある患者および家族の臨床経過を理解し、危機回避に必要な看護について学習する。 ・生命危機を引き起こしやすい機能障害を説明する。 ・ケアを必要とする患者および家族の特徴を理解する。 ・過大侵襲を受けた患者の特徴とケアを理解する。 ・クリティカルケア看護の倫理的課題を理解する。 ・クリティカルケア看護にかかわるチーム連携の必要性を認める。			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、クリティカルケアにおける看護実践経験を活かし、患者・家族の特徴および看護に必要な知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」等から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 道又元裕ほか著 医学書院			
参考書	適時、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験50%、課題レポート50%（授業の最後に書いてもらうレポート、テーマに則って自分の考えを書いてもらうレポート）で計算する。			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。課題レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	クリティカルケアを受ける患者およびその家族は、過大な侵襲を受け、身体的・社会的・精神的危機的状態に陥っている場合も少なくありません。このような危機的状況の回避のための看護実践には「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」は必須です。そのための基盤となる知識や技術について学修していきましょう。			
履修登録条件				

講義科目名称：リハビリテーション看護論

英文科目名称：Rehabilitation nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
金子操				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		成人看護学

授業概要	心身に障害を持った人の回復過程において、その人の持つ身体機能や能力を維持・向上するための援助について学ぶ。 対象者が生活やセルフケアを再構築し、新たな生活に適応できるよう、家族を含めた援助について学習し、効果的なチームアプローチ実践のための各専門職種役割を踏まえた援助について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション看護概論（リハビリテーションの理解、障害と看護） 予習：リハビリテーションの歴史、リハビリテーションの分野、ICIDH、ICFについて調べる 復習：ICFについて、チームアプローチのプロセスについて理解を深める</p> <p>第2回 リハビリテーションチーム（リハビリテーションに関わる職種、評価指標、連携） 予習：リハビリテーションに関わる専門職について調べる 復習：障害に応じた評価指標について理解を深める</p> <p>第3回 運動器の障害とリハビリテーション看護（整形外科疾患） 予習：運動器障害をきたす整形外科疾患について調べる 復習：車椅子や松葉杖の取り扱いができるようになる</p> <p>第4回 神経系の障害とリハビリテーション看護1（脳血管障害） 予習：脳梗塞によっておきる障害について調べる 復習：半身麻痺患者の移乗動作について理解を深める</p> <p>第5回 神経系の障害とリハビリテーション看護2（脊髄損傷、神経難病） 予習：神経難病にはどんな障害がおきるか調べる 復習：日常生活動作（ADL）支援の仕方について理解を深める</p> <p>第6回 呼吸・循環系の障害とリハビリテーション看護1（慢性閉塞性肺疾患） 予習：呼吸障害の訓練法について調べる 復習：排痰、呼吸介助について理解を深める</p> <p>第7回 呼吸循環系の障害とリハビリテーション看護（心筋梗塞） 予習：心臓の障害に対する運動について調べる 復習：運動負荷の方法について理解を深める</p> <p>第8回 がんのリハビリテーション看護 予習：がんのリハビリテーション実際について調べる 復習：がんのリハビリテーションについて理解を深める</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 1) 講義5回、実習3回 2) 実習約40% ◆予習・復習の時間◆ 22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	種々の障害に応じた、生活自立を支援するためのリハビリテーション看護の考え方、技術を習得する。 リハビリテーションの理念を理解し、疾患や障害に応じたリハビリテーション看護介入が実際の場面で活かせることを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	リハビリテーションの実務経験のある理学療法士が、患者の生活自立に向けた、移動介助や指導について演習を行う 1) Bedと車椅子、椅子への移乗の指導、介助の具体的方法 2) 適切な車椅子の指導、介助の方法 3) 歩行補助具の調整、指導、介助方法
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護
参考書	
評価基準及び成績評価方法	原則として試験の点数が60点以上を合格とする。
達成度の伝達	試験結果の公表、答案の返却によって行う
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：成人看護学実習 I

英文科目名称：Adult nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	3単位	必修	実習
担当教員				
青山みどり、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群		看護専門分野 II		成人看護学
授業概要	対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。さらに、顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントし、顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。また、看護実践を通して看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割・機能を学ぶ。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習における留意点などを確認する。 ・学生1名につき患者1名を受け持つ。 ・看護を展開するにあたり、十分事前学習の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者から助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。 <p>◆アクティブラーニング◆ 実習70%、ディスカッション・グループワーク30%</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。</p>			
授業の目的・到達目標	<p>成人看護学および関連科目の講義・演習において学習した内容を基盤として、急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境との相互行為を展開する方法を看護過程に基づいて実践する基礎的能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して看護の意義を見いだすことができる。 ・保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解できる。 ・急性期・回復期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して、看護の対象を継続して看護することの意義を確認できる。 			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、急性期・回復期にある対象の看護実践経験を活かし、成人期にある対象の急性期・回復期に必要な看護援助に関する実習を行う。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	成人看護学4 周手術期看護 中島恵美子他著 ナーシンググラフィカ ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断第5版 江川隆子編 ニューヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J カルベニート著 医学書院			
参考書	周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版 周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護第2版 竹内登美子著 医歯薬出版			
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。			
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	成人看護学実習 I は、1、2年次の成人看護学および関連科目の学修を基盤に、急性・回復期にある成人期の対象の看護を展開します。自己の実習目標や課題を明確にし、実習目標到達に向けた事前学修などの準備をしっかりと臨みましょう。			
履修登録条件				

講義科目名称：成人看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Adult nursing practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	3単位	必修	実習
担当教員				
佐藤栄子、川久保和子、茂木英美子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		成人看護学
授業概要	成人看護学および関連科目の講義・演習において学習した内容を基盤として慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境との相互行為を展開する方法を看護過程に基づいて実践する基礎的能力を養う。対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。さらに、顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントし、顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。また、看護実践を通して看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割・機能を学ぶ。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。また、実習初日には臨地でオリエンテーションを受け、実習に関する留意点などを確認する。 ・学生1名につき患者1名を受け持つ。 ・看護を展開するにあたり、十分事前学習の上、行動目標・行動計画を事前に作成し、教員、実習指導者から助言を受け、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。 ◆アクティブラーニング◆ 実習70%、ディスカッション・グループワーク30% ◆予習・復習の時間◆ 実習に必要な知識・技術の事前・事後学習は必要不可欠である。 			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 2. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する健康問題を身体、心理、社会的側面からアセスメントできる。 3. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案、実施、評価できる。 4. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して看護の意義を見出すことができる。 5. 保健、医療、福祉における看護の役割、機能を理解できる。 6. 慢性期・終末期の疾病過程にある成人期の対象への看護実践を通して、看護の対象を継続して看護することの意義を確認できる。 			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、慢性期・終末期にある対象への看護実践経験を活かし、成人期にある対象の慢性期・終末期に必要な看護援助に関する実習を行う。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	成人看護学 慢性期看護 鈴木久美他著 南江堂 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版 江川隆子編 ヌーヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 リンダ J カルペニート著 医学書院			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2～11 医学書院 その他、適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。			
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅱでは、1、2年次の成人看護学および関連科目の学習を基盤に、慢性疾患やがんなどの慢性期・終末期の成人期の対象への看護過程を展開します。 ・自己の目標や課題を明確にし、目標到達に向けて、準備を整えて臨んでください。 ・オフィスアワー 事前にメールでご連絡下さい。E-mail: sato.eiko@v90.ashitech.ac.jp 			
履修登録条件				

講義科目名称：老年看護学概論

英文科目名称：Introduction to geriatric nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
尾島喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		老年看護学	

授業概要	<p>老年期にある人の発達課題や生活、家族、経済、医療等の動向について理解する。加齢に伴う身体・精神・社会・霊的变化について理解し、老年期におけるwell-beingとsuccessful agingについて学ぶ。 また、老年期にある人が健康を維持増進するにあたり関連する保健医療福祉制度について理解し、必要に応じたサービスの活用について学習する。 高齢化が進展する中で課題となる人権、尊厳について学び、老年看護のあり方について考察する。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス ライフコースからみた老年期1 老いを学ぶ、老いるということ、老いを生きるということ 1. 老化とは 2. 高齢者に対するイメージ 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第2回 ライフコースからみた老年期2 高齢社会と社会保障 高齢社会の社会的動向 1. 日本の人口動態について 1) 高齢化率 2) 前期高齢者、後期高齢者 3) 平均寿命と健康寿命 2. 高齢者の生活環・暮らしぶり 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第3回 ライフコースからみた老年期3 高齢社会における保健医療福祉の動向、健康維持・疾病予防のための保健活動 1. 高齢者にとっての健康維持・増進の意義 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第4回 ライフコースからみた老年期4 加齢に伴う諸機能の変化と健康：呼吸器系、循環器系 1. 呼吸器系・循環器系の解剖生理 2. 呼吸・循環機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第5回 ライフコースからみた老年期5 加齢に伴う諸機能の変化と健康：消化器系、排泄器系 1. 消化器系・排泄器系の解剖生理 2. 消化・排泄機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第6回 ライフコースからみた老年期6 加齢に伴う諸機能の変化と健康：筋・骨格・神経系、内分泌系、感覚器系 1. 筋・骨格・神経系、内分泌系、感覚器系の解剖生理 2. 骨代謝機能の変化と生活への影響 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第7回 ライフコースからみた老年期7 加齢に伴う諸機能の変化と健康：精神機能の変化、社会機能の変化、高齢者の発達課題 1. 高齢者の精神機能の変化：心身の虚弱化・認知能力の変化 2. 社会機能の変化：収入と生活意識、退職と就業 3. 高齢者の発達課題 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第8回 ライフコースからみた老年期8 老年期におけるQOL、well-beingとsuccessful aging 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第9回 老年看護の理念1 老年看護の変遷 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第10回 老年看護の理念2 老年看護の理念・目的・目標・原則 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第11回 老年看護の理念3 老年看護における看護師の役割と機能 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第12回 高齢社会における権利擁護1 高齢者に対するスティグマと差別：自己決定尊重とエイジズム、高齢者虐待 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第13回 高齢社会における権利擁護2 安全確保と身体拘束、権利擁護のための制度 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第14回 介護家族の課題と看護1 介護家族の生活と健康 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p>

	<p>第15回 介護家族の課題と看護2 介護家族との協力による援助 全体のまとめ</p> <p>予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること</p> <p>復習：その都度、提示する</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p> <p>グループワーク2回、プレゼンテーション1回</p> <p>◆予習・復習◆</p> <p>予習・復習45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>老年期にある対象の発達段階、日常生活、社会的動向、保健医療福祉政策の特徴を踏まえ、援助するための基本的看護について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの中の老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 ・老年期にある対象の生活に関連した保健医療福祉政策・サービスについて理解できる。 ・老年期にある対象の健康維持・疾病予防のための保健活動について理解できる。 ・老年看護の理念・目的・目標・原則を理解できる。 ・老年期にある対象の権利擁護について理解できる。 ・老年期にある対象を介護する家族の課題と看護を理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は総合病院の実務経験を活かし、老年看護の基礎知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>1. 基礎看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>課題レポート20%、筆記試験80%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>1. その日の学びはその日のうちに必ず復習しノートを整理すること</p> <p>2. 社会の変化に敏感になり、自分の立ち位置で物事を真剣に考え、行動するよう努力してほしい</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 老年看護方法論 I

英文科目名称： Geriatric nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
鈴木早智子、尾島喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野II	老年看護学		

授業概要	老年期にある対象の生活機能の特徴とその変化を理解し、症候のアセスメントと薬物療法の基礎を学び、日常生活動作や自立支援、介護予防の看護について学習する。また、生活・療養の場における高齢者を理解し、リスクマネジメントや多職種連携を踏まえた看護について学習する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 高齢者のアセスメント 1 高齢者によく見られる症状と看護 2 高齢者のヘルスアセスメント 3 身体の高齢変化とアセスメント 4 高齢者の健康状態、有訴者率・受療の状況 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第2回	高齢者の生活機能を整える看護① 高齢者とのコミュニケーション 1 コミュニケーションと看護 1) 高齢者のコミュニケーションの特徴とかかわり方 2) コミュニケーション能力のアセスメント ・老人性難聴 ・失語症 ・構音障害 3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション方法 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第3回	高齢者の生活機能を整える看護② 高齢者の基本的活動動作と看護 1 日常生活を支える基本的活動と看護 1) 生活の基本となる日常生活動作（高齢者疑似体験） 2) 基本動作・姿勢を支える環境とアセスメント 3) 日常生活活動（動作）の評価 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第4回	高齢者の生活機能を整える看護③ 高齢者の転倒リスクと看護 1 片麻痺のある人への移乗動作と看護（高齢者疑似体験） 2 転倒・転落のアセスメントと看護 3 廃用症候群のアセスメントと看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第5回	高齢者によく見られる症状と看護Ⅰ 症候のアセスメント ①発熱②痛み③掻痒 1 発熱の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント ・肺炎 ・尿路感染症 2 痛みの成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント ・変形性膝関節症 ・骨粗しょう症 3 痒みの成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント ・老人性皮膚掻痒症・乾皮症 ・白癬 ・フットケア 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第6回	高齢者によく見られる症状と看護Ⅱ 症候のアセスメント ①脱水②嘔吐③浮腫④倦怠感 1 脱水の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント 2 嘔吐の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント 3 浮腫の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント 4 倦怠感の成り立ちと臨床的特徴、アセスメント、看護のポイント ・脱水症 ・熱中症・動脈硬化 ・心不全 ・高血圧 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第7回	高齢者の生活機能を整える看護④ 高齢者の食事と看護 1 高齢者における食生活の意義 2 高齢者に特徴的な変調 1) 加齢に伴う摂食・嚥下機能の変化 2) 老年期に多い疾患による摂食嚥下障害 3) 栄養状態の変調 3 食生活のアセスメントと看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第8回	高齢者の生活機能を整える看護⑤ 高齢者の食生活の支援 1 高齢者の食生活の支援 1) 食事前のケア：適切な姿勢（ポジショニング）の調整、摂食嚥下機能に応じた食形態の選択（トロミ食） 嚥下体操 2) 食事中のケア：誤嚥を防ぐための看護と緊急時の対応) 3) 食事後のケア：口腔機能の維持・向上と口腔ケア 4) 多職種協働による食支援（栄養サポートチーム） 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。		
	第9回	高齢者の生活機能を整える看護⑥ 高齢者の生活リズムと看護		

	<p>1 高齢者と生活リズム 2 高齢者に特徴的な変調 3 高齢者の生活リズムのアセスメント 4 生活リズムを整える看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 高齢者の生活機能を整える看護⑦ 高齢者の排泄・清潔と看護</p> <p>1 排泄ケアの基本姿勢 2 排泄障害のアセスメントとケア 3 排便障害のアセスメントとケア 4 清潔の意義 5 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題とアセスメント 6 清潔の援助 ・ オムツの吸収量 ・ オムツの当て方 ・ 陰部洗浄 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 健康逸脱からの回復を促す看護 褥瘡・スキンケア</p> <p>1 褥瘡・スキンケア 1) 症状の成り立ちと臨床的特徴 2) アセスメントと看護 3) 褥瘡の予防・評価・治療 4) スキンケア 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 治療を受ける高齢者の看護 I</p> <p>1 検査を受ける高齢者の看護 2 高齢者の安全な薬物療法と看護 3 手術を受ける高齢者の看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 治療を受ける高齢者の看護 II</p> <p>1 リハビリテーションを受ける高齢者看護 2 入院治療を受ける高齢者の看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 生活・療養の場における看護</p> <p>1 高齢者とヘルスプロモーション 2 保健医療福祉施設および居住施設における看護 1) 介護保健施設 2) 地域密着型サービス 3) 住まい 3 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 4 多職種連携実践による活動 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 高齢者のリスクマネジメント</p> <p>1 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 2 高齢者と救命救急 3 高齢者と災害 4 看護職に求められる役割 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ グループワーク1回、プレゼンテーション1回、実技5回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>1 高齢者に起こりやすい健康障害（身体症状）を理解する。 2 高齢者の生活機能を整える看護の展開を理解する。 3 高齢者の薬物療法と看護を理解する。 4 高齢者のリスクマネジメントを理解する。 5 高齢者を支える職種と活動の多様化を理解する。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	総合病院で看護師としての実務経験を持つ教員が、高齢患者および家族の看護に関する実践的活動を通して、日常生活援助や専門職連携の講義と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	<p>1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子他著 医学書院 2 ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版</p>
参考書	<p>1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2 ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>

	その他、授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験 70%、 課題レポート 30% により評価する。
達成度の伝達	1 筆記試験の模範解答を概説する。 2 課題レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	老年看護学方法論 I は、老年看護学概論を基盤にして、老年期にある対象の日常生活援助のための看護について深く学びます。また老年看護学実習に関連する科目でもあります。予習・復習を主体的にしていきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：老年看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Geriatric nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
尾島喜代美、鈴木早智子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	老年看護学		

授業概要	<p>老年期にある人に多くみられる健康障害に応じた看護について学ぶ。 対象者の加齢に伴う身体・精神・社会的役割・経済的背景の変化や、生活環境・生活習慣・家族・サポート体制についてアセスメントについて学習し、健康レベルに応じた援助について学ぶ。また、老年期の特徴をふまえた各疾患に応じたコミュニケーション技術の基礎的能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 治療を必要とする高齢者の看護① 意識障害・高次機能障害 1 意識障害をもたらす疾患・病態：脳血管障害・脳卒中 2 意識障害のある高齢者のアセスメントと看護 1) 意識レベルの観察と看護、評価表 3 高次機能障害のある高齢者のアセスメントと看護 1) 急性期の看護 2) 回復期の看護 3) 維持期の看護 4) 失語症・構音障害のある高齢者とのコミュニケーション 4 脳卒中地域連携パス 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第2回 治療を必要とする高齢者の看護② 神経変性疾患・呼吸器疾患 1 パーキンソン病患者のアセスメントと看護 2 肺炎患者のアセスメントと看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第3回 治療を必要とする高齢者の看護③ 認知機能障害 1 認知障害の出現する疾患・状態 2 認知症の予防・診断・疾患・看護 3 BPSD（心理・行動症状）への対応 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第4回 治療を必要とする高齢者の看護④ 認知症高齢者へのかかわりの実際 1 認知症の予防・看護・ケアの実際 2 BPSD（心理・行動症状）への対応の実際 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第5回 治療を必要とする高齢者の看護⑤ 認知症高齢者へのかかわりの実際 1 認知症の非薬物療法（音楽療法）の目的 2 音楽療法の実際 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第6回 治療を必要とする高齢者の看護⑤ 心不全 1 心不全の病態生理、症状 2 診断・治療・看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第7回 治療を必要とする高齢者の看護⑥ 大腿骨頸部骨折 1 手術（急激な環境変化）を受ける高齢者の看護 1) 高齢者に行われる手術の特徴 2) 高齢者の術前評価と看護 3) 高齢者の術前後に起こりやすいリスクと問題：せん妄・肺合併症 4) 早期離床と合併症 5) 退院計画と退院調整：地域連携クリニカルパス 2 大腿骨頸部骨折の手術を受ける高齢者の看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第8回 高齢者と家族 1 老年看護における家族支援のあり方 1) 家族形態の変化 2) 独居老人 3) 老夫婦二人暮らし 4) 高齢者虐待 2 家族看護における対象理解 3 介護家族への看護 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第9回 終末期における看護 1 高齢者の死 2 終末期医療と意思決定の現状 3 終末期の看護</p>

	<p>4 家族へのグリーフケア 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第10回 高齢者の看護過程の展開の要点 1 高齢者の看護過程 2 高齢者への情報収集の方法・情報源、情報の解釈・分析の視点 3 関連図 4 看護診断（PES方式）と看護問題、高齢者にとって看護が必要なこと 5 問題の優先順位 6 援助計画 高齢者の看護目標の立て方と看護計画立案の考え方・視点 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第11回 事例を用いた看護過程の展開① 1 事例紹介、グループワーク（GW）の進め方 2 罹患疾患、全体像の把握、文献検索 3 疾患関連図より相互関係を確認：病態と原因の関連 4 病態と症状・検査結果との関連 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第12回 事例を用いた看護過程の展開② 1 情報の整理・アセスメント 1) 高齢者の正常との比較・分析 2) 症状・状態の原因・誘引の分析 3) 疾患の病態・症状・検査結果との現状把握・分析 4) 高齢者の日常生活への支障の把握・分析 5) 家族・社会との関連性の把握・分析 6) 今後の成り行き・予測できることの分析 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第13回 事例を用いた看護過程の展開③ 1 GWにて、情報の整理・アセスメントの妥当性の検討 2 看護診断の妥当性の検討 3 看護問題の表わし方の検討：原因・誘因が適切であるかの検討 4 高齢者としての今後の成り行きの検討 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第14回 事例を用いた看護過程の展開④ 1 GWにて、関連図の妥当性の検討 2 疾患・病態・症状・原因・誘因・治療との関連性が妥当性であるか検討 3 看護目標・計画の立案と高齢者に適しているかの検討 4 発表練習 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>第15回 事例を用いた看護過程の展開GW⑤ 1 看護過程の発表 2 まとめ 予習：授業範囲の教科書をよく読んで出席すること 復習：その都度、提示する</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ グループワーク3回、プレゼンテーション1回、実習（実技）1回</p> <p>◆予習・復習◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>老年期にある対象に特徴的なコミュニケーションや健康障害について理解し、看護を展開するための基礎的な方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期に特徴的な健康障害について理解できる。 ・老年期の特徴を踏まえたコミュニケーション能力を養うことができる。 ・さまざまな健康レベルにある老年期の対象の健康障害や症状に対する看護について理解できる。 ・老年看護に関する既存の知識を活用して、老年期にある対象に対する看護過程の展開ができる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は総合病院での実務経験を活かし、高齢者看護の基礎知識について講義する。 音楽療法士がゲストスピーカーとして、認知症高齢者の音楽療法について演習を行う。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院</p>
参考書	<p>1 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 3 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他、授業中に適宜紹介する</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>課題レポート 30%、筆記試験 70%</p>
達成度の伝達	<p>1 筆記試験の模範解答を概説する。 2 レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>1 受講前にテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2 受講後は、その日のうちに必ず復習し課題に取り組むこと 3 社会の変化に敏感になり、自分の立ち位置で物事を真剣に考え、行動するよう努力してほしい</p>

講義科目名称： 老年看護学実習

英文科目名称： Geriatric nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	4単位	必修	実習
担当教員				
尾島喜代美、鈴木早智子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ	老年看護学	

授業概要	様々な健康レベルにある高齢対象者を理解し、個性を尊重した自立支援やQOL向上を目指した看護に必要な基礎的能力を習得する。加齢に伴う変化や健康障害をもつ高齢者を多面的・総合的に理解し、倫理的配慮をもって生活機能を維持・回復するための看護実践を学ぶ。高齢者の多様な療養の場に応じた看護の役割・機能を理解し、日常生活への援助を通して、高齢者のQOLを目指した看護とは何かを具体的に考える機会とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療施設 <ul style="list-style-type: none"> 初日 医療施設オリエンテーション 1日目 病棟オリエンテーション、情報収集 2～4日目 受け持ち患者の看護過程展開 5日目 学内実習 6日～8日 受け持ち患者の看護過程展開 9～10日目 学内実習 2. 高齢者施設 <ul style="list-style-type: none"> 初日 高齢者施設オリエンテーション 1日目 病棟オリエンテーション、情報収集 2～4日目 受け持ち高齢者の日常生活援助を学ぶ 5日目 学内実習（受け持ち高齢者が生きた時代を考える） 6日～8日 高齢者のアクティビティケア 9～10日目 学内実習 3. 予習・復習 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の日常生活援助を確認し準備する。 2) 毎日実習の振り返りを行う。 <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100%</p>
授業の目的・到達目標	<p>I. 実習目的 老年期にある対象の健康問題や生活機能障害を理解し、高齢者とその家族のQOL向上を目指した老年看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <p>II. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解できる。 2. 老年期にある対象の健康問題と生活機能障害の要因・関連・経過を身体的・精神的・社会的側面から理解し、アセスメントできる。 3. 老年期にある対象の持てる力を引き出し、健康問題や生活機能障害に応じた個別的な看護計画を立案できる。 4. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、高齢者を尊重した看護実践ができる。 5. 高齢者の多様な療養の場に応じた看護の役割・機能と他職種との連携を理解できる。 6. 対象との関わりを通して、高齢者とその家族のQOL向上を目指した老年看護の役割、看護観を考察できる
実務経験に基づく知識の伝達	総合病院、高齢者施設での臨床経験のある教員の下、高齢者の援助に関する実習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和の取れた人間関係を築くことができる。」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」方配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職として高い倫理観と調和のとれた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画でき実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	1・2年次に購入済みの以下文献 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子ほか著 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 メディカ出版
参考書	その他、実習中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	行動目標を評価基準とし、施設実習・学内実習および看護学実習カンファレンスなどにおける言動、記録物、出席状況に基づき評価する。
達成度の伝達	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録物やレポートにコメントを入れる。 2. 個人面接を行い、達成度を伝達する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	老年看護学実習は、医療施設と保健福祉施設において高齢者を一人受け持ち、高齢者の理解・看護過程の展開もしくはケアを通してよりよい看護を考える実習です。 「高齢者観」「高齢者看護観」を深め、自分がどのように高齢者とかわっていくことが望ましいのかを考えつけていきましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護学概論

英文科目名称：Introduction to pediatric nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
栗田佳江				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	小児看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	小児看護の理念を踏まえ、絶えず成長・発達している子どもの特徴と、それらに影響をおよぼす諸因子について理解し、成長・発達への援助、家族の特徴とアセスメント、母子保健等について学修する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 小児看護の特徴と理念①：小児看護の目ざすところ、子どもと家族の諸統計 予習：テキストp. 4-14を読んでくる。自己の子ども観について考えてくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第2回	小児看護の特徴と理念②：小児看護の変遷、小児看護における倫理、小児看護の課題 予習：テキストp. 15-28を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第3回	子どもの成長・発達① 成長・発達とは、成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価、身体発育評価の演習 予習：テキストp. 30-50を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第4回	子どもの栄養① 子どもにとっての栄養の意義、食育、食事摂取基準、各発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 予習：テキストp. 52-66を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第5回	小児の成長・発達と看護① 新生児期の成長・発達の特徴と看護 予習：テキストp. 68-85を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第6回	小児の成長・発達と看護② 新生児期・乳児期の成長・発達の特徴と看護 予習：テキストp. 68-85、85-98を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第7回	小児の成長・発達と看護③ 乳児期・幼児期の成長・発達の特徴と看護 予習：テキストp. 85-98、100-116を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第8回	小児の成長・発達と看護④ 幼児期の成長・発達の特徴と看護、幼児期の成長・発達評価演習 予習：テキストp. 100-116を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第9回	小児の成長・発達と看護⑤ 幼児期の成長・発達の特徴と看護、幼児期の成長・発達評価演習 予習：テキストp. 100-116を読んでくる。幼児期の成長・発達評価を実施してくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第10回	小児の成長・発達と看護⑥ 学童期の成長・発達の特徴と看護 予習：テキストp. 116-129を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第11回	小児の成長・発達と看護⑦ 思春期・青年期の成長・発達の特徴と看護 予習：テキストp. 132-151を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第12回	家族の特徴とアセスメント① 小児にとっての家族とは 予習：テキストp. 154-166を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第13回	家族の特徴とアセスメント② 家族のアセスメント 予習：テキストp. 154-166を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	第14回	小児と家族を取り巻く社会と母子保健① 児童福祉、母子保健 予習：テキストp. 168-181を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。
	第15回	小児と家族を取り巻く社会と母子保健② 医療費の支援、予防接種、学校保健等 予習：テキストp. 181-198を読んでくる。 復習：教科書・配布資料を読み直し、整理し、理解を深める。	◆アクティブ・ラーニング◆ 講義14回、ディスカッション1回、演習3回 ◆予習・復習時間◆ 予習・復習45時間	
授業の目的・到達目標	小児看護の理念を踏まえ、子どもの成長・発達と援助、母子保健などについて理解し、小児看護の基本を学ぶ。 ・小児看護における基本的概念・理念、目標と課題について理解できる。 ・子どもの成長・発達の基本的知識を踏まえて、成長・発達の評価と看護について理解できる。 ・家族の特徴とアセスメントについて理解できる。 ・子どもと家族を取り巻く社会的状況を踏まえ、母子保健などについて理解できる。			
実務経験に基づく知識の伝達	看護師として小児看護の実務経験を有する教員が、小児看護の特徴と理念、子どもの成長・発達と援助、母子保健など小児看護の基礎的知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			

教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 奈良間美保他著 医学書院
参考書	小児看護学 市江和子編集 オーム社 写真でわかる小児看護技術アドバンス 山元恵子監修 インターメディカ
評価基準及び成績 評価方法	課題20点、筆記試験80点の合計100点満点で評価する。 ただし、課題レポート12点以上、筆記試験48点以上の合計60点以上を合格とする。
達成度の伝達	レポートの返却、答案の返却、模範解答の公表によって行う。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	原則として、火曜日・水曜日終日対応します。気軽に質問に来てください。
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護方法論 I

英文科目名称：Pediatric nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
荻原弘幸				
看護専門科目群	看護専門分野II	小児看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	<p>本科目は、様々な病期や症状、治療に応じた子どもの特徴と家族への影響を学修し、小児看護のアセスメントに必要な思考能力を養っていく。また、アクティブ・ラーニングを活用し、症状を示す子どもと検査・処置を受ける子どもの看護についてグループワークを行い、小児看護における知識の向上を目指した授業を展開する。</p>			
授業計画	<p>第1回 病気・障害を持つ子どもと家族の看護『病気・障害が子どもと家族に与える影響』と『子どもの健康問題と看護』 ※ 本科目の目的、目標、講義内容等を説明します。 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 病気・障害に対する子どもの反応 ii 子どもの病気・障害に対する家族の反応</p> <p>第2回 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護『入院中・外来・在宅療養中・災害時の子どもと家族の看護』 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 入院環境と看護の役割 ii 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 iii 在宅療養の環境と看護の役割 iv 被災地の環境と看護の役割</p> <p>第3回 子どもにおける疾病の経過と看護『慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族の看護』 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 慢性期の特徴 ii 急性期の特徴 iii 周手術期の特徴 iv 終末期の特徴</p> <p>第4回 子どものアセスメント『アセスメントに必要な技術』『身体的アセスメント』 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 各発達段階におけるコミュニケーション ii バイタルサインにおけるアセスメントの重要性 iii 身体測定のための目的 iv 成長・発達</p> <p>第5回 症状を示す子どもの看護①グループワーク ※ 第5回～第8回までは、18項目の症状（P11）を学修します。 不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第6回 症状を示す子どもの看護②グループワーク 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第7回 症状を示す子どもの看護③グループワーク 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第8回 症状を示す子どもの看護④グループワーク発表 【復習】各発表内容を整理してください。</p> <p>第9回 検査・処置を受ける子どもの看護① 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 子どもにとっての検査・処置体験 ii 看護の実際 iii 身体測定のための目的 iv 成長・発達</p> <p>第10回 検査・処置を受ける子どもの看護②グループワーク ※ 第10回～第14回までは、10項目の検査・処置（P12）を学修します。 与薬、輸液管理、抑制、検体採取、電法、清潔、経管栄養、排泄、呼吸器症状の緩和、救急処置 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第11回 検査・処置を受ける子どもの看護③グループワーク 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第12回 検査・処置を受ける子どもの看護④グループワーク 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第13回 検査・処置を受ける子どもの看護⑤グループワーク発表（前半） 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第14回 検査・処置を受ける子どもの看護⑥グループワーク発表（後半） 【予習・復習】主体的に行動してください。</p> <p>第15回 障害のある子どもと家族の看護・子どもの虐待と看護 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 i 障害のある子どもと家族の特徴 ii 子どもの虐待とは</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義6回、グループワーク7回、プレゼンテーション・ディスカッション2回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>			
授業の目的・到達目標	<p>本科目は、様々な病期や症状、治療に応じた子どもの特徴と家族への影響を学修し、小児看護のアセスメントに必要な思考能力を養うことが目的である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと家族の状況（環境）に特徴づけられる看護を説明できる。 2. 子どもにおける疾病の経過と看護を説明できる。 3. 子どものアセスメントについて説明できる。 4. 症状を示す子どもと家族への看護を説明できる。 			

	5. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護を説明できる。
実務経験に基づく知識の伝達	小児看護の実務経験を有する教員が、子どもと家族への看護実践に求められる知識・技術・態度を伝達する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	1. 奈良間美保 他. 小児看護学概論 小児臨床看護総論. 東京. 医学書院. 2. 奈良間美保 他. 小児臨床看護各論. 東京. 医学書院. 3. 山元恵子. 写真でわかる小児看護技術アドバンス. 東京. インターメディカ.
参考書	1. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児 I. 東京. 中央法規. 2. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児 II. 東京. 中央法規.
評価基準及び成績評価方法	・グループワーク40点、筆記試験40点、レポート20点の合算した得点が60点以上を合格とする。 ・ただし、60点以上の合格であったとしても、グループワーク20点以下、筆記試験20点以下、レポート10点以下の場合は不合格とすることもある。
達成度の伝達	・グループワーク：授業時間内で評価を開示し、フィードバック後に各々の課題を明確にする。 ・筆記試験：模範解答の開示方法を掲示にて説明する。 ・レポート：評価の開示方法を掲示にて説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	メッセージ： 本科目は小児看護学の一部となります。 そのため、幅広い視野と目的意識を備えて、主体的な学習に取り組みましょう。 担当教員は、学生自身の主体性と思考能力が養えるようにサポートしていきます。 オフィスアワー： 月～金 終日（実習指導期間および出張以外）
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Pediatric nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
荻原弘幸				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		小児看護学	

授業概要	<p>本科目は、子どもの成長・発達や健康問題の特徴を理解した上で、基礎的な小児看護技術と対象に必要な看護実践を想定した思考能力を養っていく。また、アクティブ・ラーニングを活用し、重症心身障害児の事例に基づく看護過程とそれに応じた演習を行い、小児看護における知識と技術をタイムリーに組み合わせた授業を展開する。</p>			
授業計画	第1回	<p>ガイダンス・ヘンダーソンの看護過程とPOS ※本科目の目的、目標、講義・演習内容等を説明します。 本科目における看護過程について説明します。 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 1. 看護過程における各用語の定義 2. 看護理論 3. POS 4. SOAP</p>		
	第2回	<p>重症心身障害児と家族の看護① 【予習】以下を学習してきてください。 1. 重症心身障害児について 1) 重症心身障害児とは 2) 歴史 3) 分類 4) 実態 5) 合併症 6) 看護 7) 教育 8) 在宅支援 9) 親の思い 10) きょうだいの思い 2. 事例について（事例内容は全体ガイダンス時に配付します。）</p>		
	第3回	<p>重症心身障害児と家族の看護② 【復習】重症心身障害児について、学修したことと照らし合わせてください。</p>		
	第4回	<p>看護過程①個人ワーク（情報収集とアセスメント） 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 1. 情報収集 2. アセスメント</p>		
	第5回	<p>看護過程②個人・グループワーク（情報収集とアセスメント） 【復習】情報収集とアセスメントについて、学修したことと照らし合わせてください。</p>		
	第6回	<p>看護過程③グループワーク（全体像の描写と看護問題の優先順位） 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 1. 関連図 2. 看護問題</p>		
	第7回	<p>看護過程④グループワーク（看護目標と具体策） 【予習】以下を説明できるようにしてきてください。 1. 看護目標 2. 具体策</p>		
	第8回	<p>看護過程⑤グループワーク（具体策の共有） 【予習・復習】主体的に行動してください。</p>		
	第9回	<p>看護過程⑥グループワーク（具体策の実施 i） 【予習・復習】主体的に行動してください。</p>		
	第10回	<p>看護過程⑦グループワーク（具体策の実施 ii） 【予習・復習】主体的に行動してください。</p>		
	第11回	<p>看護過程⑧看護計画の発表（前半グループ） 【復習】発表した具体策について振り返ってください。</p>		
	第12回	<p>看護過程⑨看護計画の発表（後半グループ） 【復習】発表した具体策について振り返ってください。</p>		
	第13回	<p>子どものバイタルサイン測定① 【復習】以下を整理してきてください。 1. 子どものバイタルサイン 2. 子どものフィジカルアセスメント</p>		
	第14回	<p>子どものバイタルサイン測定② ※ バイタルサイン測定の演習を行います。</p>		
	第15回	<p>子どものバイタルサイン測定③ ※ バイタルサイン測定の演習を行います。</p>		
春季休業中		<p>バイタルサイン測定の技術チェック 【復習】小児看護学実習に先立ち、技術チェックを行います。 （内容は授業時間内に説明します。）</p>		
春季休業中		<p>小児看護技術の演習 【復習】小児看護学実習に先立ち、主体的に演習を行ってください。 （内容は授業時間内に説明します。）</p>		
		<p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義5回、グループワーク6回、プレゼンテーション・ディスカッション2回、実習（実技）2回</p>		

	◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間
授業の目的・到達目標	<p>本科目は、子どもの成長・発達や健康問題の特徴を理解した上で、基礎的な小児看護技術の修得と対象に必要な看護実践に向けた思考能力を養うことが目的である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害児と家族の看護について説明できる。 2. 基礎的な小児看護技術の目的と方法を理解し、主体的に実施して修得できる。 3. 事例を通して、対象に必要な看護実践に向けた思考能力を獲得できる。
実務経験に基づく知識の伝達	小児看護の実務経験を有する教員が、子どもと家族への看護実践に求められる知識・技術・態度を伝達する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 奈良間美保 他. 小児看護学概論 小児臨床看護総論. 東京. 医学書院. 2. 奈良間美保 他. 小児臨床看護各論. 東京. 医学書院. 3. 山元恵子. 写真でわかる小児看護技術アドバンス. 東京. インターメディカ.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児 I. 東京. 中央法規. 2. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児 II. 東京. 中央法規. 3. 倉田慶子. ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護. 東京. へるす出版. 4. 倉田慶子. ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護計画. 東京. へるす出版. 5. 秋葉公子 他. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践. 東京. ニューヴェルヒロカワ
評価基準及び成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、看護過程記録70点と筆記試験30点の合算した得点が60点以上を合格とする。 ・ただし、60点以上の合格であったとしても、看護過程記録40点以下、筆記試験16点以下の場合は不合格とすることもある。
達成度の伝達	<p>看護過程記録：授業時間内で看護過程記録を返却し、フィードバック後に各々の課題を明確にする。</p> <p>筆記試験：模範解答の開示方法を掲示にて説明する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>メッセージ： 本科目は小児看護学の一部となります。 そのため、幅広い視野と目的意識を備えて、主体的な学習に取り組みましょう。 担当教員は、学生自身の主体性と思考能力が養えるようにサポートしていきます。</p> <p>オフィスアワー： 月～金 終日（実習指導期間および出張以外）</p>
履修登録条件	

講義科目名称：小児看護学実習

英文科目名称：Pediatric nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
栗田佳江、荻原弘幸				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	小児看護学		

授業概要	2週間で幼稚園実習と病棟実習を行う。幼稚園実習では、幼児期にある健康な子どもを参加観察し、成長・発達の特徴や基本的な生活習慣の確立に向けた援助等について学ぶ。病棟実習では、健康問題をかかえる子どもと家族を受けもち、小児看護を展開していく。子どもと家族を総合的に捉え、成長・発達や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力の修得を目指す。
授業計画	<p>実習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園実習では、健康な幼児の集団生活を幼稚園のプログラムに沿って体験する。 2. 病棟実習では、看護過程に基づき、対象の理解に努めて看護実践を行う。 3. 自己課題を明らかにし、目標を持って実習に臨む。 4. 実習開始前は事前課題を達成した上で、学内オリエンテーションを受ける。 5. 実習初日は各実習施設でオリエンテーションを受け、留意点等を確認する。 6. カンファレンスは学生主体で開催し、臨地実習指導者と実習担当教員から助言を受ける。 7. 看護実践の前には看護計画を必ず作成し、対象の成長・発達や安全・安楽に配慮して実施する。また、その際は臨地実習指導者と実習担当教員から必ず助言を受け、許可を得てから実施する。 <p>事前課題</p> <p>事前課題は、小児看護学実習で対象の看護を実践するための準備として、既習した基礎的知識の整理と演習による技術の獲得を目的とする。小児看護学概論、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱで学修した知識・技術に基づき、事前課題を実施して提出する。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 実習100%</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 小児看護学実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。</p>
授業の目的・到達目標	<p>本科目は、子どもと家族の特徴を理解し、成長・発達、健康状態やQOLに応じた看護実践できる基礎的能力を養うことが目的である。</p> <p>到達目標は、以下4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利、成長・発達や健康状態に配慮したコミュニケーションを図れる。 2. 看護過程に基づいて、子どもと家族の健康問題を明確化し、看護を展開できる。 3. 子どもの安全管理に関する看護師の責任を自覚し、主体的に行動できる。 4. 自己の学びと小児看護の意義を考察し、子ども観や看護観を述べられる。
実務経験に基づく知識の伝達	病棟で小児看護に携わり、看護師として実務経験を有する教員が、小児看護に求められる知識・技術・態度に基づいた看護実践へつなげられるように指導する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 奈良間美保 他. 小児看護学概論 小児臨床看護総論. 東京. 医学書院. 2. 奈良間美保 他. 小児臨床看護各論. 東京. 医学書院. 3. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児Ⅰ. 東京. 中央法規. 4. 桑野タイ子, 本間照子 他. 小児Ⅱ. 東京. 中央法規.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋葉公子 他. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践. 東京. ニューヴェルヒロカワ 2. 山元恵子. 写真でわかる小児看護技術アドバンス. 東京. インターメディカ. 3. 倉田慶子. ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護. 東京. へるす出版. 4. 倉田慶子. ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護計画. 東京. へるす出版.
評価基準及び成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の評価には、事前課題を含む。 ・評価表に基づいて総合的に評価する。
達成度の伝達	個別面談にて説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>メッセージ： 本科目は、小児看護学概論、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱで学修した知識・技術を統合し、子どもと家族を理解した上で、成長・発達、健康状態やQOLに応じた看護実践できる基礎的能力を養う科目です。子どもと家族への看護実践に対する目的意識をもち、主体的に実習することを期待します。</p> <p>オフィスアワー： 4月中・実習指導期間中とします。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護学概論

英文科目名称：Introduction to maternal nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
杉原喜代美				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		母性看護学	

授業概要	母性の概念および母性各期の特徴と発達課題を理解し、それらに対する母性保健活動の実際と母性看護の機能と役割を学ぶ。女性のライフサイクルをリプロダクティブヘルス・ライツの視点でとらえ学習を展開する。具体的には、女性の性と生殖を中心とした健康課題を対象の身体的・心理的・社会的側面や歴史的経緯、現代の母性保健の動向から理解し、ライフステージに合わせた看護を学修する。また、生命倫理を考える機会とする。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 母性の概念：母性とは、父性とは、親性とは 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。	第2回	リプロダクティブヘルス・ライツ①：ヘルスプロモーション、ウイメンズヘルス、 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第3回	リプロダクティブヘルス・ライツ②：ドメスティックバイオレンス他 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。	第4回	リプロダクティブヘルス・ライツ③：母性看護の変遷 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第5回	母性看護の現状と動向：出生、妊産婦死亡、周産期死亡、死産、乳児死亡 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。確認問題を解く。	第6回	母性看護に関連する施策：子育て支援施策、周産期医療のシステム、母性看護に関する組織と法律：母子保健法、児童福祉法、母体保護法、戸籍法、死産の届け出に関する規程 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。確認問題を解く。
	第7回	女性と労働：労働基準法、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律、育児休業法 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。確認問題を解く。	第8回	性と生殖：セクシュアリティ、ジェンダー、性の多様性（性同一性障害、性分化疾患、SOGI） 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第9回	生殖生理：ヒトの発生・性分化のメカニズム、性周期（月経）、受胎のメカニズム 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。確認問題を解く。	第10回	思春期女性の看護：思春期女性の特徴（第二次性徴、性意識・性行動の発達、性反応）、健康問題と看護（性感染症、人工妊娠中絶） 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第11回	成熟期女性の看護：成熟期女性の特徴、健康問題と看護（月経随伴症状、月経困難症、月経前症候群、不妊症、家族計画と受胎調節） 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。	第12回	リプロダクティブ・ヘルスと倫理（生殖補助医療、出生前診断、代理出産、特別養子縁組）① 【予習】：課題テーマについて調べてくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第13回	リプロダクティブ・ヘルスと倫理（生殖補助医療、出生前診断、代理出産、特別養子縁組）② 【予習】：課題テーマについて調べてくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。	第14回	リプロダクティブ・ヘルスと倫理（生殖補助医療、出生前診断、代理出産、特別養子縁組）③ 【予習】：課題テーマについて調べてくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。
	第15回	更年期女性の健康：更年期女性の特徴（ホルモンの変化と閉経）、健康問題と看護（更年期障害、骨粗鬆症、尿失禁他） 老年期女性の健康：老年期女性の特徴、健康問題と看護（骨盤臓器脱、委縮性膀胱炎、外陰炎） 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し授業資料、参考文献とともに理解し整理する。リプロダクティブヘルスのまとめとする。 ◆アクティブラーニング◆ 講義6回、ペアワーク・ディスカッション6回、グループワーク・プレゼンテーション3回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習45時間		
授業の目的・到達目標	母性の概念および母性各期の特徴と発達課題を理解し、それらに対する母性保健活動の実際と母性看護の機能と役割を学ぶ。 ・母性の概念、意義および母性の特徴がわかる。 ・人間の性の意義と生殖生理の機序がわかる。 ・母性保健の動向を知り、それらの問題点を認識でき、母性保健対策の現状と看護師の役割がわかる。			

	・母性各期の特徴と発達課題を理解し、援助の必要性和看護活動を述べることができる。
実務経験に基づく知識の伝達	助産師の実務経験をもつ教員が、女性の健康について考え方を講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 森恵美他著 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会
参考書	わが国の母子保健 母子衛生研究会 他授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験試験（80%）、課題のワーク・プレゼンテーション・レポート（20%）により評価する。 総合点が100点満点中60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案・レポートの返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	広い視野で母性看護学をとらえられるよう日々の社会情勢に目をむけ学習に取り組んでください。各自授業資料を整理し自分なりのポートフォリオを作ってください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護方法論 I

英文科目名称：Maternal nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
島田葉子				
看護専門科目群		看護専門分野II		母性看護学

授業概要	女性のライフサイクルの中で、妊婦・産婦の生理的変化を理解し看護を学ぶ。具体的には、①妊娠、分娩の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。②妊娠、分娩に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養っていく。講義・演習を通して、学習内容を修得していく。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、出生前からのリプロダクティブヘルスケア 【予習】：既習科目臨床医学Ⅴ、母性看護学概論の復習、事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：授業資料を読み返しこれからの学習予定を把握する。</p> <p>第2回 妊婦の看護① 身体的特徴、心理・社会的特徴 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第3回 妊婦の看護② 妊婦の健康管理の方法、健康診査 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第4回 妊婦の看護③ 胎児心拍数モニタリング、NST、胎児機能不全 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第5回 妊婦の看護④ 妊婦の日常生活とケア 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第6回 妊婦の看護⑤ マイナートラブルとケア 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第7回 妊婦の看護⑥ 分娩準備教育、個別指導と集団指導 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第8回 産婦の看護① 身体的特徴 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第9回 産婦の看護② 心理・社会的特徴 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第10回 産婦の看護③ 分娩第Ⅰ～Ⅳ期のケア 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第11回 産婦の看護④ 補助動作の実際 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第12回 産婦の看護⑤ 分娩後2時間のケア 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第13回 異常妊産婦の看護① 感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠貧血 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第14回 異常妊産婦の看護② 不育症、流・早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>第15回 異常妊産婦の看護③ 妊娠合併症（心疾患、糖尿病他） 【予習】：事前に該当するテキストの箇所を読んでくる。 【復習】：テキストを再度読み返し、授業資料、参考文献とともに理解する。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義11回、ディスカッション2回、グループワーク1回、実技演習1回</p> <p>◆予習・復習◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	女性のマタニィサイクルの中で、妊婦、産婦の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。 ・妊婦、産婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 ・妊娠、分娩の生理的経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。 ・妊娠、分娩に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養う。 ・妊産婦の看護に必要な特有の技術を身に付け、母性看護が実践できる能力を養う。 ・妊婦、産婦の家族に対して看護ができる能力を養う。
実務経験に基づく知識の伝達	助産師の実務経験を持つ教員が、助産に関する実践的活動を通して、妊産婦の看護について講義と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。 DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とさ

	れる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	森 恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]、医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験により評価する。総合点が100点満点中60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案の返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	母性看護方法論Ⅰと母性看護方法論Ⅱは、3年次の母性看護学実習に繋ぐ科目です。当該科目の単位修得だけに終わらず母性看護学として自分なりのポートフォリオを作成してください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Maternal nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
島田葉子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		母性看護学

授業概要	女性のライフサイクルの中で、褥婦、新生児の生理的変化を理解し看護を学ぶ。具体的には、①褥婦、新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。②産褥期、新生児期に起こりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養っていく。授業形式は講義の他、実習室での演習を通して、母性特有な看護技術等を修得していく。また、看護過程展開のグループワークを取り入れる。母性看護学方法論Ⅰとも関連させ母性看護を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 褥婦の看護① 身体的特徴、心理・社会的特徴 予習：既習科目臨床医学Ⅴ、母性看護学概論、母性看護方法論Ⅰの復習、該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：授業資料を再度読み返し、これからの学習予定を把握する。 テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第2回 褥婦の看護② 退行性変化を促進するケア 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第3回 褥婦の看護③ 進行性変化を促進するケア 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第4回 褥婦の看護④ 日常生活とセルフケア 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第5回 異常褥婦の看護 腹式帝王切開後のケア、子宮復古不全、産褥感染症、乳汁分泌異常、マタニティブルー、他 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第6回 新生児の看護① 身体的特徴、親子関係 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第7回 新生児の看護② 出生直後のケア、日常生活のケア 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第8回 異常新生児の看護 高ビリルビン血症、低出生体重児 予習：該当するテキストの箇所を読んでくる。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第9回 看護過程の展開① 予習：個人ワーク課題を進める。 復習：テキスト、授業資料を読み返し、参考文献と共に理解する。</p> <p>第10回 看護過程の展開② グループワーク 予習：個人ワーク課題をもとにグループで看護問題、看護計画、エデュケーションプランを検討できるように準備する。 復習：グループワークで検討された看護問題、看護計画、エデュケーションプランについて理解する。</p> <p>第11回 看護過程の展開③ グループワーク 予習：個人ワーク課題をもとにグループで看護問題、看護計画、エデュケーションプランを検討できるように準備する。 復習：グループワークで検討された看護問題、看護計画、エデュケーションプランについて理解する。</p> <p>第12回 看護過程の展開④ 全体発表会 予習：個人ワーク課題をもとにグループで看護問題、看護計画、エデュケーションプランを検討できるように準備する。 復習：グループワークで検討された看護問題、看護計画、エデュケーションプランについて理解する。</p> <p>第13回 看護過程の展開⑤ 全体発表会 予習：全体発表会の準備を行う。 復習：全体発表会の振り返りを行う。</p> <p>第14回 全体発表会振り返りとグループ討議 予習：全体発表会の準備を行う。 復習：自己の発表を振り返る。他のグループの発表について理解を深める。</p> <p>第15回 演習（新生児の清潔ケア：沐浴） 予習：演習に必要な資料を読み、動画を視聴する。 復習：演習を振り返り、自己演習に向けての課題を理解する。 アクティブ・ラーニング 講義8回、グループワーク4回、ロールプレイ2回、演習1回</p>
授業の目的・到達目標	女性のマタニティサイクルの中で、褥婦、新生児の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。 ・褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 ・産褥の生理的経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助能力を養う。 ・褥婦におこりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助能力を養う。 ・新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育させるための援助能力を養う。 ・褥婦、新生児の看護に必要な特有の技術を身に付け、母性看護が実践できる能力を養う。 ・対象の家族に対して看護ができる能力を養う。
実務経験に基づく知識の伝達	

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	森 恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]、医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（80%）、レポート（20%）により評価する。総合点が100点満点中60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説し、答案の返却を行う。レポートの返却を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	母性看護方法論Ⅰと母性看護方法論Ⅱは、3年次の母性看護学実習に繋ぐ科目です。当該科目の単位修得だけに終わらず母性看護学として自分なりのポートフォリオを作成してください。
履修登録条件	

講義科目名称：母性看護学実習

英文科目名称：Introduction to maternal nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
島田葉子、栗田佳江				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ		母性看護学

授業概要	2週間の臨地での実習を行う。 実習方法は、機能別実習と受け持ちケース実習である。 ①機能別実習：外来、陣痛室、分娩室、新生児室、褥室において、各対象の看護を機能別に学ぶ。 ②受け持ち実習：正常に経過すると思われる母子を受け持ち、看護過程を展開する。
授業計画	<p>初日 領域初日オリエンテーション 【予習】：母性看護学実習要項を読んでくる。事前学習を確認してくる。 【復習】：配布資料を確認する。</p> <p>1日目 病棟オリエンテーション 【予習】：領域初日オリエンテーションの内容を確認してくる。 【復習】：病棟オリエンテーションの内容を確認してくる。</p> <p>2～10日目 機能別実習又は受け持ちケース実習（看護過程の展開） 【予習】：母性看護学実習要項を読んでくる。事前課題の学修を確認してくる。 【復習】：実践の振り返りを記録する。</p> <p>最終日 実習のまとめ、最終カンファレンス 【予習】：毎日の振り返りを行う。 【復習】：カンファレンスでの学びから実習中の総括をする。</p> <p>土曜日1回 地域との連携：両親学級の見学 【予習】：母性看護学実習要項を読んでくる。事前課題の学修を確認してくる。 【復習】：実践の振り返りを記録する。 ◆アクティブラーニング◆ 実習100%</p>
授業の目的・到達目標	<p>妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に適した看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的経過・母子関係の形成過程について理解できる。 受け持ちケースの看護過程を展開することができる。 母性を取り巻く地域の医療・保健・福祉諸機関との関連について理解できる。 母性看護を通して自己の母性・父性意識を発展させることができる。
実務経験に基づく知識の伝達	助産師・看護師の実務経験を持つ教員が、臨床の実戦的経験を通して、妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に関する実習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	森 恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1][2]、医学書院
参考書	適宜提示する。
評価基準及び成績評価方法	実習目的・目標に沿った評価表に基づき評価する。知識・技術・態度について4段階の評価基準を設けている。
達成度の伝達	<ol style="list-style-type: none"> 記録物やレポートにコメント入れる。 適宜個人面接を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	母性看護方法論Ⅰ・母性看護方法論Ⅱの授業資料、実習事前学習をポートフォーリオとしてまとめ実習に臨んでください。
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護学概論

英文科目名称：Introduction to mental nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
富山美佳子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ		精神看護学	

授業概要	精神看護学概論は精神看護学を学んでいくための入門科目である。まずは自身の生活や身近におきている「こころの健康」や「こころの危機」から学修を進める。次に、日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や日本が抱える課題、精神科領域のチーム医療について理解し理論に基く関わり方の基礎を学ぶ。			
授業計画	第1回	オリエンテーション “心を守る”精神看護学 予習：シラバスを通読して臨む 復習：ポートフォリオの作成		
	第2回	心はどこにある 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 復習：ポートフォリオの作成		
	第3回	ストレスと健康の危機、そして再生・発達 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 復習：ポートフォリオの作成		
	第4回	精神の健康と精神の障害 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む グループワーク 復習：ポートフォリオの作成		
	第5回	社会の中の精神障害の歴史 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第6回	精神障害・精神科病院について考える 予習：事前配布される資料を通読して臨む グループワーク 復習：ポートフォリオの作成		
	第7回	ゲストスピーカー 予習：これまでのポートフォリオを通読して臨む 復習：ポートフォリオの作成		
	第8回	精神科病院に関連する法律・制度 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第9回	多職種との協働（チーム医療）（リエゾン） 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第10回	ライフサイクルと精神保健 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第11回	現代精神科臨床の問題について考える 予習：事前配布される資料を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第12回	精神看護に用いられる主な理論①（セルフケアモデル エンパワメント理論 危機理論 ストレングスモデルリカバリー/適応） 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第13回	精神看護に用いられる主な理論②（セルフケアモデル エンパワメント理論 危機理論 ストレングスモデルリカバリー/適応） 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む 個人ワークとディスカッション 復習：ポートフォリオの作成		
	第14回	関わりの技法（ストレングスマッピングシート） 予習：事前に示されるテキスト箇所を通読して臨む ペアワーク 復習：ポートフォリオの作成		
	第15回	まとめのワーク「もし、私が病気になったらどうして欲しい？」 予習：これまでのポートフォリオを通読して臨む グループワーク 復習：ポートフォリオの作成 ◆アクティブラーニング◆ 講義5回 個人ワークとディスカッション6回		

	ペアワーク 1回 グループワーク 3回
授業の目的・到達目標	1. 精神の健康のとらえ方について理解する。 2. 精神の健康に影響する要因について理解する。 3. 精神障害者の人権を理解できる。 4. 精神の健康の維持増進について理解する。 5. 精神科における医療安全と治療的環境と看護活動について理解できる。 6. 精神看護学で用いる理論の概略を理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、精神臨床看護の経験を活かし、精神看護の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	1. 武井麻子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 2. 萱間真美, 野田文隆編集：NURSING Nice 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 3. 萱間真美, 野田文隆編集：NURSING Nice 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	ポートフォリオ50%、定期試験50%
達成度の伝達	ポートフォリオの中間評価を開示する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	精神疾患は「5大疾患」にもあげられるCommon Disease（よくある病気）です。子どもからお年寄りまでいずれの発達段階にある人にも精神的な健康の維持増進は、健康な日々をおくるための要点となっているのではないのでしょうか？ これからの時代、精神看護に期待される役割はこれまで以上に広く深くなるのではないかと考えています。その期待に応えるための知識はフレキシブルで、実践的であることが大切です。ディスカッションやグループワークを通して、自身の体験と結びつけたり、考えを深めたりして能動的に学びましょう。 オフィスアワー：月曜日（終日）・火曜日（終日）（原則学内におりますので、不在の場合は研究室前のボードにメモを残していただければ速やかに連絡いたします）
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護方法論 I

英文科目名称：Mental nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	必修	演習
担当教員				
富山美佳子、宮武陽子				
看護専門科目群	看護専門分野 II	精神看護学		

授業概要	精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的な方法について学習する。			
授業計画	第 1 回	オリエンテーション 予習：シラバスを通読し臨む 復習：連続講義のため第 2 回目を参照		
	第 2 回	心を病むこと 回復することの理解（バイオ・サイコ・ソーシャルモデル） 予習：事前に示されるテキストページを通読し臨む 個人ワーク・ディスカッション 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 3 回	症状の理解 予習：前期履修科目「臨床医学Ⅳ」を見直し、本日の学修内容に必要な資源を用意する 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 4 回	地域における精神保健と精神看護 生活を支えるための社会資源・サービス 予習：事前に示されるテキストページを通読し臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 5 回	精神障害の診断と分類そして治療と看護（グループワーク オリエンテーション） 予習：事前に示される資料を通読し臨む 復習：次回からの予定を計画するとともに、学修の準備をする		
	第 6 回	グループワーク 1 - ① 予習：連続講義のため第 5 回目と同様 復習：臨機に応じた対処を行う 学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 7 回	グループワーク 1 - ② 予習：学修に必要な準備をして臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 8 回	グループワーク 2 予習：学修に必要な準備をして臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 9 回	グループワーク 3 予習：学修に必要な準備をして臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 10 回	グループワーク 4 予習：学修に必要な準備をして臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 11 回	グループワーク 【共有（発表）・（視点を切り替えて）追究】 予習：共有（発表）に必要な準備をして臨む 復習：発表後の意見交換を含めた学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 12 回	グループワーク 1-4【まとめ】 予習：主体的なまとめとなるように必要な準備をして臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 13 回	医療職者の感情労働 予習：事前に示されるテキストページ・資料を通読し臨む 復習：学びを整理し、ポートフォリオを整える		
	第 14 回	プロセスレコード 予習：事前に示されるテキストページ・資料を通読し臨む ペアワーク 復習：学びを整理し、提出課題を完成させる		
	第 15 回	まとめ 予習：ポートフォリオを見直し、不明点や疑問を明確にして臨む 復習：学びを整理する ◆アクティブラーニング◆ 講義：6 回 グループワーク・ディスカッション：8 回 ペアワークとディスカッション：1 回		
授業の目的・到達目標	1. 精神疾患・障害の回復過程に応じた看護活動について理解できる。 2. 主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護について理解できる。 3. 精神科領域における治療と看護活動について理解できる。 4. 精神の健康に関する資源・法制度の概要について理解する。			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、精神臨床看護の経験を活かし、精神看護の基礎知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			

教科書	1. 武井麻子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 2. 萱間真美, 野田文隆編集：NURSING Nice 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂 3. 萱間真美, 野田文隆編集：NURSING Nice 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	プロセスレコード 20% ポートフォリオ 30% 筆記試験 50%
達成度の伝達	中間評価を開示する
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	精神看護概論に引き続き精神看護実践編の学びです。 グループワークで協力しつつ、自身の学びは自己管理できるように頑張りましょう。 オフィスアワー：月曜日（午前） 木曜日（午後）（原則学内にありますので、不在の場合は研究室前のボードにメモを残していただければ速やかに連絡いたします）
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Mental nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
宮武陽子、富山美佳子				
看護専門科目群	看護専門分野Ⅱ	精神看護学		

授業概要	事例をもとに精神に障がいを持つ人の看護を展開する。グループワークで、事例患者の身体的・精神的・社会的モデルを踏まえた全体像をとらえ、アセスメントを行い、看護計画の立案まで検討しプランを立案することで精神看護における看護過程の発展の仕方を学ぶ。さらに、グループワークの発表を共有することで、視点のとらえ方や様々な援助策の拡がりをもって学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 予習：既習科目臨床医学Ⅳ、精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰの復習、ポートフォリオの追加をし授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料を再度読み返し、これからの学修予定を把握する。</p> <p>第2回 ストレングスモデルについて（GW） 予習：ストレングスモデルについての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第3回 ストレングスモデルについて（GW発表） 予習：ストレングスモデルについての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第4回 社会資源を用い「地域で生活すること」を考える（GW） 予習：社会資源についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第5回 社会資源を用い「地域で生活すること」を考える（GW） 予習：社会資源についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料を再度読み返し理解を深める。</p> <p>第6回 社会資源を用い「地域で生活すること」を考える（GW） 予習：社会資源についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第7回 社会資源を用い「地域で生活すること」を考える（GW発表） 予習：社会資源についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第8回 社会資源を用い「地域で生活すること」を考える（GW発表） 予習：社会資源についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：テキスト、配布した授業資料、ポートフォリオを再度読み返し理解を深める。</p> <p>第9回 事例に基づいた看護過程の展開（事例提示、アセスメント） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（事例提示、アセスメント）について振り返り学びを深める。</p> <p>第10回 事例に基づいた看護過程の展開（アセスメント） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（アセスメント）について振り返り学びを深める。</p> <p>第11回 事例に基づいた看護過程の展開（アセスメント） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（アセスメント）について振り返り学びを深める。</p> <p>第12回 事例に基づいた看護過程の展開GW（関連図） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（関連図）について振り返り学びを深める。</p> <p>第13回 事例に基づいた看護過程の展開GW（関連図） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（関連図）について振り返り学びを深める。</p> <p>第14回 事例に基づいた看護過程の展開GW（関連図）発表 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（関連図）について振り返り学びを深める。</p> <p>第15回 事例に基づいた看護過程の展開GW（看護計画） 予習：看護過程についての復習をし、ポートフォリオを追加し授業に臨む。 復習：事例に基づいた看護過程の展開（看護計画）について振り返り学びを深める。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ グループワーク11回、ディスカッション2回、プレゼンテーション2回</p>
授業の目的・到達目標	<p>精神に障がいを持つ対象の特徴を踏まえて、対象への看護過程を展開できる能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神に障がいを持つ対象の看護課程における情報の整理、全体像の把握、アセスメントができ、看護問題の抽出ができる。 ・精神に障がいを持つ対象の看護課程における看護目標の設定、看護計画の立案ができる。 ・立案した看護計画に基づき、看護実践のシミュレーションができる。 ・看護実践の結果に基づき、看護計画の評価・修正ができる。
実務経験に基づく知識の伝達	精神科看護の実務経験を持つ教員が、精神看護過程の教授を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とさ

	れる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子著 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神保健・他職種をつなぐ 改定第2版 編集 萱間真美 野田文隆 南江堂 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 改定第2版 編集 萱間真美 野田文隆 南江堂
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	事例看護過程レポート：個人ワーク50%、試験50%（ポートフォリオを含む）
達成度の伝達	レポートはコメントを入れ返却する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：精神看護学実習

英文科目名称：Mental nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
富山美佳子、宮武陽子				
看護専門科目群		看護専門分野Ⅱ	精神看護学	

授業概要	精神科病棟において、精神障がいをもつ対象の身体的・精神的・社会的側面を総合的に理解し、対象に適した看護を実践できる基礎的能力の修得を目指す。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科病棟の特徴の実際を学ぶ。 ・原則として学生1名に対し対象1名の受持ち実習にて看護過程を展開する。 1週目：プロセスレコードカンファレンス、関連図カンファレンス、学内において対象の全体像の発表 2週目：プロセスレコードカンファレンス、関連図カンファレンス、ストレングスシートの活用、学内において対象の全体像の発表 ・対象と様々なコミュニケーション技法で関わり対象の理解につなげていく。 <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100%</p>
授業の目的・到達目標	<p>精神障がいをもつ対象の身体的・精神的・社会的側面を総合的に理解し、対象に適した看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障がいをもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、精神症状と身体に関連性が理解できる。 2) 精神障がいをもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、精神疾患と精神症状による日常生活への影響が理解できる。 3) 看護理論を基に看護過程を展開し看護を実践できる。 4) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割や連携について理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	精神科臨床の実務経験を持つ教員が、授業・実習に関する実践活動を通して、対象を総合的に理解できるよう臨地実習で関わる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	学内の学修で使用した教科書を活用する。 2年次の精神看護方法論Ⅰ、Ⅱで作成したポートフォリオに追加・修正しながら活用する。
参考書	随時提供する。
評価基準及び成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は出席が5分の4以上出席している者について行う。 ・臨地及び学内実習に対し実習評価表を基に総合的に判断する。また、精神看護学実習の目的と目標の到達度の範囲・程度も含めて評価する。
達成度の伝達	学内実習日には個人面接を行い、各学生の強みと改善すべき点及び記録物に関する指導をします。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	記録物に適宜コメントをしますので、速やかに追加修正を実施してください。貴重な臨地の場です。対象と関わって「その人」を理解することを大切にしてください。
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護概論

英文科目名称：Introduction to home care nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
杉本厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	在宅看護論	養護教諭一種免許状	

授業概要	居宅等における療養者とその家族について総合的に理解し、安定した療養生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎知識、および、地域包括ケアシステムを学ぶ。学習目標は、①在宅医療推進の社会的背景と在宅看護の役割・機能について理解する、②居宅等における療養者の健康障害、および、生活上の課題を理解する、③療養者を介護する家族の役割と課題について理解する、④療養者および家族を支援する地域ケアシステムを理解する、⑤在宅看護における関連機関・関連職種との連携について理解する、の5点である。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 在宅看護の変遷と歴史的背景 ・在宅医療・在宅看護が必要とされる社会的背景 ・在宅看護の変遷 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。	第2回	在宅看護の目的と特性 ・在宅で療養することの意味 ・在宅看護の目的 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。
	第3回	在宅療養者の理解とサポートシステム ・在宅看護の対象者 ・在宅の「場」の違いにおける看護の役割 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。	第4回	在宅ケアにかかわる諸制度 ・在宅ケアを支える医療保険・介護保険 ・在宅療養における社会制度 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。
	第5回	在宅ケアにおけるケアマネジメント ・ケアマネジメントの定義 ・居宅介護支援専門員 ・ケアマネジメントの展開 ・サービス担当者会議 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。	第6回	訪問看護制度の概要と役割 ・訪問看護制度 ・訪問看護ステーションについて 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。
	第7回	在宅看護におけるリスクマネジメント ・生活の中で必要な安全管理 ・感染症の予防と対策 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。	第8回	訪問看護マナーと実際のしくみ：在宅看護管理と人材育成 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。
	第9回	病院と在宅の違い 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。	第10回	在宅移行への継続看護 ・退院調整と退院支援 ・病院看護師と訪問看護師との連携 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。
	第11回	小児の在宅医療 ゲストスピーカー 小児の訪問看護を積極的に行っている訪問看護リハビリテーション管理者である先生に教授いただく。 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む		

	<p>復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第12回 在宅事例におけるグループワーク①</p> <p>予習：テーマについて必要な情報収集を行う。</p> <p>復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第13回 在宅事例におけるグループワーク②</p> <p>予習：テーマについて必要な情報収集を行う。</p> <p>復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第14回 事例発表</p> <p>予習：グループワーク発表準備し講義に臨む</p> <p>復習：プレゼンテーションを行うことで、在宅看護の理解を深める。</p> <p>第15回 在宅看護の展望と総括</p> <p>予習：在宅看護について理解できていない部分を予習する。</p> <p>復習：在宅看護について理解ができるよう総復習する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p> <p>講義12回グループワーク2回プレゼンテーション1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆</p> <p>予習・復習時間45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>在宅で療養する個人とその家族に対する看護活動に必要な基礎的知識を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療推進の社会的背景と在宅看護の役割・機能がわかる。 ・居宅等における療養者の健康障害、および、生活上の課題がわかる。 ・療養者を介護する家族の役割と生活上の課題がわかる。 ・療養者および家族を支援する地域ケアシステムについて説明できる。 ・在宅看護における関連機関・関連職種との連携について説明できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>臨床現場で退院支援等（ケアマネジャーの資格取得）にかかわり在宅療養のケア向上に努めて臨床実践・研究を推進してきた教員が在宅看護論の基礎知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術</p>
参考書	<p>随時、参考資料を配布</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>小テスト・レポート提出課題40% 定期試験60%</p>
達成度の伝達	<p>小テストの結果から、自分の理解度を確認する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護方法論 I

英文科目名称：Home care nursing methodology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
杉本厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	在宅看護論		

授業概要	<p>疾病や障害をもちながら居宅等で療養している人々が、地域の中で自立した生活を送るために必要な在宅ケアマネジメントについて講義・演習を通して学ぶ。①ケアマネジメントの目的・役割・機能について理解する、②介護保険法、障害者自立支援法におけるサービス利用までのプロセスを理解する、③ケアマネジメントの方法を理解する、④ケアプラン・サービス計画の立案の方法を理解する、⑤ケアマネジメントにおけるモニタリングと評価について理解することを学習目標とする。</p>			
授業計画	第1回	<p>ガイダンス 在宅看護の特徴を理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護方法論 I の授業の進め方についての説明 在宅看護の変遷と社会背景、在宅医療の現状について学ぶ。 療養者のための看護師ほか他職種との連携について <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第2回	<p>在宅看護の特徴を理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護制度の仕組みについて理解する。 医療保険制度における訪問看護と介護保険制度における訪問看護について事例を通して学ぶ。 障害者の福祉制度（障害者総合支援法）について理解する <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第3回	<p>在宅療養に必要な医療・看護・福祉制度を理解する① 継続看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護の対象者（療養者本人と家族・介護者）と理解し、家族・介護者の介護負担について学ぶ。 継続看護 退院支援について事例を通して学ぶ 神経難病（筋萎縮性側索硬化症等）と在宅人工呼吸療法の事例 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第4回	<p>在宅療養に必要な医療・看護・福祉制度を理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の仕組みについて学ぶ。 介護保険制度における介護サービスについて学ぶ。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第5回	<p>在宅看護過程の展開 （1）情報の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 障害者総合支援法による在宅サービスと施設サービスの理解 在宅難病者に対する制度と社会資源を事例を通して学ぶ <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第6回	<p>在宅看護過程の展開 （1）情報の整理 看護問題の抽出 サービス関連図</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養成立の条件を理解し、在宅ケアチームにおける看護の役割について事例を通して学ぶ。 在宅療養者の事例を通して、在宅サービスの内容・担当職種、ケアマネジメントについて学ぶ。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第7回	<p>在宅看護過程の展開 （2）情報の整理 看護問題の抽出 サービス関連図</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムを理解する 地域包括支援センターの位置づけと役割について学ぶ。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第8回	<p>在宅看護過程の展開 （3）看護問題の抽出 サービス関連図</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 療養者の基本的な情報の整理 国際生活機能分類（ICF）の構成要素と相互作用について理解する。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第9回	<p>在宅看護過程の展開 （4）看護計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 療養者の基本的な情報の整理 ICFの構成要素に沿って、療養者の基本的な情報の整理について学ぶ。 療養者の状態を予測し看護計画を立案する。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第10回	<p>在宅看護過程の展開 （5）看護計画の評価・修正</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 看護問題の抽出と解決策の立案 ICFの構成要素に沿って分類された、療養者の基本的情報から看護問題を抽出する。 療養者の状態を予測し看護計画の評価修正を行う。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第11回 在宅看護過程の展開 (6) サービスの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 看護問題の抽出と解決策の評価・修正 看護問題解決のための在宅サービスの種類と頻度について考える。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第12回 在宅看護過程の展開 (7) 在宅ケアと在宅看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養における看護を模擬事例を通して学ぶ 在宅サービスについて理解する 在宅サービスの種類とケア内容から、各サービス間の連携や情報共有についてまとめる。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第13回 在宅看護過程のまとめ (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬事例の看護過程の展開グループワークを行い学習内容をまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 在宅ケアチームにおける看護師の役割。 在宅看護に求められる疾患の知識と看護技術。 <p>を行い理解を深める 予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第14回 在宅看護過程のまとめ (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬事例の看護過程の展開グループワークを行い学習内容をまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 在宅看護における主治医との連携。 在宅看護における医療関係以外の職種との連携の必要性。 在宅看護に必要な社会保障制度の知識。 <p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第15回 在宅看護方法論Ⅰのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護方法論Ⅰの総括 グループワークプレゼンテーション <p>予習：在宅看護方法論について理解できていない部分を予習する 復習：在宅看護方法論について理解できるよう復習する。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義12回グループワーク2回プレゼンテーション1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習時間10時間</p>
授業の目的・到達目標	在宅療養者の特徴を理解し、在宅看護の場で求められる看護過程の展開に必要な知識を身につけ、在宅医療・看護・福祉に関する制度に基づいた看護計画の立案ができる。医療施設から在宅療養・施設介護への看護の継続の視点とその仕組みを学ぶ。在宅療養を支える家族・介護者の健康管理の必要性を理解し、在宅介護の継続に必要な看護の提供について学ぶ。
実務経験に基づく知識の伝達	臨床現場で退院支援等（ケアマネジャーの資格取得）にかかわり在宅療養のケア向上に努めて臨床実践・研究を推進してきた教員が在宅看護方法論の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統別看護学講座 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術
参考書	写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
評価基準及び成績評価方法	筆記試験60% 小テスト：グループワーク：レポート40%
達成度の伝達	配布された結果一覧より達成度を自己評価する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	在宅看護方法論Ⅰは、在宅で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の実践に必要な医療・看護・福祉制度の理解と看護過程の展開方法の知識が求められる。また、関係職種の担当するサービス内容を理解し、連携に必要な知識・技術を学びます。臨床看護と異なり、一般の家庭が看護の提供の場となりますので、授業を通して訪問時のマナーも身につけましょう。
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Home care nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
杉本厚子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		在宅看護論

授業概要	<p>疾病・障害により「医療ケア」と「生活ケア」を必要とする療養者とその家族への援助方法や在宅療養支援体制について演習（実技含む）を通して学ぶ。①生活の場における「医療ケア」・「生活ケア」の特徴を理解する。②慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解する。③神経難病難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解する。④認知症がある療養者と家族への援助方法を理解する。⑤独居で精神障害をもつ療養者への援助方法を理解する。⑥終末期にある人とその家族への援助方法を理解することを学習目標とする。</p>			
授業計画	第1回	<p>ガイダンス 在宅看護の実際①</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅看護方法論Ⅱの授業の進め方の説明。 在宅看護におけるアセスメント技術と在宅医療機器について学ぶ。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第2回	<p>在宅看護の実際②</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメントとケアマネジメントの機能 介護保険における訪問看護・介護サービスの種類と内容 医療保険における訪問看護について（厚生労働大臣が定める疾患等） 地域包括ケアシステム <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第3回	<p>在宅看護の実際③ 福祉用具と日常生活用具</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉用具、日常生活補助具の実際について学ぶ。 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第4回	<p>在宅看護技術 疾患別の観察技術①アセスメント技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等）と在宅酸素療法 在宅栄養管理（在宅中心静脈栄養、経管栄養等） <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第5回	<p>在宅看護技術 疾患別の観察技術②アセスメント技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法中の在宅療養 感染症予防と安全管理 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第6回	<p>在宅看護技術 症状別の観察技術③アセスメント技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 神経難病（筋萎縮性側索硬化症等）と在宅人工呼吸療法 筋・骨格系疾患（パーキンソン病等） <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第7回	<p>在宅看護技術 症状別の観察技術④アセスメント技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 循環器系疾患（脳血管疾患、心疾患、腎疾患等） 代謝性疾患（糖尿病等） <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第8回	<p>在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療①</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期療養者の看護 在宅リハビリテーション、住宅改修、移動福祉用具 <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第9回	<p>在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療② ゲストスピーカー</p> <p>認知症高齢者支援対策として市町村が取り組んでいる、認知症サポーター養成講座を講義していただく</p> <p>予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問、またオフィスアワーを利用し理解を深める。</p>		
	第10回	<p>在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療③</p> <p>演習：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン測定の演習 観察の視点（病状、医療処置の内容、ADL・IADL、介護状況）について学びをまとめる 在宅看護実習室において、グループごとに福祉用具の活用と使用の目的について演習を行う。 <p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。</p>		

第11回	<p>復習：グループワークした内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療④</p> <p>演習：グループワーク ・在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療の実際を演習にて学ぶ。 ・医療処置の看護手順・必要物品・観察のポイントを演習を通して体得する。 ・DVD等により理解の促進を図る。</p>
第12回	<p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワークした内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。 在宅医療・看護技術① 在宅医療機器</p> <p>演習：グループワーク ・在宅医療機器の特徴について学習を行い知識としてまとめる。</p>
第13回	<p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワークした内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。 在宅医療・看護技術② 在宅医療機器</p> <p>演習：グループワーク ・在宅医療機器の操作、看護技術演習を通して体得する。 ・シミュレーター学習</p>
第14回	<p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワークした内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。 在宅医療・看護技術③</p> <p>プレゼンテーション</p>
第15回	<p>予習：テーマに必要な情報収集を行う。 復習：グループワークした内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。 在宅看護方法論のまとめ プレゼンテーション ・在宅看護の今後と課題と展望 ・在宅看護論実習に向けて</p> <p>予習：訪問看護方法論について理解できていない部分を予習する。 復習：在宅看護方法論について理解を深め総復習する。</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義9回グループワーク・演習4回プレゼンテーション2回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習10時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>疾病や障害をもちながら居宅で療養している対象に特徴的な健康障害を理解し、対象の自立・自律を促進しQOLを維持・向上させていくために在宅療養支援体制と看護を展開するうえでの基礎的看護について修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における「医療ケア」・「生活ケア」の特徴を理解できる。 ・慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解できる。 ・神経難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解できる。 ・認知症がある療養者と家族への援助方法を理解できる。 ・終末期にある人とその家族への援助方法を理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>臨床現場で退院支援等（ケアマネジャーの資格取得）にかかわり在宅療養のケア向上に努めて臨床実践・研究を推進してきた教員が在宅看護論の基礎知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術</p>
参考書	<p>写真でわかるシリーズ 写真でわかる訪問看護（改訂代2版） インターメディカ</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験60% 小テスト・レポート・演習40%</p>
達成度の伝達	<p>配布された結果一覧により達成度を自己評価する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>在宅看護方法論Ⅱは、在宅看護に必要な疾患の実践的な看護技術、医療・看護・福祉の関わる制度の理解、ケアマネジメントの理解など幅広い知識・技術が求められます。 臨床看護学のすべての看護学領域が関係する分野ですので、授業時間以外の自己学習時間を十分に活用して、予習・復習を行って、授業に臨んでください。</p>
履修登録条件	

講義科目名称： 家族看護論

英文科目名称： Family nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
杉本厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	

授業概要	患者のケアにおいては、専門職だけでなく家族の果たす役割が重要な位置を占めている。これらの家族を看護の対象として捉え、家族援助の方法を学習する。授業では、①家族の発達と危機、②家族員の健康問題によって生じる家族の問題、③家族機能をシステムとしての捉える方法、家族のセルフケア能力を高める援助、⑤家族看護に関する主な理論やモデルを学習する。そして、家族看護における看護専門職の役割について考察する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 家族看護論とは 「家族」とは 家族の機能・形態の変化 家族看護論の発展と動向 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第2回	家族看護論における対象の理解 ① 発達する家族：家族周期 システムとしての家族 事例についてグループワークを行い理解を深める 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第3回	家族看護論における対象の理解 ② 家族の理解 家族像の形成 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第4回	家族看護論における看護実践 ① 健康な家族についての考え方 家族とのパートナーシップ 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第5回	家族看護論における看護実践② 代表的なアセスメントモデル、家族を援助するときの基本姿勢 セルフケア機能について 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第6回	家族看護実践と社会的・文化的背景 ① 家族と文化：多様性 家族と地域社会 経済的側面が家族に与える影響 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第7回	家族看護実践に役立つ考え方 ① 実践例 在宅看取りと終末期グリーフケアについて考えレポートする 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、次回講義内に質問時間を設けるので質問紙、またオフィスアワーを利用し理解を深める。		
	第8回	家族看護実践に役立つ考え方 ② 実践例 まとめ 予習：シラバスを確認し、当該範囲のテキストを読み講義に臨む 復習：理解できなかった事柄は自己学習し、解決できなかったことは、オフィスアワーを利用し理解を深める。 ◆アクティブラーニング◆ 講義7回グループワーク1回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習10時間		
授業の目的・到達目標	家族および家族支援に関する諸理論を学び、家族の持つセルフケア能力を高める援助方法について理解する。 ・看護の対象としての家族を理解できる。 ・現代社会における家族について理解できる。 ・家族アセスメントの方法と家族の援助方法について理解できる。 ・家族看護における看護職の役割を理解できる。			
実務経験に基づく知識の伝達	臨床現場で退院支援等（ケアマネジャーの資格取得）にかかわり在宅療養のケア向上に努めて臨床実践・研究を推進してきた教員が家族看護学の基礎知識及び看護専門職の役割について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院			
参考書	山崎あけみ他：家族看護学。南江堂。2015.			

評価基準及び成績 評価方法	小テスト50% 課題レポート50%
達成度の伝達	配布された結果一覧により達成度を自分で確認する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	臨地実習での経験を振り返り、家族の問題をイメージしながら学んで下さい。 ○オフィスアワー：授業開講日の昼休み時間
履修登録条件	

講義科目名称：在宅看護論実習

英文科目名称：Home care nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
杉本厚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	

授業概要	居宅等で療養する訪問看護利用者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護援助の実際と、在宅療養生活を支援する地域包括ケアシステムについて、主に訪問看護ステーションを拠点として学習する。
授業計画	<p>実習期間：2019年5月6日～12月20日 実習時間：8時30分～16：00 実習場所：訪問看護ステーション 地域包括支援センター 社会復帰施設</p> <p>訪問看護ステーション実習 初日 学内オリエンテーション：実技演習。 予習 在宅看護論実習要項を読んでくる。在宅看護概論：方法論ⅠⅡの復習を行う。 復習 訪問看護技術の復習。 2～4日目 訪問看護師指導者とともに訪問看護実習。 4日目カンファレンス 予習 訪問事例の疾患、看護ケアの確認。 復習 訪問看護の実際を振り返り記録する。 5日目 実習のまとめ 予習 在宅療養中の看護ケアの振り返りを行う 復習 訪問看護ステーションでの学びを記録し総括する。</p> <p>地域包括支援センター：社会復帰施設実習 初日 学内オリエンテーション： 予習 地域包括支援センターの役割、社会復帰施設での看護の役割について確認する。 復習 2日目の実習予定内容の確認 2日目 地域包括支援センター実習 予習 当日実習の内容について確認する 復習 地域包括支援センターの役割について復習する。 3日目 精神科デイケア実習 予習 デイケアでの看護の役割について確認する。 復習 デイケアの役割について理解を深める。 4日目 グループホーム見学：就労支援実習 予習 精神障がい者の地域生活支援について確認する。 復習 精神障がい者の地域生活支援についての理解を深める。 5日目 実習のまとめ 予習 在宅療養中の看護ケアの振り返りを行う 復習 地域包括支援センター：社会復帰施設での学びを記録し総括する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100%</p>
授業の目的・到達目標	<p>目的 地域の居宅等で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>到達目標 1. 在宅療養者とその家族を総合的に理解する。 2. 生活の場で展開される看護活動の実際を理解する。 3. 在宅療養開始・継続するための支援体制と看護師の役割が理解できる。 4. 地域で生活する精神障害者とその家族への支援の実際を理解する。 5. 地域包括支援センターの業務内容と介護予防事業について理解できる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	臨床現場で退院支援等（ケアマネジャー資格取得）にかかわり在宅療養のケア向上に努めて臨床実践・研究を推進してきた教員が在宅看護論実習を指導する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	在宅看護概論・在宅看護方法論で使用した教科書
参考書	押川眞喜子編 写真でわかる訪問看護 インターメディカ 2016. その他実習中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	(1) 出席状況、実習記録、実習態度、実習事前学習の状況から総合的に評価する。 (2) 実習評価表に基づき、実習指導者の意見と(1)の内容から教科担当教員が評価する。 (3) 行動目標を評価内容とし、1～4点の4段階で評価し、60点以上を合格とする。
達成度の伝達	記録提出物にコメントする。 個人面接を行い達成度を伝える。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	実習前に知識の確認テストを実施する。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護学概論

英文科目名称：Introduction to public health nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
沼田加代				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	公衆衛生看護学の基本的理念と目的を理解し、公衆衛生看護の対象や場の特性を学ぶ。公衆衛生看護学の対象となる個人・家族・集団・組織を含むコミュニティである地域について理解し、公衆衛生看護学の基本的な考え方であるプライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションを学ぶ。さらに、地域や社会の動向からみた人々の健康課題とその支援となる公衆衛生看護活動の基本的な展開を学ぶ。また、歴史的変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開の基礎を学び、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱの科目で具体的な内容につながるよう学習をすすめる。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 公衆衛生看護学とは① 公衆衛生看護学の理念と目的、公衆衛生看護の職業倫理、保健師助産師看護師法 【予習】テキストP3～12「公衆衛生看護学の概念」、テキストP507～514「保健師の活動と倫理的問題」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第2回	公衆衛生看護学とは② 公衆衛生看護学の基本理念：健康の概念、予防レベルと公衆衛生看護活動、日本の健康政策 【予習】第1回目のテキスト該当部分を再度よく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第3回	公衆衛生看護学とは③ 公衆衛生の定義：ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア 【予習】テキストP13～20「ヘルスプロモーション」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第4回	公衆衛生看護学とは④ 公衆衛生看護の変遷 【予習】テキストP21～35「公衆衛生看護の歴史」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第5回	公衆衛生看護学とは⑤ 保健医療福祉システム：公衆衛生行政、公衆衛生看護と法体系 【予習】テキストP49～57「保健医療福祉システム」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第6回	公衆衛生看護活動① 公衆衛生看護活動の対象：個人・家族、組織、集団、コミュニティ 【予習】テキストP7～10「地域保健活動の場と対象」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第7回	公衆衛生看護活動② 公衆衛生看護活動の場、活動内容、活動方法とその特性 【予習】第6回目のテキスト該当部分をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第8回	公衆衛生看護活動③ 社会環境の変化と健康課題：人口や疾病構造と健康課題、社会構造・文化的背景と健康課題、環境と健康 【予習】テキストP69～82「社会情勢の変化と健康問題」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第9回	公衆衛生看護活動④ 保健指導：目的・対象、特徴、方法と選定 【予習】テキストP64～68「保健師が行う保健指導」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第10回	公衆衛生看護活動⑤ 保健行動：保健行動とは、保健行動と行動変容、セルフケア行動 【予習】テキストP83～96「保健行動と保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第11回	公衆衛生看護活動⑥ 公衆衛生看護活動の場と特性：行政、学校、職域、医療・福祉施設 【予習】テキストP58～63「地域保健の活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第12回	公衆衛生看護活動の展開過程 自己決定の支援、ソーシャル・キャピタルや社会的ネットワークの活用、PDCAサイクルとマネジメント 【予習】テキストP17「ヘルスプロモーションを支えるキーワード」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第13回	公衆衛生看護の展開① 対象別公衆衛生看護活動：母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障害者（児）保健活動 【予習】テキストP238～358の「保健活動の概論」箇所をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第14回	公衆衛生看護の展開② 対象別公衆衛生看護活動：感染症の保健活動、難病の保健活動、災害と保健活動 【予習】テキストP359～432の「保健活動の概論」箇所をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第15回	公衆衛生看護活動の展望 公衆衛生看護活動の課題、公衆衛生看護活動の今後の展望		

	<p>【予習】これまでの配布資料を読み返しておく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義14回、グループワーク1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習45時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>公衆衛生看護学の基本的理念と目的、公衆衛生看護の対象や場の特性を理解し、公衆衛生看護活動の基礎を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学の理念・目的・概念・対象について理解できる。 ・プライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションの理念が理解できる。 ・地域や社会の動向と人々の健康課題と公衆衛生看護活動の基本的な展開が理解できる。 ・歴史的変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開についてその基礎を理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>保健師の実務経験を活かし、「保健師とは」について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第5版）、インターメディカル。</p>
参考書	<p>標 美奈子,他 著：《標準保健師講座1》 公衆衛生看護学概論, 医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向, 厚生統計協会。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験80%、レポート課題20%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>前期は実習期間中のため随時、連絡する。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：健康教育相談論

英文科目名称：Health education counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
豊島幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	あらゆるライフステージにある対象者が健康の保持増進をしながら生活するための援助方法である健康相談及び健康教育についてその基礎的知識・技術・態度を学習する。 健康教育や健康相談のニーズについて、あらゆる側面からアセスメントする方法について理解し、対象者の健康レベルをふまえた援助方法について学ぶ。特に対象者自身の能力を促進し、自ら課題を解決して行くことができるような支援について学習する。			
授業計画	第1回	学校における健康相談と保健指導の基本的な理解 学校における健康相談と保健指導の捉え方 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で健康相談に関する記事を1例選び授業に臨む。		
	第2回	健康相談と保健指導の重要性と法的根拠 健康相談の重要性 保健指導の重要性 健康相談・保健指導の法的位置付けと改正の趣旨 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で保健指導に関する記事を1例選び授業に臨む。		
	第3回	学校における健康相談の基本的理解 健康相談の目的 健康相談の対象者 健康相談のプロセス 健康相談実施上の留意点 健康相談における養護教諭、学級担任等、学校医等の役割 【課題・予習・復習・授業準備指示】 健康相談について母校の保健室を想定して考える。		
	第4回	学校における保健指導の基本的理解 保健指導の目的 保健指導の対象者 保健指導のプロセス 保健指導実施上の留意点 養護教諭、学級担任等、学校医等が行う保健指導 保健指導の理解 特別活動における保健指導と個別の保健指導との関連 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健指導について母校の保健室を想定して考える。		
	第5回	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 発達段階別身体の健康問題の特徴と理解 学童期、青年前期、青年後期 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について母校の保健室を想定して考える。		
	第6回	発達段階別心の健康問題の特徴と理解 学童期、青年前期、青年後期 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心の健康課題を抱える児童生徒について母校の保健室を想定して考える。		
	第7回	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり 健康相談の基本的なプロセス 対象者の把握 健康問題の背景の把握 支援方針・支援方法の検討 支援の実施と評価 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について母校の保健室を想定し、支援体制を考える。		
	第8回	学校内外の支援体制づくり 校内組織体制づくり 地域の関係機関等との連携体制づくり 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について、支援体制を考える。		
	第9回	支援の進め方 支援計画の作成 支援検討会議 記録 評価 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について支援計画を考える。		
	第10回	基本的な相談技術及び留意点 相談に当たった際の基礎事項 相談に当たった際の留意点 保護者との相談におけるポイント 【課題・予習・復習・授業準備指示】		

	<p>心身の健康課題を抱える児童生徒について留意点を考える。 不登校及び保健室登校への対応 不登校への対応 保健室登校への対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健室登校の児童生徒について支援体制を考える。</p> <p>第12回 個別の保健指導の進め方 児童生徒の対象者の把握 健康問題の把握と保健指導の目標の設定 指導方針・指導計画の作成と役割分担 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について保健指導の進め方を考える。</p> <p>第13回 保健指導の実施 保健指導の実施と評価 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心身の健康課題を抱える児童生徒について母校の保健室を想定し、自身が養護教諭と仮定して考え授業に臨む。</p> <p>第14回 保健指導における連携 校内組織体制づくり 地域の関連機関等との連携体制づくり 【課題・予習・復習・授業準備指示】 強く生き抜く力を育てるために、児童生徒への関わりについて考える。</p> <p>第15回 健康相談及び保健指導事例 健康相談及び保健指導の事例から学ぶ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 強く生き抜く力を育てるために、児童生徒への関わりについて考える。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義8回、演習3回、プレゼンテーション4回</p>
授業の目的・到達目標	<p>あらゆるライフステージにある対象者の健康の維持増進のための援助方法の一つである健康相談及び健康教育について、その基礎的知識・技術を学ぶことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育相談活動の目的・理論・方法について理解する ・健康教育相談活動の機能・役割と、保健行政と支援システムについて理解する。 ・さまざまな場における健康教育相談活動について理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小学校・中学校・高等学校の養護教諭としての実務経験を活かし、健康相談に関する基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き（文部科学省 2015）
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20%
達成度の伝達	筆記試験の解答は各自が教科書および配付資料で確認する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>水曜日（12:00～13:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。面接予約方法は授業で提示します。 ・予習（1時間）復習（1時間）を各自が行い、健康相談に関する学びを深めること。
履修登録条件	

講義科目名称：学校保健

英文科目名称：School health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状

授業概要	学校保健は、養護教諭のみならず、すべての教育関係者が理解しておかなければならない基礎基本の内容である。学校保健の目的や領域構造、法的根拠等について学習する。			
授業計画	第1回	教育職員としての養護教諭の役割、日本の養護教諭と海外のスクールナースの位置づけの違い 日本の養護教諭と海外のスクールナースの違いについて学び、日本独自の養護教諭の職務について理解する。【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。		
	第2回	学校保健の目的、学校保健の領域構造 学校保健は、学校教育目標の具現化を図るための活動であり、結果として児童生徒の心身の健康の保持増進につながるものでなければならない。学校保健の基本的な捉え方について評価指標を基に考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学校保健について考える。		
	第3回	学習指導要領と学校保健 学習指導要領について健康教育の視点から理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学習指導要領について文部科学省のホームページから調べて授業に臨む。		
	第4回	学校経営と保健室経営 学校経営について理解し、保健室経営案の立案について学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として保健室経営について考える。		
	第5回	養護教諭と職務内容 養護教諭の職務について学ぶ。これまで成長してきた過程を振り返り、小学校、中学校、高等学校の保健室を通じた関わりについて考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として、自身の小中高の保健室での養護教諭との関わりについて考える。		
	第6回	保健室を通じた関わりの体験について考える（グループ討議①） 保健室を通じた関わりの体験について各自が振り返り考えた内容をグループで話し合う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として、自身の小中高の保健室での養護教諭との関わりについてまとめて授業に臨む。		
	第7回	保健室を通じた関わりの体験について考える（グループ討議②） 保健室を通じた関わりの体験について各自が振り返り考えた内容をグループで話し合う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として、自身の小中高の保健室での養護教諭との関わりについてまとめて授業に臨む。		
	第8回	保健教育 保健教育について理解し、これまでの成長過程を振り返り保健教育について心に残る授業等を発表する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学校教育活動全体を通して行われる保健教育について考える。		
	第9回	保健管理 保健管理について理解し、健康診断、環境管理に関する小学校、中学校、高等学校での振り返りを行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として安全な保健管理について考える。		
	第10回	学校保健計画・学校安全計画の立案、実施、評価 学校保健計画と学校安全計画をそれぞれ別々に計画立案することの意味を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校保健計画と学校安全計画について母校の計画をインターネットで調べて授業に臨む。		
	第11回	学校における組織活動 学校における組織活動について、母校をはじめとして新聞記事等で情報収集してレポートにまとめる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学校組織活動の重要性について考える。		
	第12回	健康増進のための学校における組織活動を通じた取り組みについて① 新聞記事等で情報収集した内容を簡単に要約し、自分の考えを述べる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で情報収集した内容を簡単に要約し、自分の考えを述べられるように準備する。他者の発表と自身の考えを批判的に思考し、自身の思考力を高める。		
	第13回	健康増進のための学校における組織活動を通じた取り組みについて② グループで発表を通して、健康増進のための取り組みの重要性について理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で情報収集した内容を簡単に要約し、自分の考えを述べられるように準備する。他者の発表と自身の考えを批判的に思考し、自身の思考力を高める。		
	第14回	健康増進のための学校における組織活動を通じた取り組みについて③ 他者の発表を聞き、自分の考えと照らして考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で情報収集した内容を簡単に要約し、自分の考えを述べられるように準備する。他者の発表と自身の考えを批判的に思考し、自身の思考力を高める。		
	第15回	学校保健に関する組織と養護教諭のかかわり		

	<p>学校保健に関する組織と養護教諭の関わりについてまとめる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義6回、討議4回、発表5回</p>
授業の目的・到達目標	教育や教職に関する基本的事項について理解し、教職の意義や養護教諭の役割、職務内容に関する知識を修得することを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小学校、中学校、高等学校の実務経験を活かし、学校保健の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護教諭の判断および看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	衛藤 隆・岡田 加奈子 著 南山堂 学校保健マニュアル 2019
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（客観・論述）70%、レポート30% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
達成度の伝達	試験の解答は教科書および配付資料で各自が確認する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	水曜日（12:00～13:00） ・ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。面接予約方法は授業で提示します。 ・予習（1時間）復習（1時間）を各自学生が行い、学校保健の学びを深めること。
履修登録条件	

講義科目名称：産業保健

英文科目名称：Occupational health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	講義
担当教員				
大澤真奈美				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	あらゆる職業に従事する人々の健康を維持・増進させる産業保健活動について学ぶ。 職業に起因する健康障害を予防するための労働衛生対策と労働衛生管理体制、人々の健康を維持・増進するために組織的に行う健康支援活動である産業保健活動の実践について理解し、労働衛生行政や産業保健の歴史の変遷をふまえ、近年の産業保健における課題について考察する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス・産業保健の目的と変遷、産業保健における看護の位置づけ 産業保健の目的、産業保健における看護の位置づけと産業看護の定義、労働衛生対策における世界・日本の変遷、現行の法制（労働基準法、労働安全衛生法） 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第2回 産業保健活動のしくみ 産業保健活動の基本単位、労働衛生管理体制、産業保健活動における3管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）と健康教育、健康管理における看護の専門性 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第3回 産業構造の特徴と労働者の健康実態、労働災害防止計画 日本の産業構造の特徴、労働者の健康実態（産業性疾患病、健康診断の結果、労働災害）、労働災害認定、労働災害防止計画、労働安全衛生マネジメントシステム 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第4回 産業保健活動の実践、労働衛生の行政機構と地域における体制、労働衛生対策の体系と課題 産業保健活動の実践（職場巡視、健康管理、健康教育等）、産業保健活動における看護の役割機構、労働衛生の行政機構、地域における体制（産業保健総合支援センター、地域産業保健センター）、労働衛生対策の体系と近年の課題、小規模事業の課題、地域・職域連携 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第5回 労働者のTHP（健康づくり）とメンタルヘルス対策 労働者のTHP（健康づくり）の背景、THPのすすめ方、メンタルヘルスの現状背景、心の健康づくり計画とメンタルヘルスケア、ストレスチェック制度、職場復帰支援 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第6回 労働者の健康確保対策（受動喫煙防止、過重労働）、快適職場づくり対策 働く場における受動喫煙防止対策、過重労働における健康障害防止対策、快適職場づくりにおける産業保健活動 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第7回 労働者の職業性疾病予防対策①（化学物質、粉じん） 化学物質、粉じん障害と防止対策 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。</p> <p>第8回 労働者の職業性疾病予防対策②（アスベスト、物理的因子—熱中症・VDT・腰痛症） アスベスト、物理的因子による健康障害（熱中症・VDT・腰痛症等）と予防対策 予習・復習：各講義で配布した資料のゴシック体、アンダーライン、太字の箇所は特に重要な事項のため、授業後の復習を必ず行う。 ◆予習・復習の時間◆ 22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>あらゆる職業に従事する人々の健康を維持増進させるための産業保健活動について理解し、産業看護職としての機能と役割について自己の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人々の特徴と職場における健康管理について説明できる。 ・日本の労働者が抱える健康課題の特徴と予防対策を理解できる。 ・産業保健活動における看護職の職務と、展開方法について理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、看護師・保健師の実務経験を活かし、産業保健活動の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	特に指定しない。

参考書	荒賀直子他編：公衆衛生看護学, JP(第4版) インターメディカル その他、授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験の結果を100%として評価する。原則として、筆記試験が60点以上を合格とする。
達成度の伝達	筆記試験の結果を開示する（成績評価による）
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	質問事項は、毎回の授業終了時に受けつけます。
履修登録条件	

講義科目名称：地域ケアシステム論

英文科目名称：Local care system

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
村上弘之				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	地域における継続的・包括的な支援システムについて学ぶ。地域で生活する人々を支える関係機関・関係組織と各専門職及び住民組織や当事者組織の役割を理解し、地域ケアシステムの構築に必要なマネジメント能力及びコーディネート能力とネットワークづくりを学ぶ。また、地域の顕在化・潜在化した健康上の課題を解決するための保健計画と保健事業計画の立案と評価を理解する。さらに、地域の実情に応じた施策化のプロセスにおける保健師の役割と保健活動の実際を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 地域保健活動・地区活動 地域・地区の定義と活動の範囲：行政区域、日常生活圏域、コミュニティ・エンパワメント 【予習】テキスト①P138～139「地方自治体とは」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第2回 地域組織の育成・支援 地域組織の育成・支援の目的と過程：仲間づくりを意図した育成・支援、構成員および地域組織の主体性を高める支援 【予習】テキスト①P149～165「地域におけるグループ支援・組織化」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第3回 地域包括ケアシステムの実現 1. 地域社会を支える保健・医療・福祉 2. 地域包括ケアシステムの構築 3. 地域包括ケアシステム概念 4. 地域包括ケアシステムの展望 【予習】テキスト②第1章をよく読んでおく。 【復習】地域包括ケアにおける多様な専門職への理解を深め、連携・協働の意義を考える。</p> <p>第4回 医療と地域包括ケアシステム 1. 統計からみた日本の人口構成の推移 2. 地域包括ケアと在宅医療 3. 地域包括ケアと訪問看護 4. 地域包括ケアと社会資源 【予習】テキスト②第2章をよく読んでおく。 【復習】地域包括ケアにおける多様な専門職への理解を深め、連携・協働の意義を考える。</p> <p>第5回 地域医療を支える法制度・地域医療の施策 1. 保健・医療・福祉をめぐる法制度の潮流 2. 医療の基本法制 3. 保健の基本法制 4. 福祉の基本法制 5. 保健・医療・福祉の制度 6. 医療計画 7. 居住安定確保計画 8. 診療報酬（介護報酬） 【予習】テキスト②第3と4章をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第6回 地域看護の変化 1. 地域看護とは 2. 地域看護活動の展開 3. 地域看護の組織化（連携・協働） 4. 地域包括ケアと地域看護 【予習】テキスト②第5章をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第7回 地域包括ケアシステムの実践例 1. 医療——いしが在宅ケアクリニック 2. 介護——山田病院 3. 予防——訪問看護ステーション「もも」 4. 住まい——四日市市北地域包括支援センター 5. 生活支援——地域若者サポートステーション 【予習】テキスト②第10章をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第8回 地域包括ケアシステムとコミュニティワーク 1. 地域社会とコミュニティワーク 2. これからの地域包括ケアシステム 【予習】テキスト②第11章をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。提示されたレポートの作成をする。</p>
授業の目的・到達目標	地域で生活するための継続的・包括的な支援システムと保健事業の立案と施策化のプロセスを学ぶ。 ・地区活動および地域組織の育成・支援に関わる活動の展開方法を理解できる。 ・地域ケアシステムの定義、目的および基盤となる理論を学び、展開方法を理解できる。 ・地域における看護活動を展開するにあたって他職種との連携や調整機能が理解できる。 ・保健事業の計画・実施・評価の方法と施策化のプロセスが理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	公衆衛生学の専門家である公衆衛生学修士として経歴から、地域の保健医療福祉の体制づくりについて講義する。

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	①荒賀直子他著：公衆衛生看護学. j p (第4版), インターメディカル. ②豊島 泰子他 著：地域包括ケアシステムのすすめ これからの保健・医療・福祉, ミネルヴァ書房.
参考書	木下由美子 編集代表：エッセンシャル 地域看護学 第2版, 医歯薬出版. 金川 克子他 編：地域看護診断 第2版, 東京大学出版会. 標 美奈子, 他 著：《標準保健師講座 1》 公衆衛生看護学概論, 医学書院. 津村 智恵子, 他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版.
評価基準及び成績評価方法	定期試験90点、課題レポート10点の計100満点による絶対評価。
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	前期は実習期間中のため随時連絡する。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論 I

英文科目名称：Public health nursing practice I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
村上弘之、沼田加代、横山文子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学

授業概要	公衆衛生看護学の対象である「個人・家族・グループ」および「地域」に向けた支援について、対象に適した援助技術の目的と方法を学ぶ。「個人・家族・グループ」に向けた援助技術である健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査について、援助技術の目的と対象を理解し、援助方法の展開を演習を通して学ぶ。また、「地域」に向けた援助技術である地域診断について、地域の保健統計や保健師活動の情報収集からアセスメント方法までを理解するとともに、地域で暮らす人々の健康課題を明確化するまでの地域診断の一連の過程を学習する。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 個人・家族・グループへの支援① 公衆衛生看護活動における対人支援の基本：自己効力感の向上、エンパワメント、セルフケア能力の向上、行動変容 【予習】テキストP83～96「保健行動と保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第2回	個人・家族・グループへの支援② 公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法：健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査 【予習】テキストP177～226「家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第3回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際① 健康相談の展開と実際〔演習〕 【予習】テキストP189～195「健康相談」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第4回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際② 家庭訪問の展開と実際：家庭訪問の計画立案〔演習〕 【予習】テキストP177～188「家庭訪問」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第5回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際③ 家庭訪問の展開と実際：家庭訪問の実践〔演習〕 【予習】第4回目で配布した家庭訪問演習資料をよく読み、乳児の発育発達を調べておく。 【復習】実施した家庭訪問の演習を振り返る。		
	第6回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際④ 健康教育の展開と実際：健康教育の計画立案〔演習〕 【予習】テキストP196～207「健康教育」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第7回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑤ 健康教育の展開と実際：健康教育の教育媒体の作成〔演習〕 【予習】第6回目で配布した健康教育の資料をよく読み、メタボリックシンドロームについて調べておく。 【復習】教育媒体の見やすさや分かりやすさを振り返る。		
	第8回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑥ 健康教育の展開と実際：健康教育の原稿の作成〔演習〕 【予習】調べたメタボリックシンドロームを他者に伝える内容と方法を考えておく。 【復習】教育教育を実施するにあたり、伝える内容と方法を振り返る。		
	第9回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑦ 健康教育の展開と実際：健康教育の実践〔演習〕 【予習】調べたメタボリックシンドロームを他者に伝える内容と方法を考えておく。 【復習】教育教育を実施するにあたり、伝える内容と方法を振り返る。		
	第10回	個人・家族・グループへの支援の展開と実際⑧ 健康教育の展開と実際：健康教育の評価〔演習〕 【予習】健康教育を実践するための準備をしておく。 【復習】実施した健康教育の演習を振り返る。		
	第11回	地域への支援 地域アセスメント<地域診断>の概念 【予習】テキストP97～117「地域診断」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第12回	地域への支援の展開と実際① 地域アセスメント<地域診断>の過程：情報収集〔演習〕 【予習】テキストP97～117「地域診断」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第13回	地域への支援の展開と実際② 地域アセスメント<地域診断>の過程：既存の統計資料の分析〔演習〕 【予習】第12回で配布した資料とテキストP97～117「地域診断」をよく読んでおく。 【復習】地域診断に必要な情報に過不足はないか振り返る。		
	第14回	地域への支援の展開と実際③ 地域アセスメント<地域診断>の過程：多角的・継続的アセスメント〔演習〕 【予習】地域の情報をもとに、アセスメントと健康課題の抽出を考えておく。 【復習】アセスメントと健康課題の抽出の方法や内容を振り返る。		
	第15回	地域への支援の展開と実際④ 地域アセスメント<地域診断>の過程：健康課題の明確化〔演習〕		

	<p>【予習】作成した地域診断の発表するにあたり、発表内容など準備しておく。 【復習】発表した地域診断と他のグループの地域診断の発表から「地域診断」について振り返る。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義3回、グループワーク9回、プレゼンテーション3回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>公衆衛生看護学における援助技術を学ぶ。 ・公衆衛生看護学の対象が主体的に問題を解決できるよう働きかける技術を理解できる。 ・公衆衛生看護活動の援助技術である健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援、健康診査の支援について理解できる。 ・地域で暮らす人々の健康上の課題を明確化するための地域アセスメント<地域診断>の展開過程が理解できる。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員らは保健師の実務経験を活かし、保健師が地域で展開する援助技術を講義および演習する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第5版）、インターメディカル。</p>
参考書	<p>中村 裕美子,他 著：<標準保健師講座2> 公衆衛生看護技術(第4版), 医学書院. 上野昌江他 編：公衆衛生看護学第2版, 中央法規出版.</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験80%、レポート課題20%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>前期は実習指導中のため不定期に在室となる。随時、連絡する。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing activity deployment II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
沼田加代、村上弘之、横山文子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	公衆衛生看護活動の場である行政（都道府県や市町村）が主に対象とする母子保健・成人保健・高齢者保健について、各ライフステージの特性に応じた保健活動および健康課題に対応した保健活動を体系的に学ぶ。各ライフステージおよび各健康課題に対応する保健活動の歴史的変遷や法的根拠を理解し、保健活動の目的や展開内容と方法の実際を学ぶ。さらに、各保健活動における保健師の役割と他職種との連携や社会資源の活用により展開される保健活動の実際を学ぶ。			
授業計画	第1回	科目ガイダンス 母子保健活動① 母子保健の動向と対策、女性の健康支援 【予習】テキストP238～258「母子保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第2回	母子保健活動② 乳幼児の成長発達と保健指導 【予習】テキストP238～258「母子保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第3回	母子保健活動③ 健康上のリスクを持つ親子への支援、予防接種 【予習】テキストP259～261「健康上のリスクをもつ母子への保健指導」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第4回	成人保健活動① 成人保健施策と保健師活動、成人期の日常生活と生活習慣病 【予習】テキストP262～273「成人保健概論、成人保健施策」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第5回	成人保健活動② 特定健康診査と特定保健指導 【予習】テキストP273～282「成人期のおもな生活習慣病と保健指導」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第6回	高齢者保健活動① 高齢者保健対策の動向と現状 【予習】テキストP283～306「高齢者保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第7回	高齢者保健活動② 高齢者の健康と生活特性 【予習】テキストP283～306「新オレンジプラン」をよく読んでおく。 【復習】グループワークで活用した新オレンジプランの実践的活動の理解を深める。		
	第8回	高齢者保健活動③ 介護予防事業と保健師活動 【予習】テキストP283～306「高齢者保健」をよく読んでおく。グループワークの発表資料を読み、発表の準備をする。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返し、高齢者保健活動の理解を深める。		
	第9回	精神保健活動① 精神保健福祉の動向、精神障害者の生活と保健指導 【予習】テキストP339～352「精神保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第10回	精神保健活動② 社会病理を背景とする精神的問題 【予習】テキストP351～358「精神保健活動・注目される健康問題」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第11回	障害者（児）保健活動 障害者（児）の生活と保健指導、権利擁護 【予習】テキストP321～338「障害者（児）保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第12回	難病の保健活動 難病対策の理念、難病患者の生活と地域のサポートシステム 【予習】テキストP307～320「難病保健活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第13回	感染症の保健活動① 感染症対策の動向、感染症対策と保健指導 【予習】テキストP359～368「感染症保健概論」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第14回	感染症の保健活動② おもな感染症と保健師活動 【予習】テキストP369～394「おもな感染症と保健師活動」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。		
	第15回	健康課題をもつ人々への保健活動 虐待や依存症、生活保護対象者の支援 【予習】テキストP257「児童虐待」、P303～306「高齢者虐待」をよく読んでおく。		

	<p>【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義13回、グループワーク1回、プレゼンテーション1回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習11.5時間</p>
授業の目的・到達目標	<p>公衆衛生看護活動が行われる場と対象者の特性に応じた保健活動について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子・成人・高齢者といった各ライフステージに応じた保健活動の方法と実際について理解できる。 ・事例を通じた実践的な保健活動から保健師の役割を理解できる。 ・各保健活動の歴史的変遷から今後の有効な保健事業の展開を考察することができる。 ・人々が主体的に課題を解決できるよう、地域の社会資源を活用した保健活動の展開が理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員らは保健師の実務経験を有している。実務経験を活かし、対象別の保健師の実践活動を講義および演習する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。</p>
教科書	<p>荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第5版）、インターメディカル。</p>
参考書	<p>中谷 芳美,他 著：《標準保健師講座 3》 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向, 厚生統計協会。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>筆記試験80%、レポート課題20%</p>
達成度の伝達	<p>筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>後期は1～2月の実習期間中をのぞき、金曜の午前は在室である。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：健康相談活動の理論と演習

英文科目名称：Health consultation and counseling activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	健康相談活動の考え方、進め方について理解し、エビデンスに基づくアセスメントができるように演習を通して学習する。			
授業計画	第1回	健康相談活動とは 学校における健康相談活動について理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等で健康相談活動の情報収集した内容を簡単に要約し、自分の考えを述べられるように準備する。	第2回	健康相談、健康相談活動の進め方 健康相談、健康相談活動の進め方を理解し、実際に体験を通して学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 健康相談活動について、自身の母校を思い出し保健室を通しての関わりについて発表できる準備をして授業に臨む。
	第3回	児童生徒の心の発達と課題 児童生徒の心理的特徴を理解し対応について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒の心理的発達について、調べて授業に臨む。	第4回	大動脈狭窄症があり運動制限を受けている児童（小学校1年生 男子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。
	第5回	食物アレルギーのため欠席が多くなった児童（小学1年生 男子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。	第6回	ストレスが肥満の要因の一つになっていた児童（小学4年生 女子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。
	第7回	級友からのいじめにより体調不良になった児童（小学5年生 女子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。	第8回	ストレスから過呼吸発作を起こした生徒（中学1年生 女子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。
	第9回	実母に虐待を受けたことから愛着障害になった生徒（中学2年生 男子）を想定して対応を考えよう 健康相談対象者の把握方法、問題の概要、問題の背景の把握、支援方針等について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の事例を読んで授業に臨む。	第10回	面接記録用紙の作成と活用（支援記録と面接記録） 記録用紙を使って支援記録を記載してみよう。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記録用紙にスムーズに記載できるように記載内容及び情報収集を行っておく。
	第11回	事例検討① 足首の捻挫、歯牙欠損等の保健指導 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際の事例を演習するので動ける服装で授業に臨む。応急処置の実際について基本的な情報を収集しておく。	第12回	事例検討② 睡眠不足、朝食欠食等の保健指導 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健指導の実際について基本的な情報を収集しておく。
	第13回	事例検討③ インフルエンザ、感染性胃腸炎等、感染症についての保健指導 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健指導の実際について基本的な情報を収集しておく。	第14回	保健室を想定して児童への対応を体験してみよう 擦り傷の対応、鼻血の対応、腹痛・頭痛等の対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】 応急処置及び保健指導の実際について基本的な情報を収集しておく。
	第15回	健康相談活動の力量を高めるために 心と体の両面から素早く的確なアセスメントを行う力をつけるための学びについて考えよう 【課題・予習・復習・授業準備指示】 健康相談活動の実際について基本的な情報を収集しておく。 ◆アクティブ・ラーニング◆		

	講義5回、演習8回、実技2回
授業の目的・到達目標	・児童生徒の心身の発達に関する現代的な健康課題等について理解する。 ・エビデンスに基づく分析の重要性を学び、人権や主体性を尊重しながら養護教諭として児童生徒と関わることができ ることを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小学校、中学校、高等学校の実務経験を活かし、健康相談活動の基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護・教育・看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につなげる。
教科書	教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引き 文部科学省 子供たちを児童虐待から守るために―養護教諭のための児童虐待マニュアル― 日本学校保健会
参考書	
評価基準及び成績評価方法	筆記試験(50%)、課題レポート(50%)
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	水曜日(12:00~13:00) ・ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。面接予約方法は授業で提示します。 ・予習(1時間)復習(1時間)を学生各自が行い、健康相談活動についての学びを深めること。
履修登録条件	

講義科目名称：養護概説

英文科目名称：Theory of “Yogo” Teachers/ School nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
豊島幸子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、児童生徒の発達過程、心理等を理解し、子どもの発達とその支援に向けた教育的働きかけについて基本的理解を図る。 ・養護教諭が行う授業実践の内容について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身に付ける。 			
授業計画	第1回	<p>養護教諭の概念と職務の変遷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15回の授業内容及び進行について共通理解を図る。 2. 複雑・多様化した現代的な心身の健康課題の解決に向けて養護教諭の期待が高まり、役割が拡大している現状を理解する。養護教諭の歴史を振り返り、これからの学校保健に求められている養護教諭の役割について学ぶ。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第2回	<p>学校教育と学校保健</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の目的は、教育基本法で定められ、学校教育法でそれぞれの学校段階の目的及び目標を示している。2. 教育課程は、各学校段階での学校教育の目的及び目標を実現するため、学校教育法等の関係する法令並びに学習指導要領に基づいて、各学校が編成する。 3. 学校における健康教育は、学校保健、学校安全、学校給食に関する指導を包含するものであり、相互に密接な関連を図りながら教育活動全体を通じて進められるものである。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭として学校教育活動全体を通して健康教育に関わることについて考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第3回	<p>子どもの現代的な健康課題とその対応</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市化、少子高齢化、情報化、国際化等による社会環境や生活様式の急激な変化は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えており、いじめ、不登校などのメンタルヘルスに関する問題、喫煙、飲酒、薬物乱用、性の問題行動、生活習慣の乱れ、アレルギー疾患の増加、感染症などの健康問題が深刻化している。 2. 地震や台風などの自然災害のみならず、登下校中の誘惑殺人事件などの事件・事故が発生しており、それに伴う子どもの心のケアが重要な健康問題となっており、学校保健安全法に心のケアが位置付けられた。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞等で子どもの健康課題について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第4回	<p>養護教諭の職務</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭の職務については、学校教育法第37条に「養護教諭は、児童の養護をつかさどる（小学校）」と規定されている。 2. 中教審答申を踏まえて、学校保健法の大規模な改正が半世紀ぶりに行われ、学校保健安全法に名称が変わった。この法においても養護教諭等の役割の明確化が図られ、養護教諭等が行う、健康相談、保健指導、健康観察が新たに規定された。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第5回	<p>保健管理</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健管理は、子どもの心身の健康を支えるものであり、心身ともに健康な国民の育成を図るという教育目的の達成に向け、教育活動の円滑な実施とその成果の確保に資するものである。 2. 保健管理は、学校保健領域における保健教育と並ぶ一領域である。 3. 保健管理の領域は、個別の保健指導、心身の健康管理、生活管理及び環境管理に分けられる。 4. 保健管理は、学校教育計画及び学校保健計画に位置付けて推進を図ることが大切である。 5. 保健管理は、全職員の共通理解のもとに実施されるものである。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第6回	<p>健康診断</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健管理の中核となるのが健康診断であり、その種類は、就学時の健康診断、児童生徒の定期的健康判断、臨時の健康診断がある。これらの健康診断は、法規や通達に基づいて実施されるものである。 2. 健康診断は、学校行事の健康安全・体育的行事として特別活動に位置付けられている。 3. 学校における健康診断はスクリーニング方式として行われている。 4. 健康診断を、保健管理のみならず健康教育に活かすことが重要である。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒教職員の健康診断について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p>		
	第7回	<p>健康観察</p> <p>主なポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員等により行われる健康観察は、子どもの心身の健康問題を早期に発見し、適切な対応を図ることによって、教育活動を円滑に進めるために行われる。 2. 健康観察は、教育活動全体を通じて、全職員によって実施されることが大切である。特に朝の健康観察は、その日を元気に活動できるかの判断資料となるので重要である。 3. 健康観察の結果は、健康診断、健康相談、保健指導などにも活用される。また、いじめや不登校傾向などの早期 		

	<p>発見にもつなことから、学校経営の資料にもなる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として健康観察の重要性について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第8回 疾病管理 主なポイント 1. 学校における疾病管理の目的は、保健調査、健康診断、健康観察、健康相談等により個別支援が必要な子どもを把握し、適切な医療を受け、安心・安全な学校生活を送れるように支援することである。養護教諭はこの疾病管理の中心的役割を担っている。 2. 疾病管理にあたっては、全教職員の共通理解のもとに保護者や主治医、学校医、地域の関係機関等と連携することが大切である。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として特別な疾患をもつ児童生徒の管理について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第9回 学校環境衛生 主なポイント 1. 学校の環境は、子どもの健康及び学習能率に大きな影響を及ぼすものであることから、衛生的に維持され、適切に管理されることが必要である。 2. 学校環境衛生基準は、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として、学校保健安全法に明確に位置付けられている。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として快適な学習環境について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第10回 学校における救急処置 主なポイント 1. 学校における救急処置の目的は、突発的な傷病の発生に対して適切な処置を行うことにより、児童生徒の生命を守り、傷病の悪化や二次災害を防止することによって、心身の安全・安心を確保し円滑な教育活動が行えるようにすることである。 2. 学校における救急処置は、児童生徒の突発的な傷病に対する応急処置であり、あくまでも医療機関に引き渡すまでの応急的なものである。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての確かな応急処置について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第11回 保健教育 主なポイント 1. 保健教育には教育課程に基づく教科保健をはじめとする関連教科等での学習と、特別活動等における保健指導及び保健管理に伴う保健指導がある。 2. 保健教育は、保健学習と保健指導に分けられている。保健学習と保健指導について、指導案作成に取り組む。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学校教育活動全体を通して行われる健康教育について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第12回 健康相談 主なポイント 1. 学校保健安全法により、養護教諭や学級担任等が行う健康相談も新たに法に位置付けられた。 2. 学校における健康相談の目的は、子どもの心身の健康に関する問題について、子どもや保護者等に対して、関係者が連携し相談等を通して問題の解決を図り、学校生活によりよく適応していけるように支援していくことである。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者としての自覚について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第13回 精神保健・子どもの心のケア 主なポイント 1. 校内における支援だけでは解決困難なところの健康問題を抱える児童等が多い。 2. 適切な対応に向けて「心」、「脳」、「体」の3領域から心の健康問題を探る必要がある。 3. 特別支援教育にはメンタルヘルスの視点からの介入が欠かせない。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として子供の心のケアについて考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第14回 保健室経営 主なポイント 1. 養護教諭の活動の拠点となっている保健室は、学校教育法、学校保健安全法、小学校設置基準等によって設置が義務付けられている。 2. 保健室は学校保健活動のセンターとしての役割がある。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として保健室経営について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>第15回 保健組織活動 主なポイント 1. 学校保健は、学校における保健教育及び保健管理で構成され、その二つの領域を円滑に推進するために組織活動がある。 2. 子どもの心身の健康問題が複雑・多様化し、いじめ・不登校、基本的な生活習慣の乱れ等の現代的な健康課題への対応を図っていくには、学校、家庭、地域社会との連携が不可欠である。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護教諭を目指す者として学校保健組織活動の重要性について考える。 予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 講義6回、ディスカッション5回、グループワーク3回</p>
<p>授業の目的・到達目標</p>	<p>養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯及び学校教育における養護教諭の役割について理解し、児童生徒の現代的課題に対応できることを目標とする。</p>

実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小学校、中学校、高等学校の養護教諭として勤務した実務経験を活かし、養護教諭の職務の基礎知識について講義する。また、行政における実務経験を活かし、教育職である養護教諭の専門性はもちろん人間性を磨き続ける重要性についても伝達する。児童生徒、保護者、教職員、地域の関係する方々に対応する際、相手を理解しようとする力をつけていく重要性について伝達する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「対象者；幼児・児童・生徒の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた養護実践能力・看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につなげる。
教科書	養護教諭の完全攻略 武部 隆 時事通信出版局 2019 学校保健マニュアル 衛藤 隆・岡田 加奈子 著 南山堂 2019
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル2015 日本学校保健会
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（70%）、課題レポート（30%） 原則として、試験の平均点が60点以上を合格とする。ただし、平均点が60点に満たない者でも、いずれかの試験が60点以上で、かつ演習および課題の内容が十分であると認められる場合には合格とすることもある。
達成度の伝達	筆記試験の解答は教科書および配付資料にて各自が確認する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	水曜日（12:00～13:00） ・予約方法は授業で提示します。ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとって下さい。面談予約方法は授業で指示します。 ・授業の質問は授業中、直後に積極的に受け付けます。 ・予習（1時間）復習（1時間）を学生各自が行い、教育職である養護教諭の学びを深めること。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護管理論

英文科目名称：Public health nursing management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	選択	講義
担当教員				
沼田加代				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学

授業概要	公衆衛生看護管理の目的や機能を理解し、公衆衛生看護の専門職である保健師としての専門的自律と人材育成のあり方を学ぶ。公衆衛生看護活動における組織運営と業務管理、予算管理について学習し、ヘルスケアの質を保证するための評価を理解する。また、健康上の危機管理として感染症の集団発生における看護職と関連他職との連携・協働について学ぶ。さらに、自然災害や人為災害等による健康危機管理の範囲と事前対策や発生時の対策および発生後の対策について学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、公衆衛生看護管理とは 公衆衛生看護管理の目的と機能、地域ケアの質保証 【予習】テキストP487～488「公衆衛生看護管理の目的と機能」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第2回 公衆衛生看護管理の構造と機能 組織運営と管理、人事管理、予算管理、業務管理、情報管理 【予習】テキストP489～496「公衆衛生看護管理の対象」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第3回 継続教育と専門的自律 現任教育の目的と方法、人材育成方針 【予習】テキストP497～502「継続教育・専門的自律」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第4回 健康危機管理対策① 健康危機管理の概念：健康危機管理の理念と目的、健康危機を起こす要因 【予習】テキストP407～412「健康危機管理」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第5回 健康危機管理対策② 健康危機管理と保健師活動 【予習】第4回テキスト該当部分を再度よく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第6回 感染症の集団発生時の保健活動 感染症調査、集団発生時の保健活動、感染拡大防止 【予習】テキストP383～385「感染症発生時の対策」をよく読んでおく。 【復習】上記テキスト該当部分と配布プリントを読み返す。</p> <p>第7回 災害と保健活動① 災害の定義と災害保健活動の基本、災害支援制度とシステム 【予習】テキストP413～432「災害保健活動」をよく読んでおく。 【復習】グループワークにて事例を基に災害保健活動を考察する。</p> <p>第8回 災害と保健活動② 災害と保健師活動：災害予防と事前対策、発災直後から応急対策期、災害復旧・復興対策期 【予習】第7回のグループワークで話し合った内容を再度、振り返る。 【復習】他のグループのプレゼンテーションから災害保健活動の理解を深め、最終レポートを作成する。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義6回、グループワーク1回、プレゼンテーション1回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	保健師として地域住民の健康レベルの向上や質の高いサービスを遂行できるように組織運営・管理、健康危機管理、災害時保健活動、健康危機の予防について学ぶ。 ・公衆衛生看護管理の理念、しくみを理解できる。 ・公衆衛生看護管理が計画、組織、資源を統制する一連のプロセスであることを理解できる。 ・保健師に求められる管理能力について理解できる。 ・健康危機管理、災害発生と保健活動、健康危機の予防について理解できる。
実務経験に基づく知識の伝達	保健師の実務経験を活かし、健康危機管理を中心として公衆衛生看護管理を講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学、j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	標 美奈子、他 著：《標準保健師講座1》 公衆衛生看護学概論、医学書院。 中谷 芳美、他 著：《標準保健師講座3》 対象別公衆衛生看護活動、医学書院。 津村 智恵子、他 編：公衆衛生看護学、中央法規出版。
評価基準及び成績評価方法	課題レポート100%
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オ	後期は1～2月の実習期間中をのぞき、金曜の午前は在室である。

フィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習 I

英文科目名称：Public health nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	実習
担当教員				
沼田加代、村上弘之、横山文子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	地域の人々の健康課題を解決するために、市町村の地域特性に基づき展開される公衆衛生看護活動の実践能力を養う。
授業計画	<p>実習期間：第1グループ 2021年1月8日～1月22日 第2グループ 2021年1月25日～2月5日 第3グループ 2021年2月5日～2月19日</p> <p>実習場所：栃木県内各市役所・町役場・市町村保健センターなど</p> <p>【予習】市町村保健師活動に関する自己学習を行う。また、実習前に実習市町村の「地域診断」と「健康教育」をほぼ完成した上で実習する。 【復習】学内で他の市町村保健師活動の情報を共有する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100%</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の人々に身近な保健サービスの拠点である市町村の機能と市町村保健師の役割が理解できる。 2. 個人・家族・集団・組織を対象とした地域診断の過程を通して、健康課題を解決のための保健活動の展開が理解できる。 3. 対人保健サービスの援助技法を習得し、地域の社会資源を活用した生活の支援が実践できる。
実務経験に基づく知識の伝達	保健師の臨床経験がある教員の指導の下、実践的な市町村保健師の実習指導を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p。(第4版)、インターメディカル。 厚生統計協会著：国民衛生の動向、厚生統計協会。
参考書	適宜、紹介する。
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。
達成度の伝達	実習記録やレポートにコメントを記入する。
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。 保健師教育課程履修の条件「2年次までの看護師教育課程と保健師教育課程の必修科目および3年次前期の疫学、公衆衛生看護管理論の全ての単位を修得していなければならない。」を満たしていること。
メッセージ・オフィスアワー	栃木県内各市町村の地域特性を理解した上で、市町村保健師の活動を学ぶ。 オフィスアワーは随時、掲示する。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	3単位	選択	実習
担当教員				
沼田加代、村上弘之、横山文子				
看護専門科目分	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	地域保健および産業保健や学校保健における対象集団の特性に基づいた健康の保持増進への支援を理解し、地域全体を捉える視点を持つとともに、多様な保健活動に対応できる実践能力を養う。
授業計画	<p>実習期間：2020年4～7月 実習内容：保健所実習、健康増進実習、産業保健実習、学校保健実習 実習場所：栃木県内保健所、とちぎ健康の森、企業および足利市内小中学校、附属高校</p> <p>【予習】保健所および産業保健・学校保健に関する法律や制度など自己学習する。また、実習先の保健所活動の事前学修課題に取り組む。産業保健および学校保健実習についても実習先との事前打合せを行った上で実習する。 【復習】学内におけるグループワークにて、実習先の保健師活動の理解を深めるとともに他の実習先の保健師活動についても理解をする。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 実習100% ◆予習・復習の時間◆ 実習に必要な知識・技術の事前・事後学修は必要不可欠である。</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生活動の中心機関である保健所の機能と保健所保健師の役割が理解できる。 2. 働く人々の健康を支援する安全・健康管理体制と産業保健の実際を理解し、産業看護職の役割がわかる。 3. 学校における保健教育と保健管理の実際と養護教諭の役割が理解できる。 4. 地域における健康増進への支援として保健師が果たす役割と意義が理解できる。 5. 地域保健と産業保健や学校保健との連携について理解し、個人と地域全体を連動させながら展開する健康への支援を考察できる。 6. 公衆衛生看護管理の体制を理解し、健康危機の組織的な未然防止対策と発生時の対応を考察できる。
実務経験に基づく知識の伝達	保健師の臨床経験がある教員の指導の下に、保健所や産業保健・学校保健といった多様な場で役割を果たす保健師の実践的な活動を実習する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版）、インターメディカル。 厚生統計協会著：国民衛生の動向、厚生統計協会。
参考書	適宜、紹介する。
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。
達成度の伝達	実習記録物やレポートにコメントを記入する。
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。 保健師教育課程履修の条件「3年次までの看護師教育課程の必修科目と保健師教育課程の必修科目の全ての単位を修得していなければならない。」を満たしていること。
メッセージ・オフィスアワー	栃木県の地域特性を理解した上で保健所保健師の活動を学ぶ。また、本科目は産業保健師と学校保健活動の学びも得ることにより、多様な保健活動に対応できる保健師の資質を習得する。 オフィスアワーは随時、掲示する。
履修登録条件	

講義科目名称：看護倫理

英文科目名称：Nursing ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
富山美佳子、杉原喜代美				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	統合領域		

授業概要	人間の尊厳、生命の尊厳から、看護における倫理の重要性について理解する。 看護における倫理の歴史の変遷と生命倫理に関わる法令や指針をふまえ、近年にみられる看護倫理に関する課題について学修する。 看護の対象となる人の人権と権利擁護について学修し、看護専門職として果たすべき倫理的責任と望ましい行動について考察する。
授業計画	<p>第1回 看護倫理とは（富山・杉原） 予習：「倫理学」「看護学概論」で学んだこと 復習：講義内容についてさらに調べておく</p> <p>第2回 専門職と倫理（富山・杉原） 予習：今日の体験を整理しておく 復習：講義内容についてさらに調べておく</p> <p>第3回 事例紹介（GW）当事者の語り（富山・杉原） 予習：講義内容をまとめておく</p> <p>第4回 事例紹介（GW）紙上事例（富山・杉原） 予習：講義内容についてさらに調べておく</p> <p>第5回 看護実践における倫理的課題（富山・杉原） 9月GWについて課題提示 予習：講義内容をまとめておく 復習：今後の課題を確認しておく</p> <p>第6回 臨地実習で学生が直面した倫理的ジレンマと課題の明確化（GW）（富山） 予習：1～5回の授業を復習しておく 復習：今後の課題を確認しておく</p> <p>第7回 倫理的ジレンマと解決についてのグループ発表（富山） 予習：発表に向けて打合せをしておく</p> <p>第8回 倫理的ジレンマと解決についてのグループ発表（富山） 復習：8回の講義を振り返り、学んだことをまとめる</p> <p>◆アクティブラーニング◆ 講義3回、ディスカッション・グループワーク5回</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 予習・復習22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	近年、医療の高度化や複雑化のなかで、多様な倫理的課題が存在する。本講義では、看護倫理の基本的知識を学び、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求する。また、実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決に向けた道筋を考える力を養う。 ①看護倫理の基本的知識を習得できる ②実習で直面した倫理的課題を明確化できる ③倫理的課題に対してとるべき態度や行動について考えられる
実務経験に基づく知識の伝達	看護師として実務経験を有する教員が、看護実践における倫理的課題について講義と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。
教科書	なし
参考書	なし
評価基準及び成績評価方法	レポート50%、グループワーク発表50%
達成度の伝達	試験結果または模範解答の公表をもって行う
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	倫理的課題についての感受性を高く持てるように、日々の生活や看護実践を見直せる機会にしていきたいと思います
履修登録条件	

講義科目名称：医療と安全管理 I

英文科目名称：Medical care and safety management 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中村史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	統合領域	

授業概要	医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割について学習する。また、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。
授業計画	<p>第1回 医療におけるヒューマンエラー ・ヒューマンエラーの考え方・医療安全に対する行政の取り組み 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 メディカル・リスク・マネジメント ・事故発生のメカニズム・看護事故の構造・看護業務と事故発生要因 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 医療安全とコミュニケーション ・医療チームにおけるコミュニケーション ・医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 診療の補助の事故防止 ・患者に投与する業務における事故防止（総論） 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 リスク管理と危険予知1 ・リスク発生の原理と対策 危険予知トレーニング ・リスクとなる問題点の抽出 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 リスク管理と危険予知2 ・リスク発生の原理と対策 危険予知トレーニング ・リスク分析と対応策 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 臨地実習と安全 ・実習中の事故防止および事故発生時の学生の対応 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 医療事故の種類と安全対策 ・医療安全情報からの安全管理 予習：これまでの講義内容から、疑問点を明らかにし授業で質問できるよう準備する 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。 ◆アクティブラーニング◆ 講義6回 グループワーク2回</p>
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の基本的な知識を説明できる。 ・看護業務の範囲と責任について説明できる。 ・ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 ・事故報告の意味と必要性について説明できる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、多職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。
教科書	・ナーシング グラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版院
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー 医学書院 ・統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書 ・川村治子：医療安全ワークブック 医学書院 ・ナーシングスキル Elsevier Japan
評価基準及び成績評価方法	・筆記試験（80%）・レポート課題（20%）
達成度の伝達	随時学生にコメントしていく。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	・自己の目標や課題を明確にし、準備を整えて臨みましょう。オフィスアワー 通常金曜日4コマ その他事前にメールでご連絡下さい。E-mail: nakamura.fumie@v90.ashitech.ac.jp (中村史江)
履修登録条件	

講義科目名称：医療と安全管理Ⅱ

英文科目名称：Medical care and safety management 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
中村史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	統合領域	

授業概要	<p>医療におけるリスクマネジメントのプロセスについて、事例を用いた演習をとおして理解を深める。 リスクマネジメントサイクルについて学習し、リスクの把握、分析、対応、評価の一連の活動について理解する。リスク要因となる人間の行動や環境の状態を早期に発見するために、医療現場に多くみられる与薬、医療機器管理、カテーテル管理、転倒、転落等の事例を基に、事故防止を目的とした分析や対処の基礎的能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 事故発生のメカニズム 予習：教科書のp2～38を読み、疑問点を明らかにする。医療と安全管理Ⅰを復習する。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 カテーテル管理1 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 カテーテル管理2 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 チューブ管理 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 輸血事故防止 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 内服薬事故の防止 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 業務に共通する間違い要因と防止 予習：教科書のp81～93を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 業務に共通する間違い要因と防止 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 注射事故予防 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 リスクマネジメント1 予習：教科書のp94～112を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 リスクマネジメント2 予習：教科書のp186～201を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 リスクマネジメント3 予習：教科書のp186～201を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 組織としての医療安全管理対策 予習：これまでの配布資料および教科書を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 医療機器管理1 予習：教科書のp216～245を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 医療機器管理2 予習：教科書のp216～245を読み、疑問点を明らかにする。これまでの配布資料および教科書を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。 ◆アクティブラーニング◆ 講義11回 グループワーク2回 演習2回</p>
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理における必要な知識を学び、重要な言葉を理解する。 2. 患者安全・医薬品の安全・医療機器安全に必要な取り組みを理解する。 3. 事故を予防する取り組みや事故事例分析の方法を養う。 4. 安全ために看護師として、身につけるべき必要な能力を理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「チーム医療における看護役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につながる。</p>

教科書	統系看護学講座 看護の統合と実践 (2) 医療安全 川村治子他著 医学書院
参考書	医療におけるヒューマンエラー 河野龍太郎 医学書院 医療安全ワークブック 川村治子 医学書院 ナースングラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 森下由美子編 メディカ出版 ナースングラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 酒井 明子著 メディカ出版
評価基準及び成績 評価方法	筆記試験 80%、レポート課題20%
達成度の伝達	随時学生にコメントしていく
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と安全管理Ⅱでは、2年次の医療と安全管理Ⅰおよび関連科目の学習、各論実習を基盤に演習を行います。 ・ナースング・スキルの授業に該当す各手順の詳細、基本事項を確認し授業に臨むこと。 ・自己の目標や課題を明確にし、準備を整えて臨みましょう。オフィスアワー 通常金曜日4コマ その他事前にメールでご連絡下さい。E-mail: nakamura.fumie@v90.ashitech.ac.jp (中村史江)
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究

英文科目名称：Nursing research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	演習
担当教員				
佐藤栄子、杉原喜代美、青山みどり、栗田佳江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域

授業概要	看護における研究の意義・目的、看護研究の対象となる事象について学ぶ。看護研究の実践と論文を読むために必要な知識となる、看護研究過程の概要を理解する。さらに文献検索、論文内容の整理、文献クリティーク演習をとおして、確かなエビデンスを見極める基礎的な能力を習得する。			
授業計画	第1回	看護研究とは？看護研究の始め方 ・ガイダンス ・看護研究とは何か、なぜ看護研究を学ぶのか、リサーチクエスションとは何か、リサーチクエスション決定までのプロセスについて概説する。 予習：教科書第1章、第2章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第2回	情報の探索 ・情報と科学的な根拠、文献とその種類、文献検索の方法について概説し、演習をとおして理解を深める。 予習：教科書第3章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第3回	研究における倫理的配慮 ・研究における倫理的配慮の原則、依頼書と同意書の書き方について概説する。 予習：教科書第4章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第4回	研究デザインと手法 ・看護研究の多様性、研究デザインの選択、研究デザインの整理について概説する。 予習：教科書第5章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第5回	量的研究① ・実態調査研究を中心にデータ収集と分析について概説する。実際の研究論文を教材として演習を行う。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第6回	量的研究② ・相関研究を中心にデータ収集と分析について概説する。実際の研究論文を教材として演習を行う。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第7回	量的研究③ 介入研究を中心にデータ収集と分析について概説する。実際の研究論文を教材として演習を行う。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第8回	質的研究① 質的研究の特徴と意義について概説する。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第9回	質的研究② ゲストスピーカーを迎え、質的研究のデータ収集について、具体的な研究事例を交えて概説する。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第10回	質的研究③ ゲストスピーカーを迎え、質的研究のデータ分析について概説し、生データを用いた演習を行う。 予習：教科書第5～7章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第11回	研究計画書の作成 研究計画書とは何か、研究計画書の書式と書き方について概説する。 予習：教科書第8章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第12回	情報の吟味、文献の読み方とクリティーク 文献の整理、文献クリティークの方法について概説し、演習で理解を深める。 予習：教科書第3章を読み、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第13・14回	文献内容の整理とクリティーク演習①② ・自分の興味がある分野の文献を題材に、文献内容の整理とクリティーク演習を行う。 予習：教科書第1章～8章を読み返し、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。		
	第15回	研究を伝える ・研究成果を伝えるための方法である、学会発表、論文作成方法について概説する。 予習：教科書第9章を読み返し、疑問点を明らかにしておく。 復習：教科書や参考文献、配布資料を読み返し、理解を深める。 ◆アクティブラーニング◆ 講義9回、演習6回 ◆予習・復習の時間◆		

	予習・復習11.5時間
授業の目的・到達目標	看護における研究の意義・目的を理解し、看護研究を行うための基礎的能力を養う。 1. 看護研究とは何か、その目的と意義を理解できる。 2. リサーチクエストの立て方と、その重要性を理解できる。 3. 研究の実践と論文を読むために必要な看護研究の過程（情報収集・吟味、倫理的配慮、主要な研究デザイン、データ収集方法、データ分析方法、研究計画書の作成、成果の伝え方）を理解できる。 4. 自分の興味がある文献の検索、内容の整理と理解、文献クリティークができる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	レポート課題（50%）・ワークへの取り組み（50%）とし総合的に評価する。
達成度の伝達	レポート課題はコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目では看護実践の中で芽生える疑問を解決する方法を学んでいきます。 ・これまでの講義や演習、臨地実習などの中で感じた疑問を思い返して、講義に臨んでください。 ・オフィスアワー 事前にメールでご連絡ください。E-mail: sato.eiko@v90.ashitech.ac.jp
履修登録条件	

講義科目名称：看護管理と継続教育

英文科目名称：Nursing management and continued education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	2単位	必修	講義
担当教員				
中村史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域

授業概要	看護管理は管理者だけの概念ではない。個々のスタッフがそれぞれの立場でさまざまな状況に対応する際によって立つ基盤となるものである。日々、管理的な視点を持って勤務する看護職に育つために必要な基礎的知識を修得する。またより良い看護を提供できる専門職業人であるためにも継続教育の方法を学び自立した個人として自己のキャリアを主体的に考える姿勢を身につけ、看護の継続教育の方法や課題について学ぶ。医療・看護をめぐる法律や社会の仕組み、変遷について学び、看護専門職としての役割を学ぶ。			
授業計画	第1回	<p>科目ガイダンス 人々の生活と看護－看護活動の変遷</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp12からp25を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第2回	<p>看護管理の基本1－看護管理の基盤となる知識</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp28からp42を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第3回	<p>看護管理の基本2－看護管理のプロセス</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp43からp50を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第4回	<p>病院における看護管理－看護管理能力の基盤となる理論</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp162からp165を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第5回	<p>看護管理過程1－組織とマネジメント</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp153からp161を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第6回	<p>看護管理過程2－看護師の仕事とその管理</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp64からp108を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第7回	<p>看護師の質向上1－看護管理と倫理 安全管理体制</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp110からp127を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第8回	<p>看護師の質向上2－医療・看護の質の評価</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp129からp137を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第9回	<p>看護管理のスキル1－セルフマネジメントスキル</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp138からp145を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第10回	<p>看護管理のスキル2－看護管理能力の基盤となる理論</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp146からp146165を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第11回	<p>看護ケアのマネジメント－複数患者のケアマネジメント</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp138からp145を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第12回	<p>看護職とキャリア－看護の教育体系</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp168からp168186を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第13回	<p>看護に関する法律・制度</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp198からp198215を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第14回	<p>看護と経営</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp188からp196を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>		
	第15回	<p>病院経営と看護管理－病院経営の実際</p> <p>予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp188からp8196を読んでくる。</p> <p>復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>◆アクティブラーニング◆</p> <p>講義12回 演習2回 グループワーク1回</p>		
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の役割と機能を人々の生活と関連付けて考える。 ・看護の活動の場の拡がりについて説明する。 ・組織・マネジメントに関する基礎的知識を理解する。 ・看護管理の対象とそれらに対する看護管理者の役割を理解する。 ・看護の質保証のための看護管理者の役割と機能を理解する。 ・看護管理に用いられる理論を学び、考える。 ・医療・看護を取り巻く法律・諸制度を理解する。 			
実務経験に基づく知識の伝達				
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」 「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」 から配置した看護専門科目群			

	の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」「自己の成長をめざし、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	・ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理 吉田千文 他編 株式会社メディカ出版
参考書	・看護学テキスト 統合と実践 看護管理 小林亜美他編 学研 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 志自岐 康子著 株式会社メディカ出版 ・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 松下 由美子・杉山 良子・小林 美雪著株式会社メディカ出版
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（80％）、課題レポート（20％）
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	・看護管理とは、人々がそれなりの健康やQOLを維持向上していくことを目的として、多様な資源を用いて効果的に効率的に創造的に看護実践を行うことであり、またそうした看護実践が組織的に行われるよう環境を整えて看護職者を支援していくことです。広義には看護に関わる法・制度も含まれます。看護管理があって初めて質の高い看護実践が生まれます。したがって全ての看護職者が看護管理学の基礎的知識を持っていることが大切です。また日本では地域包括ケアに向け社会保障制度改革が進められています。これからは地域を包括的にとらえ、看護職が果たす役割と看護管理のあり方を検討する視点も求められています。・自己の目標や課題を明確にし、準備を整えて臨みましょう。 ・オフィスアワー 通常金曜日4コマ その他事前にメールでご連絡下さい。 E-mail: nakamura.fumie@v90.ashitech.ac.jp（中村史江）
履修登録条件	

講義科目名称：統合実習

英文科目名称：Integrated practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	実習
担当教員				
中村史江 他				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合実習	

授業概要	<p>病院組織における看護部の位置づけと役割・責務について理解し、看護管理の実際を学ぶ。看護チーム・メンバーの一員として、看護師の役割を理解し援助の実際と優先順位の考え方、看護管理の必要性を学ぶ。学生は複数の患者を受けもち、実習を展開する。また、組織の中での役割や他職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を理解する。さらに、看護観を持ち将来に向けて継続的に自らのキャリアデザインを発展できることを目指す。学内にて技能試験を行う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 2) 自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 3) 実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。 4) 組織管理体制について臨地でオリエンテーションを受ける。 5) 病棟看護師と一緒に行動し複数の患者の看護を体験する。また、看護師の1日の看護業務を学ぶ。その際、実習時間はフレキシブルとする。 6) 看護の実践は、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 7) 最後の学内実習で、技能試験を行う。 <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p>
授業の目的・到達目標	<p>実習目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の実際をととして組織の中での看護師の役割を学ぶとともに、看護実践力を高める。 <p>実習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の実際を学び、既習の看護学の知識・技術から看護実践活動を広い視点で理解できる。 ・多職種医療チームにおける各構成員の役割を理解し、チーム連携・協働における看護師のメンバーシップおよびリーダーシップが理解できる。 ・実習病棟における看護ケア提供システムを理解し、看護の継続性を持った看護実践が理解できる。 ・複数患者の受け持ちや多重課題において、優先順位の判断根拠を考えた看護が実践できる。 ・看護師としての看護観を持ち、自らのキャリアデザインを発展できる。また、そのための自己の課題が明確にできる。
実務経験に基づく知識の伝達	1～4年次前期までに設定されている専門基礎科目群、看護専門科目群の必修科目の全ての単位を修得していなければならない。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。
教科書	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理 吉田千文 他編 株式会社メディカ出版 系統看護学講座 看護の統合と実践 (2) 医療安全 川村治子他著 医学書院
参考書	実習中に、適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。臨地実習60%、学内実習40%
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	・自己の目標や課題を明確にし、準備を整えて臨みましょう。オフィスアワー 通常金曜日4コマ その他事前にメールでご連絡下さい。E-mail: nakamura.fumie@v90.ashitech.ac.jp (中村史江)
履修登録条件	

講義科目名称：ホスピスケア論

英文科目名称：Hospice care theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
岩崎紀久子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	特定領域		

授業概要	病院・施設・在宅で行われるターミナルケアや緩和ケアに焦点をあて、そのケアを行う看護職の役割について学ぶ。対象者の苦痛や困難を緩和し、尊厳を保ちながら人生の終末を迎えることができるようになるためのケアの実際について学習し、対象者が心の安らぎを保ちながら生活を送るための支援について学ぶ。また関連職種との連携・協働について理解し、対象者のニーズに応じたサポートのあり方について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 がん終末期にある患者の理解 予習：終末期にある人について学習するため、教科書の生と死、尊厳ある生と死、大切な生活をつなぐケアの部分を読み、予習しておくこと 復習：授業中に配布した資料および視聴したDVDをもとに、終末期にある患者の看護の特徴について復習しておくこと</p> <p>第2回 終末期にある患者の心理・社会的特徴と援助、スピリチュアルペインに対する援助について 予習：終末期患者の全人的苦痛について確認し、さらに教科書のスピリチュアルケアの部分を予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例などからスピリチュアルペインについて復習しておくこと</p> <p>第3回 死をめぐる倫理的課題について 予習：倫理に関してこれまでに学習した内容を確認するとともに、教科書の意味決定を支えるケアについて学習し、死をめぐる倫理的課題について予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例等を参考にし、終末期における倫理について復習しておくこと</p> <p>第4回 終末期にある患者の家族への支援―悲嘆、家族に対するグリーフケアについて― 予習：終末期患者の家族の支援を学ぶので、教科書の家族ケア、喪失と悲嘆のケアの部分を予習しておくこと 復習：授業時に配布したプリント、教科書から危機のプロセスおよび悲嘆について復習しておくこと</p> <p>第5回 意思決定を支えるケア、痛みへのマネジメント 予習：意思決定支援について、教科書の該当する部分を学習しておくこと。さらに痛みへのマネジメントについて予習しておくこと。 復習：がん終末期に出現する身体症状と緩和の原則について、配布資料、教科書を通して復習しておくこと</p> <p>第6回 がん患者の身体的苦痛とその緩和方法（がん性疼痛のマネジメントと看護の役割） 予習：前回に引き続き、がん性疼痛のマネジメントについて学習するので、教科書を読み予習しておくこと 復習：がん患者の疼痛コントロールの重要性について資料、教科書をもとに復習しておくこと</p> <p>第7回 がん患者の身体的苦痛とその緩和方法（全身倦怠感に対するケア、呼吸器症状に対するケア） 予習：がん患者に出現する頻度の高い、倦怠感および呼吸器症状について学習するので、教科書の該当部分を読み予習しておくこと 復習：授業で学習した全身倦怠感および呼吸器症状について、症状緩和の方法と看護師の役割について復習しておくこと</p> <p>第8回 ホスピスケアに関する授業全体のまとめと死のシミュレーション 予習：これまでに学習した授業内容について、理解が不十分な点に関しては明確にして授業に臨む 復習：死にゆく人の心理の理解と看護師の役割について自分自身の考えをまとめておく</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 基本的には講義方式による授業を行うが、一部アクティブラーニングの手法を活用して授業を実施する。授業中に学生への質問や意見を求め、学生が理解できるように双方向の授業を行う。また8回目の授業においては、死のシミュレーションの演習を行うことを通して、死にゆく患者の理解を深める。</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 22.5時間</p>
授業の目的・到達目標	人生の終末期にある人とその家族の身体的、心理的、社会的問題を理解し、患者の苦痛を全人的苦痛として捉え、患者と家族への援助のあり方について学習する。また患者と家族のQOL（Quality of life）について理解し、QOLの維持・向上に向けた具体的な援助方法について述べることができる。加えて、終末期にある患者および家族の死へのプロセスについて学び、死別後の家族の悲嘆に対する援助について理解する。また、終末期におこりやすい身体症状とその具体的な緩和方法についての理解を深め、看護者の役割について述べるができる。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、一般病棟および緩和ケア病棟におけるがん終末期患者の臨床経験を活かし、ホスピス・緩和ケアの基礎的知識および、がん終末期患者および家族への具体的な援助方法について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	看護学テキストNICE 緩和ケア
参考書	適宜、提示する
評価基準及び成績評価方法	課題レポート、演習の参加状況、授業態度等を総合的に評価する。原則としてレポート点60点以上を合格とする。
達成度の伝達	課題レポートの返却によって行う
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	人間の生と死、ホスピス・緩和ケアに関して興味・関心のある学生の受講を希望します。通常から授業に関する書物、闘病記等を積極的によみ、理解を深めておいてください。具体的な事例を含めて授業を展開しますので、積極的な受講態度を期待しています。
履修登録条件	

講義科目名称： 感染看護特論

英文科目名称： Advanced infection nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
小林由美江				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	健康に影響を及ぼす感染の課題を理解し、感染予防及び感染時における看護職の役割について学ぶ。 感染予防のための重要概念となる標準予防策（Standard precautions）について理解し、感染予防の方法と技術について学ぶ。 近年における新興感染症や再興感染症について理解し、医療機関における感染対策と感染症発生時の対応について学ぶ。 医療機関における感染管理認定看護師の役割と活動の実践について学ぶ。			
授業計画	第1回	感染管理と看護の役割 医療機関における感染管理認定看護師（ICN）の役割と実際 予習：感染管理認定看護師に期待される能力は、医療関連感染の予防と自施設における感染管理システムの構築です。そして、病院に出入りする人全てが感染予防策を実践できるよう支援を行います。具体的にどんな役割が必要だと思いますか、臨地実習での学びを思い出しましょう。 復習：感染管理における看護の役割を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第2回	感染症を持つ患者・家族の看護 HIV感染症などのウイルス感染症に対する看護 予習：HIVをはじめとするウイルス感染症で入院、または通院する感染症患者に対する看護の役割について考えてみましょう。 復習：ウイルス感染症患者への対応を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第3回	易感染状態にある患者・家族の看護 予習：疾病の治療、特に化学療法により易感染状態にある患者への看護の役割について考えてみましょう。 復習：易感染患者への対応について理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第4回	地域・在宅における感染管理 予習：様々な医療処置が必要な者、抵抗力が低下した高齢者等、易感染状態にある療養者は多く、在宅における感染管理は重要です。在宅における感染管理に課題について考えてみましょう。 復習：在宅における感染管理の必要性を理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第5回	医療機関における感染防止と看護活動 手指衛生を初めとする標準予防策の実践 予習：手指衛生は、医療関連感染対策の基本であり、有効性が証明されています。しかし、実際には手指衛生が十分に実施されているとはいえません。患者ケアの際には、適切な場面とタイミングで手指衛生を実施する必要があります。WHOが提唱する「手指衛生の5つの瞬間」について考えてみましょう。 復習：多忙な臨床現場で手指衛生が必要な場面は様々です。交差感染発生の原理を理解し適切な手指衛生や個人防護具の正しい使用方法について理解しましょう。疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第6回	医療機関における感染予防とファシリティマネジメント 予習：適切な療養環境を患者や職員に提供するための医療施設の環境管理部門における感染管理（ファシリティマネジメント）は欠かせない視点です。どんな環境が最も良いと考えますか。臨地実習で体験した病院を例に考えてみましょう。 復習：医療施設の環境管理部門におけるファシリティマネジメントについて理解しましょう。 疑問があれば、その都度担当教員に質問をして、疑問を残さないようにしましょう。		
	第7回	医療関連感染サーベイランス 予習：医療関連感染サーベイランスとは、感染管理に関わる対策の立案、導入、評価に不可欠な医療関連感染に関するデータを継続的に収集、分析、その結果を共有する活動です。医療施設では様々なサーベイランスが実施されていますが、今後、看護師としてそれらのデータを臨床現場でどのように活用しようと考えますか？サーベイランスの必要性について考えてみましょう。 復習：効果的な感染対策活動を実施するためには、自施設の医療関連感染がどれくらい発生し、どのような傾向にあるのか、サーベイランスデータを有効に活用しましょう。		
	第8回	感染看護の課題と方向性 公衆衛生上問題となる新興感染症と再興感染症 予習：近年の新興感染症や再興感染症の動向や対策について、医療機関の役割やそこで働く様々な職種の役割とはなんでしょうか？新型インフルエンザ等や災害時を例に考えましょう。 復習：アウトブレイク発生時の対応等、具体的な対策について理解し、平時の感染対策の重要性を理解しましょう。 ◆予習・復習◆ 22.5時間		
授業の目的・到達目標	感染症患者及び易感染患者の看護を理解できる。 医療機関で展開されている感染管理を理解し、感染症の拡大や制圧のための、臨床現場における看護活動について理解できる。			
実務経験に基づく知識の伝達	感染管理認定看護師としての実務経験を活かし、医療現場における実践的活動を通じて、感染予防、感染症発生時の対応について講義する。また、感染対策の基本である標準予防策を適切に実践するための手洗いや個人防護具の着脱演習を行う。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる			
教科書	必要に応じ、資料を配布する。			
参考書	特に指定なし、感染症の看護や感染管理に関連する参考書			
評価基準及び成績評価方法	各授業の最後にレポートまたは確認テストにより採点する他、参加態度も考慮する。			
達成度の伝達	テスト問題またレポートの返却によって行う。			

資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	臨床現場で看護師や保健師としての活動を目前に控え、希望や不安など様々な思いがあらうかと思ひます。少しでもイメージしやすいようお手伝ひできればと思ひます。 <オフィスアワー> 感染予防に関するご相談、また看護師として働くことへの不安などのご相談は、講義の際にご連絡ください。専従教員ではありませんので十分な時間が取れませんが、可能な限り対応いたします。
履修登録条件	

講義科目名称： 国際看護特論

英文科目名称： Advanced international nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越幸代、会沢紀子、李孟蓉				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	特定領域		

授業概要	世界の健康課題の現状やその背景について理解し、国際的に協力して健康課題に取り組む国際看護の過程について学習する。その協力する対象となる国際機関、政府、非政府組織の役割や、各職種の連携について理解し、国際協力における課題について考察する。また、日本の看護職の国際協力における実際の活動について理解し、国際看護の今後の展望について考察する。さらに、国内での外国人看護師との協働、および在日外国人の健康支援についても身近な事例から理解し、具体的な対応を考察する。
授業計画	<p>第1回 【国際看護の定義と基礎知識】（宮越） <講義> 国を超えた看護の実践、開発途上国の定義と分類およびとらえ方 予習：「開発途上国」「プライマリヘルスケア」の用語の定義、教科書の234ページ～250ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。</p> <p>第2回 【世界の保健医療状況と途上国におけるプライマリ・ヘルス・ケア】（宮越） &lt;講義> プライマリ・ヘルスケアが必要とされる途上国の現況 予習：教科書の251ページ～269ページ 復習：復習レポートの記述、第7回で提出</p> <p>第3回 【世界の健康問題と取り組み】（李） <講義> 国際社会がめざす保健医療の目標達成に果たす看護の役割 予習：「グローバルヘルス」の概念、教科書の251ページ～269ページ、283～303ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。</p> <p>第4回 【在日外国人への看護と健康支援】（李） 予習：教科書の272ページ～277ページ。在日外国人の生活や健康問題、医療について身近な情報や体験、新聞等の媒体から実情に関心を持ち把握しておく。 復習：配布資料を熟読し、在日外国人が抱えている健康問題と支援の理解が深まる。</p> <p>第5回 【途上国における国際看護協力の実際①】（会沢） <講義> 国際緊急支援に関わる看護活動の事例 予習：教科書の303ページ～338ページ 復習：配布資料を熟読</p> <p>第6回 【途上国における国際看護協力の実際②】（会沢） <意見交換・グループワーク> 国際協力活動と異文化での看護活動 予習：第5回に準ずる 復習：第5回に準ずる</p> <p>第7回 【多文化共生看護】（宮越） <DVD視聴・講義・意見交換> 在日外国人の生活と健康問題、文化アセスメントの実際 予習：教科書の270ページ～277ページおよび在日外国人への看護と健康支援（第4回）の授業を復習し、具体的な支援場面のイメージをつけておく 復習：配布資料を熟読し、講義内容や意見交換を踏まえた各自の考えについてのレポート作成</p> <p>第8回 【国内における外国人看護師との協働】（宮越） <DVD視聴・講義・意見交換> 在日外国人看護師の受入および就労条件とよりよい協働、ミニテスト 予習：外国人看護師の受入条件、就労状況について新聞やテレビ等の媒体から、国内の実情に関心を持ち把握しておく 復習：配布資料を熟読し、講義内容や意見交換を踏まえた各自の考えについてのレポート作成</p>
授業の目的・到達目標	<p>1. 国際看護の実践に必要な基礎的知識と方法を学び、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた看護の実践方法について考える（主に、開発途上国を中心とした国際協力）。</p> <p>2. 国際看護の場面における具体的な状況判断が必要な事例への対応や国際協力方法について検討し、多文化共生や効果的な国際協力の視点から国際看護を具体的に捉えることができる。</p> <p>以上の観点から、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた国際看護についての基礎的な考え方を習得する。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	JICA国際協力機構や国際人道支援団体（NPO等）の派遣により、海外での災害支援、難民支援、国際保健医療協力ボランティア等の実務経験のある教員が、その経験に基づき具体的な事例を提示しながら講義する。また国内では、実際に在日外国人への健康診断等の支援活動に携わった教員が、その実際を解説しながら彼らの健康支援について考えられるようにする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	医学書院 <<系統看護学講座 統合分野>>, 看護の統合と実践[3], 災害看護学・国際看護学(第4版)
参考書	授業單元ごとに適宜紹介します
評価基準及び成績評価方法	第2回の授業後のレポート、第6回のグループワークの達成度をそれぞれ5段階で30点満点で採点（5:30点、4:24点、3:18点、2:12点、1:6点）し、第8回目のミニテスト結果（40点満点）を合わせて総合的に行います。60点以上を合格としますが、授業で聞いたことだけでなく、授業から学んだことが表現できること、たとえば自分なりに身近なことから国際看護を意識化したり、行動化できる具体的な発言や記述を高評価とします。
達成度の伝達	レポートおよびグループワークに対する総評と採点結果、ミニテスト実施直後のフィードバックによって行います。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。
履修登録条件	

講義科目名称：災害看護特論

英文科目名称：Advanced disaster nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越幸代、会沢紀子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	<p>災害看護の歴史的変遷と災害に関する制度について理解し、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響と健康上の課題について学習する。</p> <p>災害の種類と災害サイクル、その災害に伴う疾病構造や健康課題について学習し、対象となる人や集団（場所）、災害各期に応じた看護の方法について理解する。また、災害時における社会資源の活用や住民のネットワークの構築、地域における災害対策マニュアルをふまえた上での看護活動の実際について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 【災害看護概論】（宮越） <講義> 災害の種類と疾病構造。災害サイクルと活動の場、災害看護と法律、災害医療と看護職の役割 予習：教科書の2～78ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。</p> <p>第2回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護①】（宮越） <講義・紙上シミュレーション> 災害各期の看護の特徴、発災後急性期の病院での初期対応 予習：教科書の78～110ページおよび193ページ～220ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。</p> <p>第3回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護②】（会沢） <講義・演習> トリアージとは、トリアージタグの使い方、トリアージ演習と被災後のトリートメント 予習：教科書の39～46ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第4回 【地域災害看護の展開】（会沢） <講義・事例検討> 地震災害時における救護班および地域での災害看護の展開 予習：教科書の193ページ～232ページおよび121ページ～143ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第5回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護③】（宮越） <講義・意見交換> 避難所・仮設住宅での看護活動の実際（熊本地震の事例等） 予習：事前配布資料の熟読 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第6回 【被災者特性に応じた災害看護の展開①】（宮越） <講義> 災害時要配慮者・要援護者・慢性疾患患者の看護 予習：教科書の82ページ～86および143ページ～171ページ 復習：教科書の該当ページ、グループワーク課題（事例検討）</p> <p>第7回 【被災者特性に応じた災害看護の展開②】（宮越） <講義・グループワーク> 高齢期・妊産婦・小児・障がい者・在日外国人等の看護 予習：教科書の143ページ～171ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p> <p>第8回 【被災者特性に応じた災害看護の展開③】（宮越） <講義・ミニテスト> 精神的な支援を必要とする対象者の看護 予習：教科書の157ページ～161ページおよび171ページ～189ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読</p>
授業の目的・到達目標	<p>1. 災害サイクルや災害発生の際、対象の特性に合わせた看護を考え、実践するための方法を考える。</p> <p>2. 防災・減災及び災害時の対応における看護者の役割を考える。</p> <p>3. 災害発生後急性期におけるトリアージとトリートメントの基本を学び、演習を通してトリアージ判定の方法を学ぶ。</p> <p>以上の3点から、防災・減災にかかわる災害医療における看護師の役割と方法について知り、災害看護を実践できる基礎的な知識と急性期のトリアージ判定の基礎的な力を習得する。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>JICA国際協力機構や国際人道支援団体（NPO等）の派遣により国内外での災害救援や難民支援の実務経験のある教員が、その経験に基づき具体的な事例を提示しながら講義する。また日ごろからJICAや学会、NPO団体等での継続的な研修を受講し、常に緊急派遣に備えている教員による最新の知識・技術を解説する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる</p>
教科書	<p>医学書院 <<系統看護学講座 統合分野>>, 看護の統合と実践[3], 災害看護学・国際看護学(第4版)</p>
参考書	<p>授業單元ごとに適宜紹介します</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>第7回のグループワークの達成度をグループごとに5段階で採点する（5:40点、4:32点、3:26点、2:18点、1:10点）。グループワークの目標を達成したレベルを各40点内で換算する。加えて8回目のミニテスト結果（60点）を換算し総合的に行う。60点以上を合格としますが、授業で聞いたことだけでなく、授業から学んだことが表現できること、たとえば自分なりに身近なことから災害看護を意識化したり、行動化できる具体的な発言や記述を高評価とします。</p>
達成度の伝達	<p>グループワークおよびミニテスト実施直後のフィードバックによって行います。</p>
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<p>授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。</p>
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究ゼミナール I

英文科目名称：Nursing research seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
豊島幸子、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、沼田加代、尾島喜代美、杉本厚子、富山美佳子、中村史江、村上弘之、荻原弘幸、川久保和子、小谷千晴、斉藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、石井みゆき、横山文子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		研究ゼミナール	

授業概要	3年次に科目「看護研究」で学んだ知識をもとに、演習での体験を通して、看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。研究とは何か、研究の意義とプロセスを倫理的視点で学ぶ。各研究デザインの特徴と方法を理解し、自分の興味関心のあるテーマで文献検討を行う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学習をすすめていく。文献検索・検討を十分行い、後期の文献検討発表会の準備を行う。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、ゼミグループ担当の教員の紹介（全体ガイダンス後は各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究ゼミナールの進め方について 2. ゼミグループ担当教員の紹介 <p>第2回 グループごとのオリエンテーション（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの選択 2. リサーチクエスチョンの意見交換 <p>第3回 グループごとに研究テーマの決定（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リサーチクエスチョンの意見交換 2. 研究テーマの決定 3. 前期のグループ計画などの検討 <p>第4回 グループごとに文献検索・検討①（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献レビューの目的や方法の確認 2. クリティークの意義の確認 <p>第5回 グループごとに文献検索・検討②（各教員指定場所）</p> <p>文献検索・取り寄せ・整理・検討</p> <p>第6回 グループごとに文献検索・検討③（各教員指定場所）</p> <p>文献検索・取り寄せ・整理・検討</p> <p>第7回 グループごとに文献検索・検討④（各教員指定場所）</p> <p>文献検索・取り寄せ・整理・検討</p> <p>第8回 グループごとに文献検索・検討⑤（各教員指定場所）</p> <p>文献検索・取り寄せ・整理・検討</p> <p>第9回 グループごとに文献検討のまとめ①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 <p>第10回 グループごとに文献検討のまとめ②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 <p>第11回 グループごとに文献検討のまとめ③</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 <p>第12回 グループごとに文献検討のまとめ④</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 3. まとめ <p>第13回 グループごとに文献検討のまとめ⑤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 3. まとめ <p>第14回 グループごとに文献検討のまとめ⑥</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題について考える。 2. 研究成果を伝える方法の確認 3. まとめ <p>第15回 前期の看護研究ゼミナールのまとめ、グループごとに総括 ゼミ内で発表・総括 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義5回、演習5回、プレゼンテーション5回</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、研究方法の基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 2. 関心のある研究テーマを選択決定できる。 3. 研究テーマに沿った文献を検索し、検討できる。 4. プレゼンテーションの効果的な方法がわかる。
実務経験に基づく知識の伝達	臨床及び教育研究の実務経験を持つ教員が、看護研究に関する実践的活動を通して、看護研究の基礎的能力を培うための支援と演習を行う。

教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学修できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究. ヌーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方. 医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究. 看護協会出版会 その他、授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	文献検討グループレポート（80%）、個人レポート（20%）により総合的に評価する。
達成度の伝達	随時学生にコメントしていく。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護研究への意欲を深めてほしい (1時間)・復習(1時間)の時間を学生各自が行い、看護研究ゼミナールの学びを深める
履修登録条件	4. 予習

講義科目名称：看護研究ゼミナールⅡ

英文科目名称：Nursing research seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
豊島幸子、青山みどり、川島美佐子、栗田佳江、佐藤栄子、沼田加代、尾島喜代美、杉本厚子、富山美佳子、中村史江、村上弘之、荻原弘幸、川久保和子、小谷千晴、斉藤利恵子、島田葉子、鈴木早智子、宮武陽子、茂木英美子、石井みゆき、横山文子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		研究ゼミナール	

授業概要	演習での体験を通して、看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学修をすすめていく。看護実践における研究の役割や研究疑問を具体化する過程を学ぶ。看護研究ゼミナールⅠでまとめた結果を文献検討発表会において発表し、研究成果公表の実際を体験する。また、研究計画書の作成をとおして、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。4年間の集大成として、専門職者として研鑽し続けられる基礎的能力を身につけることを目指す。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス（各教員研究室）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期のグループ計画などの検討 2. 文献研究発表会の準備スケジュールの検討 3. 研究計画書作成のスケジュールの検討 <p>第2回 文献学習発表会準備①（各教員指定場所）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究成果を伝える方法の確認 <p>第3回 文献学習発表会準備②（各教員指定場所）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 示説発表の準備 <p>第4回 文献学習発表会の準備③</p> <p>各ゼミの文献学習の成果を発表し、相互に学びあう</p> <p>第5回 文献学習発表会の準備④</p> <p>第6回 文献学習発表会の準備⑤</p> <p>第7回 文献学習発表会④</p> <p>各ゼミの文献学修の成果を発表し、相互に学びあう</p> <p>第8回 文献学習発表会⑤</p> <p>各ゼミの文献学修の成果を発表し、相互に学びあう</p> <p>第9回 研究計画書作成①（各教員指定場所）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の意義の確認 2. 研究計画書の書式と書き方の確認 <p>第10回 研究計画書作成②（各教員指定場所）</p> <p>研究計画書を作成する。</p> <p>第11回 研究計画書作成③（各教員指定場所）</p> <p>研究計画書を作成する。</p> <p>第12回 研究計画書作成④（各教員指定場所）</p> <p>研究計画書を作成する。</p> <p>第13回 研究計画書作成⑤（各教員指定場所）</p> <p>研究計画書を作成する。</p> <p>第14回 研究計画書作成⑥（各教員指定場所）</p> <p>研究計画書を作成する。</p> <p>第15回 看護研究ゼミナールのまとめ</p> <p>グループごとに総括</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆</p> <p>講義5回、演習5回、プレゼンテーション5回</p>
授業の目的・到達目標	<p>看護学における研究の必要性和看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における研究の意義を理解できる。 2. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 3. 効果的なプレゼンテーションが工夫できる。 4. 研究計画書が作成できる。
実務経験に基づく知識の伝達	臨床及び看護研究の実務経験を持つ教員が、看護研究に関する実践的活動を通して、看護研究の基礎的能力を培うための支援と演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究. ヌーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方. 医学書院

	4. 南裕子編著：看護における研究. 看護協会出版会 その他、授業中に適宜紹介する。	
評価基準及び成績 評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。	
達成度の伝達	随時学生にコメントを返していく。	
資格情報		
メッセージ・オ フィスアワー	1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護研究への意欲を深めてほしい (1時間) 復習 (1時間) の時間を学生各自が行い、看護研究ゼミナールの学びを深める	4. 予習
履修登録条件		

講義科目名称：教職論

英文科目名称：Theory of Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
豊島幸子				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職とは何か、教員の養成制度、職務の専門性を考える。教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。養護教諭の歴史と養成制度について学び、現在の健康問題と今後の課題といった諸事項に関して、具体的に身近な事例を通して理解を深める。			
授業計画	<p>第1回 教職の意義と教員の使命・資質 教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて理解する。 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小中高の母校のホームページから児童生徒教職員数などを情報収集して授業に臨む。</p> <p>第2回 現代社会の教育的諸問題と教職の課題 教育的諸課題と教師という職業について考える。 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞記事等から教育情報に関する記事を1例取り上げ要約し、自身の考えをまとめて授業に臨む。</p> <p>第3回 教員の仕事と役割 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価、教科外指導と教員、進路指導、教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の小中高の成長過程を振り返り、印象に残る教師についてまとめて授業に臨む。</p> <p>第4回 学級経営・学校経営・校務分掌と教員 学校経営、学校経営、保健室経営、校務分掌について理解し、教員に求められる基本的な資質能力について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小中高の母校から1校を選び、ホームページから学校の概要を収集して授業に臨む。</p> <p>第5回 教育相談と教員 教育相談とは、不登校への対処、いじめへの対処、組織的な連携の必要性について理解する。 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の中の教育相談について新聞記事等から記事を1例選び授業に臨む。</p> <p>第6回 教員の研修と服務規程 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。教員免許状更新講習制度についても理解を深める。また、教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の服務規程の用語について一般的な意味について調べて授業に臨む。</p> <p>第7回 学習指導要領と教員 学習指導要領とは何か、学習指導要領とその変遷について理解する。 学習指導要領等の改訂のポイントについて理解し、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」についても理解を深める。さらに、各学校におけるカリキュラムマネジメントの確立について考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領について一般的な意味について調べて授業に臨む。</p> <p>第8回 特別支援教育と学習指導要領 特別支援教育の現状と学習指導要領について理解する。 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特別支援教育について一般的な意味について調べて授業に臨む。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義5回、ディスカッション2回、プレゼンテーション1回</p>			
授業の目的・到達目標	養護教諭1種免許状が教職免許に基づくものであることを理解し、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解することを目標とする。			
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小学校・中学校・高等学校の養護教諭としての実務経験を活かし、養護教諭職の基礎知識について講義する。			
教育目標に対する科目の位置付け	教員免許（養護教諭）取得に必要な教職科目で、1年後期に設けている必修科目である。本講は、教師の仕事は何か、教師の職務内容、学校や教師をめぐる現状など教職についての基本的な理解を深め、学生の教職への意識と使命感を高める。			
教科書	教職問題研究会編：教職論（第2版）－教員を志すすべてのひとへー、ミネルヴァ書房（2016）			
参考書	随時紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験・課題レポートで60点以上を合格とする。			
達成度の伝達				

資格情報	教職論は、教職資格取得に必要な教職科目の一つで、教職、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ科目である。教職を目指そう、あるいはまだ将来の職業がはっきりしていなくとも教職の資格を取得しようと思っている学生は積極的に受講して欲しい。
メッセージ・オフィスアワー	水曜日（12:00～13:00） <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。希望時間の予約方法は授業で提示します。 ・授業の質問は授業中・直後に積極的に質問を受け付けます。 ・学生各自が予習（1時間）復習（1時間）を行い、教職についての学びを深めること。
履修登録条件	

講義科目名称：教育基礎論

英文科目名称：Theory of Education Fundamentals

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
丸山剛史				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教育とは、社会の側からの統制・維持の作用と、個人の側からの発達・適応・創造という二つの作用を弁証法的に実現する社会的営為であるといわれている。
授業計画	<p>第1回 教育とは 授業全体の導入として、受講者に「教育とは何か」について考えてもらいながら、教育、学校教育に関心をもてるようにする。</p> <p>第2回 教育、義務教育の始まり 教育と義務教育の始まりについて例をあげて説明し、教育や義務教育の社会的意義について理解させる。</p> <p>第3回 「学校」の誕生 「学校」は発明であるともいわれている。わが国における「学校」の始まりについて説明し、学校の社会的機能やわが国の学校の特殊性について理解させる。</p> <p>第4回 第二次大戦前日本の学校・教育課程・教師（ヘルバルト学派の教育論・教育実践の解説含む） わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦前の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育勅語、国定教科書など、戦前の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第5回 第二次大戦後日本の学校・教育課程・教師（アメリカ・カリキュラム改造史との関係説明含む） わが国の学校教育について理解を深めるために、第二次大戦後の学校制度、教育課程、教師について、資料をもとに説明する。あわせて教育基本法、学校教育法、学習指導要領など、戦後の教育の特徴的な事項について説明する。</p> <p>第6回 企業社会と教育・学歴主義 産業化が進化した社会にみられ、わが国の子ども達も苦悩させられる学歴主義について説明する。ここでは特に特殊日本的な企業内教育についても説明する。</p> <p>第7回 学力論：「日本型高学力」と学力低下論議 日本の子どもたちの学力には、他国ではみられない、「日本型高学力」とでもいうべき独特な性質をもっている。ここでは、「日本型高学力」の内容を説明する。</p> <p>第8回 カリキュラム・カリキュラム開発（デューイ、クワトリックらの単元開発論の解説含む） 子どもたちの学びについて、教師が意図していなくても、子どもたちが勝手に学び取ってしまう「潜在的なカリキュラム」の問題がある。「潜在的なカリキュラム」問題を手がかりに、カリキュラムやカリキュラムづくりのあり方について考える。</p> <p>第9回 子どもの遊びと発達、遊びは学習の土台 子どもの遊びは、学習の土台であるといわれている。子どもの成長発達を促すとともに、豊かに学ぶための土台になる、子どもの遊びの教育的意義について考える。</p> <p>第10回 教育方法論（1）：生活綴り方、生活教育（ロック、ルソー、ペスタロッチ、デューイ、クルプスカヤの教育論の解説含む） 代表的な教育方法である生活綴り方、生活教育について事例を紹介しながら説明する。</p> <p>第11回 教育方法論（2）：討議・話し合い 民主主義を実現するために不可欠とされる討議・話し合いについて、実状や留意点を説明するとともに、テーマを設定して実践してもらい、教育的意義や実践上の難しさを理解させる。</p> <p>第12回 授業づくりの理論 学校教育、教師に求められる最も中心的な活動・営みとして授業がある。授業づくりについて説明し、授業と授業づくりについて理解を深める。</p> <p>第13回 学校経営・学級経営、教育条件整備 学校教育においては学校経営や学級経営といった経営的な問題もある。教育の内容ではないけれども、教育の外にあって内を守るものとして教育条件整備の問題もある。こうした学校、教師を取り巻く問題について理解を深めてもらう。</p> <p>第14回 教師論：日本型教師像 教師とはどうあるべきか。わが国には、日本型教師像とでもいうべき独特の教師像がある。他国の教師像とどのように異なるか、なぜ日本型教師像が生まれたのかについて説明する。</p> <p>第15回 まとめ これまでの授業を振り返り、授業科目で学んだことを確認する。</p> <p>◆アクティブ・ラーニング◆ 毎回（15回）の授業において授業終了時に感想等を書いてもらう。また、15回の授業のいずれかにおいて1人1回は意見発表を求める。さらに、テーマによってはグループディスカッションを行うことがある。</p>
授業の目的・到達目標	授業の目的は、教育という社会的営為に関する関心をもたせるとともに、教育学的なものの方、考え方ができるようにすることにある。この授業では、「教育」とは何か、教育の歴史、学校とは何かについて基礎的・基本的な知識・認識を獲得させることを目標としている。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、小・中学校非常勤講師の実務経験を活かし、子どもの生活の背景や授業づくりの基礎知識について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	「教育基礎論」は本学が付与する教員免許に必要な教職科目である。「教職論」とともに教職科目としては最初の1年次後期に配当されており、教職の必修科目であるから教員免許を取得しようと思う者は全員履修しなければならない。本科目は「教育基礎論」との名称に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理に関する科目である。
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書	堀尾輝久『教育入門』（岩波新書、1989年）、木村元『学校の戦後史』（岩波新書、2015年）
評価基準及び成績 評価方法	試験で60点以上を合格とする。また、学習態度も参考にする。
達成度の伝達	「ワークシート」を用意し、コメントを記すなどして達成度の伝達を行います。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	授業の前後に教室にて対応します。
履修登録条件	

講義科目名称：教育制度論

英文科目名称：Theory of Education Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	公教育の原理と意義及び教育制度の理念、教育制度に関する法規について学ぶ。我が国の教育制度の成り立ちと各学齢段階における教育制度及び外国の教育制度について学ぶ。また、学校を支える教育行政と財政について学ぶ。学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことや開かれた学校づくりの意義と重要性を学ぶ。具体的な事例を通して、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性及び危機管理や事故対応について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 学校と教育制度・公教育 我が国の学校と教育制度について、グループごとに意見をまとめ、発表する。公教育の原理と意義及び教育制度の理念について理解する。</p> <p>第2回 教育制度と法令 教育制度に関する法規について理解する。</p> <p>第3回 教育制度の成り立ちと歴史 教育制度の成り立ちと我が国における歴史的変遷について理解する。今後の教育制度の展望についてまとめる。</p> <p>第4回 就学前教育と初等教育制度 幼児期の就学前教育制度と初等教育制度について理解する。</p> <p>第5回 中等教育制度と高等教育制度 我が国における中等教育制度及び高等教育制度について理解する。</p> <p>第6回 教育行政制度 文部科学省と教育委員会の役割と業務及び関連する法令について理解する。また、都道府県教育委員会と市町村教育委員会の役割と業務、組織について理解する。</p> <p>第7回 教育財政制度と教育制度の課題 学校教育を支える教育財政制度、義務教育費国庫負担制度などについて理解する。教育制度の課題について調べ、その改革の方向性について協議し理解を深める。</p> <p>第8回 学校と地域及学校安全 学校の教職員と地域の関係者や機関・専門家との連携・協働によるチームで教育活動を行うことの重要性を理解する。学校の教職員と地域の関係機関との連携による開かれた学校づくりの意義と重要性を理解する。また、学校の安全管理と生徒への安全教育の必要性及び地域や関係機関との連携の重要性を理解する。 アクティブ・ラーニング グループ協議：2回</p>
授業の目的・到達目標	我が国の教育制度の成り立ちと経緯、関係法令、教育行政・財政制度について理解する。また、チーム学校や学校の危機管理について理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	授業担当者の学校教員経験、県教育委員会や文部科学省の教育行政経験により、事例を挙げるなど実践的な説明ができる。
教育目標に対する科目の位置付け	現代の学校教育制度について、基礎的な知識を身につけるとともに、関連する課題を理解する。学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。（教育目標1）
教科書	2021年度版 必携教職六法（若井 監修 協同出版株式会社）
参考書	適時プリントを配布する。
評価基準及び成績評価方法	課題（30%）、終了時レポート（70%） 授業への積極的参加の態度などを総合的に判断する。
達成度の伝達	課題等については、講評をおこなう。
資格情報	養護教諭免許を取得するための必修科目である。
メッセージ・オフィスアワー	金曜日：10：30～11：30 非常勤講師控え室

講義科目名称：教育心理学

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	児童生徒の学習の過程について概説する。
授業計画	<p>第1回 認知・記憶のしくみ 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第2回 学習理論と教育 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第3回 学習意欲と教育 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第4回 知能と学力の測定 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第5回 パーソナリティと教育 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第6回 学級集団と学級経営 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第7回 学習指導の理論と形態 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第8回 教育効果の測定と教育評価 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>アクティブラーニング 講義およびディスカッション8回</p>
授業の目的・到達目標	幼児、児童及び生徒の学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	教育心理学を研究領域とし、スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、教育心理学全般にわたって講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	石井正子・中村徳子 編著「教職に生かす教育心理学」みらい、2019年
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	授業への出席を前提として、定期考査による。
達成度の伝達	定期考査の解答例を示す。
資格情報	養護教諭一種免許状取得のための必修科目
メッセージ・オフィスアワー	オフィスアワーは初回講義時に説明する。
履修登録条件	

講義科目名称：特別支援教育論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	1単位	必修	講義・演習
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	特別の支援を必要とする児童生徒の特性と支援の方法について、また障害はないが特別の教育的ニーズのある児童生徒への支援の方法について概説する。
授業計画	<p>第1回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第2回 発達障害を中心とした特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達、心理的特性、学習の過程 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第3回 さまざまな障害のある児童生徒の学習上、生活上の困難 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第4回 発達障害を中心とした特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第5回 「通級による指導」と「自立活動」 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第6回 個別の指導計画と個別の教育支援計画 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第7回 学校と関係機関等との連携による支援体制 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>第8回 障害以外の特別の教育的ニーズのある児童生徒の学習上、生活上の困難とその対応 教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく</p> <p>アクティブラーニング 講義8回</p>
授業の目的・到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラー経験のある授業担当者が、全授業回を担当し、特別な支援を必要とする児童生徒への指導のあり方について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	北島善夫・武田明典 編著「教師と学生が知っておくべき特別支援教育」北樹出版、2019年
参考書	講義内で適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	出席を前提として、定期試験で評価する
達成度の伝達	定期試験の解答例を示す。
資格情報	養護教諭一種免許状取得のための必修科目
メッセージ・オフィスアワー	オフィスアワーは初回講義時に説明する。
履修登録条件	

講義科目名称：教育課程論

英文科目名称：Curriculum Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
黒羽正見				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの教育課程経営の体験活動を通して、教育実践者としての「教育課程を運営する意味」のリアリティに接近する。
授業計画	<p>第1回 教育課程の意義：教育課程の概念と種類</p> <p>第2回 教育課程の歴史：近代から現代、そしてこれからの教育課程</p> <p>第3回 学校教育における教育課程の現代的課題とその解決方法</p> <p>第4回 学習指導要領の意義と変遷</p> <p>第5回 教育課程の編成原理：教育内容の構成とカリキュラム</p> <p>第6回 教育課程の編成原理：カリキュラム開発と学校改善</p> <p>第7回 教育課程の評価：学校経営者としての評価</p> <p>第8回 教育課程の評価：評価の理論と方法</p> <p>第9回 幼稚園・小学校の教育課程の編成</p> <p>第10回 中学校・高等学校の教育課程の編成</p> <p>第11回 特別支援教育の教育課程の編成</p> <p>第12回 総合的な学習の時間の教育課程</p> <p>第13回 教育課程と教師の成長の関係</p> <p>第14回 教育課程とカリキュラム・マネジメントの関係</p> <p>第15回 学校を基礎に置いた教育課程をつくる</p>
授業の目的・到達目標	動きのない紙面上の教育課程（計画・内容）から生徒との相互行為として「教師が教育課程をつくる」意味の理解を実践的に深める。
実務経験に基づく知識の伝達	小中学校の実務経験を生かして、教科カリキュラムや経験カリキュラムの模範的なカリキュラム実践例を紹介しながら、教室レベルにおける教育課程とカリキュラム実践の使い分けについて理解できるようにする。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	稲垣応顕・黒羽正見編「学際型現代学校教育概論」金子書房
参考書	特になし
評価基準及び成績評価方法	毎時間の振り返りシート、レポート、学習態度等を参考にする。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：教育の方法と技術

英文科目名称：Methods and Strategies of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
久保田善彦				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景の知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、体験的に修得していく。
授業計画	<p>第1回 学習とは何か？ ・アクティブ・ラーニングとは何か？</p> <p>第2回 思考を外に出す（1） ・概念地図， マインドマップ， イメージマップ</p> <p>第3回 思考を外に出す（2） ・運勢ライン法</p> <p>第4回 リアルな課題と子どもの願い・思い</p> <p>第5回 学習意欲</p> <p>第6回 マイクロティーチング</p> <p>第7回 協調学習（1） ・学びの共同体の基本構造</p> <p>第8回 協調学習（2） ・知識構成型ジグソー学習法</p> <p>第9回 授業研究（3） ・タブレットを使った協働と個の学習</p> <p>第10回 指導案作成と授業研究</p> <p>第11回 ワークシートのデザイン</p> <p>第12回 ゲーミフィケーションとゲーム教材（1） ・ゲームを作成</p> <p>第13回 ゲーミフィケーションとゲーム教材（2） ・相互評価</p> <p>第14回 真正な評価（ポートフォリオ・パフォーマンス）</p> <p>第15回 自分の学びを振り返る</p>
授業の目的・到達目標	(1)知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。 (2)機能や役割といった教育方法に関する基礎を体験的に理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	特に指定しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。定期試験(60%)：講義全体の内容について、試験を行う。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称： 道徳の指導法

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中山和彦				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	次の4点について養護教諭の立場で主体的に学ぶことができる授業にする。 ①教育活動全体の中で行う道徳教育についての理解を基に、養護教諭の立場で行う道徳教育について、その目標と内容・方法を具体的に考える。 ②児童生徒の道徳性の発達について学び、児童生徒理解につなげる。 ③授業担当者による道徳科模擬授業を体験して、道徳科の目標や内容について学ぶ。 ④担任と養護教諭の連携について道徳教育の視点から考える。
授業計画	第1回 道徳の本質 ・道徳性について考える ・教育の本来の意味について 第2回 教育活動全体で行う道徳教育の目標と内容 ・学級経営と道徳教育（道徳科） 第3回 児童生徒の道徳性の発達 ・学習指導要領一部改正による道徳科の設置とその趣旨 第4回 道徳教育の要としての道徳科の役割 第5回 道徳教育全体計画と道徳科年間指導計画 第6回 担任と養護教諭が連携した道徳教育、児童生徒理解 ・道徳教育の評価 第7回 道徳科の模擬授業を体験して考える ・担任と養護教諭のチーム・ティーチング 第8回 道徳科の評価 ・保健室における道徳教育と児童生徒理解 ・講義全体のまとめ
授業の目的・到達目標	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体で推進する道徳教育とその要となる道徳科の目標や内容を理解し、養護教諭が行う道徳教育について具体的に考えることができるようにする。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	指定なし。毎回、担当者が関係する資料を配付する。
参考書	学習指導要領解説 「特別の教科 道徳編」（平成29年7月） 私たちの道徳（文部科学省）
評価基準及び成績評価方法	定期試験実施。 試験60% 平常点40%で評価する。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：総合的学習時間と特活

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
高橋知己				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教科外の活動である総合的な学習の時間と特別活動は、児童生徒の自立を促し、自分たちで学級や学校の諸問題について探求し、解決しようとする意欲や態度を養うことを目指している。そうした活動は同時に仲間との協働を通して集団への所属感を高め社会性を陶冶することにもつながっていく。授業では、そうしたねらいの実現のための計画の立案や具体的な指導についての知識や技能を獲得できるようにアクティブラーニングの手法を取り入れながら、より実践的な学びを構築していく。
授業計画	<p>第1回 総合的な学習の時間と特別活動に関する学習指導要領のねらい</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の意義と学習計画の立案</p> <p>第3回 問題解決のための実践の方法</p> <p>第4回 総合的な学習の時間と特別活動の評価のあり方</p> <p>第5回 特別活動の実際と学習指導要領のねらい</p> <p>第6回 特別活動の実践</p> <p>第7回 特別活動と生徒指導</p> <p>第8回 現代の教育課題への対処</p>
授業の目的・到達目標	総合的な学習の時間及び特別活動の重要性や特質、学習指導要領の改訂趣旨、原理や指導方法などについて理解し、その楽しさや意義について学修することを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	文部科学省「学習指導要領解説」（最新）
参考書	授業中に示す。
評価基準及び成績評価方法	定期試験は行わない。レポート提出を課す。 ミニレポート20%、レポート70%、議論への参加10%を総合的に判断する。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：生徒指導論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	児童期・思春期の生徒指導を中心テーマとし、いじめや不登校、問題行動など具体的な事例に則して考察・討論し、生徒指導の意義、生徒指導の基礎を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生徒指導の意義と課題</p> <p>第3回 生徒指導体制と生徒指導計画</p> <p>第4回 校則、懲戒、体罰と生徒指導</p> <p>第5回 児童生徒を取り巻く環境の変化と生徒指導</p> <p>第6回 第2回から第5回のまとめ（含、小テスト）</p> <p>第7回 不登校・引きこもりへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第8回 不登校・引きこもりへの指導援助（2）小学校</p> <p>第9回 不登校・引きこもりへの指導援助（3）中学校</p> <p>第10回 不登校・引きこもりへの指導援助（4）高等学校</p> <p>第11回 いじめへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第12回 いじめへの指導援助（2）いじめの定義、原因、理論</p> <p>第13回 いじめへの指導援助（3）いじめ発生時の対応</p> <p>第14回 いじめへの指導援助（4）いじめの予防</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>アクティブラーニング 講義7回、プレゼンテーションおよびディスカッション8回</p>
授業の目的・到達目標	人間としての在り方・生き方を問う生徒指導のすすめ方について考察し、生徒指導の実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、生徒指導のあり方について指導する。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年
参考書	
評価基準及び成績評価方法	レポートまたは試験を60%、講義内での発表およびディスカッションの内容を40%として総合的に評価する予定だが、受講者の人数、遠隔授業システムの習熟度等によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。
達成度の伝達	希望者には総合評価の内訳を開示する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1) 受講者数、遠隔授業システムの習熟度等によってシラバスを変更する可能性がある。変更する場合は事前に周知する。 2) オフィスアワーは初回講義時に説明する。
履修登録条件	

講義科目名称：教育相談

英文科目名称：Consultation in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	いじめ、不登校や児童虐待など、学校内外における児童生徒の諸問題は様々な形で現れており、対応する教師側の学校教育相談・教育臨床に関する知識、スキルの習得が求められている。本講義では、学校で行なわれる教育相談・教育臨床の機能、位置づけ、役割、方法などについて概略を説明し、さらに具体的課題として、不登校、いじめ、発達障害などのトピックスを取り上げ、教師の行なうべき対応方法や対策について理解を深めていくことを目指す。
授業計画	<p>第1回 生徒指導と教育相談、チーム学校の視点での生徒指導、教育相談</p> <p>第2回 教育相談に関する基礎知識（１）：精神分析</p> <p>第3回 教育相談に関する基礎知識（２）：行動療法、応用行動分析</p> <p>第4回 教育相談に関する基礎知識（３）：認知療法、認知行動療法</p> <p>第5回 子どもの貧困への指導援助</p> <p>第6回 暴力行為への指導援助</p> <p>第7回 外国人児童生徒への指導援助</p> <p>第8回 児童虐待への指導援助</p> <p>第9回 発達障害への指導援助</p> <p>第10回 精神障害への指導援助</p> <p>第11回 性の課題への指導援助</p> <p>第12回 保護者対応</p> <p>第13回 危機管理／緊急支援</p> <p>第14回 子どもの自殺への指導援助</p> <p>第15回 まとめ または 外部講師講話</p> <p>アクティブラーニング 講義5回、プレゼンテーションおよびディスカッション10回</p>
授業の目的・到達目標	本科目では、将来養護教諭として児童生徒に指導援助を行う上で必要最低限の知識技術を身につけることが求められる。
実務経験に基づく知識の伝達	スクールカウンセラーとして学校現場で勤務した経験のある教員が、教育相談全般について指導する。
教育目標に対する科目の位置付け	
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
評価基準及び成績評価方法	レポートを50%、講義内での発表およびディスカッションの内容を50%として、総合的に評価する予定だが、受講者の人数によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。
達成度の伝達	希望者に総合評価の内訳を明示する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1) 第5回から第14回の内容は順不同に並んでいる。学生と協議の上、第5回から第14回の内容の順番を決定する。 2) オフィスアワーは初回講義時に説明する。
履修登録条件	

講義科目名称：教職実践演習（養護教諭）

英文科目名称：Seminar in Teacher's Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	講義＋演習
担当教員				
豊島幸子、池守滋、森慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	<p>授業の内容 教員として求められる基礎的事項として、下記4事項について、学生自身が自己の状況を確認するための活動を含みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 3. 子ども理解や保健室経営に関する事項 4. 養護教諭の指導力に関する事項 <p>授業の方法 授業では、下記の方法を必要に応じて適切に取り入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドワーク、グループ討議などの演習や実習、模擬授業 2. 役割演技（ロールプレイング）、事例研究等の授業方法 3. 現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業等 <p>今までの教職科目での学び、養護実習での実践を踏まえ、養護教諭として必要な知識・技能のブラッシュアップを図る。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（養護実習全般にわたる振り返りと自己の課題を把握する） 教職実践演習とは、平成22年度入学生から教員免許取得の必修科目として、最終年次に義務づけられているものであることを理解する。 この科目は、養護教諭一種免許取得予定者が養護教諭になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としている演習科目である。4年間で身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認し、自身の弱点を補強する。 以下、2つを目標とします。 ①学校教育の現状と児童生徒の実態を理解し、教育者としての使命感を持ち、児童生徒の成長・発達について適切に対応できる養護教諭としての資質を養う。 ②養護教諭としての職務に関する専門的な知識、技術及び指導力を身につけるとともに、豊かな教養と人間性を養う。</p> <p>第2回 養護実習のリフレクションから教育実践について考える （1）小学校、中学校を中心に振り返る 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習記録、教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第3回 養護実習のリフレクションから教育実践について考える （2）高等学校を中心に振り返る 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習記録、教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第4回 教職実践から捉えた養護教諭の役割 学校教育活動全体を通して行われる健康教育について考える 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習で行った提案授業の資料を準備し、指導案作成から授業実践に至るまでを振り返る。</p> <p>第5回 管理職経験者からのメッセージ 管理職経験者からの実際の養護教諭に伝えたいメッセージを聞き、養護教諭としてのかかわりについて学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習で行った提案授業の資料を準備する。</p> <p>第6回 教職と養護教諭 教職経験者からの実際の養護教諭に伝えたいメッセージを聞き、養護教諭としてのかかわりについて学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習で行った提案授業の資料を準備する。</p> <p>第7回 養護教諭経験者からのメッセージ 実際に養護教諭として小中高の勤務経験者から実践例を基に学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習で行った提案授業の資料を準備する。</p> <p>第8回 教職の視点から特別支援教育について考える 平成19年度にスタートした特別支援教育について日本と諸外国の実態を学び考える。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 養護実習で行った提案授業の資料を準備する。</p> <p>第9回 特別支援教育と養護教諭 インクルーシブ教育について学び、特別支援教育の実際を調べる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第10回 特別支援教育の現状と実際（足利特別支援学校） 足利特別支援学校（学外）での児童生徒の実際を見学する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第11回 特別支援教育の現状と実際（足利特別支援学校） 足利特別支援学校（学外）での児童生徒の実際を見学する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第12回 特別支援教育の現状と実際（足利特別支援学校） 足利特別支援学校（学外）での児童生徒の実際を見学する。</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第13回 救護法を学ぶ (1) 心肺蘇生法と止血法救護法 的確な応急処置が行えるための心肺蘇生法と止血法救護法について学ぶ。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第14回 救護法を学ぶ (2) 副子固定法と搬送法 的確な応急処置が行えるための副子固定法と搬送法について学ぶ。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教職課程履修カルテを準備し、自己評価の記入から自己の課題を明確にする。</p> <p>第15回 まとめ 養護教諭1種免許取得予定者が養護教諭になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができたか教職履修カルテを基に振り返りまとめる。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 講義2回、実習5回、ディスカッション5回、プレゼンテーション3回</p>
授業の目的・到達目標	<p>職実践演習の目的 教職実践演習とは、平成22年度入学生から教員免許状取得の必修科目として、最終年次に義務づけられているものです。この科目は、養護教諭1種免許取得予定者が養護教諭になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としています。4年間で身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認し、教職生活の円滑なスタートを支援するものです。</p> <p>以下、2つを目標とします。 ①学校教育の現状と児童生徒の実態を理解し、教育者としての使命感を持ち、児童生徒の成長・発達について適切に対応できる養護教諭としての資質を養う。 ②養護教諭としての職務に関する専門的な知識、技術及び指導力を身につけるとともに、豊かな教養と人間性を養う。</p>
実務経験に基づく知識の伝達	<p>担当教員は、教職の経験があり、実践的な授業デザインについてアドバイスすることができる。 教職に関する実務経験を活かし、教職の基礎知識について講義する。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	<p>この科目は、養護教諭1種免許取得予定者が養護教諭になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としている。4年間で身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認し、教職生活の円滑なスタートを支援するものである。</p>
教科書	<p>教職課程履修カルテを基にした自己評価の記載及び実習記録を使用する。</p>
参考書	<p>必要に応じて紹介する。</p>
評価基準及び成績評価方法	<p>授業への取り組みとディスカッションの内容で評価する。ただし、模擬授業を最低1回行っていることを単位認定の条件とする。</p>
達成度の伝達	<p>教職課程の最終科目として、4年次の養護実習での経験をふまえ、自身の課題を明確にしつつ、それを克服するための方策を検討する。将来、養護教諭として保健室経営がスムーズに実施できるようにする。授業中の発表に対するコメントなどを通じて随時行う。</p>
資格情報	<p>養護教諭1種免許状を取得のための必修科目である。</p>
メッセージ・オフィスアワー	<p>水曜日(12:00~13:00) ・面接予約方法は授業で提示します。ゆっくり語り合いたいのでアポイントをとってください。予約方法は授業で提示します。 ・予習(1時間)復習(1時間)を学生各自が行い、教職実践の学びを深めること。</p>
履修登録条件	